

失フモノトス

第十五條 此公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其證書而金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキモノニアラザルハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方總テ亡失證書ト同一ナルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其期月ヨリ滿十五ヶ年ヲ過ルトキハ一切之ヲ償還セザルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アルハ利子ノ割合及ヒ元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ

○中山道鐵道敷設ヲ廢シ更ニ工事ヲ東海道ニ起ス

中山道鐵道工事既ニ前後數里ノ間竣功ヲ告ク漸ク其中部ニ着手セントスルニ當リ之ヲ實測ヲ經ルニ其地形タル峻峻崎嶇ニシテ之ヲ東海道ノ平夷ニ比スレバ管ニ迂路ヲ取ルノ不利アルノミナラス其工費ノ如キモ自ラ多キヲ加ヘ隨テ竣功ノ期亦太ク遲速ノ差アルヲ發見シタル旨別紙甲乙號ノ通鐵道局長官ヨリ具狀シタルヲ以テ今般中山道鐵道敷設ヲ廢シ更ニ工事ヲ東海道ニ起スニ決定ス依テ明治十六年十二月第四十七號布告ノ中山道鐵道敷設ノ爲メ募集シタル公債ノ現在殘額ハ轉シテ之ヲ東海道鐵道工事ニ使用スヘシ

甲號

中山道鐵道ノ儀ニ付上申

中山道鐵道布設ノ令出シヨリ其建築工事ノ順序ヲ經畫シ之ヲ東西二部ニ分チ高崎大垣ノ兩端ヨリ相進シテ中央ニ會シ速クニ之ヲ聯絡セントス乃チ尾ノ半田港ニ一線ヲ布設シテ資材運搬ノ便ヲ海運ニ藉リ進シテ名古屋ニ出テ又更ニ越ノ直江津ニ若手ノ工事驟々トシテ大ニ進ミ今ヤ將サニ其中部ニ着手セントスルニ先チ其實測ヲ峻リ別紙圖面ノ線路ヲ得タリ而シテ其經由スヘキ中部ノ地形タル峻峻崎嶇坑谷ヲ填メ山嶽ヲ截ル等非常ノ工事前後相踵ク且數里ノ洞道鑿鑿ヲ要スルモノ亦少シトセス而シテ其成功ノ期ヲ計ルニ風雨災害等工事ノ停頓ヲ算セスシテ今後猶七八年ヲ要スヘシ若シ其日子ヲ除却セハ更ニ多キヲ加ヘン既ニシテ其成功ニ及ヒ車輛ヲ通スルニ至テハ線路ノ傾斜峻急ニ過ルニ及ビ三十分ノ一以上ニ至ルモノアリ線路ノ費用必ス意思ノ外ニ超過スルモノアラフ駛走ノ度モ亦必ス遲緩ナルヘシ嘗テ試ミニ之ヲ測算スルニ或ハ從來海運漁船ノ速度ニ及ハサルモノアラフ然ラハ實ニ勞シテ功ナク鐵道布設ノ常理ニ背クモノト謂フヘシ

ニ線路ノ經由スル所山腹ヲ洞シテ行クニ非レハ必ス窮谷ニ沿フテ走ル之ヲ概言スレハ全部隧道ト稱スルモ亦可ナリ加旃其土地タル礫礫不毛ニシテ到處窮僻色ナラサルハナク接近ノ村落ニシテ相往來交通スルノ便少ナク地形ノ險工事ノ難キハ固ヨリ避クサル所ナリト雖モ莫大ノ鉅額ヲ費ヤシテ之ヲ經營スルモ竟ニ徒勞ニ歸シ曾テ其功用ヲ見セテ併セテ鐵道ノ價格ヲ失フ之ヲ譬フルニ蠶者ニ鐘錶ヲ與ヘ覺者ニ利器ヲ借スト異ナルトナシ況ンヤ殖産開墾ノ業固ヨリ言ヲ待タサル所ナリ然ラハ則チ東西兩京ノ聯絡ヲ通スルハ何レノ日ニ在ルヲ知ラス是ヲ以テ其目的ヲ達スルカ爲メニ之ニ代用スヘキモノヲ求ムレハ則チ東海道ニ出テサル可ラス即チ東海道ニ出ルモノトセシカ其實況ヲ一應具陳セザルヘカラス嘗テ雇外國工師ノ實踐調査セシ報告書及ヒ頃者局員ヲ派出シテ調査セシメタルモノ等ヲ蒐集シテ之ヲ參互考覈スルニ西部ハ既ニ名古屋ニ達セリ今東京ヨリ名古屋ニ達スルトキハ之ヲ中山道ニ比スレバ凡ソ二十里ヲ短縮シ而シテ其線路ノ地勢ハ函嶺ノ峻峻ナル天龍富士大井等ノ巨川アリト雖トモ之ヲ除クノ外ハ概チ平坦ニシテ中山道ニ比較スレハ工事ノ難易過カニ別ナルヲ知ル又其經費ノ點ニ至テ中山道ハ尙一千五百萬圓ヲ要セザルヘカラス東海道ハ壹千萬圓ニ上ラスシテ中山道ヨリ長キ線路ヲ成就スルヲ得ヘシ其比較上ニ於テ孰レモ豫算外ニ出スシテ成功ヲ奏スヘシ唯恐ル中山道建築成功ノ期ハ今後七八年ヲ要シ費額ハ一千五百萬圓ヲ用ヒテ線路僅カニ七八十里ヲ得其運輸ヲ通スルニ至リ線路曲折上下傾斜ノ度峻急隨テ速力モ亦遲緩ニシテ東京名古屋間二十時ヲ費サン東海道ハ歲月其半ハヲ要セス費額モ亦寡少ニシテ線路殆ント百里ヲ得ヘク傾斜緩慢速力充分ナルヲ以テ

東京名古屋ノ間十五時以內ニ達スルヲ得ノ其利害得失如斯明瞭ナリ是ヲ以テ目下中山道中部ノ起工ニ臨ミ危懼逡巡頗ル躊躇セザルヲ得ス若シ將テ費用ニ關セテ歲月ヲ惜マス得失利害ヲ省ニス斷行直前必當初ノ目的ヲ貫徹セントスルハ爲サハレノミ能ハサルニ非ス但恐ル世ノ識者ヲシテ之ヲ觀シシメハ其レ之ヲ得タリト爲ス乎將テ失フト爲サン乎是某ノ最モ恐ル所ナリ願フニ中山道工事若手以來殆ント二年半其間許多ノ勞費ヲ累テ今將サニ漸ク緒ニ就ントスルニ及ンテ其方向ヲ變更セザルヲ得ザルニ至ルモノハ私心竊カニ慍カラサル所アリト雖トモ其得失ノ係ル所遠且大ナルヲ以テ敢テ衷情ヲ吐露シテ開裁ヲ請ハントス乃チ御參考ノ爲メニ各事項ヲ擧ケテ兩道ヲ比較シ別表ヲ調製シテ之ヲ附呈ス

鐵道建設費額概算調書	乙號
一 金二千萬圓	中山道鐵道公債ヲ以募集セラレタル資金
內	
金四百貳拾七萬圓	大垣半田高崎橫川及直江津線建設ノタメ領收シタル金額
差引殘額	
金千五百七十三萬圓	領收未済ニシテ大藏省ニ現在スル金額

金五百七十三萬圓

大正十九年六月
勅令第四十七號

海軍公債證書條例

明治十九年六月
勅令第四十七號

朕海軍公債證書條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍公債證書條例

- 第一條 海軍公債證書ハ海軍軍備ノ費途ニ充ツル爲メ壹千七百萬圓ヲ限リ三箇年間に漸次之ヲ發行スルモノトス
- 第二條 此公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス
- 第三條 此公債ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向三十箇年間に抽籤ヲ以テ之ヲ償還ス
- 第四條 此公債證書發行ノ價格ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第五條 此公債證書ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トシ其様式ハ大藏大臣之ヲ定ム但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得(二十年二月二十八日勅令第一號ヲ以テ本條ヲ改正ス)
- 第六條 此公債證書引受申込高毎期需用ノ高ニ超過スルトキハ其申込價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需用額ニ滿ツルニ至テ之ヲ止ム
- 第七條 此公債ノ利子ハ毎年五月十一日ニ拂渡スモノトス
- 第八條 此公債證書抽籤ノ時ハ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上及ヒ日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但此公債證書額而拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ノ席ニ臨ムコトヲ得
- 第九條 當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏大臣之ヲ告示ス
- 第十條 此條例外ノ事項ハ總テ明治十九年十月勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル(同上勅令ヲ以テ本條ヲ改正ス)

海軍公債證書發行手續

明治十九年六月
大藏省令第二十二號

本年六月十二日勅令第四十七號海軍公債證書條例ニ據リ額面五百萬圓ノ證書ヲ發行シ其手續左ノ通相定ム

海軍公債證書發行手續

- 第一條 發行スヘキ證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ヲ以テ交付スルモノトス
- 第二條 證書ノ發行價格ハ額面金高百圓ニ付金百圓トス
- 第三條 證書ノ引受ヲ望ムモノハ本年七月十日マテニ其引受クヘキ證書ノ金高及ヒ價格并ニ其住所姓名ヲ記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ申込ムヘシ但代理店ノ名稱及ヒ場所ハ日本銀行ヨリ廣告セシムヘシ
- 第四條 證書引受ノモノハ證書額而高百圓ニ付キ金十圓宛保證金トシテ其申込ムヘキ銀行店ヘ拂込ムヘシ
- 第五條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ前條保證金ノ拂込アルトキハ領收證書ヲ交付スヘシ但此證書ハ賣買スルヲ得ス
- 第六條 大藏省ニ於テハ本年八月十日マテニ各申込込人ヘ渡スヘキ證書ノ高ヲ定メ日本銀行ヨリ通知セシムルニ付其引受高ニ對スル金額ノ内保證金ヲ引去リタル跡金ノ第一回ハ來九月十五日ヨリ三十日マテ第二回ハ十一月十五日ヨリ三十日マテニ半額宛テ拂込ムヘシ
- 第七條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ前條ノ拂込アルトキハ假證書ヲ作り保證金受取證書及ヒ現金ト引換ニ之ヲ得

渡スヘシ但假證書ハ官府及ヒ日本銀行ヘ抵當ニ差入ル、ヲ得ヘシト雖トモ各自ニ賣買スルヲ得ス

第八條 本證書ハ追テ日本銀行ヨリ假證書ト引換ニ各引受中込込人ヘ交付セシムルモノトス

第九條 第六條ノ拂込金ヲ期日マテニ其申込込店ヘ由金セサルトキハ第四條ノ保證金及ヒ第一回拂込金ハ當込込人ノ損失ニ歸セシメテ返付セサルモノトス

第十條 保證金受取證書又ハ假證書ヲ亡失シタルトキハ其證書ノ番號號及ヒ所持人ノ住所姓名等ヲ記シ其申込込店ヘ速ニ報告スヘシ

第十一條 前條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ本人ニ就キ保證金受取證書又ハ假證書亡失ノ手續ヲ證明セシメ且二人以上ノ證印アル證書ヲ以テ其事由ヲ保證セシメテ代リ證書ヲ渡シ舊證書ハ無効ノ旨新聞紙等ニテ廣告スヘシ

第十二條 保證金及ヒ拂込金高ニ對スル利子ハ一箇年百分ノ五ノ制ヲ以テ其拂込日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第十三條 條例第六條ニ據リ超過額減却ニ付差戻スヘキ保證金ニハ利子ヲ附セサルモノトス

第十四條 保證金及ヒ跡金ノ利子公債證書ニ附屬ノ利札額半額ニ滿タサル利金ハ本證書交付ノ節拂渡スモノトス

海軍公債利子拂渡其他取扱方

明治二十年三月
大藏省令第三號

海軍公債ノ利子ハ毎年五月一日ヨリ同二十五日マテ十一月一日ヨリ同二十五日マテニ拂渡スモノトシ其他ノ取扱ハ明治十九年十月大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ據ル但第九條第十條第十一條第十三條ハ此限ニアラス(二十三年八月十九日大藏省令第十九號ヲ以テ本條中削ス)

○整理公債條例 明治十九年十月
勅令第六十六號

朕整理公債條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

整理公債條例

- 第一條 整理公債ハ從前發行ノ六分以上利付ノ内國債ヲ償還整理スルカ爲メニ募集スルモノトス
- 第二條 整理公債ハ壹億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ漸次之ヲ募集スルモノトス
- 第三條 整理公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス
- 第四條 整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附ニシテ五千圓千圓五百圓百圓五拾圓ノ五種トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得
- 第五條 整理公債證書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ
- 第六條 整理公債ヲ募集スルトキハ其總額價格應募申込日限應募金拂込度數等ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ
- 大藏大臣ハ前項ノ手續ニ據ラス市場ノ時價ニ準シ整理公債證書ノ價格ヲ定メ臨時之ヲ發行シテ日本銀行ニ交付スルコトヲ得但發行シタル證書ノ金額及價格ハ大藏大臣其發行ノ翌日之ヲ告示スヘシ(二十一年六月十六日勅令第四號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第七條 整理公債應募高毎期需用ノ額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需用額ニ滿ルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ヲ割合減少スルモノトス但時宜ニ依リ貳百圓以下ノ應募者ニハ之ヲ減少セザルコトアルヘシ(同上勅令ヲ以テ本條ニ但書ヲ追加ス)

第八條 整理公債應募金ノ拂込ヲ數回ニ分ツ場合ニ於テ拂込期ノ末日マテニ拂込未済ノモノアルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ一箇年百分ノ七ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ前項拂込期日後三箇月ヲ過キ猶ホ拂込ヲ爲サハルトキハ公債證書ヲ交付セス且既ニ拂込ノ金額ハ還付セザルモノトス

第九條 整理公債元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向五十箇年間ニ抽籤法ヲ以テ償還スルモノトス但償還金額ハ其時々大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第十條 整理公債元金償還ノ爲メ抽籤ヲ爲ストキハ日本銀行本店ニ於テ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但整理公債證書額而三拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ニ臨席スルコトヲ得抽籤ノ後ハ日本銀行ヲシテ常籤證書ノ記號番號種類及ヒ金額等ヲ廣告セシムルモノトス

第十一條 整理公債ノ利子ハ毎年六月十二月ニ於テ支拂フモノトス

第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半年分ヨリ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ支拂フモノトス

第十三條 整理公債證書ノ利札ハ利子請取ノ時其所有者各自

之ヲ截斷シテ日本銀行本店又ハ代理店ニ持參スヘシ

第十四條 整理公債元利ノ支拂ヲ請求セザルモノアルトキハ元金ハ償還ノ月ヨリ滿十五箇年利子ハ支拂ノ期月後滿五箇年ヲ過クンハ之ヲ支拂ハサルヘシ但證書ノ紛失汚染及ヒ毀損等ニ由リ元利ノ支拂ヲ見合セ及ヒ訴訟事件ニ由リ請求ヲ爲シ難キ場合アルトキハ其間ノ日數ヲ算セス

第十五條 無記名證書ヲ記名ニ變換セントスルモノハ其請求書ニ戶長ノ與書ヲ受テ證書ヲ添ヘ日本銀行本店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出ヘシ

第十六條 記名證書ノ買賣讓渡ヲ爲シタルモノハ雙方連署ノ請求書ヲ添ヘ日本銀行本店又ハ代理店ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十七條 記名證書ノ所有者死去シタルトキ其相續人ハ請求書ニ正當ノ相續人ナルコトヲ證スル戶長ノ與書ヲ受テ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 記名證書ノ所有者ノ遺旨ニ依リ相續人ニ非スシテ證書ヲ讓リ受クルモノアルトキハ右相續人ヲ以テ保證人ト爲シ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ但相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親戚二名以上ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第十九條 記名證書ノ所有者身代限ノ處分ヲ受ケ證書ノ所有者權他ニ移轉シタルトキ其引受人ハ裁判所ノ證明書ヲ承ケ之ヲ證書ニ添ヘ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 整理公債證書若クハ其利札水火災等ニ由リ消滅シタルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀行本店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ届出代證書若クハ代利札ノ交付又ハ利子ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ大藏省ハ其

消滅ノ證據明確ナリト認ムルトキハ直ニ代證書若クハ代利札ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ

第二十一條 整理公債證書又ハ利札ヲ紛失シタルモノハ日本銀行本店又ハ代理店ニ届出ヘシ其發見ノ時亦同シ前項ノ届出アルトキハ銀行ハ直ニ其次第ヲ廣告スヘシ但廣告料ハ届出人ヨリ納メシムルモノトス

第二十二條 公債證書又ハ利札紛失ノ届出アルトキハ日本銀行本店又ハ代理店ハ之カ支拂ヲ見合スヘシ

第二十三條 紛失届出ノ證書又ハ利札ヲ日本銀行本店又ハ代理店ニ持參スルモノアルトキハ銀行ハ之ヲ預リ置キ其旨ヲ届出人ニ報知シ持參人ト届出人ト相當ノ手續ヲ經テ所有者權ヲ證明スルヲ待テ其取扱ヲ爲スヘシ

第二十四條 記名證書紛失届出後一回ノ利拂了リタル上ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀行本店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 紛失無記名證書其届出ヨリ滿六箇年ヲ過キ紛失利札其支拂期限ヨリ滿四箇年ヲ過キ尙ホ發見セザルトキハ届出人ニ代證書ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ但本文期限ヲ過キテ紛失證書又ハ利札ヲ持參スルモノアルモ届出人ニ對シテノミ起訴ノ權アルモノトス

第二十六條 紛失證書ノ當籤ハ無効ノモノトス

第二十七條 整理公債證書汚染又ハ毀損シタルトキハ日本銀行本店又ハ代理店ヲ經由シテ其證書ヲ大藏省ニ差出シ代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得大藏省ニ於テ其真正ヲ鑒別シ得ヘキモノハ代證書ヲ交付シ鑒別シ難キモノニハ其取扱總テ紛失證書ノ例ニ準セシム

第二十八條 第十五條ノ證書交換ヲ受クルトキ第十六條第十條第七條第十八條第十九條ノ名前書換ノトキ第二十條第二十四條第二十五條第二十七條ノ代證書ヲ受クルトキ及ヒ記名證書ノ取扱店ヲ變更スルトキハ日本銀行本店又ハ代理店ハ相當ノ手續料ヲ本人ヨリ納メシムルコトヲ得

第二十九條 第二十條第二十四條ノ保證人ハ日本銀行本店又ハ代理店ニ於テ滿足スルモノニ限ルヘシ

第三十條 從前發行ノ六分以上利附ノ公債證書ヲ所有スルモノハ元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リ大藏省ノ都合ヲ以テ整理公債證書ヲ交付スルコトアルヘシ

第三十一條 整理公債證書ノ製造發行費及ヒ募集初年ノ利子ハ募集金ヲ以テ支出スルコトヲ得

第三十二條 整理公債ノ募集償還利子ノ拂渡證書ノ書換等ニ關スル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

○整理公債取扱順序 明治十九年十月大藏省令第三十號

本年勅令第六十六號整理公債條例第三十二條ニ據リ其取扱順序左ノ通相定ム

整理公債取扱順序

第一章 募集及證書發行

第一條 整理公債ノ應募者ハ大藏大臣ノ指定スル日限マテニ應募ノ金額並ニ價格ヲ取扱店日本銀行本店又ハ代理店ニ申込ムヘシ

整理公債條例第四條但書ニ據リ記名證書ノ交付ヲ望ムモノ

現行日本法令大全

ハ前項申込ト同時ニ其旨ヲ取扱店へ申出ヘシ

第二條 整理公債ノ應募者ハ申込ノトキ大藏大臣ノ指定スル割合ヲ以テ保證金ヲ拂込ムヘキモノトス但取扱店ハ本文保證金ニ對シ領收證書ヲ交付スヘシ

第三條 整理公債ノ應募者ハ大藏大臣ノ指定スル期中ニ保證金ヲ扣除シタル跡金ノ拂込ヲナスヘキモノトス但取扱店ハ本文拂込金ニ對シ領收證書ヲ交付スヘシ

第四條 保證金及拂込金領收證書ヲ受取リ未ダ全額ノ拂込ヲ了ラズシテ本人死亡スルトキハ相續人ヨリ該證書ノ繼承及跡金拂込ノ旨ヲ書面ニ認メ取扱店へ差出スヘシ

第五條 保證金及拂込金領收證書ハ各應募者ニ於テ其申込ヲナシタル取扱店へ抵當ニ差入ルノ外一切之ヲ授受賣買スルヲ得ス

第六條 應募者ニ交付スヘキ整理公債證書ハ大藏大臣其種類ヲ定メ日本銀行本店へ交付スルモノトス

第七條 應募者ニ交付スヘキ整理公債證書ハ取扱店ニ於テ保證金領收證書及第一期以下ノ拂込金領收證書ト引換ニ交付スヘシ但最後ノ拂込金ニ對シハ別ニ領收證書ヲ交付セズ現金及他ノ領收證書ト共ニ本證書ト引換ユルコトヲ得

第八條 整理公債條例第七條ニ據リ應募額ヲ減少スルトキハ保證金ヲ還付シ之ニ對スル利子ハ日割ヲ以テ支拂フモノトス

第九條 整理公債條例時應募者ハ現金ノ代リトシテ從前發行六分以上利付ノ公債證書ヲ以テ申込ヲ爲スコトヲ得但本文ノ場合ニ於テハ最後ノ拂込ヲ除キ其割合ハ大藏大臣ノ指定スル金額ニ超過スルモ妨クナシ

前項公債證書ノ價格ハ新ニ交付スル整理公債證書ト共ニ額面ノ金額ヲ以テ計算シ其種類ニ依リ金銀公債公債六分利付ノ大藏大臣之ヲ定メテ告示スルモノトス

第十條 前條ニ據リ從前發行ノ公債證書ヲ以テ申込ノ高ハ需要額ニ超過スルモ之ヲ減少セズ整理公債證書發行ノ日マテ現拂込ヲナシタル從前發行ノ公債證書ニ對スル利子ヲ交付スヘキニ由リ保證金並ニ第一期以下ノ拂込金ニ相當スル利子ヲ付セサルモノトス

第十一條 整理公債證書發行ノ後整理公債條例第三十條ニ據リ從前發行六分以上利付ノ公債償還元金ノ代リトシテ整理公債證書ノ交付ヲ望ムモノアルトキハ其旨ヲ取扱店へ申出スヘシ但此場合ニ於テ交付スヘキ整理公債證書ハ額面ノ金額ヲ以テ計算スルモノトス

第十二條 整理公債ノ保證金領收證書若シハ拂込金領收證書ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其事實ヲ取扱店ニ證明シ更ニ領收證書ヲ請求スルコトヲ得

第二章 利子支拂

第十三條 整理公債ノ利子支拂期日ハ毎年六月一日ヨリ同二月十五日マテ十二月一日ヨリ同二十五日マテトス

第十四條 整理公債ノ利金ハ各取扱店ニ於テ利札引換ニ之ヲ持參スルモノニ支拂フヘシ但記名證書ノ利札ハ記名印ヲナシタル取扱店ニ限リ記名者ニ之ヲ支拂フモノトス

第十五條 整理公債證書ノ當籤又ハ滿期償還ノ時拂渡スヘキ利子ハ償還スヘキ證書ニ付帶スル當期利札ニ對シ月割ヲ以テ仕拂フモノトス(二十三年六月十九日大藏省令第十號ヲ以テ本條中ヲ削除修正ス)

現行日本法令大全

第十六條 整理公債條例第二十條第二十五條ニ據リ利子ノ支拂ヲ請求スルモノアルトキハ取扱店ニ於テ領收證書ヲ徴シ之ヲ支拂フモノトス

第三章 元金償還

第十七條 整理公債條例第九條但書ニ據リ該公債償還金額ノ告示アルトキハ日本銀行本店ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ抽籤ノ期日ヲ定メ官報及五種以上ノ新聞紙ヲ以テ三日以上之ヲ廣告スヘシ

第十八條 前條ノ抽籤ヲ執行シタルトキハ日本銀行本店ヨリ連ニ前條同様ノ手續ヲ以テ當籤證書ノ金額種類記號番號枚數等ヲ廣告スヘシ

各地取扱店ニ於テハ前項ノ廣告ニ據リ更ニ適宜ノ方法ヲ以テ其地方限リ同様ノ廣告ヲナスヘシ

第十九條 整理公債元金支拂ノ期日ハ各取扱店ニ於テ現金ノ交付ヲ受クタル翌日ヨリ十五日間ヲ過ルヲ得ス

第二十條 整理公債ノ元金ハ各取扱店ニ於テ證書引換ニ之ヲ持參スルモノニ支拂フヘシ但記名證書ノ元金ハ記名印ヲナシタル取扱店ニ限リ記名者ニ之ヲ支拂フモノトス

第二十一條 整理公債證書ノ當籤後紛失ノ届出アルトキ無記名證書ハ整理公債條例第二十五條ニ準シ其届出ヨリ滿六箇年記名證書ハ順序第十九條ノ支拂期日後三十日ヲ經過シ尙發見セザレハ元金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得但取扱店ニ於テハ領收證書ヲ徴シ之ヲ支拂フモノトス

第二十二條 整理公債條例第二十條ニ該當スル證書ニシテ當籤係ルモノ及當籤後同様ニ該當スルモノハ代證書ヲ交付セズ取扱店ニ於テ保證人連署ノ請求書及領收證書ヲ徴シ元

利金ヲ拂渡スヘシ

第四章 證書取扱

第二十三條 整理公債條例第二十條第二十四條第二十五條ニ據リ代證書代利札ノ交付ヲ請求スルモノハ其旨ヲ取扱店ニ申出ツヘシ取扱店ニ於テハ領收證書ヲ徴シ之ト引換ニ代證書代利札ヲ交付スルモノトス

第二十四條 整理公債條例第二十條無記名證書ハ條例第二十五條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十五條 整理公債證書ノ消滅紛失又ハ毀損汚染ニ由リ交付スヘキ代證書ニハ前證書ニ當時附屬セシ利札ヲ附シ其種類ハ前證書ノ種類ト異ナルコトヲナシ

第二十六條 記名證書ヲ交付スルトキハ取扱店ニ於テ其證書ニ印シ記名簿ト割印スヘシ

第二十七條 無記名證書ヲ記名ニ變換スルノ請求アルトキハ取扱店ニ於テ本證書ニ對シテ請求書ヲ交付シ本店ハ(支店代理店ハ本店ヲ經由シテ)證書ニ記名印ノ押捺ヲ大藏省へ請求シ證書並ニ記名紙ヲ受取リタルトキハ先キニ交付シタル請求書ト引換ニ本證書ヲ交付スヘシ(二十五年省令第五號ヲ以テ改正)

第二十八條 整理公債條例第十七條第十八條及第十九條ニ據リ記名證書ノ名前書換ノ請求アルトキハ取扱店ニ於テ其證書ニ印シ記名簿ニ割印シテ證書ヲ交付スヘシ

第二十九條 整理公債記名證書ノ所有者其取扱店ヲ變換セシトスルトキハ其旨ヲ甲店ニ申出テ其證書ヲ乙店ニ差出シ記名簿ハ登錄ヲ請フヘシ

第三十條 甲(讓渡又ハ賣渡人)乙(讓受又ハ買受人)取扱店

ヲ異ニスルモノニシテ整理公債記名證書ノ買賣讓渡ヲナシタルトキハ順序第二十七條及第二十八條ノ手續ヲナスヘシ

第三十條 記名證書所有者ハ戶長ノ保證ヲ經テ其印鑑ヲ取扱店ヘ差出スヘシ但改印改姓名ヲナシタルトキモ亦本條ノ手續ヲナスモノトス

第三十一條 整理公債條例第二十八條ニ掲クル手数料ノ高ハ日本銀行ニ於テ之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○鐵道費補充公債條例 明治二十二年一月勅令第六號

鐵道費補充公債條例

第一條 鐵道費補充公債ハ神奈川縣下戶塚橫須賀間滋賀縣下大津長濱間ノ鐵道布設資金ヲ補充スルカ爲メニ證書額而貳百萬圓ヲ限リ募集スルモノトス

第二條 此公債募集ノ方法元金ノ償還年限利子歩合利子支拂期月及ヒ其他ノ事項ハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル

○舊藩々ニ於テ從前貸附金穀

取立法則 明治六年三月布告第八十一號

舊藩々ニ於テ從來諸方ヘ貸附金穀取立ノ法則別紙ノ通被相定候條此旨相達候事

貸附金穀取立法則 (別紙)

第一條 凡舊藩諸藩ヨリ貸出シタル一切ノ貸附金穀ハ向後都テ

無利息ト定メ各其種類ニ因リ年賦ヲ以テ可取立事

但明治六年ヲ以テ取立初年ト定ム

第二條 天保十四癸卯年以前ノ各種ノ貸附ハ一切棄捐弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年迄二十四ヶ年間ノ部ハ全數ノ三分一棄捐明治元戊辰年ヨリ廢縣迄ノ部ハ全額可取立事

第三條 嘉永六癸丑以來藩列ニ被加又ハ一旦滅亡シラニ新立ノ藩ヨリ貸附ノ分右列藩以後ノ分ノミ可取立事

第四條 各種ノ貸附高現在返辨殘ノ内元利結込有之分ハ利子ハ除去元金ノミ可取立事

第五條 產物起立ノ爲戊辰ノ年藩々石高ニ應シ拜借有之緒幣ヲ以貸附有之分ハ其節定則ノ通可取立事

第六條 米金貸附ノ節物品引當有之分其物品ハ入札拂ノ上代價一時上納可致事

第七條 米穀ハ各地方壬申三月平均相場ヲ以テ金直シ可取立事

第八條 銀價ハ東京ハ金壹圓ニ付六十目西京ハ一箇年平均相場大阪ハ戊辰五月銀相場廢止ノ節布達ノ平均相場ヲ以テ可取立事

第九條 藩造各種ノ紙幣ハ新貨比較表ニ基キ計算シ可取立事

第十條 正租雜稅不納ニテ證文差入ノ貸附ニ相成候分ハ別段詮議ニ可及就テハ右貸附ノ原由並實地取立振等調査ノ上可伺出事

第十一條 貧民ヘ救助夫食糧糶農具代トシテ貸附ノ分明治元

戊辰年以前ノ分ハ總テ棄捐以後ノ分ハ半高棄捐半高十箇年賦可取立事

第十二條 產資ノ爲金穀及品物貸附ノ分ハ八箇年賦可取立事

第十三條 掛屋用違等ヘ無利足預ク金又ハ諸勘定殘金預有之分ハ一時可取立事

第十四條 稅外產物及時蓄米等ノ内貸附有之分十箇年賦可取立事

第十五條 講金ノ類掛ク込有之分ハ其出金高ノ半高棄捐半高一時可取立事

第十六條 士族歸農商產資金トシテ貸附有之分ハ從前ノ方法ヲ以テ可取立事

但通常家祿引當トシテ貸附候分ハ可爲棄捐事

第十七條 宿場助成金トシテ金穀貸附ノ分ハ取立ニ不及事

第十八條 凡通常(證文面無據入用ニ付借用又ハ要用ニ付拜借等名義判然無之分)ノ貸附金穀ハ十箇年賦可取立事

第十九條 借人共一時返納致度旨願出ル者ハ元高ヘ一割利引ノ計算ヲ以テ本額ヲ減シ返納差免候事

右之通相定候條每歲十一月中割賦取立十二月二十日限管轄廳ヨリ大藏省ヘ可相納候尤追テ從前ノ證書ヘ調査ノ印ヲ捺シ各管廳ヘ可下渡候條請取方並上納手續等當省ヘ可伺出事

附錄

- 一 明治二己巳六月以來舊知藩事手許金ヲ以テ貸附ノ金穀但藩々ニ借入候分ハ非此限
- 一 舊幕府日光上野ノ外宮諸藩社寺ノ名目ヲ以テ貸附ノ金穀但同上
- 一 藩列ニ被加候家及再立ノ家ヨリ列藩並再立以前貸附ノ金穀

一 舊藩々貸附一紙證文金高ノ内元入並ニ棄捐引去全ク取立高金五圓以下五拾錢以上(銀錢札ハ價額表ニ照準金直)米並品物ハ代價五圓以下五拾錢以上雜穀ハ五石以下五斗以上都テ法則ニ定タル年賦ニ應シ一割利引ノ計算ヲ以テ一時取立大藏省ヘ相納可申事 (六年第百五號布告ヲ以テ追加)

一 右同斷取立高全數金五拾錢未滿(銀錢札前同斷)米並品物ハ代價五拾錢未滿雜穀ハ五斗未滿ノモノハ各悉皆棄捐タルヘ (事同上)

但右ニテ條トモ法則第五條第十六條ハ非此限

右貸借ハ雙方相對ヲ以テ返辨可致因テ證書額下戻候條請取方大藏省ヘ可申出事

○舊藩々貸下金ノ内年賦返納ノ分

一時返納利引算則方 明治十年五月大藏省達乙第拾八號

舊藩々貸下金ノ内明治六年第八十一號公布第十九條ニ據リ年賦返納スヘキモノ一時返納願出候節一割利引ノ算則同七年第三十號ヲ以テ相達候處今後一時返納願出候モノハ七月前後ノ區別ヲ以テ別紙利引算則ノ通返納可取計候此旨相達候事 (別紙)

一割引千圓率	全	全
全ハ七月上納之分其年ノ利足全年分引也	半	半
半ハ七月後上納之分其年ノ利足半年分引也	全	全
	一年	二年
	九拾圓九拾錢九厘	九拾圓九拾錢九厘
	四拾七圓六拾壹錢九厘	百三拾貳圓貳拾三錢壹厘
	九拾圓九拾錢九厘	九拾圓九拾錢九厘

三年	全	百七拾壹圓四錢九厘
三年	半	百三拾壹圓五拾七錢五厘
四年	全	貳百七圓五拾三錢四厘
四年	半	百六拾九圓七拾九錢七厘
五年	全	貳百四拾壹圓八拾四錢三厘
五年	半	貳百五圓七拾四錢
六年	全	貳百七拾四圓拾貳錢三厘
六年	半	貳百三拾九圓五拾五錢八厘
七年	全	三百四圓五拾壹錢貳厘
七年	半	貳百七拾壹圓三拾九錢三厘
八年	全	三百三拾三圓拾三錢四厘
八年	半	三百壹圓三拾七錢九厘
九年	全	三百六拾四圓拾錢八厘
九年	半	三百貳拾九圓六拾三錢七厘
十年	全	三百八拾五圓五拾四錢三厘
十年	半	三百五拾六圓貳拾八錢三厘

但十箇年賦ノモノ假令ハ三ヶ年納濟七箇年殘リノ分ハ
殘金ハ七年率(七月前上納ナレハ全年率七月後上納ナレ
ハ半年率)ヲ乘シ四拾五入ニシテ厘位ニ止メ即チ利引高
ヲ得ル右差引殘高ヲ以上納金ト定ム亦八箇年賦ノモノ
二箇年上納濟ノ分ハ殘金ハ六年率七月前後ノ區別前ノ
如シ)ヲ乘シ利引高及ヒ上納高ヲ得ルノ前ニ同シ

○政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受クル場合ニ於ケル會計上ノ規程

明治二十四年六月
勅令第五十五號

朕政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受クル場合ニ於ケル會計上ノ規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 第三債務者トシテ政府ノ仕拂フヘキ金額ニ對スル差押命令ハ仕拂命令官ニ宛テ發スルモノトス

第二條 仕拂命令官ハ一廉ノ負債金額ニ對シ差押命令ヲ受クル場合ニハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ差押債權者ノ氏名ヲ加記シ國庫ヲシテ差押債權者ニ對シ仕拂ヲ爲サシムルノ手續ヲナスヘシ

第三條 仕拂命令官ハ負債額ノ一部分ニ對シ差押命令ヲ受クル場合ニハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ分割シ差押ヲ受クル金額ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ差押債權者ノ氏名ヲ加記シ國庫ヲシテ差押債權者ニ對シ仕拂ヲ爲サシムルノ手續ヲナスヘシ

第四條 繼續收入ノ差押命令ヲ受ル前仕拂命令官ニ於テ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタルトキハ其命令ハ次期以後ノ仕拂ニ對シテ其効ヲ失ハス

第五條 仕拂命令官既ニ通常仕拂命令又ハ仕拂請求書及集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ於テハ會計主務官ニ向テ差押命令ヲ發スヘシ

仕拂命令官既ニ現金前渡ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ於テハ現金前渡ヲ受タル官吏ニ向テ差押命令ヲ發スヘシ但記名公債元利ニ對スル差押命令ハ公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ向テ之ヲ發スヘシ

第六條 會計主務官ハ差押命令ヲ受ルトキハ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入シ之ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但債權ニ付配當要求ノ送達ヲ

受タルトキハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ金庫ニ送付スヘシ其差押金額仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ全額ニ及ハサルトキハ差押ニ係ル金額ハ別ニ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入シ之ヲ記名者ニ交付シ又ハ金庫ニ送付シ尙金庫ニ於テ差押金額ヲ受取ルヘキ證據ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但債權ニ付配當要求ノ送達ヲ受タルトキハ本文ノ證據ヲ交付セス

第七條 會計主務官仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ記名者ニ交付シ又ハ金庫ニ送付シタル後差押命令ヲ受タルトキ未ダ金庫ニ於テ仕拂了セサル場合ニ於テハ金庫ノ仕拂ヲ停止シ其仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ提出ヲ待テ更ニ前條ノ手續ヲナスヘシ

第八條 差押債權者差押命令送達ノ通知ヲ受ルトキ緊急ノ場合ニ於テハ仕拂ヲ執行スヘキ金庫ニ向ヒ假リニ仕拂ノ停止ヲ求ムルコトヲ得

第九條 繼續收入ノ債權差押ノ場合ニ於テ關係官廳ヲ變更スルトキハ甲仕拂命令官ノ受タル差押命令ハ乙仕拂命令官ニ於テ之ヲ繼續スルモノトス

第十條 債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受タル場合ニハ會計主務官ノ指定ニ依リ金庫ニ於テ債務額ヲ供託スヘシ但現金前渡ヲナシタル金額ノ債權ニ關スルトキハ現金前渡ヲ受タル官吏又ハ銀行ニ於テ債務額ヲ供託スヘシ

第十一條 民事訴訟法第六百七條ノ命令ニ依リ債權額ノ供託ヲ要スルトキハ前條ノ手續ニ準據スヘシ

第十二條 假差押命令ノ場合ニ於テハ本規則ヲ準用ス

○政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受ケタルトキ仕拂手續

明治二十四年六月
大藏省令第十六號

政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受タルトキ仕拂手續左ノ通り定ム

第一條 明治二十四年勅令第五十五號第二條及第三條ニ依リ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ差押債權者ノ氏名ヲ加記スルハ朱書ヲ以テ仕拂命令又ハ仕拂請求書式申中何之誰渡トアル傍ニ於テスヘシ

第二條 明治二十四年勅令第五十五號第三條ニ依リ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ分割スルトキ其官吏遺族扶助法納金ノ差引ヲ要スルモノハ政府ノ債權者ニ交付スル仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ於テスヘシ

第三條 仕拂命令官ニ於テ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル後差押命令ヲ受タルトキハ其發行濟ノ旨ヲ當該執行裁判所ニ通知スヘシ

第四條 明治二十四年勅令第五十五號第五條二項ニ依リ現金前渡ヲ受タル官吏又ハ記名公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ於テ差押命令ヲ受タルトキハ差押債權者ヨリ適宜ノ領收證書(公債元利ノ場合ニ於テハ公債證書又ハ利札トモ)ヲ徵シ其差押金額ヲ仕拂フヘシ但債權ニ付配當要求ノ送達ヲ受タルトキハ其差押金額ヲ供託シ其旨ヲ當該執行裁判所ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ民事訴訟法第六百二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ差押債權者ノ要求額ヲ差押債權者ニ仕拂ヒ又ハ供託シ其超過額ハ政府ノ債權者ヨリ民事訴訟法第六百二條ノ通知書ヲ示シ請求シタルトキ適宜ノ領收證書ヲ徵シ之ヲ仕拂

現行日本法令大全

フヘン

第五條 明治二十四年勅令第五十五號第六條ニ依リ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入セントスルトキハ其裏面ニ「表面ノ金額(又ハ内何程)差押債權者何之誰ニ仕拂フヘシ」ト記入スヘシ但集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ニ係ルトキハ右ノ外債主ノ金額氏名表中當該債主氏名ノ上ニ其旨ヲ記入スヘシ

第六條 明治二十四年勅令第五十五號第六條ニ依リ差押債權者ニ交付スヘキ證標ハ書式第一號ニ依ルヘシ

第七條 前條ノ證標ヲ持參シ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ金庫ハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ對照シ差押債權者ヲシテ該證標ニ書式第一號ノ如ク領取ノ旨ヲ記入セシメタル上之ト引換ニ仕拂ヲナスヘシ

第八條 明治二十四年勅令第五十五號第六條一項及二項但書ノ場合ニ於テ會計主務官ハ書式第二號ノ供託通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ

第九條 金庫ニ於テ前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ對照シ其金額ヲ拂出シ供託ノ手續ヲナシ其旨ヲ會計主務官ニ通知スヘシ

會計主務官ハ前項ノ通知ニ依リ其旨ヲ當該執行裁判所ニ通知スヘシ

第十條 明治二十四年勅令第五十五號第七條ニ依リ會計主務官ニ於テ金庫ノ仕拂ヲ停止セントスルトキハ書式第三號ノ仕拂停止通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ

金庫ニ於テ前項ノ通知書ヲ受ケタルトキ其既ニ仕拂濟ナルトキハ通知書ヲ返付シ又仕拂未濟ナルトキハ書式第四號ノ

承諾書ヲ會計主務官ニ送付スヘシ

金庫ハ本條ニ依リ仕拂停止ノ承諾書ヲ會計主務官ニ送付シタルトキハ會計主務官ヨリ仕拂停止解除ノ通知ヲ受ルニアラサレハ仕拂ヲナスヘカラス

第十一條 明治二十四年勅令第五十五號第八條ニ依リ差押債權者ニ於テ仕拂ノ停止ヲ金庫ニ請求セントスルトキハ差押命令送達通知書ヲ添ヘ書式第五號ノ仕拂停止請求書ヲ金庫ニ差出スヘシ

金庫ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキ其既ニ仕拂濟ナルトキハ請求書ヲ返付シ又仕拂未濟ナルトキハ書式第六號ノ承諾書ヲ差押債權者ニ交付スヘシ但差押命令送達通知書ハ同時ニ之ヲ返付スルモノトス

金庫ハ本條ニ依リ仕拂停止ノ承諾書ヲ差押債權者ニ交付シタルトキハ會計主務官又ハ差押債權者ヨリ仕拂停止解除ノ通知ヲ受ケタルニアラサレハ仕拂ヲナスヘカラス

第十二條 明治二十四年勅令第五十五號第七條ノ場合ニ於テ政府ノ債權者ハ速ニ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ會計主務官ニ提出シ該勅令第六條ノ手續ヲ受ケヘシ

第十三條 明治二十四年勅令第五十五號第九條ノ場合ニ於テハ甲仕拂命令官ヨリ即時ニ其旨ヲ乙仕拂命令官ニ通知シ差押命令ノ引繼ヲナスヘシ

(第一號書式)

證標

差押債權者

何府(縣)何地

何之誰

現行日本法令大全

右者某年度何廳所管仕拂命令(仕拂請求書)第 號何之誰渡内金何程ノ仕拂ヲ受ケヘキ差押債權者タルコトヲ明治二十四年勅令第五十五號第六條二項ニ依リ證明ス

會計主務官

官 氏 名 圖

年 月 日

何地金庫宛

前記證標ノ金額何程正ニ領取候也

差押債權者

何之誰

年 月 日

何地金庫宛

備考「前記證標云々」以下ハ差押債權者ニ於テ記入シ印紙ヲ貼用スルモノトス

(第二號書式)

供託通知書

某年度何廳所管仕拂命令(仕拂請求書)第何號何之誰渡(又ハ渡ノ内)

「某年度何廳所管集合仕拂命令(集合仕拂請求書)第何號ノ内何之誰渡(又ハ渡ノ内)」

一金何程

右ノ金額明治二十四年勅令第五十五號第十條ニ依リ供託可有之候也

會計主務官

官 氏 名 圖

年 月 日

何地金庫宛

備考「ハ集合仕拂命令又ハ集合仕拂請求書ノ場合ヲ示ス

(第三號書式)

仕拂停止通知書

仕拂命令(仕拂請求書)番號

仕拂命令官氏名

何府(縣)何地何之誰渡

右ハ差押命令ヲ受ケタルニ付仕拂停止相成度明治二十四年勅令第五十五號第七條ニ依リ此段通知候也

會計主務官

官 氏 名 圖

年 月 日

何地金庫宛

(第四號書式)

承諾書

仕拂命令(仕拂請求書)番號

仕拂命令官氏名

何府(縣)何地何之誰渡

右明治二十四年勅令第五十五號第七條ニ依リ仕拂停止方御通知ノ趣承諾候也

會計主務官

官 氏 名 圖

年 月 日

何地金庫宛

(第五號書式)

仕拂停止請求書

仕拂命令(仕拂請求書)番號

仕拂命令官氏名

會計主務官氏名

何府(縣)何地何之誰渡

右ハ別紙ノ通り裁判所ヨリ差押命令送達ノ通知ヲ領シ候ニ付仕拂停止相成度明治二十四年勅令第五十五號第八條ニ依リ此段請求候也

何之誰債權者

何府(縣)何地

年月日 何之 誰圖

(第六號書式)

承諾書 仕拂命令(仕拂請求書)番號 仕拂命令官々氏名 會計主務官々氏名 何府(廳)何地何之誰宛 右明治二十四年勅令第五十五號第八條ニ依リ仕拂停止方請 求ノ趣承諾候也 年 月 日 何地 金 庫 圖 何之誰債權者 何之誰宛

○政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受ケタルトキ案内仕拂命令同請求書取扱方及供託受領證取扱方手續

本年大藏省令第十六號ニ依リ差押命令ヲ受ケタルトキ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書取扱方及供託受領證取扱方手續左ノ通心得ヘシ

一會計主務官ニ於テ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ金庫ニ送付シ又ハ政府ノ債權者若シハ差押債權者ニ交付スル以前ニアツラ本年大藏省令第十六號第五條ニ依リ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入スル場合ニハ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ニモ同様記入ヲナスヘシ

一金庫ニ於テ本年勅令第五十五號第七條ニ依リ仕拂命令又ハ

仕拂請求書ヲ會計主務官へ提出スル場合ニハ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ヲ添付スヘシ

會計主務官ニ於テ前項金庫ヨリ仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ提出ヲ受ケ本年大藏省令第十六號第五條ニ依リ差押金額ヲ差押債權者ニ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入スル場合ニハ案内仕拂命令又ハ案内仕拂請求書ニモ同様記入ヲナスヘシ

一會計主務官ニ於テ本年大藏省令第十六號第十二條ニ依リ政府ノ債權者ヨリ仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ提出ヲ受ケ同省令第五條ニ依リ差押金額ヲ差押債權者へ仕拂フヘキ旨ヲ仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入シタル場合ニハ左ノ書式ノ通知書ヲ製シ金庫ニ送付スヘシ

一金庫ニ於テ本年大藏省令第十六號第九條ニ依リ供託ヲナシタル旨ヲ會計主務官ニ通知スル場合ニハ其供託受領證ヲ添付シ之ニ對スル受取證書ヲ徴シ置クヘシ

會計主務官ニ於テ前項金庫ヨリ供託受領證ヲ受ケタル場合ニハ當該執行裁判所ニ通知スルト同時ニ其供託受領證ヲ送付シ之ニ對スル受取證書ヲ徴シ置クヘシ

記

- (仕拂命令番號) (仕拂命令發行年月日) (所管廳名) (仕拂命令官官氏名) (仕拂命令金額) (債主氏名) 右仕拂命令(又ハ仕拂請求書)ヘ左記ノ通記入濟ニ付明治二十四年大藏省訓令第六十一號ニ依リ及御通知候也 (仕拂命令又ハ仕拂請求書ニ記入シタル文言ヲ茲ニ記スヘシ)

何年何月何日 何金庫宛 會計主務官官氏名圖

○貸下金其他諸上納金未納者他ノ負債ノ爲メ身代限ノ處分ヲ受クルトキ取扱方

貸下金其他諸上納金未納ノ者他ノ負債ノ爲メ裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ル時ハ自今左ノ通處分スヘシ此旨相違候事一貸下金其他諸上納金未納ノ者裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ受クル時ハ其徴收ヲ取扱フ官廳ニ於テ通常公文用紙ニ未納ノ金額ヲ記載シ證書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ其裁判所ニ請求スヘシ一裁判所ニ於テハ該請求ノ金額ニ就テ負債者異論ナキトキハ身代限ノ配當金ヲ不足アルトキハ定例ニ其裁判所所在ノ郡區長ニ交付シ郡區長ハ之ヲ其官廳ニ送達スヘシ

○諸貸付金整理順序

諸貸付金整理方ノ備十九年度以後左ノ通心得ヘシ 但書式ハ別ニ送付ス 書式(之) 諸貸付金整理順序 明治十九年四月 大藏省訓令第五號 第一條 諸貸付金ノ徴收ハ明治十九年三月閣令第三號歳入歳出 出納規則ニ準據スルモノトス 第二條 諸貸付金ヲ徴收スルニ付テハ明治十九年三月當省令第 四號歳入取扱順序第十六條第十七條ニ據ル 第三條 諸貸付金ハ左ニ掲クル科目ニ分ツテ整理スヘシ

一舊藩貸 從前ノ舊藩貸ヲ云フ 二勸業貸 從前ノ勸業貸ヲ云フ 三繰替貸 豫備金、繰替金、舊島田組貸付金等ヲ云フ 四雜種貸 從前ノ救助貸、雜貸、官方貸、外國貸代貸、石高貸、或ニ從來 雜收入トシテ納入スヘキモノ、内諸通過金據拂下代諸貸下 後其他ノ訴訟入貸借却金等ノ類ニシテ年月賦若シクハ證據ノ 後上納スヘキモノ及身代限リノ處分ヲ受ク追テ身代持直次 後上納スヘキモノヲ云フ

第四條 諸貸付金返納期限ニ際シ困難ノ事情ニ依リ猶豫ヲ請フ場合ニ於テハ各應限リ六箇月以内ノ延期ヲ與フルコトヲ得

第五條 左ニ掲クル諸件ハ處分ヲ了シタル後其事由ヲ詳記シ計算書ヲ付シ每一箇月取納メ翌月五日限當省へ報告スヘシ 一年賦返納金ヲ繰上ク又ハ返納年度未定ノ金額ヲ一時ニ上納ヲ願出タルトキ 二舊藩貸付金ニ係ル年賦返納金ヲ利引ヲ以テ一時ニ返納ヲ願出タルトキ 但勸業貸繰替貸及雜種貸ト雖モ別段ノ何定アルモノハ本項ニ據ル 三負債主ノ移轉ニ因リ他ノ管廳へ引繼キ若シクハ之ヲ引受タルトキ 四負債主失踪シタルトキ及ヒ失踪後三十六箇月經過シタルトキ(二十年二月十八日大藏省訓令第十三號ヲ以テ本項ヲ改正ス) 五負債主身代限リノ處分ヲ受タルトキ 六負債主死亡若シクハ退隱等ニテ相續人へ負債ノ義務移轉シタルトキ

第六條 左ニ掲クル諸件ハ事由ヲ詳悉シ處分ノ見込ヲ具シ經伺ノ上處分スヘシ(二十一年六月六日大藏省訓令第二十八號ヲ以テ改正ス)

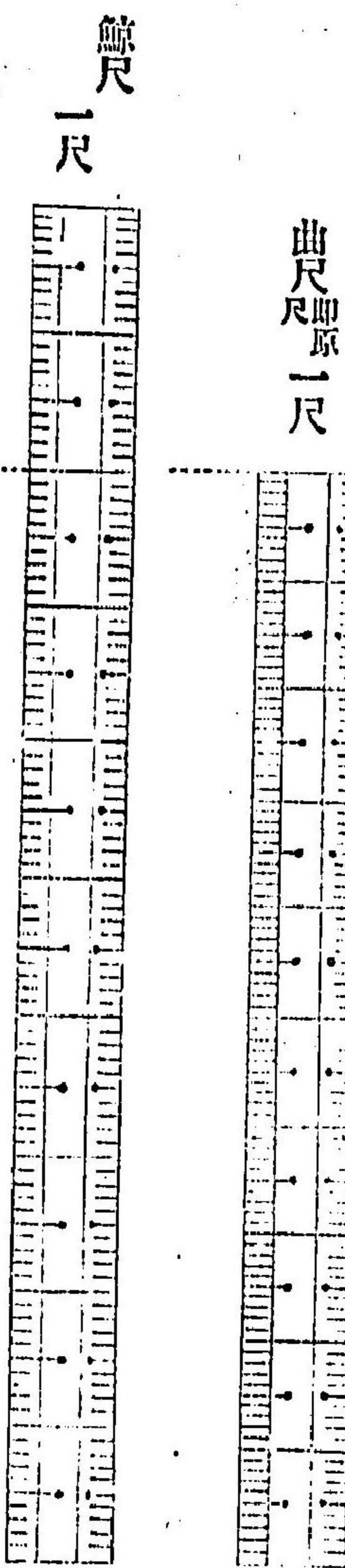
第二章 度量衡

○度量衡改定規則 (明治九年三月)

度量衡三器別紙種類表ノ通改定候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

度量衡改定規則 (別紙)

第一條 三器改定ニ付各地方ニ三器製作所並賣捌所ヲ設ク製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ秤坐秤坐ハ同日ヨリ廢止候事
 第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ク候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日マテ右改所へ差出シ検査ヲ受クヘシ右期日ヲ過キ検査印ナキ器ヲ商業上ニ用アルコトヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スヘキ事
 但改所ニ於テ検査ノ上新器ニ適合セル分ハ検査印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ク戻スヘシ



第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事
 但尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ枴ハ半島等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ買買スルハ苦シカラス
 第四條 尺度秤量ノ目ヲ盛直シ枴ノ線鐵線鐵ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所へ差出スヘク秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候儀不相成事
 第五條 新舊器共検査印アルヲ賣捌度者ハ必ス賣捌所ニ可申出ルハ苦シカラス
 第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ク律ニ照シテ處斷スヘキ事
 度量衡種類表
 尺度種類表
 尺度圖(木尺二分(木尺二分之縮圖)トアルハ原寸ノ儘ナリ) (但木圖ハ原寸ヨリ縮少セシモノナリ)

舊器斗量寸積

斗量寸	法積	分立方	砵厚副	砵積立方	引差現積木	厚製作品
一斗 方一尺〇五分 深五寸九分一厘	六十五萬五千五百七十七個餘	上下共 幅五分 厚四分一厘二七	三千三百〇八個餘	六十四萬八千二百六十九個餘	六分	木品 鐵
七升 方九寸四分七厘 深五寸〇八厘五	四十五萬六千二百七十七個餘	上下共 幅四分 厚三分七厘八	二千二百卅九個餘	四十五萬三千七百八十七個餘	五分三厘同	
五升 方八寸三分四厘 深四寸六分九厘	三十二萬六千二百七十五個餘	上下共 幅三分五厘 厚三分九厘九八	二千〇八十一個餘	三十二萬四千三百三十四個餘	五分	
一升 方四寸七分一厘 深二寸七分一厘	六萬五千〇六十七個餘	上下共 幅一分八厘五 厚一分九厘五	二百四十個餘	六萬四千八百二十七個	三分五厘同	
五合 方三寸九分五厘 深二寸〇九厘	三萬二千六百〇九個餘	上下共 幅一分八厘八 厚一分九厘八	百九十五個餘	三萬二千四百三十三個餘	三分五厘同	
二合五勺 方三寸〇五厘 深一寸七分四厘	一萬六千二百〇四個餘	無砵			三分五厘	木品 鐵

右表面之通り尺度ハ曲尺ヲ以テ原尺ト定メ尤種類ハ右曲尺鯨尺ノ二種ニ限リ候事
 但製作器品ハ竹木鐵黃銅其外各業ノ便利ニ就キ相製シ尤其寸尺或ハ三寸五分或ハ一尺二尺各其寸法ヲ以テ相製シ候事
 附木匠曲尺ノ裏目ハ曲尺一尺ノ方斜ニテ一尺四寸一分四厘二毛餘ヲ一ト相立テ勾倍等定候ニ便用致候儀ニ付其規

矩ヲ以テ目盛致候事
 尺度比較
 曲尺ヲ鯨尺ニ較ス
 鯨尺一尺
 曲尺一尺二寸五分
 斗量種類表
 舊器數目圖(木尺四分(圖而之略))

全大令法本日行現

新器斗量寸積		一合	二合五勺	五合	一升	水	一合	二合五勺	五合	一升	水	一合
深方四寸九分 深二寸七分一厘	六萬五千〇六十 七個餘	厚一分八厘五	二百四十個餘	六萬四千八百二十 七個餘	七個	六萬四千八百二十 七個餘	厚一分八厘五	二百四十個餘	六萬四千八百二十 七個餘	七個	六萬四千八百二十 七個餘	厚一分八厘五
深方八寸三分四厘 深四寸六分九厘	百十五個餘	厚三分九厘九八	二千〇八十一個	三十二萬四千三百 十四個餘	十四個餘	三十二萬四千三百 十四個餘	厚三分九厘九八	二千〇八十一個	三十二萬四千三百 十四個餘	十四個餘	三十二萬四千三百 十四個餘	厚三分九厘九八
深方一尺〇五分 深五寸九分一厘	六十五萬五千五百 七十七個餘	厚四分一厘二七	三千三百〇八個	六十四萬八千二百 六十九個餘	六十九個餘	六十四萬八千二百 六十九個餘	厚四分一厘二七	三千三百〇八個	六十四萬八千二百 六十九個餘	六十九個餘	六十四萬八千二百 六十九個餘	厚四分一厘二七
深方三寸九分五厘 深二寸〇九厘	九個餘	厚一分八厘八	百九十五個餘	三萬二千四百十三 個餘	三萬二千四百十三 個餘	三萬二千四百十三 個餘	厚一分八厘八	百九十五個餘	三萬二千四百十三 個餘	三萬二千四百十三 個餘	三萬二千四百十三 個餘	厚一分八厘八
深方三寸〇五厘 深二寸七分四厘	一萬六千二百〇 四個餘	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
深方二寸四分七厘 深二寸四分七厘	六千四百八十二 個餘	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
深方三寸九分五厘 深二寸〇七厘七五	三萬二千四百十四 個餘	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
深方三寸〇五厘 深二寸七分四厘二	一萬六千二百〇四 個餘	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
深方二寸四分七厘 深二寸四分七厘	六千四百八十二個 餘	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
深方一寸六分 深一寸二分六厘六	三千二百四十個 餘	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第五類 第三章 度量衡

八百十一

全大令法本日行現

新器斗量寸積		一合	二合五勺	五合	一升	水	一合	二合五勺	五合	一升	水	一合
深方四寸九分 深二寸七分一厘	六萬五千〇六十 七個餘	厚一分八厘五	二百四十個餘	六萬四千八百二十 七個餘	七個	六萬四千八百二十 七個餘	厚一分八厘五	二百四十個餘	六萬四千八百二十 七個餘	七個	六萬四千八百二十 七個餘	厚一分八厘五
深方八寸三分四厘 深四寸六分九厘	百十五個餘	厚三分九厘九八	二千〇八十一個	三十二萬四千三百 十四個餘	十四個餘	三十二萬四千三百 十四個餘	厚三分九厘九八	二千〇八十一個	三十二萬四千三百 十四個餘	十四個餘	三十二萬四千三百 十四個餘	厚三分九厘九八
深方一尺〇五分 深五寸九分一厘	六十五萬五千五百 七十七個餘	厚四分一厘二七	三千三百〇八個	六十四萬八千二百 六十九個餘	六十九個餘	六十四萬八千二百 六十九個餘	厚四分一厘二七	三千三百〇八個	六十四萬八千二百 六十九個餘	六十九個餘	六十四萬八千二百 六十九個餘	厚四分一厘二七
深方三寸九分五厘 深二寸〇九厘	九個餘	厚一分八厘八	百九十五個餘	三萬二千四百十三 個餘	三萬二千四百十三 個餘	三萬二千四百十三 個餘	厚一分八厘八	百九十五個餘	三萬二千四百十三 個餘	三萬二千四百十三 個餘	三萬二千四百十三 個餘	厚一分八厘八
深方三寸〇五厘 深二寸七分四厘	一萬六千二百〇 四個餘	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
深方二寸四分七厘 深二寸四分七厘	六千四百八十二 個餘	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
深方三寸九分五厘 深二寸〇七厘七五	三萬二千四百十四 個餘	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
深方三寸〇五厘 深二寸七分四厘二	一萬六千二百〇四 個餘	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
深方二寸四分七厘 深二寸四分七厘	六千四百八十二個 餘	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
深方一寸六分 深一寸二分六厘六	三千二百四十個 餘	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第五類 第三章 度量衡

八百十一

現行日本法令大全

第五類 第三章 度量衡

元上	元上	厘	元前上	銀	元前上	銀	元前上	鍵	元前上	元前上	元前上
三六	五一	秤	百五十七	秤	百五十七	秤	一五二	秤	三百五	五百八	一五二
分	分	量	分	量	分	量	百	量	百	百	百
五直	一直	盛	五十直	盛	五十直	盛	五百直	盛	百五直	百五直	五百直
分點	分點	出	分點	出	分點	出	分點	出	分點	分點	分點
二一	二一	星	一二一	星	一二一	星	十五一	星	十二一	十二一	十二一
厘厘	厘厘	量	分分	量	分分	量	分分	量	分分	分分	分分
一	一	錘	十	錘	八	錘	六	錘	三	六	八
分	分	量	分	量	分	量	分	量	分	分	分
六	一	衡	一尺五分	衡	七寸五分	衡	一尺四寸	衡	一尺二寸	一尺六寸	一尺八寸
寸	寸	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
同	錘	製	錘	製	錘	製	錘	製	同	同	錘
	黃	作	黃	作	黃	作	黃	作			黃
	銅	品	銅	品	銅	品	銅	品			銅

八百十三

現行日本法令大全

第五類 第三章 度量衡

鈹	元上	元上	元上	元上	元上	元上	元上	元上	元上	千	木
皿	一二	二一	三一	六三	十五	十八	二十二	三十六	三十六	秤	秤
秤	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	量	量
量	分	分	分	分	分	分	分	分	分	盛	盛
盛	二直	五直	一直	一直	三直	五直	五直	十直	十直	出	出
出	分	分	分	分	分	分	分	分	分	星	星
星	十二	二十	二十	百二	百五	二百	二百	二百	二百	點	點
點	分	分	分	分	分	分	分	分	分	量	量
量	分	分	分	分	分	分	分	分	分	錘	錘
錘	百	百	三	五	七	一	一	二	二	量	量
量	五十	五十	百	百	百	貫	貫	貫	貫	衡	衡
衡	二	二	二	三	四	五	六	六	六	長	長
長	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	尺	製	製
製	同	同	同	同	同	同	同	同	同	作	作
作										品	品
品										錘	錘
										帶	帶
										銚	銚
										純	純
										鐵	鐵
										銅	銅
										橙	橙

八百十二

現行日本法令大全

計	新舊器共一十六種										
	元上	元上	厘	元前上	銀	元前上	銀	元前上	銚	元前上	元前上
新舊 天秤 圖並 量	三六 匁分	五一 匁分	秤 量	百五十七 匁分	秤 量	三五十 匁分	秤 量	一五二 匁分	秤 量	三五六 匁分	秤 量
	五直	一直	盛	五十直	盛	五十直	盛	五百直	盛	百五十直	盛
	分點	匁點	出	匁點	出	匁點	出	匁點	出	匁點	出
	二一	二一	星	一二一	星	二二一	星	十五一	星	十二一	星
	厘厘	厘厘	量	匁分	量	匁分	量	匁分	量	匁分	量
	一 匁	一 匁	錘	十 匁	錘	增本 錘錘 八七 匁匁	錘	六 匁	錘	三 匁	錘
	六 寸	一 尺 五 分	衡	一 尺 五 分	衡	七 寸 五 分	衡	一 尺 四 寸	衡	一 尺 二 寸	衡
	同	錘皿 衡	製	錘皿 衡	製	錘皿 衡	製	錘 衡	製	同	製
	黃 銅	作 品	黃 銅	作 品	黃 銅	作 品	黃 銅	作 品		黃 銅	作 品

第五類 第三章 度量衡

八百十五

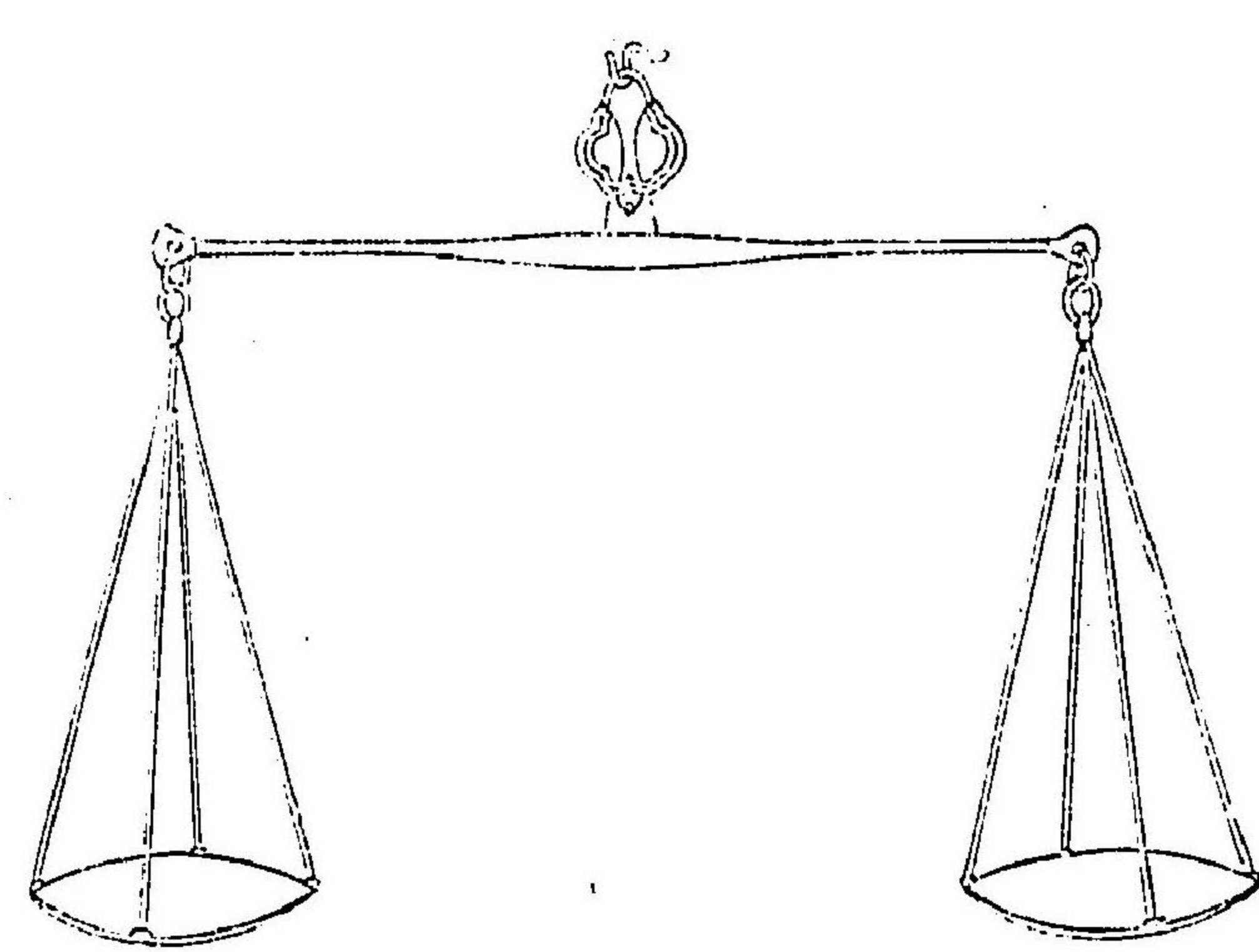
現行日本法令大全

新器秤秤量													
元前上	元前上	鈹	元上	元上	元上	元上	元上	元上	元上	元上	元上	千	
五二八 百五十 匁分	一五二 百匁分	皿 秤 量	一二 貫匁	二一 貫匁	三一 貫匁	六三 貫匁	十五 貫匁	十八 貫匁	二十二 貫匁	三十六 貫匁	三十六 貫匁	千 木 秤 量	
百五直	五百直	盛	二直	五直	一直	一直	三直	五直	五直	十直	十直	盛	
匁點	匁點	出	匁點	匁點	匁點	匁點	匁點	匁點	匁點	匁點	匁點	出	
十二一	十二一	星	十二	二十	二十	百二	百五	二百	二百	二百	二百	星	
匁分	匁分	量	匁分	匁分	匁分	匁分	匁分	匁分	匁分	匁分	匁分	量	
六 寸	八 寸	錘	百 五 十 匁	百 五 十 匁	三 百 匁	五 百 匁	七 百 匁	一 貫 匁	一 貫 五 百 匁	二 貫 匁	二 貫 匁	錘	
一 尺 六 寸	一 尺 八 寸	衡	二 尺	二 尺	二 尺 五 寸	三 尺	四 尺	五 尺 五 寸	六 尺	六 尺 五 寸	六 尺 五 寸	衡	
同	錘皿 衡	製	同	同	同	同	同	同	同	同	同	製	
	黃 銅	作 品										黃 銅	作 品

第五類 第三章 度量衡

八百十四

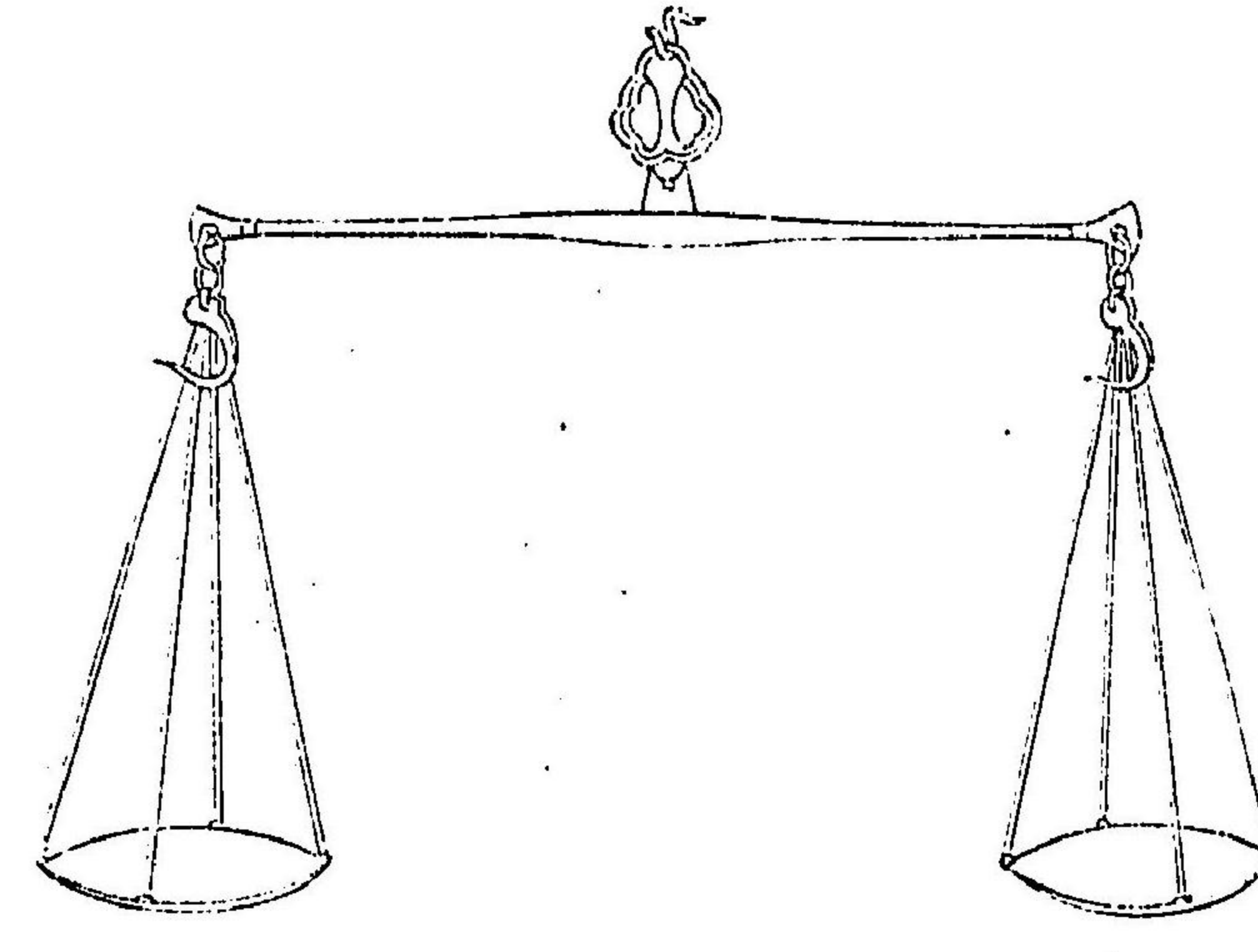
現行日本法令大全

							第 二	
百五 二十 匁 迄	一 分 迄	百 六 十 匁 迄	一 分 迄	五 百 匁 迄	一 分 迄	五 百 匁 迄	一 貫 匁 迄	分 銅 量 衡
七 寸	九 寸	一 尺 二 寸	一 尺 五 分	一 尺 二 寸	一 尺 三 寸 五 分	一 尺 六 寸	一 尺 六 寸	長 製 作 品
同	同	同	同	同	同	全部 黃 銅	全部 黃 銅	

第五類 第三章 度量衡

八百十七

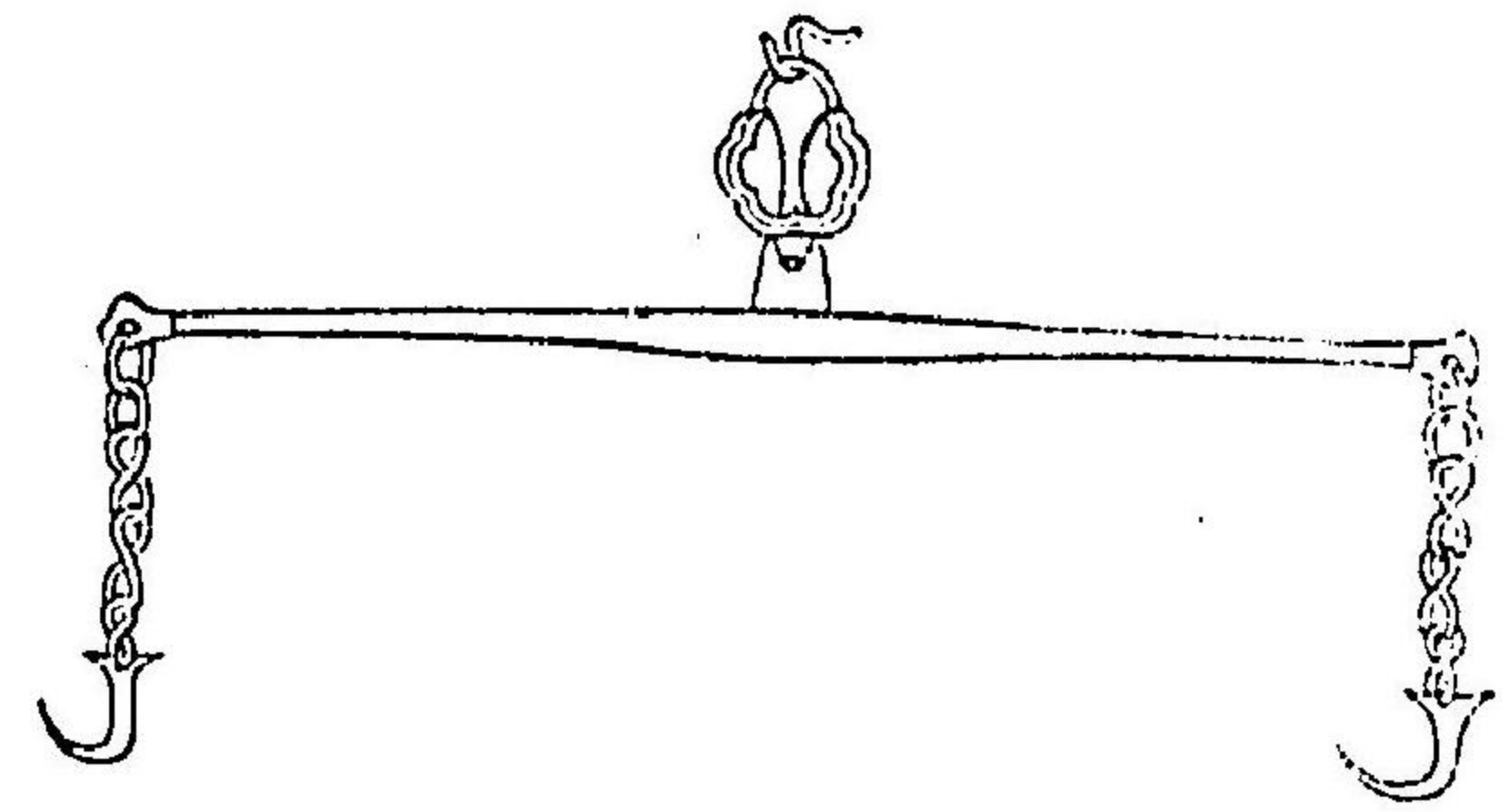
現行日本法令大全

							第 一					
一 貫 匁 迄	一 匁 迄	一 貫 五 百 匁 迄	一 匁 迄	二 貫 匁 迄	一 匁 迄	二 貫 五 百 匁 迄	三 貫 匁 迄	一 匁 迄	五 貫 匁 迄	十 貫 匁 迄	一 匁 迄	分 銅 量 衡
一 尺 六 寸	一 尺 七 寸	二 尺 五 寸	三 尺 五 寸	二 尺	三 尺	二 尺 五 寸	三 尺	三 尺 五 寸	四 尺 五 寸	四 尺 五 寸	四 尺 五 寸	長 製 作 品
同	同	同	同	同	同	同	同	同	全部 黃 銅	全部 黃 銅	全部 黃 銅	

第五類 第三章 度量衡

八百十六

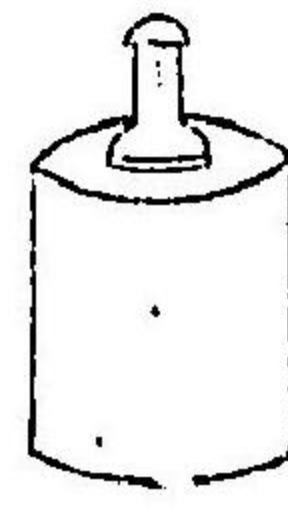
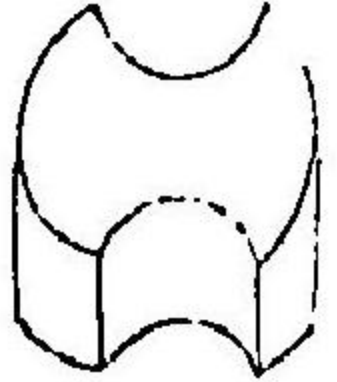
第三



分銅	一匁ヨリ 五百匁迄	一尺四寸	全部黄銅
衡	一	尺	同
長			
製			
作			
品			

度量衡検査規則
 尺度ノ検査ハ舊器新器共渾發ヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法渾發
 ヲ以テ検査スル所ノ尺度ヲ挾ミ其挾ム所ノ長サヲ検査スル所
 ノ尺度ノ長サトシ之ヲ曲尺及鯨尺ノ原器ニ當テ、試験スルニ

○度量衡検査規則 明治八年法律第三十五號 度量衡取締條例附屬

新器	舊器	新舊分	計
		銅 圖	新舊器共一十六種
黄銅製	褐銅製		
種類若干			

其挾ム所ノ長サ曲尺ノ原器ニ適合スル者ハ検査スル所ノ尺度
 之ヲ曲尺ト定メ其挾ム所ノ長サ鯨尺ノ原器ニ適合スル者ハ之
 ヲ鯨尺ト定メ乃チ其器ヲ正當トシ以テ各々檢印ヲ捺押シ且尺
 名印 曲尺ハ曲字ノ印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其挾ム所ノ長サ曲
 尺及鯨尺ノ原器ニ適合セス長短差等ヲ生スル者ハ検査スル所
 ノ尺度之ヲ不正トシ以テ捺印スヘカラス
 舊器斗量検査
 舊器斗量ノ検査ハ斗量ノ原器ト漏斗トヲ用ヒ審キ精クタル粟

分銅ノ検査ハ舊器新器共分銅ノ原器ト天秤ノ原器トヲ以テ之ヲ検査スヘシ其法板敷又ハ机等平坦ノ地位ヲ擇テ検査スル所ノ天秤ヲ据ヘ象限儀ノ類ヲ以テ其天秤蓋ニ當テ、之カ高低ヲ檢シ若シ高低アルトキハ片板ヲ假リ之ヲ矯メテ水平ナラシメ然シテ検査スル所ノ分銅ヲ其左皿ニ掛ケ之ト同量ナル分銅ノ原器ヲ其右皿ニ掛ケ然シテ其針口ノ感搖ヲ鋭クセンカ爲メニ扣棒ヲ以テ微々ニ其鈎銅ノ柱ニ掛ケテ、甲所ヲ連扣スヘシ連扣シ終リ眼ヲ注テ精密ニ之ヲ検査スルニ其針口上下正直ニ相接シ其衡水平ニシテ左右偏重ナキトキハ検査スル所ノ分銅之ヲ正當トシ以テ檢印ヲ捺押スヘシ然ルニ若シ其針口上下直接セス其衡水平ナラスシテ左右偏重ヲ生スルトキハ検査スル所ノ分銅之ヲ不正トシテ以テ捺印スヘカラス右之通候事

附則 (明治二十四年七月農商務省令第七號ヲ以テ附則追加)

權衡ノ各取リ緒ニ就テノ盛出シニ錘ヲ懸ケテ桿ノ水平ヲ得タルトキ其取リ緒ニ就テノ一度目ニ相當スル分銅ヲ皿又ハ鈎ニ加フルトキ感動ヲ起スモノヲ合格トシ感動セサルモノハ之ヲ不合格トスヘシ

○西洋形權衡ニ御國量目ヲ割直シ

使用方

明治六年十月第三百三十八號布告

御國量目ヲ割直シ候西洋形權衡ニ大藏省ノ極印無之分相用候者有之ニ於テハ屹度各メ可申付候條此旨布告候事

但螺絲機關等ニテ其概量ヲ知ルノ器具ハ此限ニアラザル事

○西洋形權衡製作検査印章

明治十四年五月布告第三十二號

西洋形權衡製作検査印章左ノ通改定候條自今左ノ印章ヲ證トシ從前ノ權衡ト同様相用フヘシ此旨布告候事

(印章ハ朱)



捺

○枳底組製作及使用方

明治九年六月大藏省達乙第五十三號

新器水量枳組ノ儀度量衡種類表ニ掲載有之候圖面ノ通原器製作先般相渡候處其後右枳組ノ儀切組底ニテハ製作ノ工拙ト木材ノ良否ニ依リ底部膨脹相開候弊モ有之設ニ相開候條右底組ノ儀ハ打付底ニ製作イタシ候分共取交相用不苦候條此旨相違候事

○度量衡検査員數計算表式

明治十四年九月農商務省達乙第九號

度量衡検査員數計算表ノ儀十四年度以降別冊雛形ノ通相定候條毎半期分調製各翌月廿日限リ差立當省ヘ可差出候此旨相違候事

別冊雛形		用紙美濃紙	
紙		何縣府	
裏		凡例 製作所ニテ所以上アル府縣ハ箇所限リ別廉ニ配シ每器小計製作所毎ノ附數ノ區ヲ設ケ末尾ニ合計ヲ掲クヘシ 表中種類ノ區中ヘハ尺度ニテハ鐵黃銅竹木鯨骨馬骨製ノ類斗量ニテハ一斗量ヨリ五勺量ニ至ル斗概ハ大中小權衡ニテハ各其最目ヲ區別スヘシ 桿秤ノ區ヘハ千木鈎皿鍵銀厘秤ノ類分銅ノ區中ヘハ黃銅銑鐵製ノ類ヲ區別スヘシ	
面		凡例	
尺度製作所		何國何區何町	
曲	尺度種類	検査済員數	原價通價

斗量製作所		何國何區何町	
種		原價通價	
類		検査済員數	
尺		原價通價	
鯨		検査済員數	
尺		原價通價	
計		検査済員數	
水		原價通價	
量		検査済員數	
種		原價通價	
類		検査済員數	
量		原價通價	
水		検査済員數	
量		原價通價	

現行日本法令大全

第五類 第三章 度量衡

秤		天		秤		秤		秤		斗		概		斗	
種	計	種	計	種	計	種	計	種	計	計	計	計	計	計	計
類		類		類		類		類							
検査済員數		検査済員數		検査済員數		検査済員數		検査済員數							
原價		原價		原價		原價		原價							
通價		通價		通價		通價		通價							
價		價		價		價		價							

合計	衡		權		量		斗		度		尺		銅分計
	分	天	秤	秤	斗	水	穀	量	量	尺	曲		
	銅	秤	秤	概	量	量	尺	尺	尺	尺	尺	尺	

八百二十四

右ハ當縣明治何年七月ヨリ十二月マテ 度量衡検査員數計算書而之通候也
 年月日 農商務卿宛 縣府知事印

○度量衡法 明治二十四年三月 法律第三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル度量衡法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

現行日本法令大全

第五類 第三章 度量衡

度量衡法

第一條 度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ基本トス

第二條 度量衡ノ原器ハ白金「イリヂウム」合金製ノ棒及分銅トス其ノ棒ノ而ニ記シタル標線間ノ攝氏〇、一五度ニ於ケル長サ三十三分ノ十ヲ尺トシ分銅ノ質量四分ノ十五ヲ貫トス

第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度	毛尺ノ萬分ノ一	〇・〇〇〇〇〇〇
	厘尺ノ千分ノ一	〇・〇〇〇〇〇〇
	分尺ノ百分ノ一	〇・〇〇〇〇〇〇
	寸尺ノ十分ノ一	〇・〇〇〇〇〇〇
尺	丈十尺	〇・〇〇〇〇〇〇
	間六尺	〇・〇〇〇〇〇〇
	町三百六十尺(六十四)	〇・〇〇〇〇〇〇
	里一萬二千九百六十尺(三十六町)	〇・〇〇〇〇〇〇

地積
 勺歩ノ百分ノ一
 合歩ノ十分ノ一
 步或ハ坪六尺平方
 畝三十歩

段三百歩
 町三千歩

量
 勺升ノ百分ノ一
 合升ノ十分ノ一
 升六萬四千八百二十七立方分
 斗十升
 石百升

衡
 毛貫ノ百萬分ノ一
 厘貫ノ十萬分ノ一
 分貫ノ萬分ノ一
 匁貫ノ千分ノ一
 貫
 斤百六十匁

第四條 從來慣用ノ鯨尺ハ布帛ヲ度ルトキニ限リ之ヲ用非ルニトテ得

鯨尺一尺ハ二寸五分トシ其ノ十倍ヲ鯨尺一丈、十分ノ一ヲ鯨尺一寸、百分ノ一ヲ鯨尺一分トス

第五條 「メートル」法度量衡ハ左ニ掲ケル比較ニ依リ之ヲ適法ノモノトシ本條以下ノ規定ヲ適用ス

「ミリメートル」	〇・〇〇〇〇〇〇
「センチメートル」	〇・〇〇〇〇〇〇
「デシメートル」	〇・〇〇〇〇〇〇

八百二十五

寸	尺	間	町	里	地積	合	勺	升	斗	石	毛	厘	分	釐	毫	貫	匁	分	厘	毫	絲	忽	
「メートル」	「デカメートル」	「ハクトメートル」	「キロメートル」	「センチメートル」	「アール」	「ヘクタール」	「センチリットル」	「デシリットル」	「リットル」	「デカリットル」	「ヘクトリットル」	「ミリグラム」	「センチグラム」	「デシグラム」	「グラム」	「デカグラム」	「ヘクトグラム」	「キログラム」	「ヘクトグラム」	「キログラム」	「ヘクトグラム」	「キログラム」	「ヘクトグラム」
三、三〇〇〇〇	三三、〇〇〇〇〇	三三〇、〇〇〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇〇〇	〇、〇〇三〇二五〇	三〇、一五〇〇〇	三〇二五、〇〇〇〇〇	〇、〇〇三〇二五〇	〇、〇〇三〇二五〇	〇、〇〇三〇二五〇	〇、〇〇三〇二五〇	〇、〇〇三〇二五〇	〇、〇〇二七	〇、〇〇二七	〇、〇〇二七	〇、〇〇二七	〇、〇〇二七	〇、〇〇二七	〇、〇〇二七	〇、〇〇二七	〇、〇〇二七	〇、〇〇二七	〇、〇〇二七	〇、〇〇二七

斤	斤
「キログラム」	「キログラム」
二、六六六、六六七	二、六六六、六六七

第六條 度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス
農商務大臣ハ度量衡ノ原器ニ依リ副原器二組ヲ製作セシメ
原器ノ代用ニ供ス
副原器ノ一組ハ農商務大臣之ヲ保管シ他ノ一組ハ文部大臣
之ヲ保管ス

第七條 農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシムヘ
シ
地方原器ハ地方長官之ヲ保管シ度量衡器檢定ノ標準ニ供ス
ルモノトス

第八條 度量衡器ヲ製作シ修繕シ若ハ販賣セント欲スル者ハ
地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ願出免許ヲ受クヘシ
製作ノ免許ヲ得タル者ハ修繕及販賣ヲナスコトヲ得
免許ニ關スル年限、身元保證金其ノ他必要ナル制限ハ勅令ヲ
以テ之ヲ定ム

第九條 度量衡器ヲ製作シ修繕シ若ハ輸入シテ販賣シ又ハ營
業ノ目的ニ使用スル者ハ豫メ其ノ檢定ヲ受クヘシ
營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ前項檢定ノ外之ヲ修繕シ
タルトキ及定期間ニ於テ檢定ヲ受クヘシ
官廳、公署、官立ノ諸建設場又ハ貧院、病院其ノ他之ニ
類スル建設場ニ於テ販賣、授受及證明ノ爲ニ使用スル度量衡
器ハ營業ノ目的ニ使用スルモノニ準ス

第十條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、檢定ノ定期及公差、檢定
スヘキ目盛及分銅ノ最小定限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 度量衡器ノ檢定及取締ハ地方長官之ヲ管理ス
地方長官ハ市長、町村長ヲシテ其ノ市町村内ニ於ケル度量衡
器ノ取締ヲ行ハシメ及其ノ檢定ニ關スル事務ヲ補助セシム
ルコトヲ得

第十二條 度量衡器ノ製作者、修繕者、販賣者及使用者ハ取締
ノ爲ニ行フ當該吏員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ吏員ハ主
任タルノ證據ヲ携帶シテ之ヲ示スヘシ

第十三條 度量衡器ノ製作、修繕及販賣ノ免許ヲ受クル者ハ免
許料ヲ、檢定ヲ受クル者ハ檢定料ヲ納ムヘシ
免許料及檢定料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 度量衡器ノ製作者、修繕者若ハ販賣者ニシテ度量衡
ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ營
業免許ヲ取消スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受クスシテ度量衡器ヲ製作シ若ハ修繕シテ
販賣シタル者ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
免許ヲ受クスシテ度量衡器ヲ販賣シ又ハ檢定ヲ受クスル度
量衡器ヲ販賣シ若ハ之ヲ營業ノ目的ニ使用シ及吏員ノ臨檢
ヲ拒ミタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
差狂アル度量衡器ナルコトヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目
的ニ使用シタル者亦前項ニ同シ

第十六條 本法施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十七條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五類 第三章 度量衡

八百二十八

第十八條 度量衡器ノ製作ニ限リ本法施行前六箇月以内ニ之ヲ免許スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法中製作ニ關スル條項ハ之ヲ適用ス

第十九條 從來度量衡製作及賣捌ノ免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免許ヲ受ケルコトヲ要セス本法ノ規定ニ從ヒ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條 從來ノ度量衡器ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年以内ニ本法ノ規定ニ依リ其ノ檢定ヲ受クヘシ檢定ヲ經サルモノハ其ノ期限ヲ過クル後之ヲ販賣シ若シハ營業ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第二十一條 從來ノ度量衡器ニシテ修覆シタルモノ、檢定ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年ヲ限リ從來ノ檢査規則ニ依ル

第二十二條 明治八年太政官第三百三十五號達度量衡取締條例

並檢査規則同九年第十七號布告度量衡改定規則及西洋形權衡ニ係ル從來ノ法令ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ度量衡取締條例附屬檢査規則ハ前條ノ場合ニ限リ明治三十二年十二月三十一日マテ其ノ効力ヲ有ス

○度量衡器ノ制限、製作、修覆及販賣ノ免許、檢定ニ關スル規則

明治二十四年八月
勅令第三百七十七號

度量衡器ノ制限、製作、修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 度量衡器ノ種類、形狀及物質ヲ定ムルコト左ノ如シ

度量衡器	形狀	物質	種類		類
			直尺	曲尺	
直形	金、銀、象牙、骨、竹、木	金、銀、象牙、骨、竹、木	七尺以下	長尺二尺以下	二「メートル」以下
			一尺	長尺二尺以下	三「尺」
直角形	金、銀、象牙、骨、竹、木	金、銀、象牙、骨、竹、木	十五尺以下	長尺二尺以下	五「メートル」以下
			三「尺」	長尺二尺以下	一「メートル」
連接直形	金、銀、象牙、骨、竹、木	金、銀、象牙、骨、竹、木	三「尺」	長尺二尺以下	二「メートル」
			六「尺」	長尺二尺以下	三「メートル」
細帶狀	金、銀、象牙、骨、竹、木	金、銀、象牙、骨、竹、木	十「尺」	長尺二尺以下	五「メートル」
			三十「尺」	長尺二尺以下	十「メートル」
金	金、銀、象牙、骨、竹、木	金、銀、象牙、骨、竹、木	六十「尺」	長尺二尺以下	二十「メートル」
			六十「尺」	長尺二尺以下	三十「メートル」

第五類 第三章 度量衡

八百二十九

度量衡器	形狀	物質	種類		類	法	容	積
			種類	寸				
金	金	金	一 勺	七、四五	六四八、二七	一「センチリットル」	一八、五	〇、〇一
			二 勺	九、三八	一一九六、五四	二「センチリットル」	二二、四	〇、〇二
金	金	金	一 合	一六、〇四	六四八二、七〇	一「デシリットル」	三九、九	〇、一〇
			二 合	二〇、二一	一一九六五、四〇	二「デシリットル」	五〇、三	〇、二〇
金	金	金	二 合五勺	二二、七七	一六二〇六、七五	五「デシリットル」	六八、三	〇、五〇
			五 合	二七、四三	三二四一三、五〇	一「リットル」	八六、〇	一、〇〇
金	金	金	一 升	三四、五六	六四八二七、〇〇	一「リットル」	一〇八、四	二、〇〇
			二 升	五四、八六	一二九六五四、〇〇	二「リットル」	一八五、三	五、〇〇
金	金	金	五 升	七四、四五	三二四一三五、〇〇	十「リットル」	一三三、五	一〇、〇〇
			一 斗	九三、八〇	六四八二七〇、〇〇	二十「リットル」	二九四、二	二〇、〇〇
金	金	金	五 斗	一六、〇四	三二四一、三五	一「デシリットル」	五〇、三	〇、一〇
			一 合	二〇、二一	六四八二、七〇	二「デシリットル」	六三、四	〇、二〇

現行日本法令大全

第五類 第三章 度量衡

秤		量器		鍍			
形狀	物質	種類	寸	法	容		
圓	金	一 勺	七、四五	六四八、二七	「センチリットル」	一八、五	五、〇〇一
		二 勺	九、三八	一一九六、五四	「センチリットル」	二二、四	〇、〇二
		五 勺	一二、七三	三二四一、三五	「センチリットル」	三一、七	〇、〇五
		一 合	一六、〇四	六四八二、七〇	「センチリットル」	三九、九	〇、一〇
		二 合	二〇、二一	一一九六、五四	「センチリットル」	五〇、三	〇、二〇
		二 合五勺	二二、七七	一六二〇、七五	「センチリットル」	六八、三	〇、五〇
	屬	一 升	三四、五六	六四八二、七〇	「リットル」	一〇八、四	二、〇〇
		二 升	五四、八六	一二九六、五四	「リットル」	一八五、三	五、〇〇
		五 升	七四、四五	三二四一、三五	「リットル」	二九四、二	一〇、〇〇
		一 斗	九三、八〇	六四八二、七〇	「リットル」	四八三、五	一〇、〇〇
		五 斗	一六、〇四	三二四一、三五	「リットル」	九六、七	二、〇〇
		一 合	二〇、二一	六四八二、七〇	「リットル」	一八、五	〇、〇一

八百二十九

現行日本法令大全

第五類 第三章 度量衡

八百二十八

第十八條 度量衡器ノ製作ニ限リ本法施行前六箇月以内ニ之ヲ免許スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法中製作ニ關スル條項ハ之ヲ適用ス

第十九條 從來度量衡製作及賣捌ノ免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免許ヲ受ケルコトヲ要セス本法ノ規定ニ從ヒ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條 從來ノ度量衡器ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年以内ニ本法ノ規定ニ依リ其ノ檢定ヲ受ケヘシ檢定ヲ經サルモノハ其ノ期限ヲ過クル後之ヲ販賣シ若クハ營業ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第二十一條 從來ノ度量衡器ニシテ修覆シタルモノ、檢定ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年ヲ限リ從來ノ檢査規則ニ依ル

第二十二條 明治八年太政官第三百三十五號達度量衡取締條例

度器		形		直		直		直		直				
形狀	物質	種類	價	直尺	直尺	直尺	直尺	直尺	直尺	直尺	直尺			
細帶狀	金	屬	卷尺	直尺	七尺以下	一尺	長尺二尺以下	二尺	三	六	十			
												三	六	十
												十二	十八	三十
												六十	六十	九十
直	竹、木	直	直尺	直尺	七尺以下	一尺	長尺二尺以下	二尺	三	六	十			
												三	六	十
												十二	十八	三十
												六十	六十	九十
直	竹、木	直	直尺	直尺	七尺以下	一尺	長尺二尺以下	二尺	三	六	十			
												三	六	十
												十二	十八	三十
												六十	六十	九十
直	竹、木	直	直尺	直尺	七尺以下	一尺	長尺二尺以下	二尺	三	六	十			
												三	六	十
												十二	十八	三十
												六十	六十	九十

並檢査規則同九年第十七號布告度量衡改定規則及西洋形權衡ニ係ル從來ノ法令ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ度量衡取締條例附屬檢査規則ハ前條ノ場合ニ限リ明治三十二年十二月三十一日マテ其ノ効力ヲ有ス

○度量衡器ノ制限、製作、修覆及販賣ノ免許、檢定ニ關スル規則
明治二十四年八月勅令第三百七十七號

第一條 度量衡器ノ種類、形狀及物質ヲ定ムルコト左ノ如シ

分銅	衡器		形		材		木		種		類		寸		法			
	形		場		四		形		方		斗		概		概			
	一		五		二		一		五		一		五		一		五	
	升		同		同		同		同		同		同		同		同	
	一斗	一〇五、〇〇	六四八二七〇、〇〇	至一合五勺	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	七、 ^分	四〇、 ^分									
	一斗	八三、四〇	三二四一三五、〇〇	至二升	自五合	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、									
	一斗	六二、七四	二九六五四、〇〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、									
	一斗	四九、〇〇	六四八二七、〇〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、									
	一斗	三九、五〇	三二四一三、五〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、									
	一斗	三〇、五〇	一六二〇六、七五	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、									
	一斗	二八、六六	一二九六五、四〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、									
	一斗	二二、〇〇	六四八二、七〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、									
	一斗	一一、〇〇	六四八二、七〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、									
	一斗	一六、〇〇	三二四一、三五	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、									

形		場		鐵		葉		形		場		鐵		葉	
一		五		二		一		五		二		一		五	
升		同		同		同		同		同		同		同	
一斗	一〇五、〇〇	六四八二七〇、〇〇	至一合五勺	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	七、 ^分	四〇、 ^分							
一斗	八三、四〇	三二四一三五、〇〇	至二升	自五合	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、							
一斗	六二、七四	二九六五四、〇〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、							
一斗	四九、〇〇	六四八二七、〇〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、							
一斗	三九、五〇	三二四一三、五〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、							
一斗	三〇、五〇	一六二〇六、七五	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、							
一斗	二八、六六	一二九六五、四〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、							
一斗	二二、〇〇	六四八二、七〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、							
一斗	一一、〇〇	六四八二、七〇	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、							
一斗	一六、〇〇	三二四一、三五	至一合	自五勺	自一「デシリットル」	至五「デシリットル」	一〇、	七〇、							

量器(玻璃製)水重ノ公差		衡器ノ公差	
一	合	〇.一〇	一「デシリットル」
二	合	一.〇〇	二「デシリットル」
二	合五勺	一.〇〇	五「デシリットル」
五	合	一.五〇	一「リットル」
一	升	二.〇〇	二「リットル」
一	勺	〇.三	一「デシリットル」
一	合	〇.五	二「デシリットル」
二	合	一.〇	五「デシリットル」
二	合五勺	一.二	一「リットル」
五	合	一.五	二「リットル」
一	升	三.〇	
分銅五分		〇.〇〇五	分銅一「グラム」以上
分銅一分		〇.〇一〇	分銅五「グラム」以上
目盛		一度目ノ二分ノ一ニ相當スル重サ	

<p>度器ノ各目盛ノ公差ハ前項定限ノ二分ノ一トス</p> <p>第四條 檢定スヘキ度器ノ目盛及分銅ノ最小定限ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ量器ハ其ノ全量ノ外他ノ目盛ヲ檢定セス</p> <p>度器ノ目盛</p> <p>五厘 (一尺以下ノ度器) 一分 (十尺未満ノ度器) 一寸 (十尺以上ノ度器) 鯨尺一分 (各種鯨尺度器)</p> <p>分銅</p> <p>一厘 (一「メートル」以下ノ度器) 一「センチグラム」 (一「メートル」未満ノ度器) 五「ミリメートル」 (五「メートル」未満ノ度器) 五「センチメートル」 (五「メートル」以上ノ度器)</p> <p>第五條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許年限ハ十五年トス</p> <p>第六條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ヲ願出ル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ詳記シタル營業ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ</p> <p>製作、修覆ヲ願出ル者</p> <p>一 製作場、修覆場ノ位置及構造</p> <p>二 製作、修覆セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質</p> <p>三 資本金</p> <p>四 製作、修覆ニ使用スヘキ技師、職工ノ員數及其ノ職業別並ニ諸器械ノ種類</p> <p>販賣ヲ願出ル者及製作者ニシテ販賣ヲ兼ムル者</p>	<p>一 販賣所ノ位置及構造</p> <p>二 販賣セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質</p> <p>三 資本金</p> <p>四 販賣セントスル度量衡器ノ製作者、修覆者又ハ輸入者ノ住所、姓名及營業所</p> <p>農商務大臣前項營業ノ設計ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ願書ヲ却下スヘシ</p> <p>第七條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受タル者其ノ營業ノ設計ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ</p> <p>第八條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受クル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ</p> <p>度器、量器又ハ衡器ノ製作 金拾五圓</p> <p>度器、量器又ハ衡器ノ修覆 金拾貳圓</p> <p>度器、量器又ハ衡器ノ販賣 金五圓</p> <p>第九條 度量衡器ノ檢定ヲ受クルモノハ左ノ檢定料ヲ納ムヘシ</p> <p>二段以上目盛シタル度器ハ一段毎ニ其ノ檢定料ヲ納ムヘシ</p>
<p>檢定料</p> <p>度器</p> <p>一尺以下(一分目) 〇.五</p> <p>一尺以下(五厘目) 一.〇</p> <p>三尺以下(一分以上ノ目) 一.〇</p>	<p>竹</p> <p>一尺以下(一分目) 〇.五</p> <p>一尺以下(五厘目) 一.〇</p> <p>三尺以下(一分以上ノ目) 一.〇</p>

現行日本法令大全

木		骨		象牙		金		銀		銅		鐵		鋼		其他	
七尺以下	半「メートル」以下	「メートル」以下	「メートル」以下	鯨尺 一尺	鯨尺 二尺	鯨尺 三尺	一尺以下	三尺以下	七尺以下	十八尺以下	六十尺以下	六十尺以上	曲尺各種	半「メートル」以下	「メートル」以下	「メートル」以下	「メートル」以下
四、〇	二、五	四、〇	五、〇	〇、五	一、〇	一、〇	二、五	二、五	五、〇	五、〇	二、五	五、〇	三、五	五、〇	六、〇	七、五	七、五
(正改テ以テ號三百二第令勅月一十年四十二ハ表木)																	
扇		量器		槍、櫓、杵、杙		銀、子、松、杏、櫻、葉		鐵		鋼		金屬(鐵葉ヲ除ク)		玻璃		分	
鯨尺 一尺	鯨尺 二尺	鯨尺 三尺	五「デシリットル」以下	二「リットル」以下	五「リットル」	十「リットル」	二十「リットル」	五「デシリットル」以下	二「リットル」以下	五「リットル」	十「リットル」	二十「リットル」	五分未満	二十分以下	五分以下	五分以下	五分以下
二、五	二、五	二、五	一、五	二、〇	三、〇	四、〇	六、〇	三、五	五、〇	四、〇	六、〇	八、〇	四、〇	八、〇	一、五	二、〇	二、〇

第五類 第三章 度量衡

八百三十六

現行日本法令大全

銅		天秤		量		秤		桿	
一貫以上	一箇	一「キログラム」以下	一「キログラム」以下	五十貫以下	百五十貫以下	二百「キログラム」以下	五百「キログラム」以下	二貫以下	七貫以上三十貫マテ
五、〇	四、〇	八、〇	一五、〇	二、〇	五、〇	二〇、〇	五〇、〇	一〇〇、〇	二〇、〇
<p>第十條 第八條ノ免許料及第九條ノ檢定料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ</p> <p>第十一條 度量衡器ノ製作、修覆又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ左ノ身元保證金ヲ納ムヘシ</p> <p>度量衡器ノ製作 金三百圓</p> <p>度量衡器ノ修覆 金三百圓</p> <p>木材、象牙、骨製桿秤 金三百圓</p> <p>天秤、分銅、量秤及金屬製桿秤 金五百圓</p> <p>度量衡器ノ修覆 金二百圓</p> <p>木材、象牙、骨製桿秤 金二百圓</p> <p>天秤、分銅、量秤及金屬製桿秤 金三百圓</p> <p>度量衡器ノ修覆 金百圓</p> <p>度量衡器ノ販賣 金百圓</p>									
<p>○度量衡法施行規則 明治二十四年八月 農商務省令第十一號</p> <p>度量衡法施行規則左ノ通定ム</p>									

第五類 第三章 度量衡

八百三十七

度量衡法施行規則

第一章 檢定

第一條 度量衡檢定所ハ常置、特設ノ二トシ常置檢定所ニ於テハ製作、修覆者ハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定シ特設檢定所ニ於テハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定ス。常置檢定所ハ地方廳所在地ニ一箇所ヲ置キ特設檢定所ハ定期檢定ヲ施行スルトキ地方長官便宜其ノ場所ヲ指定スヘシ。

前項特設檢定所ノ場所及檢定ノ期日ハ其ノ檢定ヲ施行スル期日ヨリ少クモ一箇月以前ニ之ヲ告示スヘシ。第二條 度量衡器ノ檢定ヲ受ケントスルトキハ製作、修覆者ハ輸入シタル者ハ左ノ甲號書式ニ營業ノ目的ニ使用スル者ハ乙號書式ニ依リタル檢定請求書ニ明治二十四年勅令第百七十七號第九條ニ定ムル檢定料相當ノ登記印紙ヲ貼用シ之ヲ器物ニ添ヘ度量衡檢定所ニ差出スヘシ。

(甲號書式用紙)

度量衡器檢定請求書

此處ニ登記印紙ヲ貼用スヘシ

(皮器)

形 狀	物 質	全 種		製 作 又 ハ 輸 入 番 號	箇 數
		長 目	盛		
直 形 竹		直尺何尺又ハ何メートル	何分又ハ何ミリメートル	何	何
...

(但シ種類ノ欄中目盛ノ記入ヲ要スルハ三尺以下ノ皮器ニ限ル)

(量器)

形 狀	物 質	種 類	製 作 又 ハ 輸 入 番 號	箇 數
方 形 槍		何升又ハ何リットル	何	何
...

度量衡法施行規則

第一章 檢定

第一條 度量衡檢定所ハ常置、特設ノ二トシ常置檢定所ニ於テハ製作、修覆者ハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定シ特設檢定所ニ於テハ營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ヲ檢定ス。常置檢定所ハ地方廳所在地ニ一箇所ヲ置キ特設檢定所ハ定期檢定ヲ施行スルトキ地方長官便宜其ノ場所ヲ指定スヘシ。

(甲號書式用紙)

度量衡器檢定請求書

此處ニ登記印紙ヲ貼用スヘシ

(皮器)

形 狀	物 質	全 種		製 作 又 ハ 輸 入 番 號	箇 數
		長 目	盛		
直 形 竹		直尺何尺又ハ何メートル	何分又ハ何ミリメートル	何	何
...

(但シ種類ノ欄中目盛ノ記入ヲ要スルハ三尺以下ノ皮器ニ限ル)

(量器)

形 狀	物 質	種 類	製 作 又 ハ 輸 入 番 號	箇 數
方 形 槍		何升又ハ何リットル	何	何
...

(斗概)

種 類	製 作 又 ハ 輸 入 番 號	箇 數
大、中、又ハ小	何號又ハ至何號	何
...

(分銅)

形 狀	物 質	種 類	製 作 又 ハ 輸 入 番 號	箇 數 及 組 數
圓 錐 形	真 鍮	何百匁	何又ハ至何號	何
...

(秤)

種 類	秤 量	感 量 又 ハ 目 盛	製 作 又 ハ 輸 入 番 號	箇 數
桿 秤	何キログラム	何ミリグラム	何又ハ至何號	何
...

年 月 日

何製作、修覆又ハ輸入者

宿 所

某

(乙號書式用紙)

度量衡器檢定請求書

此處ニ登記印紙ヲ貼用スヘシ

(度量器)

物	質	種類	長	目盛	種類	筒	數
竹	直尺	何「メートル」	何「メートル」	何「ミリメートル」	何	何	筒數
...	曲尺

(但シ種類ノ欄中目盛ノ記入ヲ要スルハ三尺以下ノ度量器ニ限ル)

(量器)

物	質	種類	筒	數
鐵	葉	何「リットル」	何	筒數
...

(分銅)

種	類	筒	數	及	組	數
何	何「グラム」	何	筒數	及	組	數
自	何「分」
至	何「分」

(秤)

種	類	秤	量	感量又ハ目盛	筒	數
桿	何「キログラム」	何	何	何「ミリグラム」	何	筒數

第三條 五分若クハ一「グラム」未滿ノ分銅ノ檢定ハ常置度量衡檢定所ニ於テ之ヲ行フ

第四條 檢定所ニ度量衡器ヲ差出シ難キトキハ其ノ事由及度量衡器ノ種類、簡數等ヲ詳記シ特ニ其ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受クンコトヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得

地方長官前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ請求者ハ檢定吏員ノ爲メニ成規ノ旅費日當其ノ他檢定ニ要スル費用ヲ負擔シ檢定吏員ノ指示ニ從ヒ諸般ノ準備ヲナスヘシ但シ旅費其ノ他ノ費用ハ之ヲ前納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ請求書ヲ出張吏員ニ差出スヘシ

第五條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、度量器ノ目盛及分銅ノ最小定限並ニ公差ハ明治二十四年勅令第七十七號第一條、第二條、第三條及第四條其ノ構造、本令第二章ノ規定ニ依リ檢定スヘシ

第六條 度量衡器ヲ檢査シタルトキハ其ノ合格ノモノニハ檢定ノ證印ヲ附シ、證印ヲ附シ難キモノニハ證書ヲ附シ、證印又ハ證書アルモノニシテ不合格ノトキハ之ニ消印ヲ附スヘシ

錘及増錘ハ其ノ初回ノ檢定ノ外合格スルモ證印ヲ附セス

第七條 證印、證書、消印及年號印、應府縣印ノ種類、雛形ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 證書


年月	種類	形狀	物質	番號	年號	製作人	檢定之證
何	何	何	何	何	何	何	何

應府縣 度量衡檢定所印

大 (長徑三寸五分 橫五寸五分)

小 (長徑一寸二分 橫一寸五分)

一 消印



打込ミ印 烙キ印 押シ印

大 (長徑二分六厘 短徑一分三厘)

中 (長徑二分三厘 短徑一分)

小 (長徑一分三厘 短徑四厘)

打込ミ印 大 四分平方 小 六厘平方

烙キ印 大 四分平方 小 二分平方

押シ印 大 四分平方 小 二分平方

年月日

宿所 何 某

現行日本法令大全

第五類 第三章 度量衡

八百四十二

一年號印 打込印、烙印共 廿六 (明治二十六年)

應府縣名	印	應府縣名	印
北海道廳	北	大阪府	サカ
東京府	東	神奈川縣	神
京都府	京	兵庫縣	兵
長崎縣	ナガサキ	岐阜縣	岐
新潟縣	ニガタ	長野縣	ナガノ
埼玉縣	サイタマ	福島縣	フクマ
群馬縣	グンマ	宮城縣	ミヤギ
千葉縣	チバ	巖手縣	イワテ
茨城縣	チバ	青森縣	アオモリ
栃木縣	トチギ	秋田縣	アキタ
奈良縣	ナラ	山形縣	ヤマガタ
三重縣	ミエ	石川縣	イシカワ
愛知縣	アイチ	富山縣	トヨカミ
靜岡縣	シズカワ	福井縣	フクイ
山梨縣	ヤマナシ	島根縣	シマネ
		島	シマ

滋賀縣	滋	鳥取縣	鳥
岡山縣	岡	福岡縣	フク
廣島縣	廣	大分縣	オホ
山口縣	ヤマ	佐賀縣	サカ
和歌山縣	ワカ	熊本縣	クマ
德島縣	トク	宮崎縣	ミヤ
香川縣	カ	鹿兒島縣	カガ
愛媛縣	エヒメ	沖繩縣	チ
高知縣	タカ		

第八條 汚染、磨滅、毀損等ニ依リ證印證書ノ識別シ難キモノ又ハ證書ノ紛失シタルモノハ更ニ其ノ器ノ檢定ヲ受クヘシ

第二章 構造

第九條 度量器ハ表面ニ其ノ全長ヲ表記スヘシ但シ細帶狀ノ度量器ニシテ函ニ連結シタルモノハ其ノ函ニ表記スルモ妨ケナシ
第十條 度量器ハ外側ニ其ノ全長ヲ表記シ斗概ハ切口ニ其ノ種類ノ大中小ヲ表記スヘシ
第十一條 鐵葉ヲ以テ五合及「リットル」以上ノ度量器ヲ製作スルトキハ之ヲ二重ニスヘシ
第十二條 鐵、銅若ハ真鍮ヲ以テ製作シタル度量器ハ其ノ内面ニ錫又ハ白銅ヲ鍍著スヘシ
第十三條 木製ノ度量器ハ鐵板ヲ以テ口縁ヲ被フヘシ

現行日本法令大全

第五類 第三章 度量衡

八百四十三

一升及「リットル」以上ノ木製ノ方形度量器ハ其ノ側及底ノ四隅ノ外面ニ鐵帶ヲ曲ケテ附加スヘシ其ノ圓形度量器ハ一箇又ハ交叉シタル二箇ノ鐵帶ヲ曲ケテ其ノ側及底ノ外面ニ沿フテ附加スヘシ

酒、酢、醬油、食鹽等ノ如キ鐵ヲ腐蝕スヘキ物料ヲ量ルニ用ルル度量器ニハ其ノ鐵ニ錫又ハ白銅ヲ鍍著シ若ハ腐蝕セザル他ノ堅牢ナル物質ヲ以テ前二項ノ鐵ニ代フヘシ
鐵板又ハ鐵帶ヲ度量器ニ附著スルニ螺旋釘ヲ以テシタルトキハ其ノ捻戻シヲナシ得サル丈ク釘頭ヲ削去スヘシ
斗概ハ鐵葉ヲ以テ其ノ側面ヲ包ムヘシ但シ本條第三項ノ度量器ニ附屬スル斗概ハ此ノ限ニアラス

第十四條 度量器ニハ注口、趾及把ヲ附スルコトヲ得注口ヲ附スルトキハ其ノ容量ノ割合ニ應ジ度量器ノ深サヲ減スヘシ
注口ノ口面ハ度量器ノ上面ト其ノ高サヲ同一ニスヘシ但シ玻璃製ノモノハ此ノ限ニアラス

第十五條 圓形度量器ノ口徑ハ其ノ深サト同一ニスヘシ但シ金屬製一升及「リットル」以下ノモノハ其ノ深サノ二分ノ一トスヘシ
第十六條 衡器ノ重點及支點ニハ鋼鐵若ハ堅石ヲ用非緒紐ニハ金屬、革又ハ強靱ナル絹絲、麻絲等ヲ用非ルヘシ
第十七條 錘及增錘ノ物質ハ分銅ノ物質ト同一ノモノニ限ル但シ其ノ重量五十匁又ハ二百「グラム」以上ノモノニアラサレハ鐵ヲ以テ製作スルコトヲ得ス

第十八條 分銅、錘及增錘ノ重サヲ齊整スル爲メ鉛ヲ用非ルトキハ分銅及增錘ハ上面ノ一部、錘ハ側面又ハ底面ノ一部ヲ穿

キ此ニ鉛ヲ填充シ金屬片ヲ以テ之ヲ塞クヘシ但シ分銅ノ把手ヲ螺旋ニナシテ其ノ穿孔ヲ塞クトキハ釘ヲ以テ之ニ緊著スヘシ

前項ノ穿孔ヲ塞クニハ鐵及螺旋釘ヲ用非ルコトヲ得ス
第十九條 鐵製ノ分銅、錘及增錘ノ鉛ヲ填充セザルモノハ分銅及增錘ハ上面ノ一部、錘ハ側面ノ一部ニ眞鍮片ヲ箔入シ檢印ヲ附スルノ便ニ供スヘシ

第二十條 分銅、錘及增錘ニ填充スル鉛ノ量ハ其ノ全量ノ二十分ノ一ニ超ユルコトヲ得ス
第二十一條 天秤、臺秤、桿秤ハ其ノ最大重ヲ掛ケタル量ヲ秤量トシ左ノ定限以下ノ量ヲ感スルコトヲ要ス

天秤 秤量ノ千分ノ一
臺秤 秤量ノ二分ノ一
桿秤 秤量ノ百分ノ一

第二十二條 臺秤ハ秤量十貫若ハ三十「キログラム」以上ノモノニ限ル
第二十三條 臺秤ノ目盛ハ秤量ノ二千分ノ一以內、桿秤ノ目盛ハ秤量ノ百分ノ一以內トス但シ其ノ感量ヨリ小ニスルコトヲ得ス

第二十四條 二段以上目盛シタル桿秤ノ感量ハ每段ニ就キ之ヲ定ムヘシ
第二十五條 桿秤ノ取緒ハ一緒若ハ二緒トス其ノ二緒ノモノハ之ヲ表裏ニ附著スヘシ

第二十六條 分銅ハ其ノ重量增錘ハ其ノ掛量ヲ其ノ上面ニ表記スヘシ但シ線狀ノ分銅ハ此ノ限ニアラス
第二十七條 錘、增錘、皿等ニシテ其ノ附屬スル秤桿ト分離シ

現行日本法令大全

得ルモノヲハ其ノ秤桿ト同一ノ符號ヲ表記スヘシ
 第二十八條 天秤ハ其ノ秤量及感量ヲ支柱、臺又ハ其ノ他ノ部ニ表記スヘシ
 第二十九條 臺秤ハ其ノ臺ノ縁ニ秤桿ハ其ノ桿ノ目盛ノ各段ニ量ヲ表記スヘシ
 第三十條 度量衡器ニハ製作者若ハ輸入シテ販賣スル者ノ記號及製作若ハ輸入ノ年號、番號ヲ併列シテ表記スヘシ
 修覆シタル度量衡器ニシテ前項ノ記號、年號又ハ番號ヲ識別シ難キモノニハ修覆者ノ記號及修覆ノ年號、番號ヲ表記スヘシ
 表記ノ方法ハ左ノ例ニ依ルヘシ
 明治二十六年製(輸入若ハ修覆)ノ第千八十號ハ
 「記號26 一〇八〇又ハ一〇八〇」
 「記號26 一〇八〇」
 「記號26 一〇八〇」
 第三十一條 數箇ノ分銅ヲ一組トナストキハ箱ニ納メ各箇ニ同一ノ記號、年號及番號ヲ附スヘシ之ヲ各箇ニ附シ難キトキハ箱ニ表記スルコトヲ得
 第三十二條 度量衡器ノ目盛ハ度及衡ノ名稱ノ一倍、二倍、五倍若ハ此ノ倍數ノ十倍、百倍タルヘシ但シ斤ノ目盛ハ其ノ二分ノ一、四分ノ一又ハ一倍、二倍、五倍タルヘシ
 第三章 免許
 第三十三條 度量衡ノ製作、修覆若ハ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ願書ニ明治二十四年勅令第百七十七號第六條ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ輸入販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ願書ニ記ス

ハシ
 第三十四條 農商務大臣ハ免許ヲ與ヘントスルトキハ其ノ通知書ニ免許料納入用紙ヲ添ヘ出願者ニ送付スヘシ
 出願者ハ前項ノ免許料納入用紙ニ明治二十四年勅令第百七十七號第八條ノ免許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ其ノ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ農商務省ニ納ムヘシ
 第三十五條 免許料ノ納入ヲシタルトキハ免許狀ヲ下付ス
 免許狀ヲ受領シタルトキハ免許狀ノ日附ヨリ三十日以内ニ明治二十四年勅令第百七十七號第十一條ノ身元保證金ヲ納ムヘシ
 免許ヲ取消サレ若ハ營業ヲ廢止シタルトキハ免許狀ヲ返納スヘシ又之ヲ紛失シタルトキハ更ニ其ノ下付ヲ請フヘシ
 第三十六條 第三十四條ノ免許料及第三十五條ノ身元保證金ヲ規定ノ期限内ニ差出サ、ルトキハ其ノ出願又ハ免許ヲ無効トス
 第三十七條 身元保證金ハ通貨若ハ公債證書ヲ國立銀行ニ預ク入レ其ノ預リ證券ヲ地方廳ニ納メ置クヘシ但シ公債證書ハ時價ニ依リ其ノ二割ヲ増シテ納ムヘシ
 地方長官前項ノ預リ證券ヲ受取タルトキハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ
 第三十八條 身元保證金ノ金額ニ減少ヲ生シタルトキハ地方長官其ノ旨ヲ納入者ニ通知シ完納セシムヘシ
 前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ完納セザルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申シ處分ヲ請フヘシ
 第三十九條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル

現行日本法令大全

者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出ヘシ
 第四十條 度量衡器ノ製作若ハ修覆ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ備フヘシ但シ其ノ賣渡ヲ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得
 製作ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ原器ヲ製作スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ
 製作若ハ修覆ニ用ル原器ハ毎年一回以上地方長官ノ檢定ヲ受クヘシ
 第四十一條 度量衡器ノ製作、修覆若ハ輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ表記ニ用ル記號ヲ定メ豫メ地方長官ニ届出ヘシ
 第四十二條 從來度量衡製作若ハ賣捌ノ免許ヲ受ケタル者其ノ營業ヲ繼續セントスルトキハ明治二十五年九月三十日マテニ明治二十四年勅令第百七十七號第六條ニ定ムル設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ届出テ繼續免許狀ヲ受クヘシ
 繼續營業者ハ第三十七條ノ手續ニ依リ繼續免許狀下付ノ日ヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ納ムヘシ
 前二項ノ期限内ニ届出及身元保證金ノ納入ヲナサ、ル者ハ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得ス
 第四十三條 前條届出ノ設計不適當ナルトキハ農商務大臣ハ期限ヲ定メテ其ノ變更ヲ命スヘシ
 罰則
 第四十四條 第八條ニ違背シタル者ハ拾圓以上五拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第三十五條第三項第三十九條若ハ第四十一條ニ違背シタル者ハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十六條 第四十條ニ違背シタル者ハ五圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 ○度量衡檢定規程 明治廿五年七月 農商務省訓令第二十二號
 度量衡檢定規程左ノ通之ヲ定ム
 第一章 檢定スヘキ度量衡器檢定ノ方法
 第一條 檢定スヘキ度量衡器ハ明治二十四年法律第三號度量衡法、勅令第百七十七號度量衡器ノ制限、其ノ製作、修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則及農商務省令第十一號度量衡法施行規則ノ規定ニ遵由シタルモノニ限ル
 第二條 度量衡器ノ檢定ハ左ニ掲ル三回ノ檢査ヲ經ルヲ要ス
 第一 度量衡器檢定請求書ノ當否ノ檢査
 第二 度量衡器ノ種類、形狀、物質及構造ノ檢査
 第三 度量衡器ノ目盛、量器ノ寸法及容量、衡器ノ感量、目盛及重量ノ檢査
 第三條 第一回檢査ニ於テハ度量衡法第三條第四條第五條及度量衡法施行規則第二條第三條ノ規定ニ照核シテ一ノ疵觸ナキモノヲ合格トシ其ノ他ハ不合格トス
 第四條 第二回檢査ニ於テハ度量衡器ノ制限、其ノ製作、修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則第一條及度量衡法施行規則第二章及第二十四條ヲ除クノ規定ニ照核シテ一ノ疵觸ナキモノヲ合格トシ其ノ他ハ不合格トス

第五條 第三回検査ニ於テハ度量衡器ノ制限、其ノ製作、修復及販賣ノ免許並其ノ検査ニ關スル規則第三條第四條及本規則第二章ノ規程ニ照テシテ一ノ疵觸ナキモノヲ合格トシ其ノ他ハ不合格トス

第二章 検査ノ方法

第六條 卷尺及鏈尺ヲ検査スルニハ検査用卷尺ヲ用非其ノ他ノ度量器ヲ検査スルニハ検査用直尺若ハ鯨尺ヲ用ウヘシ

第七條 検査用直尺又ハ鯨尺ヲ用非ルトキハ其ノ目盛ヲ施シタル邊ヲ検査スル者ノ方ニ向テ箱ノ儘度量器検査定置(第一圖)ノ後段(甲)乙ニ載セ置キ線ニ附シタル抑へ具(丙)丁ニ載テ以テ其ノ移動ヲ防クヘシ

第八條 度量器ノ目盛ヲ検査スルニハ其ノ検査定置ニ各最小目盛ヲ之ニ相當スル検査用度量器ノ目盛ニ對照スヘシ

前項ノ場合ニ於テ受檢器ノ目盛線及文字ノ記入方ニ錯誤ナク且ツ兩度量器ノ各自盛線互ニ並行シテ一致スルカ又ハ一致セサルモ其ノ差、公差以內ニ在ルモノヲ合格トスヘシ

一器ニ二段以上ノ目盛リタルモノハ其ノ一段毎ニ目盛ヲ検査スルヲ要ス

第九條 卷尺ヲ除キ他ノ度量器ノ目盛ヲ検査スルニハ顯微鏡ヲ用非ルヲ要ス但シ其ノ構造ニ因リ顯微鏡ヲ用非難キモノハ此ノ限ニ非ス

第十條 度量器ノ構造ニ因リ其ノ目盛ヲ検査用度量器ノ目盛ト接合セシメ難キモノハ目盛シ器(第二圖)ヲ用非テ検査スヘシ

第十一條 直尺又ハ鯨尺ノ全長及目盛ヲ検査スルニハ受檢度量器ヲ検査定置ノ前段(甲)乙ニ載セ其ノ構造ニ因リ載セ難キモノハ前段ノ上部ヲ撤去シテ其ノ下部(丙)ニ載セ其

ノ目盛ヲ検査用度量器ノ目盛ト同シ高サニ於テ對照セシメ本條第二項若ハ第三項ノ手續ヲ行フヘシ但シ玉尺(球圓端等ノ經テ度ル直尺)ハ其ノ全長及目盛ヲ検査シタル後更ニ第十二條ノ手續ニ依リ其ノ内直角ヲ検査スルヲ要ス

受檢度量器ノ全長検査用度量器ニ均シキ種類ノモノハ兩器ノ左方目盛ノ起線ヲ正シク合セ又受檢度量器ノ全長検査用度量器ヨリ短キ種類ノモノハ受檢度量器ノ左方目盛ノ起線ヲ検査用度量器ノ右方ヨリ數ヘタル受檢度量器ノ全長相當ノ目盛線ニ正シク合セ受檢度量器ノ目盛ヲ左方ヨリ右方ニ及ホシ逐次之ニ相當スル検査用度量器ノ目盛ニ對照シ又其ノ全長ヲ右端ノ目盛線ニ對照シテ其ノ差ヲ視定シ之ヲ目盛及全長ノ公差ニ照テスヘシ

受檢度量器ノ全長検査用度量器ヨリ長キ種類ノモノハ検査用度量器ニ相當スル長サ毎ニ及其ノ殘餘ノ部分ニ就キ前項ノ手續ヲ行ヒ毎次視定シタル差ヲ差引キシタルモノヲ全長ノ差トシ之ヲ公差ニ照テスヘシ

第十二條 曲リ尺ハ前條第一項及第二項ノ手續ニ依リ兩枝ノ全長及目盛ヲ検査シ其ノ合格シタルモノハ更ニ其ノ内外二角ヲ検査スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ抑へ具ヲ用非ルヲ要セス

角ヲ検査スルニハ平板面又ハ厚紙面ニ兩脚規ヲ以テ直角ヲ畫キ之ニ受檢度量器ノ内外二角ヲ照テシテ正シク合ヒタルモノヲ合格トスヘシ

第十三條 疊尺ハ之ヲ延長シテ第十一條ノ手續ニ依リ其ノ全長及目盛ヲ検査スヘシ但シ其ノ目盛ノ同一平面ニ在ラサルモノハ之ヲ構成スル各直尺毎ニ其ノ目盛ヲ検査シ次項ノ手續

續ニ依リ其ノ全長ヲ検査スヘシ

首位ノ直尺ハ其ノ全長ヲ検査シ次位以下ノ各直尺ハ其ノ前位ニ在ル直尺ノ最終目盛線ト接續スヘキ目盛線ヨリ他ノ一端ノ最終目盛線マテ寸法ヲ檢シ其ノ各接續部ニ於テ一致スヘキ兩直尺ノ目盛線一致セサルトキハ其ノ差ヲ視定シ之ト各直尺ニ就テ視定シタル差ヲ差引キシタルモノヲ疊尺全長ノ差トシ之ヲ公差ニ照テスヘシ

第十四條 卷尺又ハ鏈尺ノ全長及目盛ヲ検査スルニハ検査用度量器ノ目盛ヲ施シタル邊ヲ検査スル者ノ方ニ向テ拘束抑置(第三圖)ヲ用非テ之ヲ其ノ間ニ渡シ張リ下部ニ木片ヲ布キ

水平ヲ保テシメ鎖子ヲ其ノ環ニ載セ更ニ他ノ抑束抑置ヲ前ノ拘束抑置ニ並ヘテ用非テ受檢度量器ヲ渡シ張リ検査用度量器ト相接シテ並行セシメ鎖子ヲ其ノ環ニ載セ俱ニ第十一條第二項第三項ノ手續ニ依ルヘシ

第十五條 度量器ハ量器用尺(第四圖)ヲ用非テ其ノ寸法ヲ検査シ木材製、鐵葉製及二升又ハ五リットル以上ノ金屬製ノモノハ善ク乾キテ粒ノ揃ヒタル精粟ヲ其ノ他ノ量器ハ善ク漉シテ清潔ナル冷水ヲ用非テ其ノ容量ヲ検査スヘシ

第十六條 量器ノ寸法ヲ検査スルニハ其ノ形狀ニ應ジ左ノ手續ニ依ルヘシ

- 一 方形量器ハ第三量器用尺ノ「甲」ヲ逐次四隅ニ當テ各方ノ寸法ヲ視定シ其ノ差ヲ公差ニ照テスヘシ
- 二 圓形量器ハ第一若ハ第二量器用尺ノ「甲」又ハ「乙」ヲ逐次内面ニ簡所以上ニ當テ徑ノ寸法ヲ視定シ其ノ差ヲ公差ニ照テスヘシ
- 三 斗概ハ之ヲ平板上ニ轉轉シテ其ノ面ニ密著セサルモノ

ハ不合格トシ其ノ密著スルモノハ更ニ側面及切口ヲ第三量器用尺ノ内直角ノ二邊ニ當テ「丙」及「乙」ノ目盛ニ依テ其ノ徑ト長サトヲ視定シ其ノ差ヲ公差ニ照テスヘシ

第十七條 量器検査定置ハ粟粒ヲ以テ量器ノ容量ヲ検査セントスルトキ土間ニ据ヘテ用非ルモノトス

検査用斗概ノ注口ハ受檢量器五升又ハ十リットル以上ノモノニハ其ノ大テ五合又ハ一リットル以上ノモノニハ其ノ中テ二合又ハ五デシリットル以下ノモノニハ其ノ小ヲ用非ルヘシ

第十八條 粟粒ヲ以テ量器ノ容量ヲ検査スルニハ逐次左ノ四段ノ手續ヲ行フヘシ

- 一 受檢量器ニ相當スル検査用度量器及容量比較器(第五圖ノ甲)ヲ量器検査定置(第五圖ノ乙)上適宜ノ位置ニ据ヘ其ノ上位ニ漏斗ヲ裝置シテ粟ヲ注クノ用ニ供スヘシ漏斗ノ高サハ斗概ヲ使用スルニ差支ナキテ度トシ且ツ検査用度量器ト受檢量器ノ深サ相同シキ場合ニ於テハ漏斗ノ下口ヨリ兩量器ノ内底面マテ高サヲ同一ニシ其ノ同シカラサル場合ニ於テハ其ノ深サノ差ノ二分ノ一ヲ度トシテ検査用度量器ニ對シ其ノ高サヲ増サテ要ス
- 一斗及五升「二十」リットル及「十」リットルノ容量比較器ハ函ニ裝置シタル儘使用スヘシ
- 二 粟粒ヲ量器上ノ漏斗ニ盛リ其ノ下口ヲ開テ之ヲ量器ニ注入セシメ之ニ相當スル検査用斗概(第六圖)ノ稜「甲」乙ヲ検査スル者ノ方ニ向テ靜ニ量器ノ一隅ニ當テ「丙」面ヲ下ニ向テ少シク斜ニ極メテ輕快ニ之ヲ引キ其ノ上面ニ餘リタル粟粒ヲ拂ヒ去ルヘシ此ノ場合ニ於テ量器ノ

現行日本法令大全

線ニ尙粟粒ノ殘留スルカ又ハ斗概ト量器ノ衝突若ハ其ノ他ノ原因ノ爲メニ量器ヲ震動シタルトキハ更ニ其ノ施行ヲ新ニスヘシ但シ使用ニ要スル粟粒ノ量ハ方形ノ受檢量器ニ在テハ五割増圓形ノモノニハ三割増トスヘシ

三 量器ノ粟粒ヲ容量比較器上ノ漏斗ニ盛リ移シ其ノ下口ヲ開テ之ヲ容量比較器ニ注入セシメ其ノ粟ノ上面ニ當ル目盛ヲ視定スヘシ但シ粟粒ヲ漏斗ニ移スニハ務メテ器物ノ接觸漏斗ノ震動及粟粒ノ飛散ヲ除キ又便宜粟注キヲ使用スヘシ

四 檢定用量器ヲ除キ之ニ代フルニ受檢量器ヲ以テシ更ニ前三段ノ手續ヲ施行シ其ノ前後ニ視定シタル容量比較器ノ目盛ニ依リ兩者ノ容量ノ差ヲ視定シ之ヲ其ノ公差ニ照核スヘシ

同量ノ器ヲ檢査スルトキト雖モ毎器ニ付本條ノ手續ヲ行フヘシ

第十九條 水ヲ以テ量器ノ容量ヲ檢査スルトキハ二合又ハ五「デシリットル」以上ノモノニハ檢定用大形天秤一合又ハ二「デシリットル」以下ノモノニハ中形天秤ヲ用非ルヘシ但シ天秤ノ用法ハ第二十三條第三項ニ依ルヘシ

量器ニ水ヲ盛ルニハ先ツ其ノ内面ヲ濕シ次ニ水ヲ注入シ充分水ヲ含ミタル小刷毛ヲ以テ其ノ内面ニ附著スル氣泡ヲ掻キ取り次ニ蓋ノ一部ヲ量器ニ載セ緊壓シ徐ニ之ヲ進メテ密閉シ若シ蓋ノ下ニ氣泡ヲ殘ストキハ更ニ少量ノ水ヲ注入シ再ヒ其ノ蓋ヲ密閉シ其ノ外面周圍ノ水濕ヲ拭ヒ去ルヲ要ス但シ玻璃製量器ニ水ヲ盛ルニハ之ヲ水平而上ニ置キ水ヲ注

入シ全量ノ目盛線ニ達セシメ内面ヲ善ク拭フヘシ水面ヲ目盛線ニ達セシムルニハ視線ヲ下方ノ水際ニ注キ水面ト一致セシメ水ヲ少シツ、加減シテ視定スヘシ

第二十條 水ヲ以テ量器ノ容量ヲ檢査スルニハ逐次左ノ五段ノ手續ヲ行フヘシ

一 受檢量器及ヒ之ニ相當スル檢定用量器ヲ其ノ蓋ヲ除キ天秤ニ載セ其ノ輕重ヲ檢スヘシ

二 檢定用量器受檢量器ヨリ重キトキハ之ヲ右皿ニ載セ輕キトキハ其ノ差ヨリ少シク重キ鉛ヲ添ヘ之ヲ載セ又他ノ鉛ヲ承ク皿ニ盛リ之ヲ左皿ニ載セ左右平等ナラシムヘシ

三 檢定用量器ニ水ヲ盛リ之ニ公差相當ノ分銅ヲ加ヘ又他ノ鉛ヲ他ノ受檢皿ニ盛リ之ヲ左皿ニ載セ左右平等ナラシムヘシ

四 右皿ノ檢定用量器、分銅、鉛及左皿ニ後ニ載セタル鉛ヲ其ノ受檢皿ト共ニ撤去シ更ニ右皿ニ受檢量器ヲ載セ之ニ鉛ヲ加ヘ左右平等ナラシムヘシ

五 受檢量器ニ水ヲ盛リ前ニ左皿ヨリ撤去シタル鉛及其ノ受檢皿ヲ再ヒ左皿ニ載スヘシ此ノ場合ニ於テ左右平等ナルカ又ハ右皿偏輕ヲ表スルモノニ其ノ公差ニ倍ニ相當スル分銅ヲ加ヘ平等若ハ偏重ヲ表スルトキハ之ヲ合格トスヘシ

第二十一條 同量ノ受檢量器二箇以上ヲ引續キ檢査スル場合ニ於テハ其ノ輕重ヲ秤リ最モ重キモノニ就テ前條各段ノ手續ヲ行ヒ其ノ他ハ同條第四段及第五段ノ手續ノミヲ行フヘシ

現行日本法令大全

第二十二條 玻璃製量器ヲ檢査スルニハ之ニ相當スル檢定用量器ヲ其ノ蓋ト共ニ天秤ノ右皿ニ載セ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ第二十三條第三段以下ノ手續ニ依ルヘシ

第二十三條 衡器ハ其ノ重量、目盛及感量ヲ檢査ス

受檢分銅ノ種類一貫又ハ二「キログラム」以上ノモノニハ檢定用大形天秤ヲ、五十匁又ハ百「グラム」以上ノモノニハ中形天秤ヲ、二十匁又ハ五十「グラム」以下ノモノニハ小形天秤ヲ用フヘシ

檢定用大形天秤ハ第一秤架ニ懸ケ中形及小形天秤ハ机上ニ載セ其ノ臺ヲ水平ナラシメ俱ニ土間ニ据ヘテ用フヘシ

第二十四條 分銅ヲ檢査スルニハ其ノ公差ニ相當スル分銅ヲ檢定用分銅ニ添ヘ天秤ノ右皿ニ又鉛ヲ左皿ニ載セ之ヲ平等ナラシメ次ニ右皿ノ分銅ヲ悉皆撤去シ之ニ受檢分銅ヲ載スヘシ此ノ場合ニ於テ左右平等ナルカ又ハ右皿偏輕ヲ表スルモノニ其ノ公差相當ノ分銅ヲ加ヘ平等若ハ偏重ヲ表スルトキハ之ヲ合格トスヘシ

數箇ノ分銅ヲ合セテ一組トナシタルモノハ其ノ中ノ一箇不

合格ナルトキハ其ノ組全體ヲ不合格トスヘシ

第二十五條 天秤ヲ檢査スルニハ逐次左ノ三段ノ手續ヲ行フヘシ

一 天秤ノ臺ナキモノハ秤架ニ懸ケヘシ其ノ臺アルモノハ土間ニ据ヘタル机又ハ秤臺ニ載セ其ノ机又ハ秤臺ニ載セ難キモノハ直ニ土間ニ据ヘテ共ニ水平ナラシムヘシ

二 水平ヲ得タルモノニ微振ヲ與ヘ其ノ指針正當ノ標點ヲ指スカ又ハ指針、ハモ調子玉ヲ以テ之ヲ正スコトヲ得ルトキハ之ヲ合格トスヘシ又鈎、皿等ノ桿ト分離シ得ル

モノニシテ之ヲ懸クル桿ノ左右ニ符合ナキモノハ其ノ分離シ得ヘキ部分ヲ逐次交換シ其ノ都度平等ヲ得ルモノヲ合格トスヘシ

三 秤量ニ相當スル檢定用分銅ヲ右皿ニ又鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ其ノ分銅及鉛ヲ左右交換シテ其ノ平等ヲ得タルモノ及平等ヲ得サルモノ其ノ傾斜度表ノ半度目ヲ超ヘサルモノニハ更ニ其感量相當ノ分銅ヲ一方ノ皿ニ載セ度表ノ設ケナキモノニ在テハ其ノ感動ヲ目撃シ得ルモノ又度表ノ設ケアルモノニ在テハ一度目以上ノ感動ヲ起スモノヲ合格トスヘシ

第二十六條 臺秤及臺アル桿秤ヲ檢査スルニハ臺秤ハ臺脚ヲ平坦ナル位地ニ密著セシメテ据ヘ桿秤ハ水平ナル秤臺ニ載セ逐次左ノ三段ノ手續ヲ行フヘシ

一 錘ヲ直懸ニ懸ケ桿秤桿息メノ中間ニ靜メ之ニ微振ヲ與ヘ其ノ振動上下一様ナルトキ又ハ一様ナラサルカ若ハ桿息メニ密著スルモ調子玉ヲ以テ之ヲ正スコトヲ得ルモノヲ合格トスヘシ

二 錘ヲ適宜五箇所以上ノ目盛ニ懸ケ尙其ノ中二三箇所ニ於テハ隣接ノ目盛ニ懸ケ其ノ各目盛ニ相當スル分銅ヲ載セ又ハ皿ニ載セ終リニ錘ヲ盛リ止メニ懸ケ之ニ相當スル分銅ヲ逐次載セ又ハ皿ノ四隅ニ移シ載セ其ノ都度平等ヲ得ルカ若ハ平等ヲ得サルモ公差相當ノ分銅ヲ増減シテ平等ヲ得ルモノヲ合格トスヘシ但シ皿ヲ垂下シタル桿秤ニ在テハ盛止メノ檢査ニ於テ分銅ヲ皿ノ中央ニ載セ唯一回ノ平等ヲ得ルヲ以テ足リトス

三 増錘ナキ桿秤ハ錘ヲ盛リ止メニ懸ケ平等ヲ得タルトキ

最小目盛相當ノ分銅ヲ皿ニ加ヘ感動ヲ起スモノヲ合格トスヘシ又増錘アル桿秤若ハ臺秤ハ其ノ増錘ヲ小量ノモノヨリ漸次大量ノモノニ及ボシ各別ニ桿端ニ懸ク又之ヲ悉皆同時ニ桿端ニ且ツ錘ヲ盛リ止メニ懸ク毎次之ニ相當スル分銅ヲ臺又ハ皿ニ載セ平等セサルモノハ直ニ不合格トシ平等ヲ得タルモノハ尙其ノ量小目盛相當ノ分銅ヲ臺又ハ皿ニ加ヘ其ノ感動ヲ起スモノヲ合格トスヘシ但シ秤量百五十貫又ハ百五十「キログラム」ヲ超ルモノハ増錘ヲ悉皆同時ニ懸クルノ手數ヲ省キ單ニ其ノ量ニ相當スル重量ヲ懸クテ平等ヲ得タルトキ其ノ感動ヲ檢スヘシ

第二十七條 臺秤ニ秤秤ヲ檢査スルニハ其ノ器ノ大小ニ應ジ第二種架若ハ第三種架ニ裝置シ錘ヲ逐次直點及盛リ出シニ懸ク桿ノ水平ヲ得サルモノ若ハ腕ミノ一致セサルモノハ直ニ不合格トシ其ノ他ハ各段ノ目盛ニ就キ更ニ前條第二段以下ヲ適用スヘシ

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ檢査ヲ行フニ當リ目盛線及文字ノ記入方ニ錯誤アルモノハ不合格トスヘシ

第三章 證印、證書、消印、年號印及應府縣印ノ用法

第二十九條 證印、年號印及應府縣印ハ受檢器ノ同一局部ニ一行又ハ二行ニ並ヘテ之ヲ同時ニ附スヘシ其ノ例ハ左ノ如シ

例 明治二十六年東京府檢定ハ「二十六東正」又ハ

第三十條 證印、年號印及應府縣印ヲ附スルニハ受檢器ノ種類、形狀、物質並之ヲ附スヘキ局部ノ廣狹ニ應ジテ其ノ大小ヲ擇ヒ消印ノ大小ハ已ニ附シアル證印ニ準スヘシ

具、錘及増錘ハ臺秤ノモノニ同シ

五 皿アル衡器ニシテ桿ニ附印シ難キモノハ其ノ皿

第三十三條 證書ハ適宜其ノ大小ヲ擇ヒ左ノ三項ノ一ニ該當スル度量衡器ニ附スルモノトス

一 小形又ハ硬質ノ爲メ附印シ難キモノ

二 附印スルトキハ毀損若ハ差狂ヲ生スルノ虞アルモノ

三 附印スヘキ局部ヲ有セサルモノ

第四章 檢定用ニ供スル度量衡器ノ檢定方法

第三十四條 檢定用ニ供スル度量衡器ノ檢定ハ之ヲ地方原器ニ照核シテ其ノ固有ノ差ヲ檢査スルモノトシ其ノ手續ハ本章及第二章ノ規定ニ據ルヘシ

此ノ檢査ニ於テ固有ノ差ヲ超ユルモノ及分銅ノ檢査ニ於テ平等ヲ得サルモノハ檢定ニ使用スルヲ得ス

第三十五條 度量衡ハ左ノ手續ニ據ル

一 直尺ハ度量檢定器ニ地方原器ト對接シテ之ヲ載セ第一直尺ハ每一尺ノ長サヲ第二直尺ハ全長ヲ各其ノ左方ヨリ右方ニ及ボシテ之ヲ檢シ地方原器ノ右端ニ盛リタル目盛ニ照核シテ其ノ差ヲ視定スヘシ

二 釐尺ハ度量檢定器ニ第一直尺ト對接シテ之ヲ載セ釐尺ノ左方目盛ノ起線ヲ第一直尺ノ右方ヨリ數ヘタル釐尺ニ尺ニ相當スル目盛ニ正シク合セ第一直尺ノ右方ニ盛リタル目盛ニ照核シテ其ノ差ヲ視定シ更ニ地方原器ニ對スル差ヲ算定スヘシ地方原器ニ對スル差ヲ算定スルニハ第一直尺ノ右方ニ尺ヲ地方原器ニ比シタル差ニ其ノ左方一尺ノ差ノ二分一ヲ加ヘタルモノト第一直尺ニ對スル釐尺ノ差トヲ差引スヘシ

第三十一條 打込ミ印ハ金屬製ノ度量衡器又ハ木製ノ度量衡器ニ用ウヘシ

熔キ印ハ象牙若ハ骨製ノ度量衡器、衡器、竹製ノ度量衡器及木製ノ度量衡器ニ用ウヘシ

第三十二條 度量衡器ノ證印、消印、年號印及應府縣印ヲ附スヘキ局部ハ左ノ如シ

一 直尺、釐尺、曲リ尺及疊尺ハ全長又ハ記號ヲ表記セル部

二 卷尺ハ其ノ一端但シ函ニ連結シアルモノハ其ノ函

三 錘尺ハ其ノ一端ノ縁

二 量器

一 柄ハ全量又ハ記號ヲ表記セル部及把手若ハ注口ヲ附シアルモノハ其ノ把手若ハ注口ノ一部但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ把手及注口ニ附印スルヲ要セス

二 斗概ハ其ノ一端

三 衡器

一 分銅ハ其ノ上面

二 天秤ハ桿ノ中央部

三 臺秤ハ桿ノ末端

錘ハ其ノ側面又ハ底面、増錘ハ其ノ上面但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ附印スルヲ要セス

四 金屬製桿秤ハ直點ノ傍若ハ桿ノ末端又木製ノモノハ其ノ木材ノ部及端ニ金具ヲ附シアルモノハ其ノ金具但シ第二回以後ノ檢定ニ於テハ木材ノ部若ハ端ノ金

三 卷尺ハ度量檢定器ニ直尺ト對接シテ之ヲ載セ卷尺ノ目盛ノ起線ヲ直尺ノ左方目盛ノ起線ニ正シク合セ其ノ直尺ニ對スル差ヲ視定シ更ニ同様ノ手續ニ依リ直尺ニ相當スル卷尺ノ長サト直尺ノ差ヲ視定シ其ノ差ヲ差引シテ卷尺全長ノ差ヲ求メ更ニ地方原器ニ對スル差ヲ算定スヘシ

第三十六條 量器ハ左ノ手續ニ據ル

一 量器用尺ハ釐尺ヲ檢査スルノ手續ニ依リ次ニ掲クル寸法ヲ直尺ニ比シ其ノ差ト直尺ノ地方原器ニ對スル差トヲ差引シテ之ヲ其ノ固有ノ差ニ照核スヘシ

第一及第二量器用尺 「甲」及「乙」ノ外側間ノ距離 一尺五寸

第三量器用尺 「甲」ノ外側ト「乙」ノ内側ノ間ノ距離 一尺五寸

二 容量ハ總テ水重ヲ以テ檢査シ次表ニ掲クル重量ニ比シ其ノ差ヲ各器固有ノ差ニ照核スヘシ

五合又ハ一「リットル」以上ノ量器ニハ大形天秤ヲ二合五勺又ハ五「デシリットル」以下ノモノニハ中形天秤ヲ用井ルヲ要ス

容	量	水	重	容	量	水	重
一	斗	四八	一〇、四二七	二十	リットル	二〇、〇〇〇	二、〇〇〇
二	升	二四	〇五、二二三	十	リットル	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇
三	升	九六	二、〇八五	五	リットル	五、〇〇〇	〇、五〇〇
四	升	四八	一、〇四三	二	リットル	二、〇〇〇	〇、二〇〇

全大令法本日行現

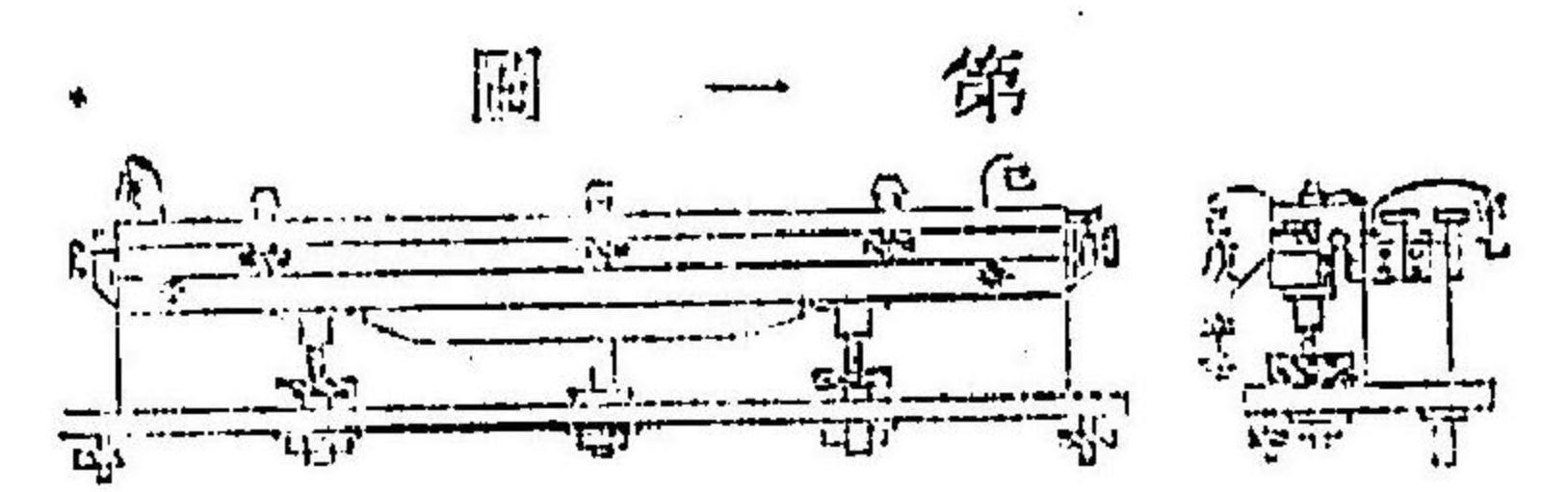
五合	二四〇、五二一	一「リットル」	一、〇〇〇
二合五勺	一二〇、二六一	五「デシリットル」	〇、五〇〇
二合	九六、二〇九	二「デシリットル」	〇、二〇〇
一合	四八、一〇四	一「デシリットル」	〇、一〇〇
五勺	二四、〇五二	五「センチリットル」	〇、〇五〇
二勺	九、六二一	二「センチリットル」	〇、〇二〇
一勺	四、八一〇	一「センチリットル」	〇、〇一〇

第三十七條 天秤ハ單ニ第二章ノ規定ニ據リ分銅ハ二貫以上又ハ五「キログラム」ノモノニハ大形天秤ヲ百匁又ハ二百「グラム」以上ノモノニハ中形天秤ヲ五十匁又ハ百「グラム」以下ノモノニハ小形天秤ヲ用非左ノ三項ノ手續ニ據ル

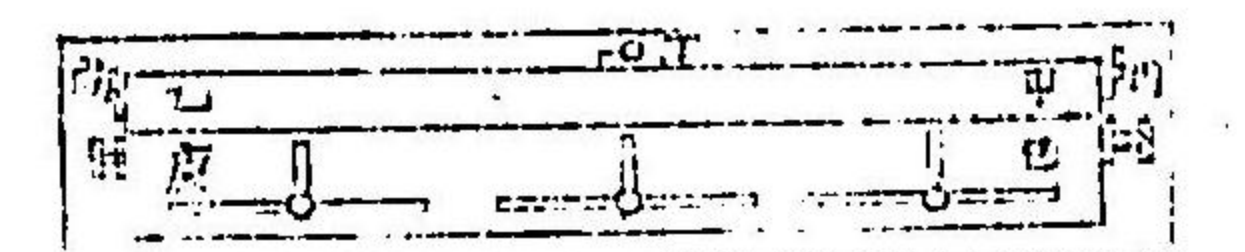
一 五毛又ハ五「ミリグラム」以下毎組ノ分銅
 一毛十分ノ一又ハ二「ミリグラム」ノ分銅一箇ヲ天秤ノ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ同量ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ
 一毛十分ノ一又ハ二「ミリグラム」ノ分銅二箇ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛十分ノ二又ハ二「ミリグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ
 一毛十分ノ二又ハ二「ミリグラム」ノ分銅二箇ト一毛十分ノ一又ハ一「ミリグラム」ノ分銅一箇トヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛十分ノ五又ハ五「ミリグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ

ハシ
 一 一毛十分ノ五ノ分銅一箇十分ノ二ノ分銅二箇及十分ノ一ノ分銅一箇ヲ合セテ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ一毛十分ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ
 二 二毛以上ノ分銅ハ前諸項ノ例ニ準スヘシ
 一 一厘又ハ二「センチグラム」以上毎組ノ分銅
 一 厘又ハ二「センチグラム」ノ分銅一箇ヲ天秤ノ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ他ノ鉛ヲ以テ左皿ノ鉛ニ載セ換ヘ平等ナラシメ之ニ撤去シタル鉛ヲ添載シテ二厘又ハ二「センチグラム」ノ各分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ
 二 二厘又ハ二「センチグラム」ノ分銅二箇及一厘又ハ一「センチグラム」ノ分銅一箇ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ五厘又ハ五「センチグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ
 三 五厘又ハ五「センチグラム」以下ノ分銅ヲ合セテ一分又ハ一「デシグラム」ノ重クニ相當セシメ之ヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ更ニ一分又ハ一「デシグラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ分銅ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ
 二 二分又ハ二「デシグラム」以上ノ分銅ノ檢査ハ一分又ハ一「デシグラム」ノ分銅ノ檢査ノ例ニ準スヘシ
 最後ニ檢シタル一貫又ハ一「キログラム」ノ分銅ノ固有ノ差相當ノ分銅ヲ地方原器ニ添ヘ之ト其ノ一貫又ハ一「キログラム」ノ分銅ノ平等ヲ檢スヘシ
 二 二貫又ハ二「キログラム」以上ノ分銅

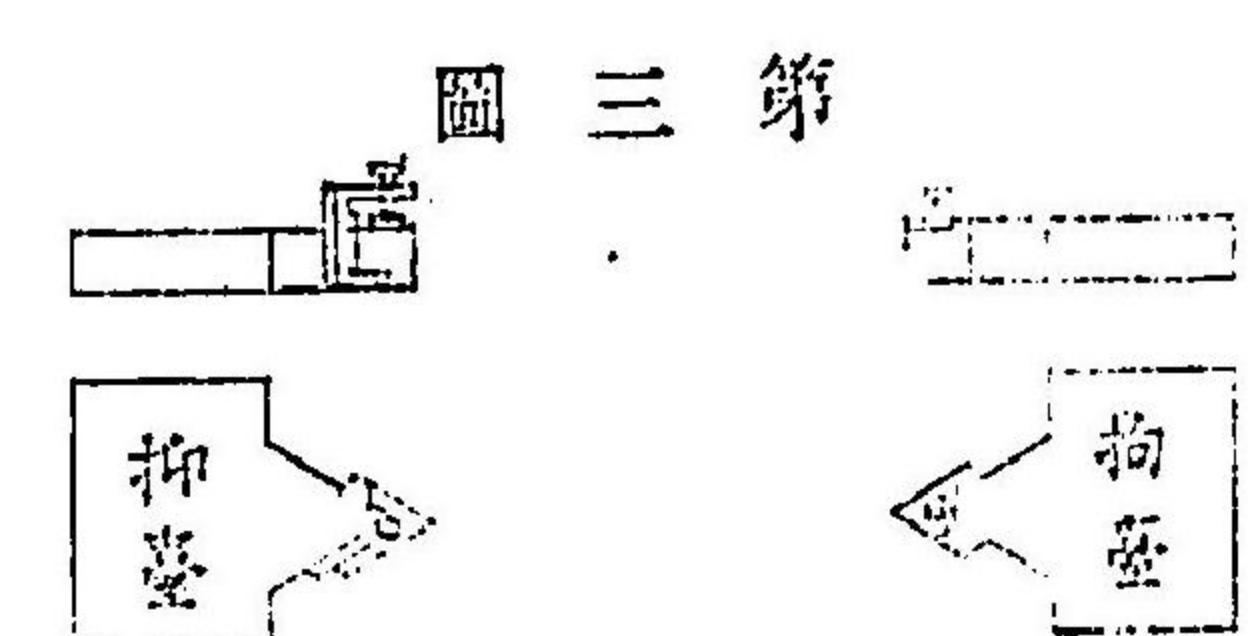
全大令法本日行現



圖一第



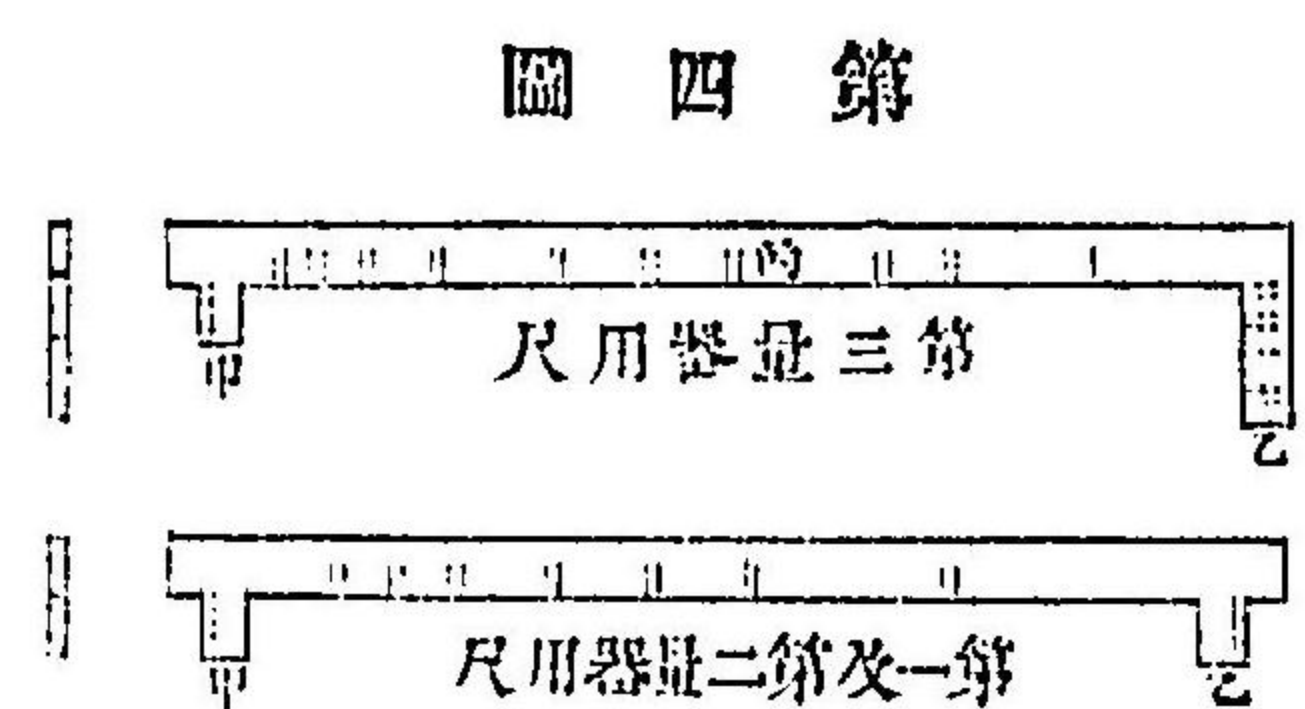
圖二第



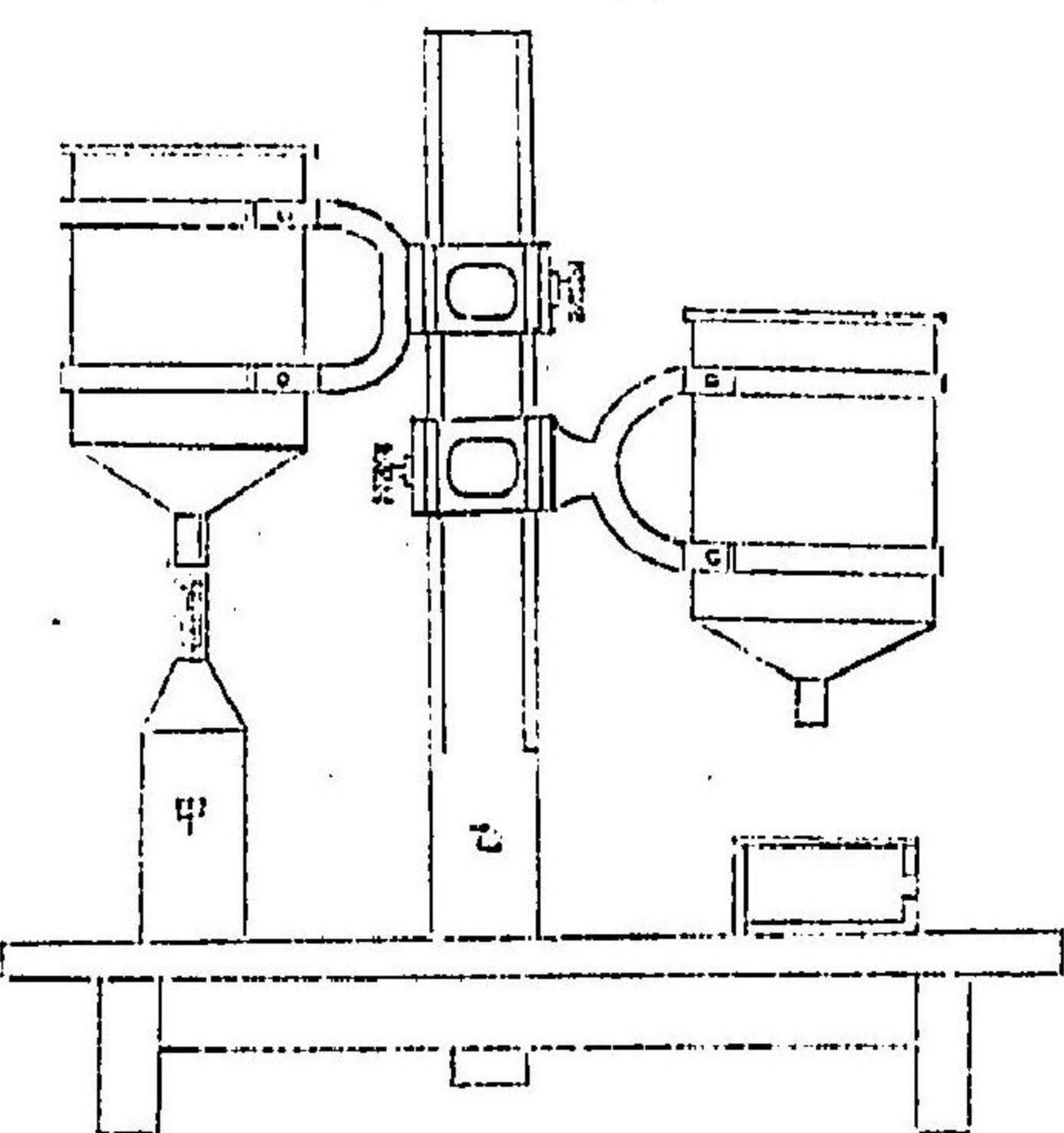
圖三第

分銅固有ノ差ニ相當スル分銅ト地方原器トヲ右皿ニ鉛ヲ左皿ニ載セ平等ナラシメ右皿ヨリ其ノ固有ノ差相當ノ分銅ノミヲ左皿ヨリ其ノ鉛ヲ撤去シ更ニ他ノ鉛ヲ左皿ニ載セ換ヘ之ヲ平等ナラシメ又左皿ニ撤去シタル鉛ヲ添載シテ二貫又ハ二「キログラム」ノ分銅ヲ以テ右皿ノ原器ニ載セ換ヘ其ノ平等ヲ檢スヘシ
 五貫又ハ五「キログラム」ノ分銅ニ在テハ四回、十「キロ

グラム」ノ分銅ニ在テハ九回、二十「キログラム」ノ分銅ニ在テハ十九回、鉛ヲ載セ換ヘ前項ノ手續ヲ行フヘシ
 第五章 製作、修葺原器ノ檢査
 第三十八條 製作、修葺原器ノ檢査ハ檢定用度量衡器ト同一ノ手續ニ依ルヘシ但シ檢査ノ成績ハ檢査ヲ受ケタル者ノ請求ニ依リ之ヲ書面ニ認メ交付スヘシ



第五圖



第六圖

○度量衡檢定所等ニ關スル規程

明治二十四年八月
農商務省訓令第三十五號

度量衡檢定所、地方原器、檢定用具、檢定補助用具及度量衡檢定成績表ニ關スル規程左ノ通定ム

第一條 常置度量衡檢定所ハ火災ノ虞少ナク、氣温ノ外成ルヘク温度ノ劇變ナキ乾燥靜穩ナル場所ヲ撰フヘシ

第二條 特設度量衡檢定所ハ官廳公署其ノ他便宜ノ場所ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第三條 度量衡器ヲ檢定スル場所ハ敵キ土間其ノ他堅牢ニシテ平坦ナル土間ヲ用非ルヘシ

第四條 地方原器ハ濕氣少ク温度ノ劇變、火災及塵埃ヲ避クヘシ

キ場所ニ堅牢ナル臺ヲ据ヘテ其ノ上ニ平置シテ保管スヘシ

第五條 地方原器ヲ使用スルトキハ成ルヘク其ノ保管シアル場所ニ於テシ且ツ直接ニ手ヲ觸ルサル様注意スヘシ

第六條 地方長官ハ農商務大臣ノ指揮ニ從ヒ地方原器ノ檢定ヲ受クヘシ但シ臨時檢定ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ具シテ農商務大臣ニ申請スヘシ

第七條 農商務大臣ハ附錄第一號ノ檢定用具ヲ地方長官ニ交付スヘシ

第八條 檢定用具ノ修補、引替若ハ増加ヲ要スルトキハ地方長官其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ニ請求スヘシ

第九條 檢定用具ハ特設檢定所ニ於テ用非ル時ノ外常置檢定所ニ備ヘ置クヘシ

自何年何月 至何年何月	度量衡檢定報告	應	府	縣	種	直尺	卷尺	繩尺	鯨尺	山ッ尺	計	檢定料計	量器
						尺	尺	尺	尺	尺			
					別	合格	不合格						
					數	數	數						

右度量衡器檢定ノ成績報告候也	年月日	檢定料計	計	製金屬秤	製木秤	製秤	天秤	分銅	衡器	種	別	合格	不合格	數
				貫	貫	貫	貫	貫	貫					
<p>形 狀 物 質 種 別</p> <p>圓 錐 形 金 屬 升</p> <p>「リットル」</p>														
<p>斗 概 計</p> <p>檢定料計</p>														

北海道廳長官
府 縣 知 事 印

農商務大臣宛
附錄第一號(二十五年七月農商務省訓令第二十號ヲ以テ四項五項八項九項改正)

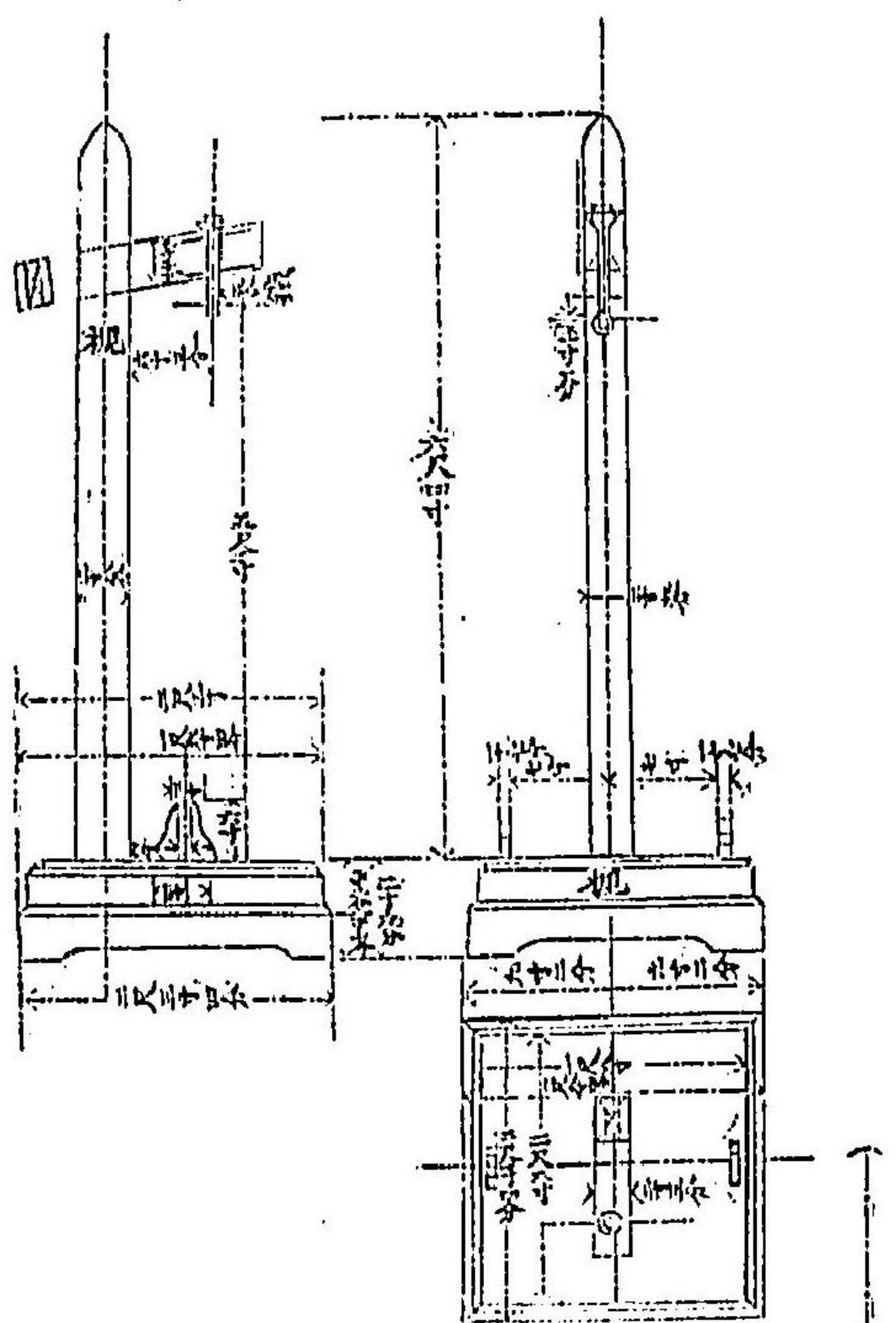
檢定用具

- 一 第一直尺
長少三尺ト四厘トシ其ノ三尺ハ一分目、一端ノ一尺ハ五厘目ヲ附シ又其ノ端ノ度目ノ内外四厘ニハ五毛目ヲ附ス
- 一 第二直尺
長少「メートル」ト「ミリメートル」トシ其ノ「メートル」ハ「ミリメートル」目ヲ附シ一端ノ度目ノ内外「ミリメートル」ニ十分ノ二「ミリメートル」目ヲ附ス
- 一 鯨尺
長少鯨尺二尺ト六厘トシ其ノ二尺ハ鯨尺一分目ヲ附シ一端ノ度目ノ内外鯨尺六厘ニハ鯨尺二厘目ヲ附ス
- 一 第一卷尺
長少十八尺ト四分六厘トシ其ノ十八尺ハ一寸目、一端ノ六尺ハ一分目ヲ附シ又其ノ端ノ度目ノ内外四分六厘ニハ二厘目ヲ附ス
- 一 第二卷尺
長少五「メートル」ト十五「ミリメートル」トシ其ノ五「メートル」ハ五「センチメートル」目、一端ノ「メートル」ハ「ミリメートル」目、其次ノ「メートル」ハ五「ミリメートル」目ヲ附シ又其ノ端ノ度目ノ内外十五「ミリメートル」ニ十分ノ五「ミリメートル」目ヲ附ス
- 一 第一量器

- 一 自一斗至一勺
- 一 第二量器
自二十「リットル」至「センチリットル」
- 一 第一分銅
自五貫至一毛ノ十分ノ一
- 一 第二分銅
自二十「キログラム」至「ミリグラム」
- 一 大形天秤
秤量十貫、感量五分
- 一 中形天秤
秤量一貫、感量一厘
- 一 小形天秤
秤量五十匁、感量一毛ノ十分ノ一又ハ二「ミリグラム」ノ十分ノ一
- 一 度器檢定器
- 一 量器檢定器
- 一 重少檢定補助具
- 一 顯微鏡
- 一 水準器
- 一 證書
- 一 消印
- 一 年號印
- 一 應府縣印
- 附錄第二號
檢定補助用具

- 一 秤架 支柱ヲ天秤及桿秤ヲ懸ケルニ用ルモノ
- 一 第一秤架 第一圖ノ如シ
- 一 第二秤架 第二圖ノ如シ
- 一 第三秤架 第四圖ノ如シ
- 一 取給鉢 桿秤ノ取給鉢ヲ缺ミテ之ヲ取ルニ用ルモノ
- 一 第二秤架ニ附屬スルモノ 第三圖ノ如シ
- 一 第三秤架ニ附屬スルモノ 第五圖ノ如シ
- 一 秤臺 小形ノ天秤及支柱アル桿秤(背狀)秤臺掛クニ用ルモノ
- 一 鉛九分銅ヲ檢定スルニ用ルモノ
- 一 鉛板 前同機ノ場合ニ於テ適宜割リ取リ小片トナシテ用ルモノ

第一圖

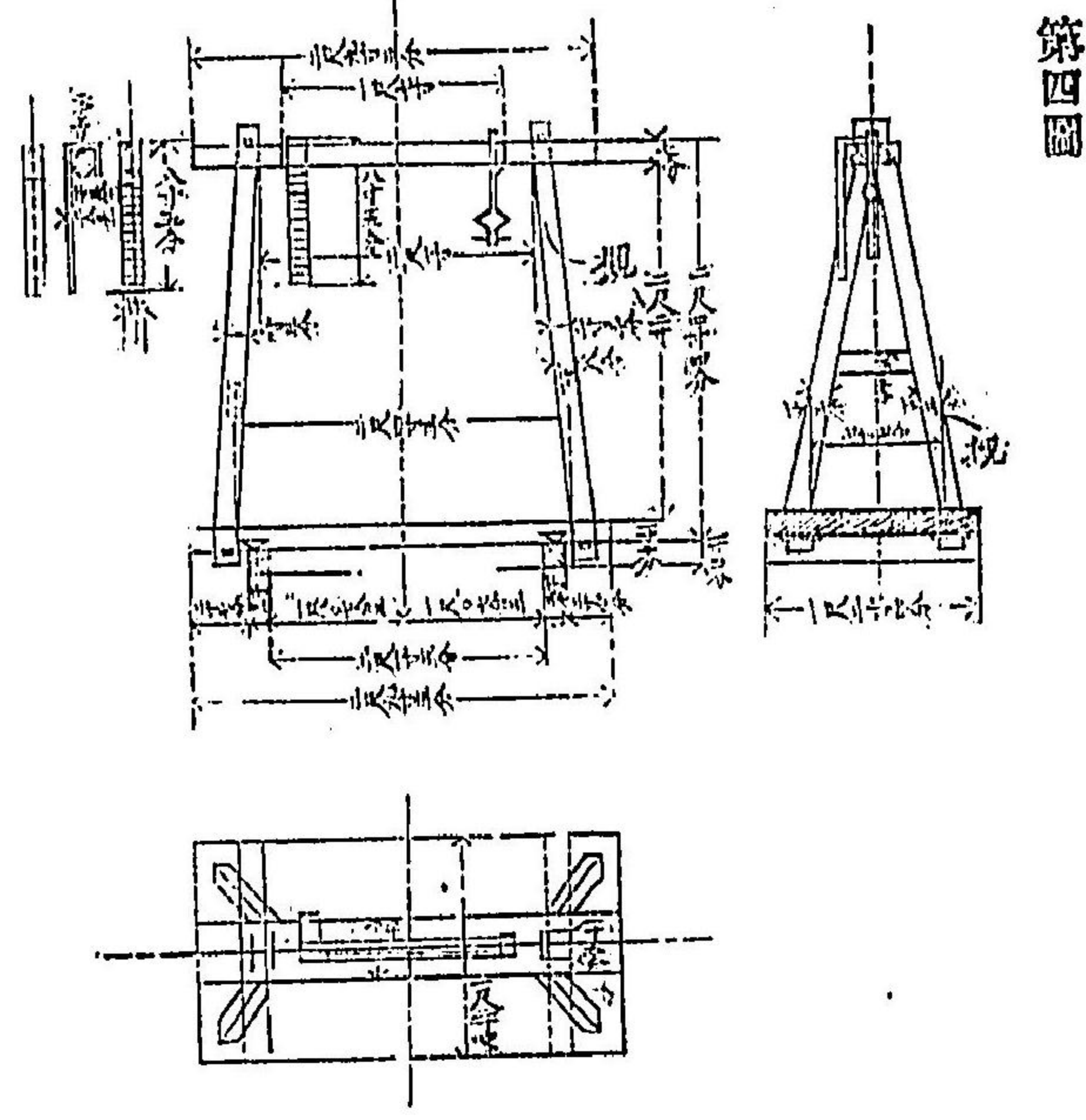


六米

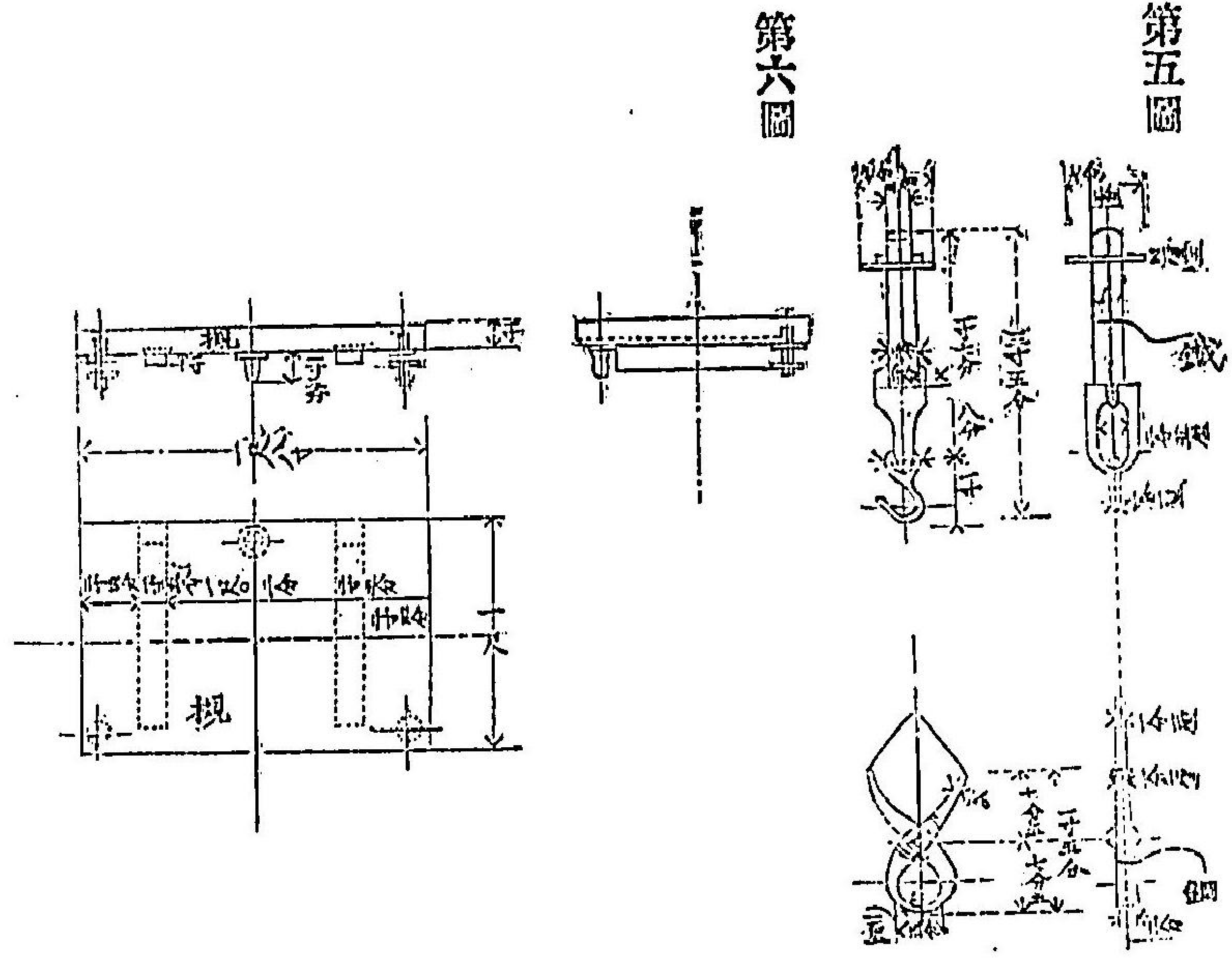
- 一 精粟 量器ノ容量ヲ檢定スルニ用ルモノ
- 一 粟注ルニ用ルモノ 第七圖ノ如シ
- 一 水注 水重ヲ以テ量器ヲ檢定スルトキ水注ヲ量器ニ注入スルニ用ルモノ
- 一 吸水管 前同機ノ場合ニ於テ小量機度器檢定及天秤其ノ他檢定スル機所ノ器物ヲ載スルニ用ルモノ
- 一 打印盤 檢定ノ印ヲ附ス
- 一 鎖機 第十一圖ノ如シ
- 一 烙印ノ柄 第十二圖ノ如シ
- 一 右ノ外檢定ノ執行ニ要スル物品

現行日本法令大全

第五類 第三章 度量衡



第四圖



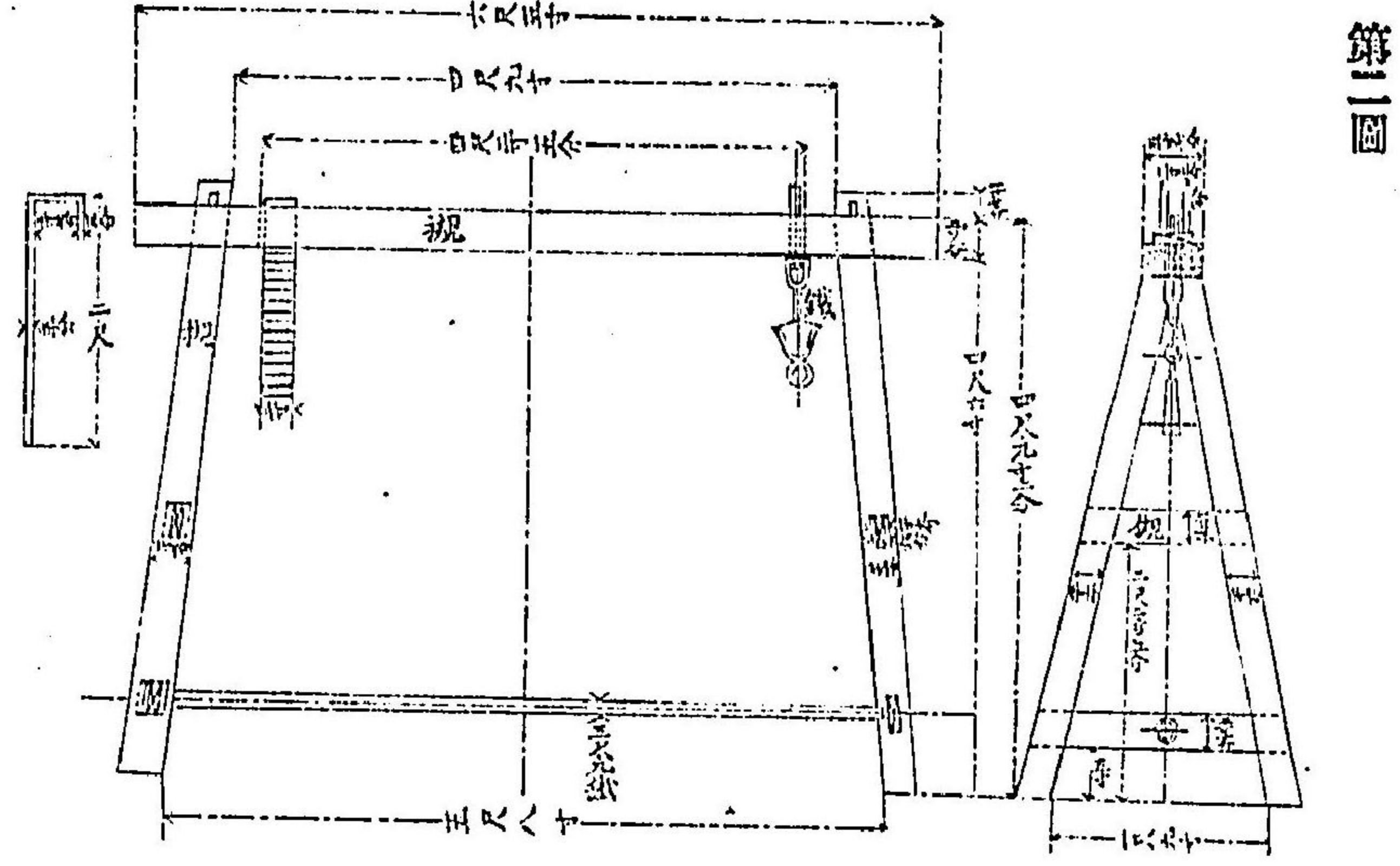
第五圖

第六圖

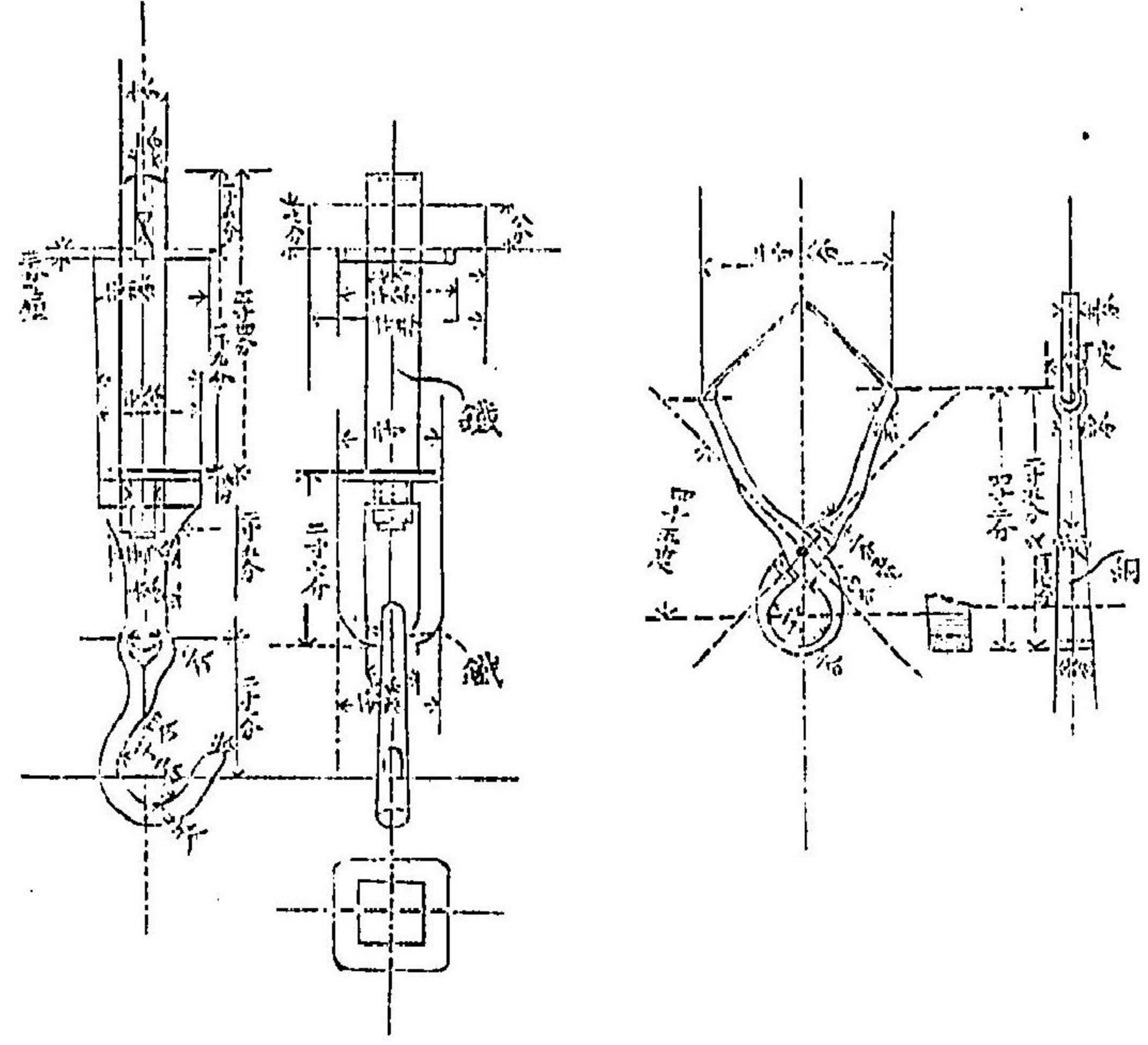
八百五十九

現行日本法令大全

第五類 第三章 度量衡

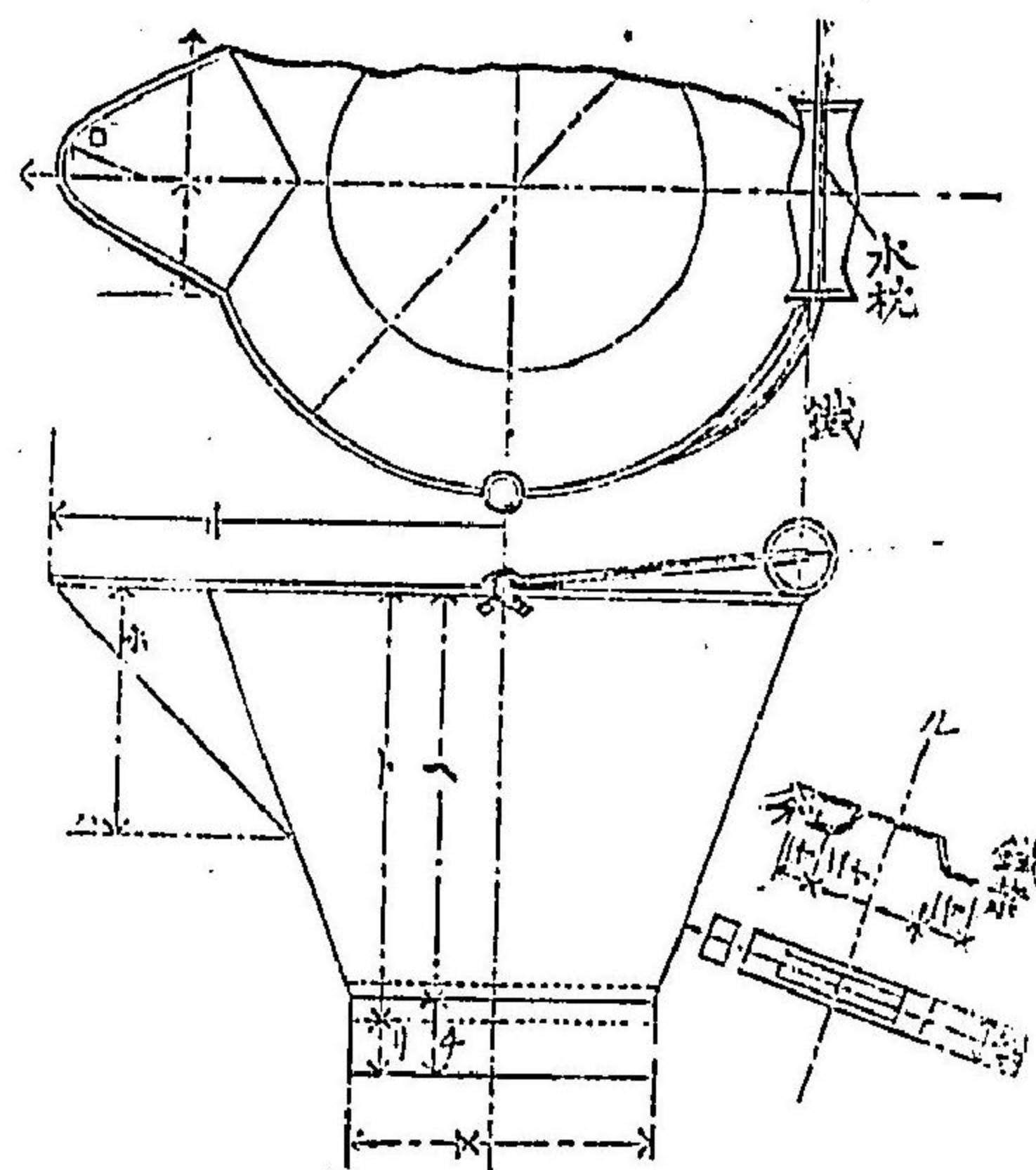


第二圖



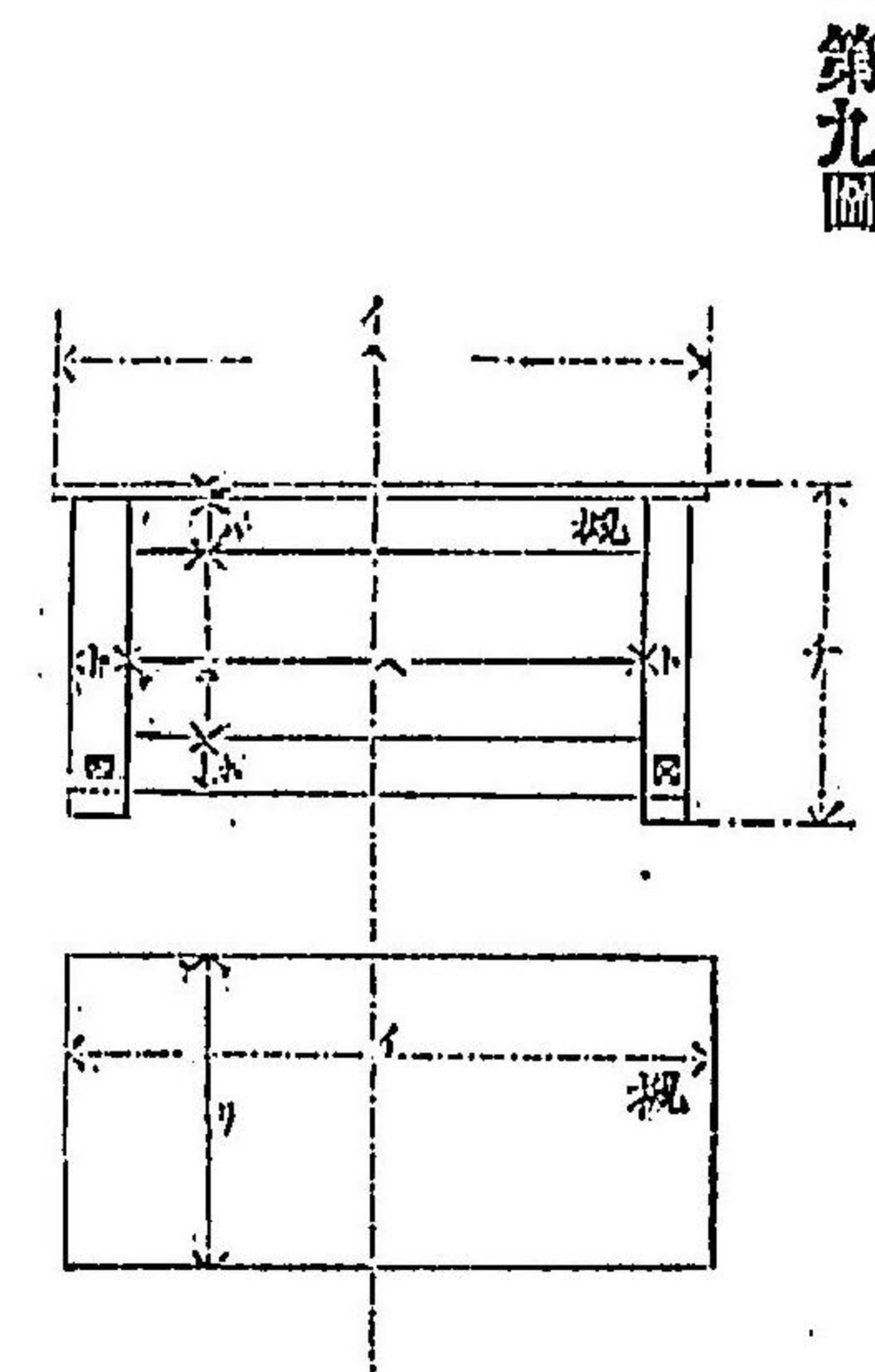
第三圖

八百五十八

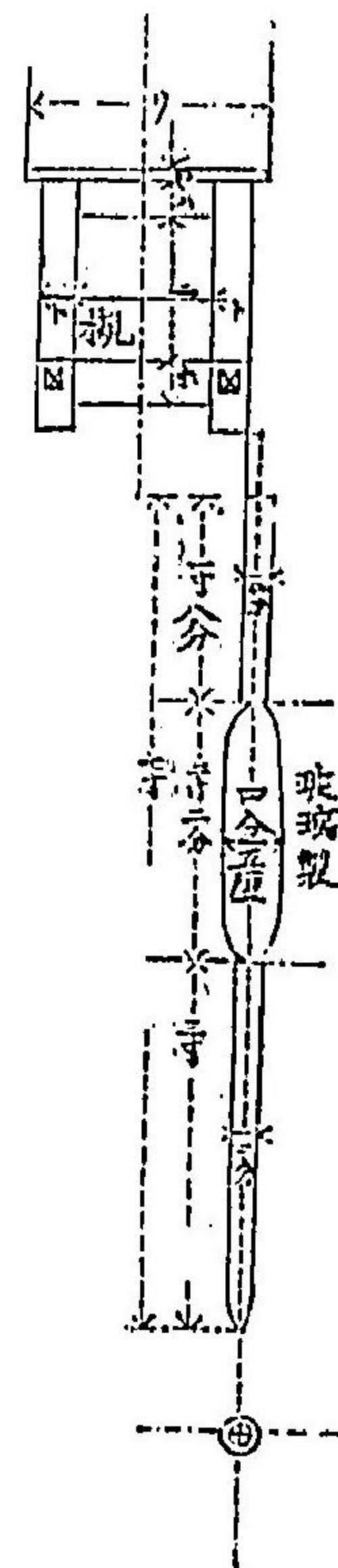


第七圖

	小	中	大
イ	五寸二寸	六寸一寸	七寸
ロ	一尺	一尺一寸	一尺三分
ハ	一尺七寸	一尺八寸	一尺九寸
ニ	二尺四寸	二尺五寸	二尺六寸
ホ	二尺六寸	二尺七寸	二尺八寸
ヘ	二尺七寸	二尺八寸	二尺九寸
ト	三尺	三尺一寸	三尺二寸
チ	三尺三寸	三尺四寸	三尺五寸
リ	三尺五寸	三尺六寸	三尺七寸
ヌ	三尺八寸	三尺九寸	四尺
ル	四尺	四尺一寸	四尺二寸

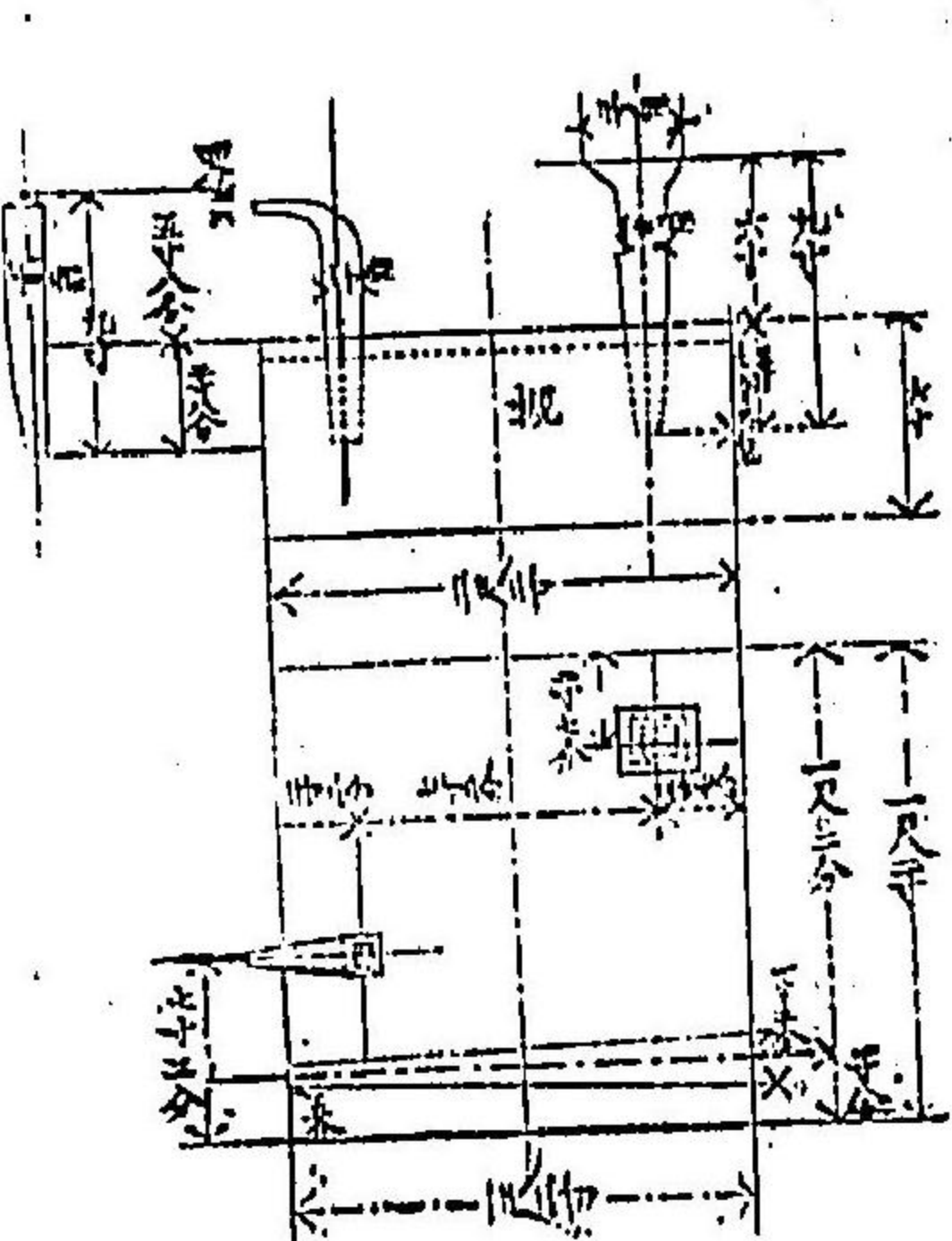


第九圖



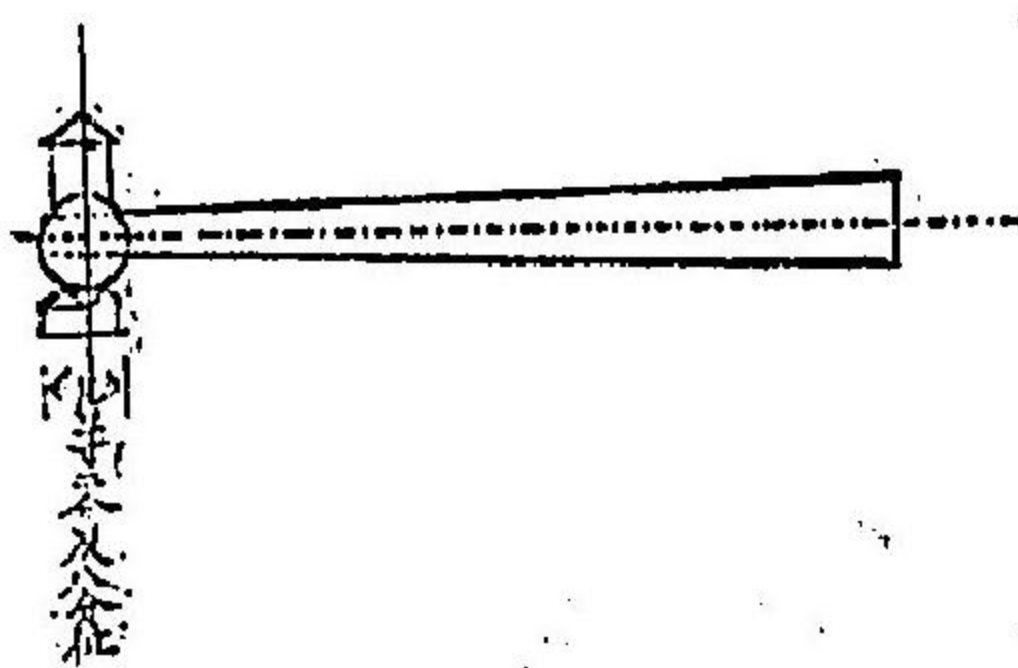
第八圖

	個一	個一	個一
イ	五尺	五尺	五尺
ロ	二尺一寸	二尺一寸	二尺一寸
ハ	四寸	四寸	四寸
ニ	一尺	一尺	一尺
ホ	二尺	二尺	二尺
ヘ	二尺四寸	二尺四寸	二尺四寸
ト	二尺七寸	二尺七寸	二尺七寸
チ	二尺九寸	二尺九寸	二尺九寸
リ	三尺	三尺	三尺
ヌ	三尺三寸	三尺三寸	三尺三寸



第十圖

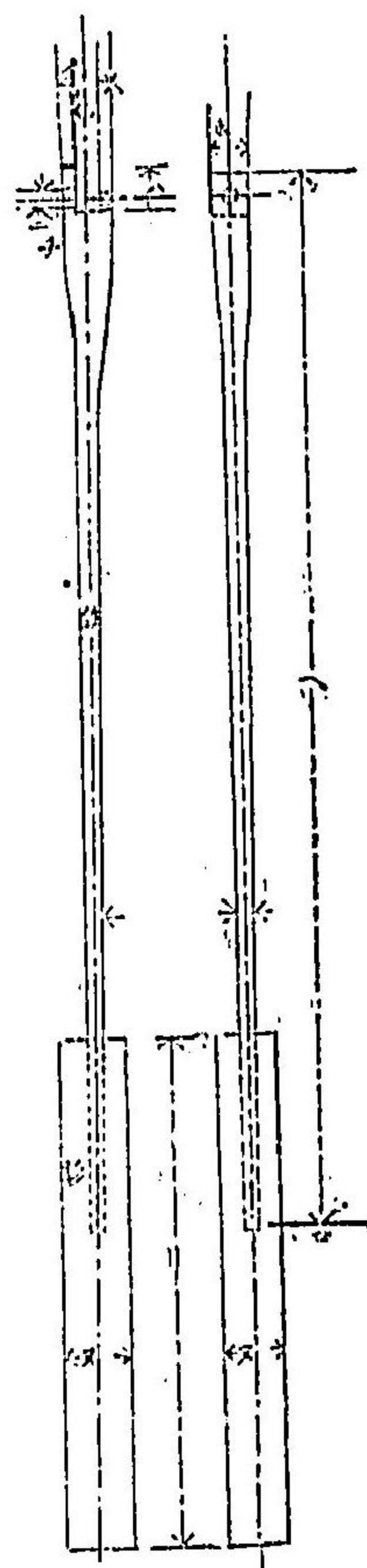
鐵鑪大小二箇



第十一圖

	大	小
イ	五尺八分	五尺四分
ロ	六分	三分
ハ	七分	四分
ニ	一分	七厘
ホ	六分	三分
ヘ	一尺三寸	一尺一寸
ト	二尺五厘	二尺一分
チ	四分	三分
リ	七寸	五寸
ヌ	八分	六分

第十二圖



○度量衡種類表ニ掲載ナキ權衡ノ製作ヲ許サ、ル件 明治二十四年七月 農商務省訓令第三十九號
 明治十九年十二月十七日本省第十九號訓令自今之ヲ廢止ス

○度量衡器ノ製作、修覆原器拂下代 本年當省令第十一號度量衡法施行規則第四十條ニ據ル度量衡器ノ製作、修覆原器拂下代ノ徵收方ハ其應ニ委任候條二十三年當省訓令第六號及第二十九號ニ據リ取扱フ可シ 但二十五年概算書ハ送附ニ及ハス

徵收方

明治二十四年九月 農商務省訓令第四十號

第六類 會計及官有財產

第一章 各種會計法及會計規則

○會計法 明治三十二年三月 法律第四號

朕樞密顧問ノ諮諭ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租税及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一 豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二 豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租税及其ノ他ノ歳入ハ法律勅令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律勅令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サンハ租税ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ刑ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律勅令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サンハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ増費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用非左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令濟歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ

歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造コシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算繰越替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ専有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急速ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルコト非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超ニサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超ニサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及ヒ囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其

ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ク得ヘカラサル事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼メルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○會計規則 明治二十二年四月 勅令第六十號

朕會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計規則

第一章 會計年度所屬區分、歳入歳出金出納

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

第三 俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

第五 前各項ニ掲ケル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ

第三條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度八月三十一日限リトス

第二章 豫算

第一款 總豫算

第四條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求

書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘシ
 總豫算ノ首ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ
 第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ル
 ヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ
 第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ル
 ヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ
 第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ
 第二款 豫定經費要求書
 第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年
 度ノ定額ト比較テ立テ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度六月
 三十日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
 第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ
 更ニ各項中所要ノ金額ヲ各自ニ區分シ尙ホ必要ノ場合ニ於
 テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基ク所
 ヲ示スヘシ
 目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ
 第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關ス
 ル説明及各款各項ノ説明ヲ付スヘシ
 第三款 仕拂豫算
 第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令
 官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣ノ檢視
 ヲ受クヘシ
 仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ
 第十二條 仕拂豫算ヲ更定セントスルトキハ其更定ヲ要スル
 金額理由ヲ詳具スル所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受
 クヘシ

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ヲ檢視シテ
 ルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
 第四款 歳入歳出現計書
 第十四條 會計法第六條ニ掲クル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ
 備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ
 第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ
 其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ
 八月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ
 歳入ノ部
 歳入豫算額
 測定済歳入額
 收入済歳入額
 收入未済歳入額
 歳出ノ部
 歳出豫算額
 豫算決定後増加歳出額
 仕拂命令済歳出額
 翌年度繰越額
 第五款 豫備金支出
 第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス
 第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支
 辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス
 第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ
 勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理
 由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之
 ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
 第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額
 理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
 第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付シ
 テ勅裁ヲ請フヘシ
 第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣
 其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ
 第二十四條 豫備金ヲ以テ補充シタル金額ハ各省大臣其
 計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ付シ年度經過後五箇月以內
 ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
 大藏大臣ハ豫備金支出ノ第一豫備金支出ト第二豫備金支出
 トニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ
 送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スル
 手續ヲ爲スヘシ
 第三章 收入
 第二十五條 收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スル
 トキハ其領收證ヲ納入ニ交付スヘシ
 第二十六條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ
 規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ
 拂込ムヘシ但外國及金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル内國
 ノ地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管
 シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ
 第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納入ヨリ租稅其他ノ收入金
 ヲ領收スルトキハ收入ノ目的ヲ記入シタル別符付ノ領收證
 ヲ拂込人又ハ納入ニ交付スヘシ

第二十八條 第二十六條ノ拂込ニ對シ金庫ヨリ交付シタル領
 收證ハ收入官吏ヨリ歳入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ送付
 シ別符ヲ切離シシメ其檢印ヲ受クヘシ
 第二十九條 納入ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ直接ニ金庫ニ納付
 シタルトキハ收入官吏ハ金庫ヨリ納入ニ交付シタル領收證
 ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ヲ納入ニ返付スヘシ
 第三十條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ
 毎月收入報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メ
 ル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ
 第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ收入官吏ヨリ送付シタル收
 入報告書ニ據リ毎月收入總報告書ヲ作り之ニ必要ナル参照
 書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ
 第四章 支出
 第一款 仕拂命令
 第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ
 正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該
 經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年
 度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メラレタル目的
 ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ
 第三十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名、仕拂フ
 ヘキ金額、支出科目、年度、番號、支出ノ目的ヲ記載スヘシ但
 俸給諸給恩給賞勳年金諸祿及定額拂切經費ノ仕拂ヲ爲スト
 キ支出科目ノ同一ナル者ハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令
 ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添ユル事ヲ得
 現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名、銀
 行ナンバ其名稱、前渡ヲ爲スヘキ金額、支出科目、年度及番號

現行日本法令大全

ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令ニハ支出ノ證據ニ必要ナル書類ヲ添ヘ仕拂命令官ヨリ之ヲ會計主務官ニ交付スヘシ

第三十六條 會計主務官其仕拂命令ヲ正當ト認ムルトキハ之ニ「調定濟」ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但受取人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スル者ハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 會計主務官前條ニ據リ仕拂命令ヲ不當ト認ムルトキハ其事由ヲ本屬大臣ニ申立ヘシ

本屬大臣會計主務官ノ申立ニ拘ハラズ仕拂命令ヲ發スヘキコトヲ命スル時ハ會計主務官ハ仕拂命令ニ「特命調定」ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但仕拂命令ノ金額若シ仕拂豫算額ニ超過スル時ハ本屬大臣ノ特命ヲ受クト雖モ尙ホ大藏大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第三十八條 會計主務官仕拂命令ヲ受取人ニ交付シタルトキハ同時ニ金庫ニ案内仕拂命令ヲ送付スヘシ但第三十六條但書ニ據リ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタル場合ニ於テモ亦同シ

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一 當時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各應ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限リハ成ルヘシ分割シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三 各應ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以内ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スル仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未濟ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未滿ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年內ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ仕拂ヲモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限リトス

第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内

ハ何時コトモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セザルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セザルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度八月三十一日マテ仕拂命令ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入ルニ國庫ニ於テ繰越整理スヘシ

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年內ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿消除ニ據リ政府カ負債ノ義務ヲ免シタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿消除トナリタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第三款 計算報告

第四十九條 會計主務官ハ其支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月支出報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ各省中央會計主務官ニ送付スヘシ

第五十條 各省中央會計主務官ハ各會計主務官ヨリ送付シタル支出報告書ニ據リ毎月支出總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

現行日本法令大全

第二款 各省決算報告書

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算

第三 最近五箇年間ニ於ル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 收入計算

第二 支出計算

第三 最近五箇年度間資金ノ増減

第四 最近五箇年度間損益ノ比較

第六章 定額繰越、過年度支出、定額展入

第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ

第六類 第一章 各種會計法及會計規則

八百七十

定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ年度經過後一箇月以内ニ繰越シ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ
本條繰越計算書ハ歲出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 繰越ヲ要スル項ノ定額
第二 右定額ニ對シ年度内ニ仕拂命令ヲ發シタル額
第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額
第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遲延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遲延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第六十條 各省大臣過年度ニ屬スル經費ヲ支出セントスルトキハ其金額及其所屬年度ノ豫算ニ定メタル區分、年度、支出ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ
大藏大臣前項ノ承諾ヲ爲シタルトキハ翌月十日以内ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第六十一條 前條ニ據リ大藏大臣ノ承認ヲ經タル經費ヲ仕拂フ爲メ各省大臣ハ其承認ヲ經タル年度ノ各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノ、外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ニ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入
第六十三條 各省大臣會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ定額戻入要求書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第六十四條 定額戻入要求書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ
第一 戻入ルヘキ金額
第二 金庫ニ於テ返納金ヲ領收シタル日付
第三 前金渡概算渡線替拂ヲ爲シタル仕拂命令ノ金額、年度、科目、番號、日付
第四 戻入ノ事由

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ノ要求ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第六十六條 大藏大臣各省大臣ノ要求ニヨリ定額ノ戻入ヲ檢視シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借
第一款 總則
第六十七條 契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既濟部分ニ對シ完済前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命ジテ事實ヲ測定シ其調査ヲ作ラシムヘシ
仕拂命令官ハ前項ノ調査ニ據ルニアラザンハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第六類 第一章 各種會計法及會計規則

八百七十一

第六十八條 前條ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超過スヘカラス

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ
工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ
第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上
第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス

第二款 競争契約
第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ
第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ロリ少クモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ
第一 競争入札ニ付スル事項
第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三款 競争執行ノ場所日限及時刻
第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ
第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ
入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ違セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ
再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕譯、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラザンハ確定セサルモノトス

現行日本法令大全

第三款 隨意契約
 第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未満ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ左ノ書類ノ一ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得
 第一 設計仕譯書ノ末ニ請負人ノ署名捺印シタルモノ
 第二 請負人ノ署名捺印セル承諾書
 第三 商業上ノ習慣ニ從ヘル往復書
 第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得
 第八章 出納官吏
 第一款 會計主務官、收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏
 第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官ヲ定メタル時其代理官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス
 第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官ハ其代理シタル所爲ニ付會計法第二十六條ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス
 第八十六條 出納官吏ハ各省大臣ニ隸屬シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受クヘシ
 第八十七條 會計主務官トナルヘキ官吏ノ任命罷免ハ豫メ大藏大臣ノ同意ヲ要ス但陸海軍武官ニ係ル場合ハ本條ノ限ニアラス
 第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生ジリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セザラシタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得
 各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ擔セズ
 會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ヲシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス
 第九十條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏交替ノトキハ本屬大臣ヨリ特ニ命シタル検査員ノ立會ヲ以テ會計事務ノ引繼ヲ爲スヘシ
 第九十一條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス
 大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ
 第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受ケル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ
 第九十三條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢定書ニ通テ製シテ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ

現行日本法令大全

第九十四條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ
 第九十五條 會計主務官ハ毎年度經過後五箇月以内又收入官吏ハ毎年度經過後七箇月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲メ毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ之ヲ其所屬省又ハ歳入ノ事務管理廳ニ送付スヘシ
 第九十六條 各省又ハ歳入ノ事務管理廳ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
 第九十七條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
 在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算書及證據書類ハ毎年度經過後一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
 第九十八條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕譯ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ仕譯命令官ニ送付シ仕譯命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタル時本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得
 第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過

後六十日以内ニ其在職期限間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ
 第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
 出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セザルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ
 本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ
 第一百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス
 第一百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ
 出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ
 第一百三條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得
 第一百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子ヲ付スヘシ身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ大藏大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記ヲ受クヘシ
 第一百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官

現行日本法令大全

更ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サ、ルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣ノ通知ニ依リ大藏大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ送付スヘシ

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命ゼラレタル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第六六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏及其保證人ヨリ徵收スヘシ

第六七條 出納官吏職務ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證金ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルトモ同ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第六八條 出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ララザルカ爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ退納スヘシ期限ヲ過キ退納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第六九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ノ生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減少シ之ヲ補填ヲ要スル

場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第六十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非ラハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第六十一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命ゼラル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ大藏大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九章 帳簿

第六十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第六十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、測定濟額、收入濟額、歳入未收額、歳出ノ豫算額、仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第六十四條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ測定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第六十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、測定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第六十六條 會計主務官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令測定濟額ヲ登記スヘシ

第六十七條 各省中央會計主務官ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目

現行日本法令大全

ヲ區分シ歳出豫算額仕拂命令測定濟額ヲ登記スヘシ

第六十八條 現金ヲ領收スル收入官吏、現金前渡ヲ受クタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第六十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜則

第七十條 本規則ニ據リ會計主務官、收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第七十一條 前條ノ外本規則ニ掲ケル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第七十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第七十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス本規則ト抵触スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

○歳入歳出豫算概定順序 明治二十二年三月 閣令第十二號

第一條 歳入ノ事務管理廳ハ毎年度歳入概算書ヲ調製シ前々年度三月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 歳入概算書ハ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項目ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第三條 各省大臣ハ毎年度歳出概算書ヲ調製シ前々年度三月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 歳出概算書ハ各省ノ所管經費ヲ經常ト臨時トニ大別

シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第五條 大藏大臣ハ各廳ノ歳入概算書及歳出概算書ヲ檢案シ歳入出ヲ對照調理シ歳入出概算書ヲ調製シ前年度四月十五日マテニ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第六條 歳入出總概算書ハ歳入出共ニ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第七條 内閣ニ於テハ前年度四月三十日マテニ歳入出總概算書ヲ決定スヘシ

第八條 各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費毎項ノ概算額以内ニ於テ節約ヲ旨トシ毎年度ノ各省豫定經費要書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 歳入概算書及歳出概算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十條 明治二十三年度豫算ニ限リ前各條ノ期限ヲ一箇月間延スコトヲ得

○豫算經費算出概則 明治二十二年六月 閣令第十九號

豫定經費算出概則

第一條 經費ヲ算出スルニハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示スヘシ

第二條 經費中其給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又其物件ニ屬スルモノハ一箇當リノ費用ヨリ積算スヘシ

第三條 一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額ナキモノハ各其據ル所ヲ示スヘシ

第四條 一箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其價額ヲ基トシ又規定ノ價格ナキモノハ時々ノ相場ニ據リ其據ル所ヲ示スヘシ

第五條 給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トスヘシ但事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時傭入及解傭ヲナス人員ハ前々年度以前三箇年度ノ人員ノ平均ヲ標準トスヘシ

第六條 物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前々年度以前三箇年度間ニ實際使用ニ供シタル箇數ノ平均ヲ標準トスヘシ

第七條 國債償還ノ金額(定期アルモノ)ハ財政ノ都合ニ依リ其利率及手数料ハ規定ニ據リ之ヲ豫算スヘシ

第八條 常例ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員、旅費等級、里程及滞在日數ヲ概定シテ豫算スヘシ

第九條 法律命令契約ニ據リ支出スヘキ總金額ノ定リタルモノハ其總金額ヲ以テ豫算額トスヘシ

第十條 前各條ニ據ルヘカラツル經費ハ最モ適實ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

○物品會計規則

明治二十二年六月 勅令第八十四號

物品會計規則 第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラザラハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ賠償ノ責任ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規定ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第十條 物品會計官吏ハ其ノ代理官ノ所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得

第十一條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ

第十二條 物品ノ消耗賣却亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品會計官吏ノ保管ヲ離ル、ヲ出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十一條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支那局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十一條第十二條ノ調査ニハ検査官吏及検査ヲ受メタル物品會計官吏若ハ特ニ命セラザル立會人ノ署名スヘシ

第十四條 (二十四年勅令第七十七號ヲ以テ削除)

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ 査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ年度後四箇月以内ニ證據書類ヲ添ヘ之ヲ本廳大臣ニ差出スヘシ

第十六條 物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十七條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十八條 各省ノ部長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添付シテ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十九條 常時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支那局ノ物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調査ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十九條 物品會計官吏ノ身元保證ニ關スル規則ハ總テ會計規則出納官吏身元保證ノ例ニ據ル

第二十條 物品出納ノ順序ハ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第二十一條 官吏ノ職務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ執行ス

○政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約方

明治二十三年九月 勅令第九十三號

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セザルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

○海軍艦船用石炭ヲ外國軍艦ニ讓渡方

明治二十三年十二月 勅令第二百九十五號

海軍艦船用石炭ヲ外國軍艦ニ讓渡スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國軍艦ニ於テ石炭缺乏ノ際其供給ヲ請フトキハ相當代價ヲ以テ海軍省貯藏ノ石炭ヲ讓渡スコトヲ得

○外國難民貸與金一時繰替支辨方

明治二十四年一月 勅令第一號

朕在外國難民貸與金一時繰替支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國公使館若ハ領事館ニ於テ現金前渡ヲ受ケタル出納官吏ハ其現金ヲ以テ最初前渡ヲ受ケタル目的ノ外難民貸與金ニ限リ一時繰替支辨スルコトヲ得

○土木工事起業者ニ保證金ヲ納付セシム

明治二十四年三月 勅令第二十六號

朕土木工事起業者保證金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土木工事ヲ特許スルニ方リ當該官廳ハ其起業者ヲシテ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得 但有價證券ヲ以テ代用セシムルモ妨ケナシ

○鐵道廳ニテ物件ノ賣買貸借ハ隨意契約ニ依ルヲ得

明治二十三年十一月 勅令第二十七號

朕鐵道廳ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ賣買貸借スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道廳ニ於テ鐵道事業ニ要スル車輛器具機械其他材料素品ヲ私設鐵道會社ヨリ買上借入又ハ私設鐵道會社ニ賣渡貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○北海道廳ニ於テ種畜貸渡ノ隨意契約

明治二十四年七月 勅令第六十三號

朕北海道廳ニ於テ種畜ヲ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳ニ於テ殖産獎勵ニ要スル種畜ヲ貸渡ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○會計法補則

明治二十三年八月 法律第五十七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計法補則

第一條 明治二十三年度歳出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シタル大權ニ基ケル既定ノ歳出トス

- 一 文武官ノ俸給及文官退官賜金
- 二 陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費
- 三 賞勳年金及褒賞費
- 四 外國條約及約束ニ依ルル支出
- 五 各廳ノ廳費及經常修繕費

第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費

用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歳出トス

- 一 帝國議會經費
 - 二 裁判所並會計検査院經費
 - 三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手当
 - 四 徴兵費
 - 五 徴稅費 證券印紙切手類製造買戻押印費禮札製造所得稅調查委員手当市町村ニ交付スル徴稅費滯納處分費差押物件買上代
 - 六 囚徒費
 - 七 遞信事業及航路標識費
 - 八 内外國難破船費
 - 九 沖繩縣及小笠原島地方費
 - 十 備荒儲蓄
 - 十一 北海道拂下土地買上代
 - 十二 恩賞及救助費
- 第三條 明治二十四年度歳出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府歳出上ノ義務トス
- 一 神社費
 - 二 公債償還利子及拂手數料
 - 三 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費聯帶支辨金
 - 四 沖繩縣諸祿
 - 五 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證
 - 六 雇外國人ノ俸給恩給及手当
 - 七 法律上ノ賠償及訴訟費
 - 八 諸拂戻金
 - 九 國庫金取扱費

十 預金利子

十一 既約アル地所家屋借料

第四條 明治二十三年度以前ノ歳出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

○作業會計法

明治二十三年三月 法律第十七號

朕作業會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

作業會計法

第一條 左ノ作業所ハ其事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業直接ノ費用ニ充ツルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立クシム但事務ニ屬スル作業間接ノ費用ハ總テ一般ノ會計ニ依ラシム

- 第一 造幣局
- 第二 印刷局
- 第三 富岡製絲所
- 第四 電信燈臺用品製造所
- 第五 廣鳴嶺山
- 第二條 各作業所ニ於テ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地建物軌道其他築造道路船舶機械永遠保存品其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トナシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス
- 第三條 各作業所特別會計ノ歳出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス
- 第四條 固定資本ノ維持修理及補充ハ作業所特別會計ノ歳入

ヲ以テ支辨スヘシ
 第五條 作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歳入ニ編入スヘシ
 第六條 政府ハ毎年各作業所特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
 第七條 各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○官設鐵道會計法 明治二十三年三月法律第二十號

朕官設鐵道會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道會計法

第一條 鐵道事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ營業上ノ收入及其附屬雜收入ハ鐵道事業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立ラシム
 第二條 鐵道事業ノ爲メ從來使用シ及將來增加スル所ノ土地軌道車輛停車場工場家屋機械其他重要ナル器具ハ其固定資本トシ從來ノ流動資本ハ其据置運轉資本トス
 第三條 鐵道營業ニ要スル費用固定資本ノ維持修理及補充費並ニ損失金ヲ鐵道事業ノ歳出トス
 第四條 鐵道事業ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歳入ニ編入スヘシ
 第五條 政府ハ毎年鐵道事業ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

作業及鐵道會計規則

○作業及鐵道會計規則 明治二十三年三月勅令第三十三號

朕作業及鐵道會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第六章 鐵道事業ノ歳出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス
 第七條 災害事變ニ因リ鐵道財產ニ大破損ヲ生シ豫算定額ヲ以テ修理スルニ足ラサル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ鐵道事業ノ歳出豫算ニ豫備費ヲ設ルコトヲ得
 第八條 鐵道事業ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第九章 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ執行ス

第一章 歳入歳出
 第一條 左ノ諸收入ヲ以テ作業所ノ歳入トス
 第一 作業上ノ收入
 第二 附屬雜收入
 第二條 造幣局、印刷局、官圖製絲所、電信燈臺用品製造所、廣島鐵山ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歳出トス
 第一 技術員ノ俸給諸給旅費
 第二 職工人夫ニ給スル諸費
 第三 作業用器具機械ノ維持修理及補充費
 第四 材料素品購入代
 第五 動力費
 第六 作業場用備品消耗品費

第七 建築物造道路船舶ノ維持修理及補充費
 第八 損失金
 第三條 東京砲兵工廠、大阪砲兵工廠ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歳出トス
 第一 職工人夫ニ給スル諸費
 第二 作業用器具機械ノ維持修理及補充費
 第三 材料素品購入代
 第四 機械運轉用品購入代
 第五 作業場用備品消耗品費
 第六 損失金
 第四條 千住製鐵所ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歳出トス
 第一 事務員技術員ノ俸給諸給旅費
 第二 事務所費
 第三 職工人夫ニ給スル諸費
 第四 作業用器具機械ノ維持修理及補充費
 第五 材料素品購入代
 第六 機械運轉用品購入代
 第七 作業場用備品消耗品費
 第八 生産品販賣諸費
 第九 土地建物ノ維持修理費
 第十 損失金
 第五條 鐵道事業ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歳出トス
 第一 營業ニ從事スル職員ノ俸給諸給旅費
 第二 職工人夫ニ給スル諸費
 第三 鐵道築造物車輛器具機械ノ維持修理及補充費
 第四 材料素品購入代

第五 汽車及機械運轉用品購入代
 第六 營業事務所停車場機械場客車用備品消耗品費
 第七 損害賠償金
 第八 訴訟費
 第九 手数料保險料借料廣告料謝金外國注文品監査費其他營業上ノ雜費
 第十 運輸收入割戻金
 第十一章 損失金
 第二章 豫算決算
 第六條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
 第七條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ科目ヲ分チ成ルヘク歳入ノ性質歳出ノ用途ヲ明示スヘシ
 第八條 所管大臣ハ其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及固定資本價格増減表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添付スヘシ
 第九條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
 第三章 收入支出
 第十條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣各作業事務長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ
 各省大臣ハ作業支部局長ヲシテ歳出豫算ノ一部ヲ執行セシメントスルトキハ仕拂豫算ヲ以テ之ヲ命スヘシ
 仕拂豫算ニ關スル規程ハ會計規則第十一條第十二條第十三條ニ依ルヘシ

第十一條 豫備費ノ支出ハ會計規則第十九條第二十條第二十四條ニ依ルヘシ

第十二條 作業所ノ收入官吏ハ會計規則第二十五條第二十六條第二十八條若クハ第二十九條ノ手續ニ依リ收入ヲ取扱フヘシ

第十三條 作業所ハ據置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高及當該年度ノ收入清歳入額ヲ以テ仕拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此仕拂元受高ヲ超過スルヲ得ス

第十四條 作業事務局長又ハ作業支部局長ハ歳出ヲ支出スル爲メ金庫ニ向テ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第十五條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラザレハ仕拂請求書ヲ發スルヲ得ス但係給諸給テ除キ支部局及派出工場ニ於テ仕拂ヲナス經費外國ニ於テ仕拂ヲナス經費職工入夫ノ給料諸手當ハ仕拂請求書ヲ發シ主任ノ官吏又ハ外國派出ノ官吏ヲ仕拂官吏トシテ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得

第十六條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支出ハ正當ニシテ必要ナルヲ調査シ其金額ヲ算定シ又其支出ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ金額ハ豫算定額及仕拂元受高ニ超過スルコトナキヤヲ調査スヘシ

第十七條 仕拂請求書ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂ヲ請求スル金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ但係給諸給ニ限リ集合仕拂請求書ヲ發シ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得

現金前渡ノ仕拂請求書ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格氏名前渡ヲナスヘキ金額支出科目年度番號支出ノ目的ヲ記載ス

第十八條 仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條第三十八條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第十九條 各年度ノ歳出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ毎年度三月三十一日ヲ限リトス

第二十條 現金前渡ヲ受タル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二十一條 金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絕スルハ會計規則第四十三條第四十五條第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第二十二條 毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入済トナラサルモノハ收入未済トシテ順次翌年度ヘ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二十三條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ仕拂請求書ヲ發セサルモノハ支出未済トシテ順次翌年度ヘ繰越シ當該年度經過後滿五箇年内ハ支出ノ請求アル毎ニ仕拂請求書ヲ發スヘシ但支出未済ノ繰越額ハ支出調定額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルヲ得ス

第二十四條 毎年度内ニ於テ仕拂請求書ヲ發シ金庫ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受ケサルモノハ仕拂未済トシテ之ニ相當スル資金ヲ翌年度ヘ繰越シ第十八條ノ規程ニ依リ仕拂ヲナスヘシ

第二十五條 前條ノ仕拂未済金ハ會計法第十八條ニ依リ仕拂義務ヲ免ナルトキハ其期滿免除トナリタル年度ノ一般ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二十六條 收入官吏ハ其取扱タル收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ毎月收入報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月十五

日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ但作業支部局ノ收入官吏ハ其收入報告書ヲ翌月七日マテニ作業事務本局ノ收入官吏ニ送付スヘシ

第二十七條 作業事務本局ノ收入官吏ハ作業全部ノ收入合計表ヲ調製シ諸收入官吏ノ收入報告書ニ添付シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十八條 會計主務官ハ其調定シタル支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ毎月支出報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ但作業支部局ノ會計主務官ハ其支出報告書ヲ翌月七日マテニ作業事務本局ノ會計主務官ニ送付スヘシ

第二十九條 作業事務本局ノ會計主務官ハ作業全部ノ支出合計表ヲ調製シ諸會計主務官ノ支出報告書ニ添付シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 資本

第三十條 資本ハ總テ價格ヲ付シテ計算スヘシ

第三十一條 資本ノ價格ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ定ム

一 土地ハ近隣地ノ賣買價格五箇年間ノ平均ニ依リ近隣ニ比較スヘキ相當ノ土地ナキトキハ五人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依ル

二 建物鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ建築費又ハ購入價格ニ依リ建築費又ハ購入價格ノ不明ナルモノハ物件ノ輕重ニ依リ二人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依ル

三 材料素品機械ノ運轉用品ハ購入價格ニ依ル

四 生産品ハ生産費ニ依リ但賣買ノ契約済トナリタルモノ

ハ其賣渡代價ニ依ル

第三十二條 土地ノ價格ハ前條ノ方法ニ依リ每五年ニ之ヲ改定スヘシ

第三十三條 公衆ノ用ニ供スル鐵道ノ固定資本ハ每五年ニ五人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依リ之ヲ改定スヘシ

第三十四條 建物公衆ノ用ニ供セサル鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ永遠保存品ヲ除キ總テ保存期限ヲ定メ其期限ニ應ジテ毎年價格ヲ遞減スヘシ

前項中固定資本ニ屬スル物件ヲ修理シタルトキハ其修理費ヲ以テ現年ノ價格ニ加ヘ再ヒ保存年限ニ應ジテ價格ヲ遞減スヘシ

第三十五條 前條ノ物件ヲ修理シタルトキハ保存年限ヲ改定シテ之ヲ延フルコトヲ得

第三十六條 材料素品機械ノ運轉用品ノ年度内未消費ニ屬スルモノ市價ノ低落又ハ毀損變質等ニ由リ其價格ヲ減スルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ

第三十七條 生産品ノ年度内未販賣ニ屬スルモノ需用ノ變動生産法ノ改良又ハ毀損變質等ニ由リ其價格ヲ減シ實際ノ市價生産費以下トナルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價又ハ當年度ノ生産費ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ

第三十八條 材料素品機械ノ運轉用品生産品其他ノ物品ニシテ不用ニ歸シタルモノハ總テ損失トシ其價格ヲ削除シテ不用物品ニ組入レ之ヲ賣拂フヘシ

第五章 受拂勘定

第三十九條 受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歲入ノ收入濟額
 第二 收入未濟額
 第三 据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高
 第四 總生産品ノ價格
 第五 總材料及素品ノ價格
 第六 總機械運轉用品ノ價格
 第七 作業場用總備品ノ價格
 第八 代價支出未收物品ノ價格
 第四十條 拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ
 第一 歳出ノ支出調定濟額
 第二 支出未濟額
 第三 据置運轉資本額
 第四 賣拂代價收入未濟物品ノ價格
 第五 賣拂代價收入未濟既出物品ノ價格
 第六 消費シタル材料及素品ノ價格
 第七 消費シタル機械運轉用品ノ價格
 第八 損失ニ歸シタル物品ノ價格
 第九 損失金
 第四十一條 作業所ハ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ扣除シ殘餘アルトキハ作業ノ益金トシテ其事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ
 第六章 工事及物件ノ賣買貸借
 第四十二條 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ總テ會計規則第七章ノ例ニ依ル
 第七章 出納官吏
 第四十三條 出納官吏ニ關スル規則ハ第四十四條ニ定メタル

期限ノ外總テ會計規則第八章ノ例ニ依ル
 第四十四條 會計規則第九十五條ノ例ニ依リ會計主務官及收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ所屬省又ハ事務管理廳ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス
 第八章 帳簿
 第四十五條 大藏省ハ各作業會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入未濟額歳出ノ豫算額仕拂元受高確定額支出未濟額未濟額ヲ登記スヘシ
 第四十六條 作業所ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ其事業ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ
 第四十七條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入未濟額ヲ登記スヘシ
 第四十八條 會計主務官ハ支出簿調定總計簿ヲ備ヘ支出簿ニハ歳出ノ豫算額確定額支出未濟額未濟額ヲ登記スヘシ
 第四十九條 收入官吏現金前渡ヲ受タル官吏現金ヲ出納スル場合ニ於テハ現金出納簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ
 第九章 雜則
 第五十條 本規則ニヨリ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ
 第五十一條 前條ノ外本規則ニ掲グル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ
 第五十二條 此規則ニ於テ作業所トハ造幣局、印刷局、富岡製絲所、電信燈臺用品製造所、廣島鐵山、東京砲兵工廠、大坂砲兵工廠、千住製鐵所及鐵道ヲ謂フ

第五十三條 此規則ニ於テ作業事務長トハ鐵道局長官、造幣局長、印刷局事務長、富岡製絲所長、東京砲兵工廠提理、大坂砲兵工廠提理、千住製鐵所長ヲ謂フ
 電信燈臺用品製造所及廣島鐵山ニ於テハ其事務管理長ヲ以テ作業事務長トス
 第五十四條 本規則ハ明治二十三年度ヨリ施行ス
 ○陸軍作業會計法 明治二十三年三月 法律第十八號
 陸軍作業會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 陸軍作業會計法
 第一條 東京砲兵工廠大坂砲兵工廠及千住製鐵所ハ其事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立ラシム
 第二條 東京砲兵工廠大坂砲兵工廠ニ於テハ從來使用シ及將來增加スル所ノ機械其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス
 千住製鐵所ニ於テハ從來使用シ及將來增加スル所ノ土地建物機械其他重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス
 第三條 東京及大坂砲兵工廠ハ職工入夫ノ諸費材料及素品及機械運轉用品ノ購入費機械器具ノ維持修理及補充費工場ノ雜費並ニ損失金ヲ作業ノ歳出トス
 千住製鐵所ハ俸給諸給旅費應費生産品販賣ノ諸費職工人夫ノ諸費材料及素品及機械運轉用品ノ購入費土地建物ノ維持修

理費機械器具ノ維持修理及補充費工場ノ雜費並ニ損失金ヲ作業ノ歳出トス
 第四條 各作業所特別會計ノ歳出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス
 第五條 作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歳入ニ編入スヘシ
 第六條 政府ハ毎年各作業所特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
 第七條 豫算外ニ軍用品ノ製作修理ヲ要スル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ各作業所ノ歳出豫算ニ豫備費ヲ設ルコトヲ得
 第八條 各作業所ニ於テ機械器具材料及機械運轉用品ヲ外國ヨリ買入ル、トキハ前金拂ヲ爲スコトヲ得
 第九條 各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス
 ○陸軍兵備品會計規則 明治二十四年三月 勅令第二十二號
 陸軍兵備品會計規則
 第一條 陸軍兵備品ハ分テ出師準備品通常兵備品ノ二類トス
 第二條 出師準備品トハ左ニ掲グル諸品ヲ云フ
 一 兵器彈藥及各兵器器具並材料
 二 祕密圖書
 三 馬匹及戰時之ニ要スル器具

- 四 戰用靴鞋及炊爨具
- 五 戰用被服及裁縫具
- 六 戰用衛生材料
- 七 戰用獸醫材料
- 八 戰用天幕
- 九 陣中事務用品
- 第三條 通常兵備品トハ左ニ掲クル諸品ヲ云フ
 - 一 圖書
 - 二 糧秣
 - 三 被服及裁縫具
 - 四 衛生材料
 - 五 獸醫材料
 - 六 兵營備付陣營具
- 第四條 出師準備品ノ品目數量ハ陸軍大臣參謀總長ト協議ノ上上裁ヲ經テ之ヲ定ム
- 第五條 出師準備品ハ其保存ヲ全カラシムル爲メ通常兵備品ト新陳交換スルヲ例トス
- 第六條 出師準備品ハ近衛都督各師團長及常該長官之ヲ管理ス
- 第七條 出師準備品及其數量ニ關スル書類ハ主任者ノ外關與スルコトヲ得ス
- 第八條 通常兵備品中軍隊其他委任經理ニ係ル糧食被服消耗品陣營具ニシテ特ニ保管ノ方法ヲ定メタルモノニアリテハ各保管者聯帶シテ其責ニ任ス
- 第九條 通常兵備品ノ會計ハ明治二十二年勅令第八十四號物品會計規則ニ依ル

- 第十條 出師準備品ノ保管出納及檢査ノ方法其他細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム
- 海軍兵備品會計規則 明治二十三年三月 勅令第六十四號
- 海軍兵備品會計規則
- 第一條 海軍兵備品トハ左ノ諸品ヲ云フ
 - 一 兵器、彈藥、水雷及其附屬品
 - 二 祕密圖書、測器海圖
 - 三 艦營需品
 - 四 被服、糧食
 - 五 治療品
- 第二條 海軍兵備品ノ會計ハ本則ニ明文アルモノヲ除クノ外物品會計規則ニ依ル
- 第三條 鎮守府ニ在ル兵器、彈藥、水雷ノ保管出納ハ武庫主管ヲシテ掌理セシム
- 第四條 物品會計規則第十四條ニ依リ大藏大臣ニ送付スル報告書及同規則第十五條第十七條ニ依リ會計檢査院ニ送付スル計算書中兵器、彈藥、水雷及其附屬品並祕密圖書、測器海圖ハ價格ノミヲ明記スヘシ
- 兵器、彈藥、水雷及其附屬品ノ數量ノ精確ハ檢閱官ノ證明書ヲ以テ保證シ祕密圖書、測器海圖ノ數量ノ精確ハ圖書、測器ヲ管理スル官吏ヲ統轄スル長官ノ證明書ヲ以テ保證スヘシ
- 第五條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

- 海軍省所管軍艦及水雷艇並兵器製造費繰越使用方 明治二十四年三月 法律第一號
- 朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ海軍省所管軍艦及水雷艇並兵器製造費繰越ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 明治二十三年度マテニ竣功スヘキ海軍省所管軍艦及水雷艇並ニ之ニ裝置スル兵器ノ製造事業ニ係ル繼續費ニシテ竣功遲延ノ爲メ同年度マテニ支出ヲ終ラサル金額ハ明治二十六年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得
- 鎮守府造船材料資金會計法 明治二十三年三月 法律第十九號
- 朕鎮守府造船材料資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 鎮守府造船材料資金會計法
- 第一條 鎮守府造船工場ニ於テ船舶ヲ製造修理スル爲メ必要スル材料貯蓄ノ資本トシテ造船材料資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立ラシム
- 第二條 造船材料資金ハ從來權須賀鎮守府小野濱造船所ニ備ヘタル營業資本ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ヲ使用スルトキハ海軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ
- 第四條 造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ノ損減ハ豫メ歩合ヲ定メテ材料原價ニ加算スヘシ
- 第五條 毎會計年度ニ於テ造船材料資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其過剩金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ

- 第六條 政府ハ毎年造船材料資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第七條 造船材料資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第八條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス
- 鎮守府造船材料資金會計規則 明治二十三年三月 勅令第三十四號
- 朕鎮守府造船材料資金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 鎮守府造船材料資金會計規則
- 第一條 造船材料資金ハ貯蓄材料賣拂代金ヲ以テ歳入トシ材料購入代及損失金ヲ以テ歳出トス
- 第二條 造船材料資金ノ歳出ハ實際ノ歳入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支辨スヘシ
- 第三條 歳入歳出ノ豫算決算ハ作業及鐵道會計規則第二章ノ例ニ依ル
- 第四條 收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル但作業事務長ノ職務ハ主計部長之ヲ行フヘシ
- 第五條 貯蓄材料ノ價格ハ總テ購入及改正代價ヲ以テ計算スヘシ
- 第六條 貯蓄材料工場ニ使用スルトキハ購入代價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣拂フヘシ
- 第七條 貯蓄材料ノ損減歩合ハ毎年前々年度ノ損減高ニ基キ之ヲ定ム

現行日本法令大全

第八條 歲出額收入未濟額資金ニ屬スル現金ノ持越高及總材料ノ價格代價支出未收物品ノ價格ヲ以テ受入トシ歲入額支出来濟額資金額賣掛代收入濟材料ノ價格損失ニ歸シタル材料ノ價格及損失金ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ扣除シ過剩アルトキハ造船材料賣掛益金トシテ之ヲ同年度ノ一般ノ歲入ニ納付スヘシ

第九條 材料ノ買入不用材料賣掛ノ規程ハ總テ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十條 出納官吏ニ關スル規則ハ總テ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル但作業所ハ主計部ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 帳簿ニ關スル規則ハ總テ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル但作業所ハ主計部ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ム

第十三條 前條ノ外本規則ニ掲ケル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十四條 本規則ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○在外海軍用地租稅前金拂ノ件

明治二十四年三月 勅令第二十四號

朕在外海軍用地租稅前金拂ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省所管經費中左ノ費目ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得
在外海軍用地租稅

○陸海軍出師準備ノ物品ハ會計検査院法ヲ適用セシム

明治二十三年八月 法律第七十號

陸海軍出師準備ニ屬スル物品検査ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸海軍出師準備ニ屬スル物品ニ對シテハ陸海軍大臣其責ニ任シ會計検査院法ヲ適用スルノ限ニ在ラス

○紙幣交換基金特別會計法

明治二十三年三月 法律第二十四號

朕紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

紙幣交換基金特別會計法

第一條 從來政府ニ於テ發行シタル紙幣ヲ廢止スル爲メ紙幣交換基金ヲ置キ漸次之ヲ交換セシム

第二條 政府所有ノ準備金壹千萬圓ハ之ヲ紙幣交換基金ニ組入ルヘシ

第三條 紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ

第四條 毎年度ニ於テ紙幣交換基金ノ交換未濟トナリシルモノハ漸次之ヲ翌年度ヘ繰越スヘシ

第五條 紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法

明治二十三年三月 法律第二十五號

朕鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法

第一條 國立銀行條例第九十八條ニ於テ定メタル鎖店銀行紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ

第二條 毎年度ニ於テ鎖店銀行紙幣交換基金ノ交換未濟トナリシルモノハ漸次之ヲ翌年度ヘ繰越スヘシ

第三條 鎖店銀行紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規程

明治二十三年四月 勅令第六十八號

朕整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規程ハ左ニ掲ケルモノノ外總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ

第一 大藏大臣ハ毎年公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金ノ歲入歲出豫定計算書ヲ調製シ歲入歲出總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第六類 第一章 各種會計法及會計規則

第八百八十九

第一條 文部省直轄學校及圖書館並農商務省所管東京農林學校ハ資金ヲ所有シ政府ノ支出金資金ヨリ生スル收入授業料寄付金及其他ノ收入ヲ以テ其歲出ニ充ツルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 學校及圖書館ノ資金ハ從來所有スル蓄積金政府ヨリ交付シ若クハ他ヨリ寄付シタル動産不動産及歲入殘餘ヨリ成ルモノトス

○官立學校及圖書館會計法

明治二十三年三月 法律第二十六號

朕官立學校及圖書館會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第六 大藏省ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金會計ノ主計簿ヲ備フヘシ

第二 大藏大臣ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金會計ノ主計簿ヲ備フヘシ

第三 紙幣交換基金ハ仕拂命令ヲ發シテ現金ヲ日本銀行ニ前渡スルコトヲ得此場合ニ於ケル仕拂ノ證明ハ明治二十三年勅令第二十號ニ準據スヘシ

第四 毎年度ニ於テ仕拂命令ヲ發スルハ毎年三月三十一日ヲ限リトス

第五 會計主務官及收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第六 大藏省ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金會計ノ主計簿ヲ備フヘシ

第三條 教員事務員ノ俸給諸給旅費器具器械圖書標本費授業費試驗費生徒ニ關スル諸費事務處費營繕費雜支出其他寄付者ノ指定シタル費途ヲ以テ學校及圖書館ノ歲出トス

第四條 學校及圖書館ノ寄付金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其約束ニ從ヒ之ヲ使用シ其會計ハ別ニ之ヲ整理スヘシ

第五條 政府ハ毎年各學校及圖書館ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 學校及圖書館ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

○官立學校及圖書館會計規則

明治二十三年三月

勅令第五十三號

官立學校及圖書館會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官立學校及圖書館會計規則

第一章 資金

第一條 資金ヲ分テ左ノ二種トス

第一 維持資金

第二 特別資金

維持資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ學校一般ノ經費ニ充ツルモノトス

特別資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其殘餘ハ該資金ノ増殖ニ充ツルモノトス

第二章 歲入歲出

第七條 左ノ諸收入ヲ以テ學校ノ經常歲入トス

第一 政府ノ支出金

第二 授業料及試驗料

第三 寄付金

第四 公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金

第五 土地家屋ノ貸付料

第六 實驗用生産品賣拂代

第七 雜收入

第八條 左ノ諸費ヲ以テ學校ノ經常歲出トス

第一 教員事務員ノ俸給諸給及旅費

第二 學術用器具器械圖書及標本費

第三 授業料及試驗費

第四 獎學費

第二章 資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ

第三條 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但特別資金ニ限リ用途指定者ノ同意ヲ以テ元金ヲ使用スルコトヲ得

第四條 資金ニ屬スル現金ハ總テ預金局ニ寄托スヘシ

第五條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産公債證券其他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産公債證券其他ノ證券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産公債證券其他ノ證券ニ換ヘントスルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ但寄付ニ係ル不動産ハ寄付者ノ承諾ヲ得ルニアラザンハ離權スルコトヲ得ス

第六條 資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歲入歲出トシテ之ヲ整理スヘシ

第五 生徒費

第六 事務所費

第七 營繕費

第八 雜支出

第九條 左ノ諸收入ヲ以テ圖書館ノ經常歲入トス

第一 政府ノ支出金

第二 書籍借覽料

第三 寄附金

第四 公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金

第五 土地家屋ノ貸付料

第六 雜收入

第十條 左ノ諸費ヲ以テ圖書館ノ經常歲出トス

第一 事務員ノ俸給諸給及旅費

第二 圖書費

第三 閱覽室費

第四 事務所費

第五 營繕費

第六 雜支出

第十一條 經常歲入ハ經常歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ臨時ノ歲出ニ充ツル所ノ財源ハ其都度之ヲ定ム

第三章 豫算決算

第十二條 歲入歲出豫算計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十三條 所管大臣ハ其年三月三十一日現在ノ資金明細目錄ヲ調製シ毎年度ノ豫算ニ添付スヘシ

第十四條 歲入歲出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十五條 歲入歲出ノ豫定計算書及決定計算書ハ款項ニ區分シ成ルヘク歲入ノ性質歲出ノ用途ヲ明示スヘシ

第十六條 經費ノ所要ヲ明ニスル爲メ款項ノ金額ヲ細分シタル豫算明細書及決算明細書ヲ調製シ豫定計算書又ハ決定計算書ニ添付スヘシ

第四章 收入支出

第十七條 歲入歲出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣學校長若クハ圖書館長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ

第十八條 學校及圖書館會計主任ノ官吏ハ收入官吏トシテ會計規則第二十五條第二十六條第二十八條若クハ第二十九條ノ手續ニ依リ學校又ハ圖書館ノ收入ヲ取扱ヒ學校長又ハ圖書館長之ヲ監督スヘシ

第十九條 學校長又ハ圖書館長ハ經費ヲ支出スル爲メ仕拂命令官ノ責任ヲ以テ金庫ニ向ヒテ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第二十條 學校長又ハ圖書館長ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラザンハ仕拂請求書ヲ發スルコトヲ得ス

在外國人又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購買ヲ委託スル場合ニ於テハ其委託ヲシタル在外國人又ハ旅行者ヲ請取人トシテ仕拂請求書ヲ發シ概算ヲ以テ現金ヲ交付スルコトヲ得

學術試驗品標本品購入費獎學費生徒費事務所費ニ限リ所管大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證金額ノ二倍ヲ極度トシ學校會計主任ノ管理ニ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得

所管大臣ハ前項ニ依リ現金前渡ヲナスヘキ費目及金額ヲ定メタルトキハ之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第二十一條 學校長又ハ圖書館長ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル
前其支出ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ
又其支出ハ豫算ニ違フコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤
ルコトナキヤヲ調査スヘシ

第二十二條 學校長又ハ圖書館長ハ歲出豫算明細書ニ定メタ
ル費目ノ彼是流用ヲ要スルトキハ所管大臣ノ認可ヲ受シヘ
シ

第二十三條 仕拂請求書ニハ受取人ノ氏名(概算渡現金前渡ノ
場合ニハ受取人ノ資格トモ)仕拂ヲ要スル金額支出科目年度
番號支出ノ目的ヲ記載スヘシ但係給生徒給與ニ限リ集合仕
拂請求書トシテ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ルコトヲ得
第二十四條 學校長又ハ圖書館長ノ發シタル仕拂請求書取扱
ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條第三十八條仕拂命
令取扱ノ例ニ依ル

第二十五條 各年度ノ歲出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ翌
年度四月三十日ヲ限リトス

第二十六條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣
所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又
ハ拒絕スルハ會計規則第四十三條第四十五條第四十六條仕
拂命令取扱ノ例ニ依ル

第二十八條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ
毎月收入報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月五日マテニ所
管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十九條 會計主務官ハ其支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據
リ毎月支出測定報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月五日

マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 年度繰越歲入殘餘

第三十條 毎年度内ニ於テ仕拂フヘキ義務ヲ生シ債主ノ支
出請求ヲキキカ若クハ事故アリテ翌年度四月三十日マテニ
仕拂請求書ヲ發セサルモノ及仕拂請求書ヲ發シタルモ同日
マテニ金庫ニ於テ仕拂請求ヲ受ケサルモノハ支出未濟又ハ
仕拂未濟トシテ翌年度ニ繰越シ計算ヲナスヘシ

第三十一條 工事又ハ製造費ニシテ年度内ニ仕拂義務ヲ生セ
ス仕拂請求書ヲ發スルニ至ラザリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰
越スコトヲ得

第三十二條 所管大臣ハ學校又ハ圖書館ノ經費ヲ繰越サント
スルトキハ年度經過後一箇月以内ニ繰越計算書ヲ作り必要
ノ参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第三十三條 大藏大臣ハ前條繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會
計検査院ニ通知スヘシ

第三十四條 特ニ用途ヲ指定シタル寄付金ニシテ別途整理ヲ
要スルモノ、毎年度内ニ仕拂請求書ヲ發スルニ至ラザリシ
殘額ハ總テ翌年度ニ繰越シ使用スヘシ其仕拂請求書ヲ發シ
テ年度内ニ金庫ニ於テ仕拂ヲ終ラザリシモノハ第三十條仕
拂未濟金整理ノ例ニ依ル但本條ノ支出殘額及仕拂未濟金ハ
寄付者ノ同意ヲ得テ資金トナスコトヲ得

第三十五條 第三十條ニ依リ繰越シタル支出未濟及仕拂未濟
ノ金額ニシテ會計法第十八條ニ依リ期滿免除トナリタルモ
ノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第三十六條 毎年度ノ歲入中仕拂濟額及繰越額ヲ控除シタル
殘餘ハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第六章 工事及物件ノ買賣貸借

第三十七條 工事及物件ノ買賣貸借ニ關スル規則ハ會計規則
第七章ノ例ニ依ル

第七章 出納官吏

第三十八條 出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章ノ例ニ
依ル

第八章 帳簿

第三十九條 大藏省ハ各學校圖書館會計ノ主計簿ヲ備ヘ歲入
ノ豫算額確定額收入濟額收入未濟額歲出ノ豫算額確定額支
出濟額支出未濟額ヲ登記スヘシ

第四十條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額確定額收
入濟額收入未濟額ヲ登記スヘシ

第四十一條 會計主務官ハ支出簿ヲ備ヘ歲出ノ豫算額確定額
支出測定濟額支出測定未濟額ヲ登記スヘシ

第四十二條 會計主任ノ官吏ハ現金出納簿ヲ備ヘ一切其取扱
タル現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第九章 雜則

第四十三條 本規則ニ依リ出納官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル
所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十四條 前條ノ外本規則ニ掲ケル諸書類帳簿ノ様式ハ大
藏大臣之ヲ定ムヘシ

第四十五條 所管大臣ハ部下ノ高等官ヲ以テ學校會計監理官
トシ學校ノ會計ヲ監督セシムヘシ

第四十六條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ
施行ス

本規則ト抵觸スル命令ハ總テ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○中央備荒儲蓄金預金局預金郵便

貯金郵便爲替金特別會計

明治二十三年三月
法律第二十一號

朕中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金特
別會計ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 中央備荒儲蓄金、預金局預金、郵便貯金預所貯金、郵
便爲替金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ

第二條 中央備荒儲蓄金ハ預金局ニ寄托シ其利子ハ之ヲ元金
ニ編入スヘシ

第三條 備荒儲蓄法ニ依リ中央備荒儲蓄金ヲ使用セントスル
トキハ其金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ之ヲ
拂出スヘシ

第四條 預金局預金ハ日本銀行ヲシテ之レカ運用利殖ヲ取扱
ハシメ其利殖金ヲ以テ利子ノ仕拂ニ充テ殘餘アルトキハ利
子仕拂元金トシテ之ヲ積立預金ト共ニ運用利殖スヘシ

第五條 預金局預金ニ對シテ政府ヨリ仕拂フヘキ利子ハ其金
額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第六條 郵便貯金預所貯金ハ預金局ニ寄托シ其利子ヲ貯金利
子ノ仕拂ニ充ツヘシ

第七條 郵便爲替ヲ取扱フ爲メ特ニ爲替資本ヲ置キ從來ノ資
本額ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第八條 郵便條例第四百七十七條第三項ニ依リ政府ノ所得ニ歸
シタル郵便爲替金ハ一般ノ歲入ニ組入ルヘシ

第九條 預金局預金、郵便貯金預所貯金、郵便爲替金ノ收入支

出ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但勅令ヲ以テ之ヲ定ムルマテハ從前施行スル所ノ規程ニ依ルヘシ
第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○中央備荒儲蓄金會計規則

明治二十三年五月
勅令第七十七號

朕中央備荒儲蓄金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央備荒儲蓄金會計規則

- 第一條 左ノ諸收入ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳入トス
 - 第一 預金利息
 - 第二 米穀賣掛代
 - 第三 雜收入
- 第二條 左ノ諸支出ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳出トス
 - 第一 府縣備荒儲蓄金補助
 - 第二 米穀購入代
 - 第三 米穀運送費
 - 第四 糶摺及搗糶費
 - 第五 米穀保存及取扱費
 - 第六 藏敷料及諸手續料
- 第三條 歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ大藏大臣之ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ
- 第四條 大藏大臣ハ其年三月三十一日現在ノ中央備荒儲蓄金高明細表ヲ調製シ毎年度ノ豫定計算書ニ添付スヘシ
- 第五條 收入官吏ハ歳入ヲ收納スルトキハ中央備荒儲蓄金ノ

寄託トシテ直ニ之ヲ預金局ニ拂込ヘシ

- 第六條 大藏大臣ハ府縣ノ備荒儲蓄金補助トシテ中央備荒儲蓄金ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ預金局ニ下シテ寄託金ヲ支出セシメ之ヲ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ
- 第七條 大藏大臣ハ米穀ノ賣買保存ニ關スル費用ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ預金局ニ下シテ寄託金ヲ支出シ之ヲ主任官吏ニ交付セシメ主任官吏ヲシテ執行セシムヘシ
- 第八條 毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ收入未濟トシテ順次翌年度ヘ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ
- 第九條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ支出ノ請求ナキモノハ支出未濟トシテ其定額ヲ順次翌年度ヘ繰越シ支出ノ請求アル毎ニ仕拂ノ命令ヲ發スヘシ
- 第十條 米穀ヲ購入スルニ當リ臨時急施ヲ要スルトキハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得
- 第十一條 入札ノ方法ヲ以テ米穀ヲ賣却スルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ三日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ
- 第十二條 收入官吏仕拂官吏及物品會計官吏ヨリ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送附スルハ毎年度經過後二箇月以内トス
- 第十三條 本規則ニ掲ケサル中央備荒儲蓄金會計ノ規定ハ總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ

○豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約

明治二十五年六月二日
公布

現行日本法令大全

現行日本法令大全

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件

- 第一條 東京砲兵工廠ニ於テ新ニ外國人ヲ傭入シ明治二十五年年度本邦到著ノ日ヨリ向三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額五百圓手當月額百圓馬飼料月額拾貳圓ヲ支給スルノ契約ヲ結ビ且滿期解僱年度ニ於テ歸國旅費千圓ヲ支給スルコトヲ得
- 第二條 海軍被服ニ係ル費額五萬圓迄ヲ限リ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得
- 第三條 海軍艦營需品ニ係ル費額五萬圓迄ヲ限リ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得
- 第四條 海軍兵器彈藥及水雷ニ屬スル費額八萬圓迄ヲ限リ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得
- 第五條 海軍造船及修理ニ要スル費額五萬圓迄ヲ限リ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得

第六

農商務省ニ於テ外國人ノ滿期ニヨリ更ニ傭續キ明治二十五年十一月十六日以降滿二箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額參百五拾圓ヲ支給シ且家具ヲ傭ヘサル家屋一戸ヲ貸與スルノ契約ヲ結ビ而シテ滿期解僱年度ニ於テ歸國旅費六百圓ヲ支給スルコトヲ得

第七

度量衡副原器及度量衡器具製造費壹萬參千五百參拾參圓五拾壹錢ハ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得

第八

橫須賀鎮守府ニ於テ特別會計ノ經濟ニ係ル造船材料資金ヲ以テ該造船事業ニ使用スル材料ノ購買ヲ要ス依テ金貳拾壹萬圓迄ヲ限リ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得

第九

吳鎮守府ニ於テ特別會計ノ經濟ニ係ル造船材料資金ヲ以テ該造船事業ニ使用スル材料ノ購買ヲ要ス依テ金六萬八千圓迄ヲ限リ明治二十六年年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキノ契約ヲ明治二十五年年度ニ於テ結フコトヲ得

第十

帝國大學ニ於テ外國人教師八名滿期ニヨリ更ニ傭續キ若クハ代價ヲ傭入シ左ノ契約ヲ結フコトヲ得
一 壹名ハ明治二十五年年度(契約ニ定)ヨリ同二十八年七月十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額參百五拾圓ヲ支給シ滿期解僱年度ニ於テ歸國旅費六百五拾圓ヲ支給ス

一 貳名ハ明治二十五年(契約ニ定)ヨリ同二十九年七月十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額參百七拾圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五拾圓ヲ支給ス

一 壹名ハ明治二十五年九月十一日ヨリ同二十八年九月十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額四百八拾圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五拾圓ヲ支給ス

一 壹名ハ明治二十五年(契約ニ定)ヨリ向フ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額四百圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五拾圓ヲ支給ス

一 壹名ハ明治二十五年(契約ニ定)ヨリ向フ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額五百圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五拾圓ヲ支給ス

一 壹名ハ明治二十五年(契約ニ定)ヨリ向フ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額五百圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費四百五拾圓ヲ支給ス

一 壹名ハ明治二十六年八月一日ヨリ同二十八年七月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額參百五拾圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百五拾圓ヲ支給ス

一 壹名ハ明治二十五年(契約ニ定)ヨリ向フ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百圓ヲ支給ス

一 壹名ハ明治二十五年(契約ニ定)ヨリ向フ三箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額參百圓ヲ支給シ滿期解備年度ニ於テ歸國旅費六百圓ヲ支給ス

ヲ以テ俸給月額百七拾五圓ヲ支給ス

第十二

第一高等中學校ニ於テ備外國人教師五名滿期ニヨリ更ニ備繼キ左ノ契約ヲ結フコトヲ得

一 四名ハ明治二十五年七月十一日ヨリ同二十七年九月十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額貳百圓ヲ支給ス

一 壹名ハ明治二十五年九月九日ヨリ同二十六年九月八日マテノ期限ヲ以テ俸給月額百五拾圓ヲ支給ス

第十三

第二高等中學校ニ於テ備外國人教師壹名滿期ニヨリ代員ヲ備入レ明治二十五年九月一日ヨリ同二十七年八月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額貳百圓借家料月額貳拾圓ヲ支給シ且滿期解備年度ニ於テ旅費百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結ビ又授業上ノ必要アルニヨリ新ニ外國人教師壹名ヲ備入レ明治二十五年(契約ニ定)ヨリ向フ二箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額百五拾圓借家料月額拾五圓ヲ支給シ且滿期解備年度ニ於テ旅費百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十四

第三高等中學校ニ於テ備外國人貳名滿期ニヨリ壹名ハ更ニ備繼キ明治二十五年八月四日ヨリ同二十七年八月三日マテノ期限ヲ以テ俸給月額貳百圓ヲ支給シ又一名ハ代員ヲ備入レ明治二十五年九月一日ヨリ同二十七年八月三十一日マテノ期限ヲ以テ俸給月額貳百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十五

第四高等中學校ニ於テ備外國人教師滿期ニヨリ更ニ備繼キ明治二十五年七月二十一日ヨリ同二十六年七月二十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額百七拾五圓ヲ支給ス

限ヲ以テ俸給月額百五拾圓ヲ支給スルノ契約ヲ結ビ且滿期解備年度ニ於テ旅費五拾圓八拾錢ヲ支給スルコトヲ得

第十六

第五高等中學校ニ於テ備外國人滿期ニヨリ更ニ備繼キ明治二十五年(契約ニ定)ヨリ向フ一箇年ノ期限ヲ以テ俸給月額貳百圓ヲ支給スルノ契約ヲ結フコトヲ得

第十七

鹿兒島高等中學校造士館ニ於テ備外國人滿期ニヨリ代員ヲ備入レ明治二十五年九月一日ヨリ同二十七年六月三十日マテノ期限ヲ以テ俸給月額百五拾圓ヲ支給スルノ契約ヲ結ビ且滿期解備年度ニ於テ歸國旅費三百圓ヲ支給スルコトヲ得

○仕拂命令委任規程 明治二十二年七月 勅令第八十九號

朕仕拂命令委任規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

仕拂命令委任規程

第一條 各省大臣ハ他ノ官吏ニ委任シテ其所管定額ノ仕拂命令ヲ發シシムルトキハ會計規則第十一條ニ據リ仕拂豫算額ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第二條 委任ヲ受タル仕拂命令官ハ其發シタル仕拂命令ニ付責任ヲ有ス

○國債ニ關スル仕拂及收入金決算方 明治二十二年三月 勅令第二十號

朕國債ニ關スル仕拂及收入金決算ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 會計法第十五條第二項ニ依リ國債元利金仕拂ノ爲メ銀行ニ現金ノ前渡ヲ爲シタルトキハ會計規則第九十八條ニ準シ銀行ヲシテ其仕拂ヲ會計検査院ニ證明セシムヘシ

第二條 法律命令ニ依リ日本銀行ヲシテ國債ノ募集又ハ借入ヲ取扱ハシムルトキハ日本銀行ハ大藏大臣定ムル所ノ期限ニ出納ノ計算書ヲ製シ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第三條 大藏省國債局長ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

○在外公館經費中前金拂ノ費目 明治二十三年三月 勅令第三十二號

朕在外公館經費中前金拂ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

在外公館經費中左ノ費目ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

租 稅 區費其他雜稅 公館借料

○貨幣鑄造ノ地金買入方 明治二十三年六月 勅令第四號

朕貨幣鑄造ニ要スル地金買入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣鑄造ニ要スル地金銀銅白銅ノ買入ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム此場合ニ於テハ競争ニ付セサルコトヲ得

第二章 各種官有財產管理規則

○官有財產管理規則

明治二十三年十一月 勅令第二百七十五號

朕官有財產管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有財產管理規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ官有財產ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス
- 第二條 官有財產ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス
- 第三條 官有財產ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ依ルヘシ
- 第四條 官有財產賣拂代金ハ其ノ財產引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ
- 第五條 官有財產ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公益ノ爲官有財產ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル
- 第六條 官有財產ノ貸付料ハ毎年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ
- 貸付財產ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ
- 第七條 官有財產ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス
 - 第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内
 - 第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内
 - 第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内
 - 第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内

第八條 官有財產ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 官有財產ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得ズシテ其ノ財產ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財產ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラザレバ其ノ財產ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財產ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財產ニシテ少クモ評定價格相均キモノニ限ル

第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ內務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得但シ官林內若ハ官廳使用地內ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財產保護上難キモノハ此ノ限ニアラス

○帝國議會用官有財產事務學理方

財產ハ調査テ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ
第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

第一條 帝國議會ノ用ニ供スル官有財產ニ關スル行政事務ハ各院書記官長之ヲ掌ル
第二條 前條事務ノ指揮監督ハ內務大臣之ヲ行フ

○官有地特別處分規則
朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得
 - 一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ストキ
 - 二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タス其評定價格二百圓以内ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡ストキ但シ留人二名以上アルトキハ此限ニアラス
 - 三 鐵山ニ於ケル礦物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又

第十四條 官有財產ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財產ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ク又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財產ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

第十六條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財產ノ增減異動報告ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財產ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價
- 第二 賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格
- 第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格
- 第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財產
- 第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件
- 第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲ケル官有財產ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高クテ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未済ノ官有

ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附
隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ
貸渡又ハ賣渡ストキ

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設ス
ルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續
キ貸渡ストキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公
共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノ
トス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル
官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スル
トキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者
ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣
拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス
第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適
用セス

○官有地賣渡貸渡方

明治二十三年十月
內務省訓令第百三十七號

本年勅令第百三十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地ヲ賣
渡シ又ハ貸渡シントスルトキハ其應ニ於テ便宜評價委員ヲ設
ク其地價又ハ貸渡料ヲ評定セシム可シ其繼續シテ貸渡ス場合
ニ於テモ亦同シ但最前貸渡ノ際豫メ地價ヲ定メ開墾成功ノ上
賣渡スコトヲ許シタルモノハ此限ニアラス
前項賣渡貸渡ニシテ從來經何ヲ要セシ分ハ評價書ヲ作り願人
ノ申立金額アレハ其金額ヲモ記載シ圖面ヲ添ヘ本大臣ニ具申
スヘシ

○官有地取扱規則

明治二十三年十一月
勅令第百七十六號

官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
官有地取扱規則

第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ內務大臣之ヲ處理ス
第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收
入ノ徵收及收納並訴訟ハ內務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱
ハシム

第三條 各應ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ內務大臣
ニ請求スヘシ

第四條 各應ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ內務大臣ニ還付
スヘシ

第五條 甲乙兩應ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルト
キハ內務大臣其手續ヲ爲スヘシ

第六條 各應ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモ
ノアルトキハ內務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 官有地ヲ開墾セントスルコトヲ請フモノアルトキハ無料ニ
テ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下
ケントスルトキハ豫メ契約ニ依リ其代價ヲ定メ置クヘシ

第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格相均シ
キモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初
借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス
借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ
生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ
借地滿期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特
ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタル
ニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆
ノ妨害トナラサル限リハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニ
テ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サント
コトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限リ之
ヲ許スコトヲ得

第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ
本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂
讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方
長官其評價ヲ爲サシムヘシ

既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付
シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノ
ハ官有財産管理規則ニ依ル

第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林
原野ニ適用セス

第十七條 官有地敷帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

○官ニ屬スル公有水面埋立ノ出願

明治二十三年十月
內務省訓令第百三十六號

免許方

第一條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立ケントスルコトヲ出願スル者ア
ルトキハ關係市町村會ノ意見ヲ聞キ然後技術者ヲシテ調査
セシメ第二條以下ニ規定シタル命令書ヲ下付シテ之ヲ免許
ス可シ

第二條 公有水面埋立ノ命令書ニハ左ノ條項ヲ記載ス可シ
一 出願人ノ住所姓名
一 埋立ノ位置並區域
一 埋立ノ目的
一 著手ノ期限
一 成功ノ期限

一 既ニ免許ヲ與ヘタル後ト雖モ其成功ノ認可ヲ與フルマ
テノ間ハ公害ヲ生シ若クハ之ヲ發見スルトキハ地方長
官ハ何時ニテモ無償ニテ命令書ノ條項ヲ改メ得ルコト
一 著手ノ期限ニ至テ著手セス成功ノ期限ニ至テ成功セス
其他命令ノ條項ニ從ハサルモノハ免許ノ効ヲ失ヒ且障
害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルコトアラハ出願人ノ費用ヲ
以テ之ヲ除カシメ又ハ豫防セシムルコト

一 免許權ハ官許ヲ受クルニ非サレハ擔保貸付ニ供シ又ハ
他ニ移スコトヲ得サルコト

一 天災事變ノ爲メニ期限内ニ著手若クハ成功シ難キ事情
アルモノハ其事由ノ止ミタル後二箇月内ニ出願スルニ
於テハ相當ノ延期ヲ與フルコト

第三條 通船ノ便利用惡水ノ疏通ヲ保護スル等埋立ノ地位ト
季節トニヨリテ公益上制限ヲ加フルノ必要アルモノハ精細
ニ其仕様ヲ命令書中ニ記載ス可シ

第四條 埋立成功ノ後其地所ノ道路溝渠物揚場等公共ノ用ニ供ス可キ分ハ無償ニテ官有トナス可シ其他ハ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

第五條 大土工ニハ埋立方法書ノ外精密ナル設計書ト圖面ヲ造ラシメ之ヲ命令書ニ附屬ス可シ本條ノ場合ニ於テハ埋立ノ區域ヲ數區ニ分テ著手及成功ノ期限ヲ異ニシ殘工事ノ成功ニ妨クナク且公益ニ害ナキ限リハ其成功スル毎ニ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

第六條 公有水面ヲ變シテ出願人ノ所有トナシタル後公害アルコトヲ發見スルトキハ時價ヲ以テ買收スルカ又ハ收用スルニ非サレハ回復スルコトヲ得

第七條 舊慣ニヨリテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムノ外公有ノ水面ヲ其儘使用セシメトテ出願スルモノアルトキハ前條々ノ例ニ準シ命令書ヲ下付シテ之ヲ免許ス可シ但本條ノ場合ニ於テハ相當ノ料金ヲ國庫ニ納メシム可シ

第八條 官ニ屬スル私有水面ノ埋立ハ第一條ノ手續ヲナシタル後一般ノ官有地賣貸ニ關スル規則ニ隨ヒ其地ヲ賣却又ハ貸與シテ之ヲ埋立シム可シ其使用ハ一般貸地ノ手續ニ依ル可シ

第九條 水上ノ取締ニ關スル規則ニヨリテ公有水面ノ使用ヲ許スノ類ハ命令書ヲ下付スルニ及ハス又使用料ヲ納メシムルニ及ハス公共ノ障礙ナキニ於テハ無料使用ヲ許スコトヲ得

第十條 何ノ場合ニ於テモ使用料額ハ五箇年ヲ期シテ定ム

可シ

第十一條 凡ソ一箇所ノ場所ヲ二人以上同時ニ埋立又ハ使用セシメトテ出願スル者アルトキハ共ニ內務大臣ニ稟議シテ其指令ヲ乞フ可シ

第十二條 公有水面ノ埋立ハ公益上必要アルモノ並特別ノ理由アルモノ、外五箇年內ニ成功シ難キ廣キ場所ヲ一手ニ免許スルコトヲ得

第十三條 公有水面ノ埋立使用ハ從來特ニ委任セシモノ及第九條ヲ除クノ外總テ意見ヲ具シ地圖ヲ添ヘ本大臣ニ稟議シテ後處分スヘシ其本大臣ノ指令ヲ得テ下付シタル命令書、設計書、圖面ハ亦本大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ變更スルコトヲ得

○官用地貸渡方 明治十六年三月 內務省達乙第百十二號

官用地ハ貸渡サ、ル制規ノ處木材運漕ニ際シ不測ノ天災ヲ被ラントスル掛念有之場合ニ當リ不得己人民ヨリ官材貯場ノ間地ヲ借用セント出願スルトキハ其現場ノ都合ニヨリ一時應變ノ執計ヲ以テ相當ノ期限及ヒ料金ヲ定メ所用應ヨリ貸渡シ可相成儀モ有之候條此旨可相心得但其料金ハ成規之通大藏省ヘ上納スヘシ

○官有土地水面ニ關スル委任條件 明治二十四年七月 內務省訓令第四百四號

第一條 官有土地水面ニ關スル處分ノ内左ニ掲グルモノハ之ヲ委任ス但處分ノ後內務報告例ニ依リ報告スヘシ

一 官有堤塘道路並木敷港灣河川溝渠溜池用惡水路等ノ新

一 設修繕ニ際シ官有土地水面ヲ其敷地ニ充用スル事

二 北海道ニ於テ警察署郡區役所戶長役場及官立學校病院等ノ敷地ニ官有土地ヲ充用スル事

三 直接公用ニ供シタル官有土地水面ヲ相當ノ料金ヲ徵シ季節ヲ限リ一時ノ使用ヲ許シ並從前既ニ許可シタルモノ、繼續使用ヲ許ス事

四 明治二十三年七月勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第二條ニ依リ官有土地水面ノ使用ヲ許ス事

五 直接公用ニ供セサル五町歩以下ノ官有土地水面ヲ相當ノ料金ヲ徵シ貸付スル事

六 府縣ニ於テ五町歩以下ノ官有土地ヲ明治二十三年十一月勅令第二百七十六號官有地取扱規則第七條ニ依リ貸付スル事

七 直接公用ニ供セサル官有土地水面市街ニ在テハ百五十坪以下村落ニ在テハ三段歩以下ノ箇所ヲ賣却スル事

八 府縣ニ於テ豫約代價ヲ以テ開墾既成ノ土地ヲ賣却スル事

九 明治二十三年七月勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第三條並同年十一月勅令第二百七十五號官有財產管理規則第十二條及第十三條ニ依リ一段歩以下ノ官有土地水面ヲ讓與スル事

十 明治二十三年十月當省訓令第三十六號ニ依リ直接公用ニ供シタル官有水面一町歩以下ヲ埋立ツル事並同上ノ訓令ニ依リ埋立成功ノ後其土地ヲ處分スル事

十一 官有土地水面ニ屬スル土石砂利並水陸ノ生産物ヲ賣却スル事

十二 官有土地ニ屬スル枯損障害又ハ測量ニ支障アル竹木

ヲ伐採シ及處分スル事並盜伐誤伐ニ係ル竹木處分ノ事

十三 天災事變ニ際シ公益ノ爲メ必要已ムコトヲ得サル場合ニ於テ官有土地ニ屬スル竹木ヲ伐採シ及處分スル事

十四 各廳ノ所用ニ供スルモノヲ除ク外民有土地ノ寄付ヲ受納シ並民有土地ノ土地ヲ許可スル事

十五 前各項ノ處分其他官廳ノ處分又ハ形質ノ變更所用ノ廢改等ニ基キ官民有土地水面ノ種目ヲ變換スル事但皇宮地及各廳ノ所用地ニ關スルトキハ此限ニテアラス

第二條 前條ノ官有土地水面ニシテ當省直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川及國道港灣河口ニ關係アルモノハ先ツ土木監督署ニ協議シテ本大臣ニ稟議スヘシ

官國幣社延喜式內國史現在神社境內ニ關係アルモノモ亦本大臣ニ稟議スヘシ

第三條 明治八年五月當省達乙第六十五號第一項及第二項並同年六月當省達乙第二十九號同十七年二月當省達乙第十號ハ之ヲ廢止ス

○外國公使館敷地貸渡ノ特別處分 明治二十四年七月 勅令第七十五號

除外國公使館敷地ノ爲官有地ヲ貸渡ス場合ニ競争ヲ要セサル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國公使館敷地トシテ官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テハ競争ニ附セス隨意ニ約スルコトヲ得

○官有地拂下貸下取扱方ヲ定ム

明治十八年六月
内務省達第廿二號

官有地拂下并ニ貸下之儀左ノ通相定メ明治九年三月内務省乙第三十四號達ハ廢止ス此旨相違候事

一凡ソ官有地ヲ年賦月賦又ハ延納ニテ拂下タルモノ其代金未
完納中ハ抵當トシテ其地券ヲ官廳ヘ差出サシムヘシ若シ之
ヲ差出サ、ルモノハ地所拂下ノ効ヲ失フモノトス
一凡ソ官有地ノ拂下代金ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其拂下
ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ既納ノ代金アルモノハ之ヲ下戻
シ地所ハ現形ノ儘返上セシメ之ヲ爲メ金利賠償等ヲ下付ス
ルコトナカルヘシ
一凡ソ官用地ノ借地料ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其貸下ヲ
取消スヘシ此場合ニ於テハ假令如何ナル勞費アルモ其償ヲ
下付スルコトナカルヘシ
一凡ソ官有地借用ノ許可ヲ得タル者ハ其當初出願ノ目的ニ隨
テ之ヲ使用スルコトヲ得ルト雖トモ他人ヘ書入又ハ賃入ヲ
爲スコトヲ得サル者トス但兼賃ハ官ノ許可ヲ得ルニ於テハ
之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

○官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等拂下
貸下禁止

明治十八年十二月
内務省達第廿六號

官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等ハ自今拂下又ハ貸下ヲ爲スコト
ヲ許サス從前既ニ貸下ケタルモノハ當期ヲ限り返地セシム可
シ但物揚場等公益ニ使用スルモノ及熟田畑ハ貸下クルコト
ヲ得ルト雖トモ治水ニ妨害アル構造ヲ爲シ又ハ樹竹ヲ栽培セ

シム可カラサル儀ト心得可シ此旨相違候事

○北海道土地拂下規則ヲ定ム

明治十九年六月
閣令第十六號

北海道土地拂下規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

北海道土地拂下規則

第一條 北海道官有未開ノ土地ハ本則ニ依リ北海道廳ニ於テ
之ヲ拂下クヘシ
第二條 土地拂下ノ面積ハ一八十萬坪ヲ限リトス但盛大ノ事
業ニシテ此制限外ノ土地ヲ要シ其目的確實ナリト認ムルモ
ノアルトキハ特ニ其拂下ヲ爲スコトアルヘシ
第三條 土地ノ拂下ヲ請ハントスル者ハ其書面ニ地名坪數並
事業ノ目的著手ノ順序及成功ノ程度ヲ詳悉シ先ツ其土地ノ
貸下ヲ北海道廳ニ願出ヘシ但耕宅地ニ爲サントスル者ハ其
坪數ヲ毎年ニ配當シ其成功期限ヲ詳記スヘシ
北海道廳ニ於テ其方法確實ナリト認ムルトキハ其土地ヲ貸
下クヘシ但借地料ヲ徵收セス
第四條 貸下期限ハ十年以内トシ土地ノ景況ト事業ノ難易ト
ニ依リ之ヲ定ム但牧場ハ貸下年期ノ滿限ニ際シ更ニ貸下延
期ヲ必要トスルトキハ其願ニ依テ之ヲ許可スルコトアルヘ
シ
第五條 耕宅地ハ毎年其配當坪數ノ成功ヲ點檢シ又海産乾場
及牧場ハ隨時其事業ノ現況ヲ點檢スヘシ
第六條 耕宅地ハ其年配當ノ事業成ラサルトキハ其成功シタ
ル土地ヲ除キ其他ハ總テ返納セシメ海産乾場及牧場ハ第三

○官有森林原野及產物特別處分規則

明治二十三年四月
勅令第六十九號

北海道官有未開ノ土地拂下貸下ニ關シテハ從前ノ規則ニ依リ
シメ會計法第二十四條ニ規定スル競争ノ方法ヲ用ヒス

官有森林原野及產物特別處分規則
第一條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有森林原野及其產物
ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣却スルコトヲ
得

- 一 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若ク
ハ賣渡シ及其建築材料ヲ賣渡ストキ
- 二 開墾若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡ス
トキ
- 三 鐵業ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料又ハ薪炭
材ヲ賣渡ストキ
- 四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ
- 五 非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡
ストキ
- 六 從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草稜小柴若
クハ土石ヲ賣渡ストキ
- 七 部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ
- 八 社寺建築營繕ノ爲メ該社寺土地ノ木材若クハ土石ヲ賣

條願出書ノ如ク成ラサルトキハ惡習之ヲ返納セシムヘシ
天災地變其他避クヘカラサル事故アリテ成功セサルトキハ
北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ

第七條 貸下地ヲ返納セシメタルトキハ其地内ノ樹木ニシテ
既ニ伐採シタルモノアレンハ相當ノ樹木代價ヲ納メシムヘシ
第八條 貸下地ハ公益ノ爲メ必要アルトキハ其期限中ト雖モ
之ヲ返納セシムルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其事業ノ
爲メ既ニ費シタル費用ハ之ヲ辨償スルモノトス
第九條 貸下地ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス若シ不得已事故ア
リテ讓渡サントスルトキハ讓渡人讓受人連署ノ上北海道廳
ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ但讓受ケタル土地ノ貸下期限ハ
更ニ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第十條 素地代價ハ千坪ニ付キ金壹圓トシ成功ノ後拂下クヘ
シ但其土地ハ拂下ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニアラサレハ地
租及地方稅ヲ課セス(二十二年六月廿八日閣令)
第十一條 本規則施行手續ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十二條 (二十三年十二月四日閣令)
第十三條 明治五年第三百四號公布北海道土地賣渡規則明治
七年開拓使第四號布達明治十一年開拓使甲第四號布達ヲ廢
止ス

○北海道官有未開ノ土地拂下貸下方

明治二十三年三月
勅令第五十五號

朕北海道官有未開ノ土地拂下貸下ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム

九 地押調査ニ由リ發見シタル開墾地ヲ其開墾人ニ賣渡ス
トキ
十 建築其他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ
之ヲ其發見人ニ賣渡ストキ
十一 季節アル生産物ヲ賣拂フトキ
十二 開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區
域内ニアル産物ヲ其借受人ニ賣拂フトキ
十三 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ
産物ヲ賣渡ストキ
十四 部分方法ニ由リ林産物製造ノ爲メ其原料ヲ請負人ニ
賣渡ストキ
十五 見積借地料一箇年金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ヲ貸
渡ストキ
十六 拾町歩以下ニシテ見積代價金貳百圓ニ超ヘサル森林
原野ノ民有地又ハ道路河川ニ介在セルモノヲ接續地
ノ所有者ハ賣拂フトキ
十七 見積代價金貳百圓ニ超ヘサル主副産物ヲ賣拂フトキ
(二十四年十月勅令第二
百二號ヲ以テ本項改正)
(二十四年十月勅令第二
百二號ヲ以テ本項改正)
河海沼湖濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣渡ストキ
(二十四
年十月勅令第二
百二號ヲ以テ追加)
第二條 農商務大臣ハ競争入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ
違ヒス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫
定價格ヨリ低カサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者
アルトキハ隨意之ヲ賣拂フトキ得
第三條 農商務大臣ハ相當ノ年限ヲ定メ社寺上地官林ノ全部

又ハ幾分テ該社寺ニ委託シ其林地ノ使用ヲ許可シ又ハ其林
地ノ産物ヲ下附スルコトヲ得(二十三年十二月勅令第二
百八十三號ヲ以テ本條追加)
第四條 農商務大臣ハ社寺上地官林又ハ特別ノ緣故アル官有
森林原野ニシテ存置ヲ要セスト認メタルモノハ其社寺又ハ
其緣故アル者ニ限り隨意ノ契約ヲ以テ賣渡ストキ得(二十
四年六月勅令第六十六
號ヲ以テ本條追加)
第五條 農商務大臣ハ森林保護ノ爲メ必要ト認ムルトキハ制
限ヲ付シ地元人民ニ森林ノ副産物ヲ無料ニテ採取セシムル
コトヲ得
第六條 農商務大臣ハ森林手入ノ爲メ採取シタル産物ノ全部
又ハ一部ヲ手入料トシテ下付スルコトヲ得(二十四年十月勅令第
二百二十號ヲ以テ第
五條追加)

○官有森林原野及産物特別處分規則
ニ據リ隨意契約ニテ原野ヲ賣渡ス
トキ準據條項

明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及産物特別處分規
則第一條第二項ニ據リ隨意契約ヲ以テ原野ヲ賣渡ストキハ左
ノ條項ニ準據ス可シ
第一條 原野賣渡願書ハ地方長官宛ニテ地元町村長ヲ經由シ
所轄官廳ニ差出サシム可シ其願書ニハ賣渡出願ニ係ル原野
所在ノ國郡町村字名地名目段別素地相當代價ヲ記載シ且事業
方法書收支豫算書及實測圖ヲ添付セシムルヲ要ス
第二條 前條ニ據リ願書ヲ差出シタル者アルトキハ地方長官
ハ其願書ニ意見ヲ附シ事業方法書收支豫算書及實測圖ヲ添
ヘ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ其出願ニ係ル原野ノ段別五町歩

已下ニシテ其地上ノ産物見積代金三拾圓ヲ超エサルトキハ
之ヲ專決スルコトヲ得(十五年七月農商務省訓
令第十號ヲ以テ改正)
第三條 原野賣渡願書ハ總テ書留郵便ヲ以テ之ヲ差出サシメ
若シ二人已上同地ニ付テ出願シタルトキハ地方長官ハ願書
發送時日ノ前後ヲ取調ヘ意見ヲ附シ本大臣ノ指揮ヲ請ク可
シ
第四條 原野ノ賣渡ハ總テ豫約ノ方法ニ據リ代價ヲ納付シタ
ル後ニアラザラハ其所有權ヲ拂受人ニ移轉セシメサルモノ
トス其代價ハ事業成功ノ後拂受人又ハ保證人ヲシテ所轄官
廳ニ納付セシム可シ
但事業成功ノ部分ニ對スル所有權ハ拂受人ノ請求ニ依リ其
部分ニ相當スル代價ヲ納付セシメタル上之ヲ拂受人ニ移轉
セシムルコトヲ得
第五條 賣渡ノ豫約ヲナスヘキ原野ノ段別ハ四百町歩已内ト
ス
但土地ノ區域又ハ事業ノ方法ニ依リテハ特ニ此制限ノ超
過ヲ許可スルコトアルヘシ
第六條 事業ノ成功期限ハ十五年已内ニ於テ之ヲ定メシメ若
シ天災其他止ムヲ得サル事由ニ依リ中途拂受人ニ於テ豫定
ノ事業方法又ハ成功期限ノ變更ヲ要スルコトアルトキハ地
方長官ハ其拂受人ヲシテ更ニ事業方法書及收支豫算書ヲ添
ヘ願書ヲ差出サシメ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ
第七條 賣渡ノ豫約ヲシタル土地ノ使用料等ハ總テ之ヲ徵
收セサルモノトス
第八條 左ニ記載スル條項ハ拂受人ヲシテ之ヲ遵守セシム可
シ

一 賣渡豫約ニ係ル土地ハ所轄官廳ノ許可ヲ得シテ之ヲ
他人ニ貸渡スヲ得サルコト
二 賣渡豫約土地ニ對スル負擔及其土地ヨリ生スル損害ニ
就テハ拂受人其責ニ任ス可キコト
三 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ滿六箇月已内ニ豫定ノ
方法ニ從ヒ事業ニ着手ス可キコト
四 拂受人ハ前年ニ於ケル事業ノ工程ヲ翌年一月中ニ所轄
官廳ニ報告ス可キコト
五 拂受人ニ於テ事業ニ著手シ及ヒ事業ノ成功シタルトキ
ハ十日已内ニ所轄官廳ニ報告ス可キコト
六 賣渡豫約土地内ニ在ル木竹其他指定メタル物件ハ拂受
人ハ特別ノ契約ヲナスニアラザラハ拂受人ニ於テ之ヲ
採取シ若クハ使用ス可カラサルコト
七 地方長官ニ於テ官吏ヲ派遣シ事業ノ進否及方法ヲ検査
セシムルトキハ之ヲ拒ムヲ得サルコト
八 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ十日已内ニ標杭ヲ境界
ニ建設ス可キコト
九 事業ハ必ス豫定ノ方法書ニ依テ之ヲ爲ス可キコト
第九條 拂受人第八條ニ記載スル事項ヲ遵守セス又ハ成功期
限ニ至リ事業成功セサルトキハ豫定通過成功セル部分ニシテ
相當ノ代價ヲ納付シタルモノハ之ヲ除キ其他ハ所轄官廳ニ
返還セシムヘシ
前項ノ場合ニ於テ返還地ニ係ル勞費ハ官廳ニ於テ之ヲ償償
セス又返還地ニ在ル植物建物等ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ取
拂ハシムヘシ
第十條 從前開墾牧畜ノ爲メ原野賣渡豫約ヲシタルモノニ

第六類 第二章 各種官有財產管理規則

九百八

シテ既定ノ契約ナキ事項ハ更ニ此規定ニ據リ取扱フ可シ

○官有土地森林原野收入金徵收規程

明治二十四年三月

農商務省訓令第十一號

官有土地森林原野收入金徵收規程左ノ通相定メ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

但明治十九年八農商務省訓令第十三號大森區署ハ農商務省訓令第二六五號ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

官有土地森林原野收入金徵收規程

- 第一條 官有土地森林原野ヨリ生ズル諸收入金ハ此規程ニ依リ徵收ス
- 第二條 諸貸付料諸賣拂代ノ徵收期ハ左ノ各項ニ據ル
- 第三條 年ヲ以テ設定シタル諸貸付料及ヒ土石賣拂契約ニ屬スル料金及ヒ代金ハ甲午年四月ヨリ乙午年三月マテ一期トシ甲午年四月中ニ徵收ス但四月以後新ニ貸付又ハ賣拂契約ヲ設定シタル者ハ初期分ニ限り契約設定ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス
- 第四條 年ヲ以テ設定シタル諸產物賣拂契約ニ屬スル代金ハ其年一月ヨリ十二月マテ一期トシ其年一月中旬ニ徵收ス但一月以後新ニ賣拂契約ヲ設定シタルモノハ初期分ニ限り契約設定ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス
- 第五條 月又ハ日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ニ屬スル料金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件使用前ニ徵收ス
- 第六條 隨時ノ賣拂契約ニ屬スル代金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件交付前ニ徵收ス

第三條 有期設定ニ屬スル諸貸付料及ヒ諸賣拂代ノ徵收額算定方ハ左ノ各項ニ據ル

- 第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付料及ヒ土石賣拂契約ノ四月ニ起リ若クハ三月ニ滿期トナルモノハ全年分ヲ算定シ五月以後ニ起リ若クハ二月以前ニ滿期トナルモノハ月割ヲ以テ算定ス
- 第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物ノ賣拂契約ハ初期終期ヲ問ハズ總テ全年分ヲ算定ス
- 第三項 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ハ初月終月ヲ問ハズ總テ全月分ヲ算定ス
- 第四條 有期設定ニ屬スル諸貸付料及ヒ諸賣拂契約ヲ該期限中解除シタルトキ其料金及ヒ代金免除方ハ左ノ各項ニ據ル
- 第五條 年ヲ以テ設定シタル諸貸付料及ヒ土石賣拂契約ヲ政府ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス
- 第六條 年ヲ以テ設定シタル諸產物ノ賣拂契約ヲ政府又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ該期ニ物件ヲ採取セシヤ否ヤヲ調査シ採取前ナレバ其年ヨリ代金ヲ免除シ採取後ナレバ物件ノ年額數量ヨリ採取數量ヲ扣除シタル殘數量ニ應ジテ免除シ對手人ノ契約違反又ハ季節物ノ賣拂ニシテ解除ノ當時既ニ季節經過シタルトキハ其翌年ヨリ免除ス
- 第七條 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ政府ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約ノ違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

第六類 第二章 各種官有財產管理規則

九百九

第四項 日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ政府又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其日ヨリ免除ス

第五條 此規程ニ依リ徵收シタル收入金ノ年度編入方ハ左ノ各項ニ據ル

- 第一項 徵收期月ノ一定シタルモノハ該徵收期月ノ屬スル年度ニ編入ス
- 第二項 徵收期月ノ一定セザルモノハ納入告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度ニ編入ス但納入告知書ヲ發セザルモノハ現金ヲ領收シタル日ノ屬スル年度ニ編入ス

○官有山林原野事項報告書式

明治二十四年三月

農商務省訓令第十五號

官有山林原野事項報告書式別冊ノ通相定候條本年四月分ヨリ該書式ニ依リ上申スヘシ

但本機式中第十號ノ事項ハ本年三月三十一日ノ現在ニ據リ別ニ調製シテ四月三十日迄ニ上申スヘシ別冊ハ山林局ヨリ送付ス(表式略ス)(二十五年四月農商務省訓令第十一號ヲ以テ表中改正)

○同上ノ件各大林區署ニ達シ

明治二十四年三月

農商務省訓令第十六號

官林事項報告書式別冊ノ通相定候條本年分ヨリ該書式ニ依リ上申スヘシ
但本機式中第十表及第十五表ノ事項ハ本年三月三十一日ノ現在ニ據リ別ニ調製シテ四月末日迄ニ上申スヘシ別冊ハ山林局ヨリ送付ス

○部分木仕付條例

明治十一年三月
內務省布達第四號

植林之儀ハ最モ方今ノ急務ニ付今般部分木仕付條例別紙ノ通施行候條其趣旨ヲ體認從事候樣可致此旨布達候事

部分木仕付條例 (別紙)

- 第一條 樹木ナキ官有ノ山野官ニ於テ差支無之時ハ人民ノ願ニヨリ之ヲ貸渡シ地味ニ適當セル木種ヲ植栽セシメ其幾分ヲ官納シ自ラ其幾分ヲ收メシムル之ヲ名ケテ部分木ト云但官林伐木跡ト雖モ從前部分ノ慣行有之箇所ハ本文ニ準スルヲ得ヘシ
- 第二條 第一條ノ趣旨ヲ以テ官地ヲ拜借セント欲スルモノハ先ツ該所ノ反別ヲ測量シ地味ノ適否ヲ審査シ別紙第一號書式ニ照ラシ地方廳ニ願出ヘシ
- 第三條 前條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ於テ官吏ヲ派遣シ巡視點檢事實相違ナキトキハ之ヲ開届ケ別紙第二號書式ニ依ヒ貸地券狀ヲ下ケ渡スヘシ
- 第四條 樹木部分ノ方法ハ運輸ノ便否地味ノ善惡人民希望ノ厚薄ニヨリ二官八民(假令ハ百本ノ立木ナレバ二十本ヲ官收シ八十本ハ人民ニ付與スルヲ云フ)以上實際適宜ニ之ヲ區分スヘシ(同年甲第百二十號同省布達ヲ以テ(ヨリ五官五民)スヘシ)(送ノ四九字ヲ削リ(以上實際)ノ四字ヲ加フ)
- 第五條 第四條掲ケル所ノ部分方法ハ成木ノ上立木ノ儘分配スルアリ又ハ伐木ノ節官民於テ各評價入ヲ出シ總計金額ヲ豫算シ金員ヲ以テ配賦スルアリ共ニ官民協議ノ上適宜ニ之ヲ定ムルモノトス
- 但不得已事故アツテ官ニ於テ該地入用ノ節ハ相當代價ヲ以テ其民有ニ當レル樹木ヲ買上シヘシ

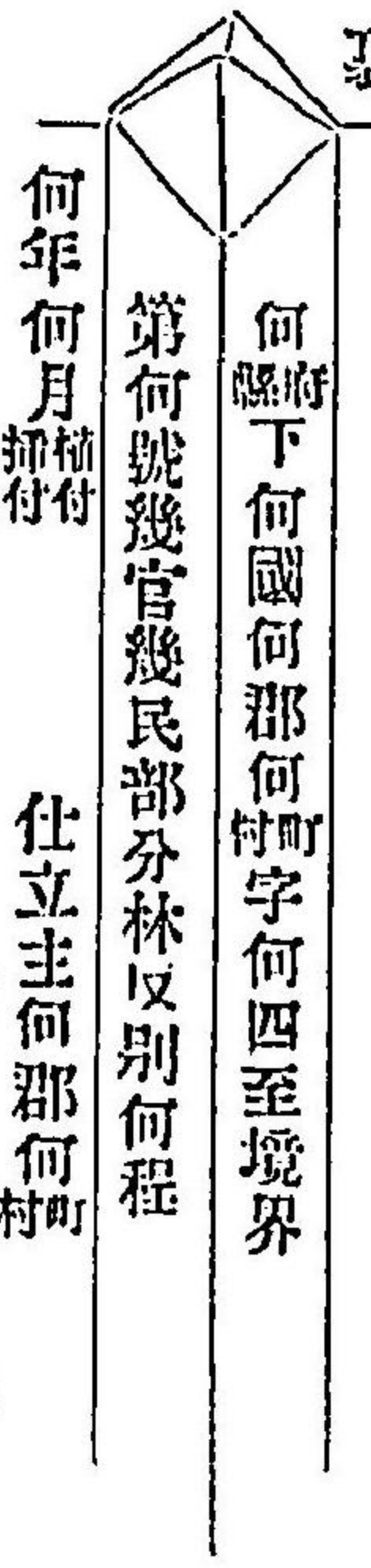
第六條 地方廳ニ於テハ臺帳ヲ製シ毎年人民ハ貸渡シタル地所反別(植付挿付)木種員數及ヒ拜借人ノ住所姓名共詳細取調前年十二月迄ノ分翌年一月限リ内務省地理局ニ届出ヘシ

第七條 官ハ地所ノ貸渡料ヲ取立ツルヘシ借人ハ植付挿付ヲ擔任スルモノトス

第八條 植付ノ後樹木成育スルニ隨ヒ手入伐木セント欲スルトキハ前以テ地方廳ニ届出ツヘシ地方廳ニ於テ實地點檢不都合ナキモノハ是ヲ許可シ其除ノ樹木ハ悉ク仕立主ニ下付スヘシ而シテ臺帳ニ就キ其伐伐セシ木數ヲ削除シ其翌年一月限リ遺漏ナク内務省地理局ニ届出ツヘシ

但十五年以後ニ至リ援伐スル木品ハ最初ノ約束ニ基キ各之ヲ配賦スヘシ

第九條 地所拜借願濟ノ上ハ四至境界ヲ正シ四隅ヘ左ノ通仕立主ヲシテ標木ヲ建設セシムヘシ



第十條 仕立主ノ都合ニヨリ其部分木仕付ノ權ヲ他ニ讓渡スルト欲スルトキハ其事實ヲ詳細シ地方官ニ届出ツヘシ地方官應ニ於テハ實際不都合ナキモノト認ムルトキハ證券ニ裏書シテ下渡シ退テ内務省地理局ヘ届出ツヘシ

但本文ノ樹木ヲ質入書入セント欲スルトキハ明治七年第六號公布ノ手續ニ準擬シ所戶長ノ檢認ヲ受クヘシ

第十一條 借地反別ハ豫メ其制限ヲ定メスト雖トモ其植栽見

込ノ員數ニ對照シ相當ノ地積ヲ貸付スルモノトス

但植立員數ノ都合ニヨリ廣大ノ地積ヲ要シ一時植付ヲ爲シ得サル場合ニ於テハ三ヶ年以内ノ期限ヲ以テ退次其植繼ヲ許スヘシ然レトモ三ヶ年ヲ過キ猶其植付未了ノ地ハ直ニ返附セシムヘシ

第十二條 一時植立并退次植繼ニ拘ラス實地植立濟ノ上ハ其旨地方廳ニ届出之レカ檢査ヲ受クヘシ

願書雛形 (印朱書)

第一號

表

部分木植付願

何府下何國何郡何町
華族士族
平民
何之誰

第一號

與書

御管内何國何郡何町字何官山野反別何程何木何程幾官幾民ノ部分方法ヲ以テ御規則ノ通私費挿付被差許度此段奉願候也

何府下何國何郡何町
華族士族
平民
何之誰印

前書之通相違無之ニ付被差許度候也

年月日 地方長官宛 區 戶 長印

證券雛形

第二號

部分木證券

何府下何國何郡何町
何之誰

何府下何國何郡何町字何官山野
反別何程

何樹種何程
何樹種何程

右明治何年何月何日地所貸渡候條條何ヨリ培養保護ニ至ルマテ全ク私費ヲ以テ可相辨尤成育ノ上ハ幾官幾民ノ割合ヲ以テ部分スヘシモノ也

年月日 地方長官姓名印

部分木仕付出願ノ者心得方

本年三月當省甲第四號ヲ以テ部分木仕付條例及布達置候處右ニ照準出願ノ者ハ別紙ノ條件相心得不都合ノ儀無之様可致此旨布達候事

(別紙)

一部分木仕付條例ニ準シ官地拜借許可濟ノ後條例第十條ノ手續ヲナサズ竊ニ其地ヲ他人ニ貸シ又ハ質入書入ヲ爲スモノ一同斷許可濟ノ日ヨリ滿一年ヲ過キテ植付着手セサルモノ

但條例第十一條但書ノ場合ハ本文ト抵觸スルコトナシ一同斷一ヶ年以内ト雖モ主願ノ樹木ヲ植付セス他事ニ使用セ

一 植樹ノ爲メ甲ノ地ヲ拜借シ置乙ノ地ニ苗床ヲ設ケ實植苗植等ヲナシ他日生育ヲ待テ甲地ニ移植スヘキコトノ著明ナルトキト雖モ最初許可ノ日ヨリ滿三年ニ至リ猶甲地ニ移植セサルモノ

右條々ノ所爲アルモノハ直ニ其地畝地上ニ附若セルモノヲ取上ク最初貸渡許可ノ日ヨリ而後ノ借地料ニ當ル金額ヲ徵收シ且其者等(第一條ノ所爲ニ依リ其地ヲ借り又ハ再此條例ニ由リ官地ヲ貸渡スヲ許サズ)

民有森林伐採礦物土石採掘ヲ停止ス

明治五年二月第三號布達左ノ通改正ス

民有森林ノ中水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防キ額雪ヲ支フルノ類國土保安ニ關係アル箇所ニシテ漫ニ其樹木ヲ斫伐シ礦物土石ヲ掘探セハ他ニ障害ヲ及ホスコト不勘ニ付キ是等ノ箇所ハ實地ノ景狀ニヨリ其事業ヲ停止セシムルコトアルヘシ右布達候事

民有森林伐採礦物土石採掘處分方

明治十七年三月農商務省第三號

明治十七年二月第三號ヲ以テ明治十五年二月第三號布達改正之儀布達相成候ニ付テハ明治十五年二月當省第三號達左ノ通改正候條此旨相達候事

民有森林ノ内水源涵養土砂停止風潮除額雪止等ノ如キ國土保安ニ關係アル箇所ニ於テ樹木ヲ斫伐シ礦物土石ヲ掘探セント欲スルモノアルトキハ其都度實地ノ景狀ヲ檢査シ處分方可伺出

山林坑業等ニ關スル諸件報告方

明治十九年六月
農商務省訓令第八號

自今左記ノ條件稟請ヲ要セス處分後報告スヘシ
但山林ニ關スル事項ハ沖繩縣ヲ除ク
一 官林貸渡繼年期ノ事

林産物公賣規程

明治廿三年五月
農商務省告示第四號

林産物公賣規程左ノ通相定ム

林産物公賣規程

- 第一章 競争入札
- 第一條 林産物ノ公賣ハ入札方法ヲ用非テ施行ス可シ
- 第二條 林産物ヲ入札ニ付セントスルトキハ少クとも入札期日ノ十五日以前ニ揭示若クハ官報新聞紙及其他ノ方法ヲ以テ可成ク廣ク之ヲ公告スヘシ
- 公告ニハ左ノ各項ノ諸件ヲ掲明ス可シ
 - 一 入札ニ付スヘキ物件
 - 二 入札スヘキ場所
 - 三 入札スヘキ日限及時刻
 - 四 入札ノ保證金額
 - 五 入札ニ付スヘキ物件ノ所在地
 - 六 入札ニ付スヘキ物件ノ明細書標本表示スルノ必所在地林産物公賣規程及ヒ特別契約書案ニ依リテ定ムル外特ニ其
 - 他契約ヲ要スル條件等ヲ示ス場所
 - 七 入札掛長ノ官氏名

- 第三條 入札ニ付スヘキ物件ノ豫定價額ハ之ヲ封書トナシ入札函ニ差入レ置クモノトス
- 第四條 左ノ諸項ノ一ニ觸ル、者ハ入札ヲナスコトヲ得ス
 - 一 林産物ヲ買受ク其代金意納中ノ者
 - 二 官林ニ關スル損害賠償若クハ違約金ノ辨償ヲ終ヘサル者
 - 三 入札ニ付スヘキ物件ニ對シ罪ヲ犯シタル者
- 第五條 入札セント欲スル者ハ該物件若クハ其標本又ハ明細書及ヒ此規程並ニ特別契約書案其他該契約ニ必要ナル條件ヲ熟閱シ豫シメ不都合ナキ様心得置ク可シ
- 入札人ハ第一號書式ニ依リ入札書ヲ作り入札保證金ト共ニ豫定ノ日時ニ入札所ニ持參シ入札掛員ノ面前ニテ右保證金ノ員數ヲ改メ之ヲ封シテ入札掛員ニ差出シタル上ニテ入札ス可シ
- 第六條 入札掛長前條ノ保證金ヲ受領シタルトキハ第二號書式ニ依リ預證ヲ作り入札人へ交付スヘシ
- 第七條 入札函ハ入札締切時限ニ達スルト同時ニ閉鎖スヘシ
- 第八條 左ニ掲クル入札ハ無効トス
 - 一 入札書ノ要領不明ナルモノ
 - 二 誤字脱字汚染塗抹其他ニ由リ金員及ヒ氏名ヲ認知シ難キモノ
 - 三 開札ニ立會ハサルモノ、入札
- 第二章 開札再入札落札
- 第九條 入札ヲ終タルトキハ入札人ヲ開札所へ呼集シ入札掛長若クハ其代理者ハ入札人ノ面前ニ於テ入札函ヲ開キ先ツ入札書ト入札人トヲ一々照合シ入札書ヲ開封シ番號金額及

氏名ヲ高ク讀上ク入札掛員ヲシテ之ヲ筆記セシメ豫定代價以上ノ最高額入札人ヲ落札人ト定メ之ヲ各入札人ニ報告スヘシ

- 第十條 開札ノ上入札一モ豫定價額ニ達セザルトキハ其旨ヲ各入札人ニ報告シ再入札セント欲スルモノヲシテ即時ニ再入札ヲナシム若クハ再入札ノ望人ヲキトキハ其公賣ハ取消スヘシ
- 第十一條 落札トナルヘキ同價額ノ入札人二名以上アルトキハ其入札人ヲシテ即時ニ再入札ヲナシメ尙同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム
- 第十二條 落札人入札ヲ取消シタルトキハ遞次繰下ク落札人ヲ定ムヘシ但其繰下クハ豫定價額以上ニ止ルモノトス
- 第十三條 落札人定リタルトキ若クハ落札人ナク公賣ヲ取消タルトキハ入札掛長ハ即時ニ豫定價額ノ封書ヲ開封シ之ヲ各入札人ニ報告スヘシ
- 第十四條 落札人定リタル上ハ其場ニ於テ直ニ他ノ入札人へ保證金預リ證書ト引換ニ入札保證金ヲ還付シ落札人ニハ賣買契約締結後ニ之ヲ還付ス
- 第十五條 落札人定リタルトキハ即時ニ落札代金十分ノ一ニ當ル内金ヲ契約保證金トシテ拂込ミ第三號書式紙別ニ據リ賣買契約書ヲ作り締約者雙方署名捺印シ各一通ヲ領收シ置ク可シ但シ落札人ハ其便宜ニ依リ落札代價十分ノ一以上ノ金額若クハ其全額ヲ即納スルコトヲ得
- 第三章 代價拂込、物件引渡
- 第十六條 落札人約定日限内ニ賣買代金ノ拂込ミヲ了リタルトキハ其落札物件ヲ管スル署所ニ出頭シ其拂込證交付票ヲ受取リタル

- 第十七條 落札物件所管ノ署所前條ノ請求ヲ受クタルトキハ約定ノ日限内ニ之ヲ引渡ス可シ
- 第十八條 買受人物件ノ引渡ヲ受タルトキハ第四號書式紙別ニ據リ領收證ヲ作り引渡掛員ニ差出シ約定ノ日限内ニ其物件ヲ所在地ヨリ搬出スヘシ
- 第十九條 物件ノ所有權ハ物件ノ引渡ヲ受ルニ隨ヒ買受人ニ移轉スルモノトス
- 第四章 違約處分 損害賠償
- 第二十條 左ノ場合ニ於テハ入札保證金ヲ還付セス
 - 一 落札ノ上賣買契約ヲ落札人ニ於テ締結セザルトキ
 - 二 開札後ニ入札ノ取消ヲナシタルトキ
- 第二十一條 左ノ場合ニ於テハ契約保證金ヲ還付セス締結ノ契約ハ解除スルモノトス
 - 一 落札人賣買契約締結後代金ヲ約定ノ日限内ニ拂込マザルトキ
 - 二 落札人賣買契約締結後代金拂込以前ニ契約ヲ取消シタルトキ
 - 三 落札人約定ノ期限内ニ物件ノ引渡ヲ受ケザルトキ
- 第二十二條 落札人物件ノ引渡ヲ受ケタル後豫期外ノ障礙ニ遇ヒ之ヲ約定日限内ニ搬出シ了ルコトヲ得ザルトキハ其事由ヲ具シ更ニ期限ヲ定メテ搬出日限ノ延期ヲ請求ス可シ此ノ場合ニ於テハ當該署所ハ左ノ割合ヲ以テ其間ノ該物件置場ニ係ル借地料ヲ課シ之ヲ前納セシム可シ

一 落札代價金百圓以上ノモノハ一日ニ付其千分ノ一
 二 落札代價金百圓未満ノモノハ一日ニ付金十錢
 但搬出延期ヲ要スルノ事由天災若シハ事變ニ屬スルトキハ特ニ右借地料ヲ免ス可シ

第二十三條 前條ノ場合ニ於テ落札人搬出延期ノ請求ヲナシスシテ恣ニ約定日限ヲ過ルトキハ當該署所ハ前條ノ割合ニ二倍スルノ借地料ヲ取立ツ可シ

本條及ヒ前條ノ場合ニ於テ落札人右借地料ヲ納メサルトキハ當該署所ハ其搬出未済ノ物件ヲ差押ヘ本人ヲ立會ハシメテ之ヲ公賣ニ付シ其代金ヲ以テ借地料及ヒ差押公賣其他ノ諸入費ヲ支拂ヒ猶ホ殘金アルトキハ之ヲ還付シ若シ不足スルトキハ更ニ之ヲ要求ス可シ

第二十四條 落札人若シハ雇人落札物件ヲ伐採蒐集若シハ製造運搬等ノ際ニ於テ當該署所ニ損害ヲ與ヘタルトキハ當該署所ハ之ニ對スル賠償引當トシテ搬出未済ノ物件ヲ差押ヘ若シハ其事業ヲ中止シ期限ヲ定メ相當ノ賠償金ヲ要求ス可シ

落札人右賠償金ヲ承諾シタル上之ヲ期限内ニ納メサルトキハ第二十三條第二項ノ手續ニ依リテ之ヲ處分ス可シ

第五章 雜件

第二十五條 公賣物件入札後又ハ賣買契約締結後天災事變等ノ避クハツラサルノ原因ニ由リ目的ノ事件ヲ亡失毀損シタル爲メ公賣ヲ取消シ之ヲ爲メニ入札人落札人又ハ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當該署所其實ニ任セズ

第二十六條 公賣物件ハ當初入札人ニ於テ熟覽シタルモノニ付落札後數量若クハ物質等ニ多少ノ差違アリ又ハ物件ノ内

部ニ腐朽等アルモ當該署所ハ其責ニ任セズ

第二十七條 立木竹公賣ノ場合ニ於テ其根株ハ公賣外ノモノトス但シ別段ノ契約アルモノハ此限ニアラス

第二十八條 入札人落札人又ハ買受人代理人ヲ以テ諸般ノ事項ヲ履行セシムルトキハ代理人ハ其委任狀ヲ當該署所ニ示スヘシ

第二十九條 落札人其物件ヲ搬出以前ニ於テ他へ賣買讓與シタルトキハ雙方連署シテ當該署所ニ届出テ認可ヲ受ク可シ

第一號書式 入札書

第 號 一何々(物件ノ名稱ヲ記入スヘシ) 何程(數量)

第 號 此代金何程

第 號 一何々 何程

此代金何程

(以下此例ニ準シ公告ニ掲載ノ物件概目ヲ一々記載スヘシ)

右代金ヲ以テ買受申度林產物公賣規程其他公示又ハ特別契約ノ條項ヲ承諾シ保證金相添ヘ入札書差出候也

年月日 住所 姓名 名 印

(代理人ナルトキハ代理人ノ住所姓名ヲ併記捺印スヘシ以下皆同シ)

入札掛長官姓名宛

第二號書式 證

一金何程 納人 姓名 名 印

但何々入札保證金

年月日 入札掛長官 姓名 名 印

右封ノ儘預置候也

第三號書式 賣買契約書

印紙 此印紙ハ賣入へ領收シ置クモノ、ミニ買入ロリ貼付スルモノトス、

今般別紙入札書ノ通落札セシニ付林產物公賣規程及左記ノ條項ヲ承諾シ賣買契約ヲ締結シ雙方署名ノ上各一通ヲ領收シ置クモノ也

年月日 賣人 入札掛長官 姓名 名 印

第四號書式 證

第 號 一何々(物件ノ名稱ヲ記入スヘシ) 何程(數量)

第 號 一何々 何程

右御引渡相成領收候也

年月日 買人 住所 姓名 名 印

引渡掛長官姓名宛

○官有森林原野及產物特賣規程

明治二十四年九月 農商務省告示第八號

官有森林原野及產物特賣規程左ノ通り相定ム

官有森林原野及產物特賣規程 第一章 通則

現行日本法令大全

第一條 森林原野及產物ノ特賣ハ總テ本規程ニヨリ施行スルモノトス

第二條 但原野ノ豫約賣渡ハ此限ニアラス

第三條 左ノ諸項ノ一ニ觸ル、モノハ特賣ヲ受クルコトヲ得ス

一 森林原野及產物ニ關スル損害賠償若クハ違約金辨償ヲ終ヘサルモノ

二 賣渡スヘキ物件ニ對シ罪ヲ犯シタルモノ

第三條 特賣ヲ願フモノハ第一號乃至第四號書式ニヨリ願書ヲ差出スヘシ

但其願旨建築及土木用材ニ係ルモノハ之ヲ設計書地所ニ係ルモノハ實測圖及隣接地ノ略圖事業用材ニ係ルモノハ事業方法書ヲ添付スルヲ要ス

第四條 賣買當事者ハ第五號書式ニ準シ契約書ヲ作り雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クヘシ

賣渡代金五拾圓以上ナルトキハ賣買契約締結ノ際買受人ヨリ賣渡代金十分之一ニ當ル内金ヲ契約保證金トシテ拂込ムヘシ

第五條 契約ノ金額五拾圓ニ滿タサルモノハ第六號書式ノ請書ヲ以テ契約書トナスコトヲ得

第六條 契約書其他契約ニ關スル書類ニ記載アル事項ノ一部分ニ變更ヲ要スルトキハ其部分ニ付箋シ雙方署名捺印スヘシ

第七條 特ニ使用ノ目的ヲ定メテ特賣ヲ受ケタル場合ニハ當該官廳ノ許可ヲ得スシテ其目的ヲ變更シ又ハ他ニ轉賣讓與スルコトヲ得ス

第二章 代價拂込 物件引渡

第八條 買受人約定日限内ニ買受代金ヲ完納シタルトキハ其買受物件ヲ管理スル官廳ニ出頭シテ拂込證ヲ示シ之カ引渡ヲ請求スヘシ賣渡物件ハ其代價ノ幾分ヲ拂込ムトモ之ニ對スル内渡ヲ爲サ、ルモノトス

第九條 賣渡物件所管ノ官廳前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ約定ノ日限内ニ之ヲ引渡スヘシ

第十條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ第七號書式ノ領收書ヲ作り當該官廳ニ差出シ約定ノ日限内ニ其物件ヲ所在地ヨリ搬出スヘシ

第十一條 買受物件ノ搬出ヲ終リタルトキハ五日以内ニ其旨當該官廳ニ届出ツヘシ

第十二條 物件ノ所有權ハ引渡ヲ受ケルニ隨ヒ買受人ニ移轉シ當該官廳ハ之カ保管ノ責ニ任セス

第十三條 違約處分 損害賠償

第十三條 左ノ場合ニ於テハ締結ノ契約ヲ解除シ違約金トシテ當初拂込ノ契約保證金ヲ還付セズ尙損害アルトキハ之ヲ賠償セシムヘシ

但賣渡代金五拾圓未滿ナルトキハ違約金ヲ徵セサルモノトス

一 買受人賣買契約締結後代金ヲ豫定ノ日限内ニ拂込マサルトキ

但天災其他不可抗ノ原因又ハ豫メ當該官廳ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

二 買受人約定ノ日限内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキ

三 買受人賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ本規程ニ違

現行日本法令大全

背スルカ又ハ契約ノ取消ヲ請求シタルトキ

第十四條 賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ當該官廳已テ得サル事故ニヨリ契約ヲ取消シタルトキハ第十三條ニ準シ其違約金ニ當ル金額ヲ交付シ尙損害アルトキハ之カ賠償ヲナスモノトス

第十五條 第七條ノ規程ニ違ヒ許可ヲ得スシテ轉賣讓與ヲ爲シ又ハ目的外ニ使用シタルモノハ當初賣渡代金ニ等シキ金額ヲ徵收シ尙損害アルトキハ之ヲ賠償セシムヘシ

第十六條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタル後豫期外ノ障礙ニ遭ヒ之ヲ約定日限内ニ搬出シ終ルコトヲ得サルトキハ其事由ヲ具シ最初定メタル期限ノ半數ヨリ長カラサル期限ヲ定メテ搬出日限ノ延期ヲ請求シ當該官廳ノ許可ヲ受ケヘシ

此場合ニ於テ當該官廳ハ左ノ割合ヲ以テ其間ノ該物件置場ニ係ル借地料ヲ課シ之ヲ前納セシムヘシ

一 賣渡代價百圓以上ノモノハ 一日ニ付其千分ノ一

二 賣渡代價百圓未滿ノモノハ 一日ニ付金拾錢

但天災又ハ不可抗ノ原因ヨリシテ搬出延期ヲ要スル事由アルモノハ特ニ借地料ヲ免除シ又ハ期限ヲ延長スルコトヲ得

第十七條 前條ニヨリ搬出延期ヲ許可シタル後天災又ハ不可抗ノ原因アルニアラスシテ尙再ヒ延期ヲ請求スルコトアルモ當該官廳ハ其求ニ應セサルヘシ

前項ノ場合ニ於テ搬出未済ノ物件ニ對スル所有權ハ當該官廳ニ復歸スルモノトス但既納ノ代金ハ還付セズ

第十八條 第十六條ノ場合ニ於テ買受人搬出延期ノ請求ヲ爲サス恣ニ約定日限ヲ過シタルトキハ當該官廳ハ同條ノ割合

ニ二倍スル借地料ヲ取立ツヘシ

第十九條 買受人又ハ其雇人若クハ代理人買受物件ヲ伐採蒐集若クハ製造運搬等ノ際ニ於テ當該官廳ニ損害ヲ與ヘタルトキハ當該官廳ハ之ニ對スル賠償金ヲ要求スヘシ

第四章 雜件

第二十條 賣買契約締結後物件引渡シ以前ニ於テ天災又ハ不可抗ノ原因ニヨリ目的ノ物件ヲ亡失毀損シタル爲メ契約ヲ解除シ之カ爲メ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當該官廳ハ其責ニ任セズ

前項ノ場合ニ於テ契約ノ解除ヲ要セス其毀損部分ノ更正ニ止メ尙繼續履行セントスルトキハ第六條ノ手續ニ準スヘシ

第二十一條 賣渡物件ハ當初買受人ニ於テ熟覽シタルモノニ付賣買契約締結後數量若クハ品質ニ多少ノ差違アリ又ハ内外部瑕疵等ノ爲メ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當該官廳ハ其責ニ任セズ

第二十二條 立木竹生草等賣渡ノ場合ニ於テ其根株ハ賣渡外ノモノトス

但特別ノ契約アルモノハ此限ニアラス

第二十三條 買受人代理人ヲ以テ諸般ノ事項ヲ履行セシムルトキハ買受人ハ其旨當該官廳ニ届出ツヘシ

第一號書式(用材出)

立木拂下願

何國何郡何村何大字何々字何官林ノ内凡段別何程

此尺ノ何程

代金何圓

立尺ノ何程

金何程

現行日本法令大全

一何木何本
此尺何何程
代金何圓 同上
合木數何程
此尺何何程
代金何圓

右ハ何々(特賣ヲ受得ルノ事故)ノ爲メ入用ニ候處何々(特賣ヲ受ケサルヲ得サル事由)ニ付御下被成下度明治何年何月森林原野及産物特賣規定ヲ遵守此段奉願候也
明治何年何月何日

住所 族籍 氏名

當該官廳長官宛
第二號書式(湖原村出願ノ書式)
立木御下願
何國何郡何村大字何々字何々官林ノ内凡段別何程
一何木何本
此冊數何程 金何圓
代金何程
同國同郡何村大字何々字何々官林ノ内凡段別何程
一何木何本
此冊數何程 金何圓
代金何程
合木數何程
此冊數何程

代金何圓
右ハ云々(第一號書式ニ同シ)
第三號書式(湖原村出願ノ書式)
何々御下願
何國何郡何村大字何々字何々官林ノ内
一何々何程
代金何圓 (金何圓)ニ付
何國何郡何村大字何々字何々官林ノ内
(年季出願ノモノハ左ノ通標記スヘシ)
何國何郡何村大字何々字何々官林ノ内
一何々何程 但明治何年ヨリ同何年マテ何箇年季
代金何圓 (金何圓)ニ付
此一箇年分何程
代金何圓
右云々(第一號書式ニ同シ)
第四號書式
森林(原野)御下願
何國何郡何村 大字何々字何々
一何々(地目)段別何町何段何畝何歩
何國、、、、
一何々(地目)段別何町歩ノ内
段別何段何畝何歩
合計段別何段何畝何歩
(實測段別ハ並記スヘシ)
右ハ云々(第一號書式ニ同シ)
第五號書式
賣買契約書

現行日本法令大全

此印紙ハ賣入ヘ領收シ置クモノ
ノミ買入ヨリ貼付スルモノトス
何國何郡大字何々字何々官林
一何々(樹種等)何程
此代金何程
今般前書ノ通賣買契約締結候ニ付テハ明治何年何月官有森林原野及産物特賣規程及左記ノ條項ヲ承諾シ雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クモノ也
年月日
賣入 當該官廳長官 氏 名
特賣主任官 氏 名
住所 氏 名
買入 氏 名

出シ候也
年月日
買入 氏 名
住所 氏 名

一 代價拂込何年何月何日限
一 物件引渡何年何月何日限
一 物件搬出何年何月何日限
一 物件引渡場所
一 何々
「契約ヲ要スル條件ヲ列記ス」
第七號書式
一何々 何程
一何々 何程
右御引渡相成正ニ領收候也
年月日
買入 氏 名
住所 氏 名

當該官廳長官 氏 名
特賣主任官 氏 名
引渡主任官 氏 名

○官有森林原野ノ公賣ハ林産物公賣規程ニ準據
明治二十四年七月
農商務省告示第七號
官有森林原野ノ公賣ハ明治二十三年五月當省告示第四號林産物公賣規程ニ準シ施行ス

第六號書式
請書
印紙
何國何郡何村大字何々字何々官林
一何々(樹種等)何程
此代金何程
今般前書ノ通リ御御下相受ケ候ニ付テハ明治何年何月官有森林原野及産物特賣規程及左記ノ條項ヲ承諾シ請書差

○官有林野ノ立木又ハ木材ノ検査及引渡用極印雛形並ニ使用方

明治二十四年七月農商務省令第八號

官有林野ノ立木又ハ木材ノ検査及引渡ニ用ユル極印雛形ノ通り相定候條目今左ノ區別ニ依リ使用ス可シ

一 第一號雛形極印ハ賣渡讓與ヲ爲スニ當リ豫メ其立木及木材ノ検査ヲ爲セシトキ又ハ之ノ伐跡検査ヲ爲セシトキ其證トシテ打印スヘシ

二 第二號雛形極印ハ賣渡讓與ヲ爲セシ證トシテ其立木及木材ニ打印スヘシ

三 第三號雛形山印ハ賣渡木ノ根株盜誤伐木材及其伐跡、境界木其他區域ヲ定メ賣渡シタル林野中存置ヲ要スヘキ立木及其境木等ニ打印スヘシ

四 以上三項ノ外地方ニヨリ特ニ使用ヲ要スル場合ニハ總テ山印ヲ適用スヘシ

五 檢印打印ハ黒肉ヲ用ヒ山印ハ黒朱肉適宜使用スルモ妨ケナシ

六 極印ヲ誤打セシトキハ朱肉ノ同印ニテ消印スヘシ但朱肉ヲ用ヒタル山印ヲ消印スルトキハ黒肉ヲ用ユヘシ



備考 徑一寸二分字體圖ノ如シ

○官有森林交換規程 明治二十四年九月農商務省令第三十八號

官有森林交換規程左ノ通相定ム

官有森林交換規程

第一條 官有森林ヲ以テ民有森林原野若クハ田畑ト交換セんとスルトキハ此規程ニ準據スヘシ

第二條 官有森林ヲ以テ民有森林原野若クハ田畑ト交換スルコトヲ得ルハ官有森林ノ經營上必要ノ土地ニシテ少クとも評定價格相均シキモノニ限ル

第三條 交換ヲ爲サントスル官有森林アルトキハ申込ノ期日ヲ定メ揭示若クハ官報新聞紙及其他ノ方法ヲ以テ左ノ事項ヲ公告スヘシ

但特別ノ緣故アル官有森林又ハ官ニ於テ特ニ必要ナル民有地ノ交換ハ公告ノ法ヲ用非ス

一 交換ヲ爲サントスル官有森林ノ所在地及其字地番號

二 交換ヲ爲サントスル官有森林ノ實測段別

三 交換ヲ爲サントスル官有森林產物ノ種類及數量但樹木ノ數量ハ本數並ニ材積ヲ示スヘシ

四 交換ニ應スヘキ民有地目ノ種類

第四條 前條ニ因リ交換ヲ申込マントスルモノアルトキハ左ノ事項ヲ具シ書面ヲ差出シムヘシ

一 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ所在地及其字地番號

二 交換ノ爲メ提供スル民有地目

三 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ段別及其土地ノ價格

四 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野產物ノ種類數量及價格

但田畑ニシテ產物ト共ニ交換セントスルトキハ本項ニ準スヘシ

五 交換ノ爲メ提供スル民有森林原野若クハ田畑ノ地形ヲ示セル繪圖而

但隣接地目及最近官有森林トノ位置及距離ヲ記載スヘシ

第五條 交換ノ書面ヲ差出シタルモノアルトキハ提供ノ民有森林原野若クハ田畑ヲ實査シ經營上最モ必要ナルモノヲ撰

ヒ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ指揮ヲ請クヘシ

一 交換ヲ爲サントスル官有森林及民有森林原野若クハ田畑ノ實測段別及地形並四隣ノ景況ヲ示セル明細繪圖及其土地ノ評定價格

二 交換ヲ爲サントスル官有森林及民有森林原野田畑產物ノ種類數量並評定價格

三 交換ノ利害ニ關スル意見

第六條 民有森林原野若クハ田畑ヲ實測シ及產物ノ數量ヲ算

定スルニハ出願人ヲ立會セシムヘシ

第七條 森林原野田畑及產物ノ評定價格ハ評價人ノ評價ニ依ルヘシ

第八條 提供ノ民有森林原野若クハ田畑ニシテ交換ヲ爲スニ適當ナルモノト認メタルトキハ直稅分署及登記所ニ照會シテ出願人ノ所有物ニ相違ナキヤ且其物ニハ他ノ權利ノ附著スルコトナキヤヲ確ムヘシ

○官用地及官有建物整理報告手續

明治二十四年四月農商務省令第二十一號

官用地及官有建物整理報告手續左ノ通相定メ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

官用地及官有建物整理報告手續

第一條 大林區署長ハ官用地及官有建物ヲ整理スル爲メ官用地臺帳官有建物臺帳ヲ設ク増減ノ時時之シカ登記ヲ爲スヘシ

第二條 官用地臺帳及官有建物臺帳ハ每十年ニ之ヲ新製シ其年三月三十一日ノ現在高ヲ移載スヘシ但第一回ノ帳簿ニハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高ヲ登記スヘシ

第三條 大林區署長ハ毎年三月三十一日ニ於ル官用地及官有建物現在報告書ヲ調製シ其年四月三十日マテニ之ヲ當省ハ差出スヘシ但第一回ノ報告書ハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高ニ依ルヘシ

第四條 大林區署長ハ每會計年度間ニ於ル官用地及官有建物増減報告書ヲ調製シ左ノ書類ヲ添へ前條報告書ト同時ニ之

ヲ當省へ差出スヘシ

- 一 賣拂ニ係ルモノハ其豫定價格調書
- 二 交換ニ係ルモノハ其交換ニ由リ得タル財産調書
- 三 購入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其契約書

第五條 此手續ニ依リ調製スヘキ彙帳及報告書ノ様式ハ山林局長之ヲ定ムヘシ

第三章 保管 預金 供託 金庫諸規則

○保管金規則

明治二十三年一月 法律第一號

朕保管金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

保管金規則

第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿三十年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第一 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セズ

第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得

第四條 保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

○保管金取扱規程

明治二十三年三月 大藏省令第八號

本年勅令第二號ニ依リ預金局ニ寄託スル保管金取扱規程左ノ通相定ム

保管金取扱規程

第一條 明治二十三年勅令第二號ニ依リ預金局ニ寄託スル保管金ハ此規程ニ依テ取扱フモノトス但從來預金局ニ寄託シタルモノハ當分ノ内從前ノ取扱ニ依ル

第二條 保管金ノ受渡ハ東京市内ニ於テハ預金本局其他ハ各地本金庫又ハ支金庫ニ於テ取扱フモノトス

第三條 保管金ハ權利者ヨリ現金ヲ拂込ムモノト各應ヨリ拂込ムモノトノ二種ニ分チ之ヲ取扱フモノトス

第四條 權利者ヨリ現金ヲ拂込ムトキハ總テ取扱官應ヨリ寄託通知書ヲ得テ之ニ現金ヲ添ヘ預金本局又ハ各地ノ金庫ニ差出スヘシ但出納官更身元保證金ヲ拂込ムトキハ寄託通知書ヲ要セズ

第五條 取扱官應ハ權利者ヲシテ現金ヲ拂込マシムルトキハ第一號書式ニ依リ寄託通知書ヲ製シテ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

第六條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ第四條ノ拂込ヲ受クルトキハ第二號書式ノ保管證書ヲ製シテ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

第七條 各應ヨリ現金ヲ拂込ムトキハ主任官吏ニ於テ第三號書式ニ依リ保管金送付書ヲ製シ現金ト共ニ之ヲ預金本局又ハ各地ノ金庫ニ送付スヘシ

第八條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ前條ノ拂込ヲ受ルトキハ第四號書式ノ保管金領收證書ヲ製シテ之ヲ拂込官吏ニ交付スヘシ

第九條 本規程第五條第七條ニ據リ寄託通知書又ハ保管金送付書ヲ發スルモノハ豫メ取扱官應ヨリ應印及取扱主任官吏印ノ印鑑ヲ預金本局又ハ各地金庫へ送付スヘシ

應印ノ改正又ハ主任官吏ノ變更改印ノトキハ應印又ハ主任官吏印ノ印鑑ヲ預金本局並ニ取扱金庫へ送付スヘシ

第十條 權利者ニ於テ其拂込タル保管金ノ拂戻ヲ請求セントスルトキハ取扱官應ノ裏書ヲナシタル保管證書ヲ得テ之ヲ預金本局又ハ當初拂込ヲナシタル金庫ニ差出スヘシ

第十一條 取扱官應ハ保管金ノ拂戻ヲ要スルトキハ保管證書ニ第五號書式ノ如ク裏書ヲナシ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

第十二條 取扱官應ハ保管金ノ政府ノ所得ニ歸シタル場合ニ於テハ保管證書ノ裏面ニ其事由ヲ記載シ收入官吏ヲシテ一般歳入トシテ之ヲ金庫ニ拂込マシムヘシ

第十三條 保管金領收證書ヲ發シタル保管金ニシテ失權ノ期限ニ至ルトキハ預金局ニ於テ一般歳入トシテ納付ノ手續ヲナシ其旨ヲ保管金ヲ寄託シタル官應へ通知スヘシ

第十四條 取扱官應ハ保管金ノ幾分ヲ歳入トナシ其幾分ヲ權利者ニ拂戻スコトヲ要スルトキハ保管證書ニ事由書ヲ付シ保管金ノ分割ヲ當初拂込ヲナシタル預金本局又ハ各地ノ金庫ニ請求スヘシ

第十五條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ新ニ二葉ノ保管證書ヲ製シテ舊保管證書ヲ交換スヘシ

第十六條 預金本局又ハ各地ノ金庫ニ於テ權利者ヨリ保管金拂戻ノ請求ヲ受ルトキハ保管證書ヲ引換ニ其金員ヲ權利者ニ交付スヘシ

第十七條 各應ヨリ數人ノ權利者ニ屬スル保管金ヲ取纏メテ拂込ムトキハ保管金送付書ニ各權利者ノ金額氏名及満期失効ノ年月日ヲ記シタル別紙ヲ添付スヘシ但權利者ノ不明ナルモノハ其旨ヲ保管金送付書ニ記入スヘシ

第十八條 權利者ニ於テ各官應ヨリ拂込タル保管金ノ拂戻ヲ受ントスルトキハ其事由ヲ具シテ其取扱官應ニ申出ヘシ取扱官應ハ之ヲ調査シテ拂戻スヘキ理由アリトスルトキハ第六號書式ノ拂戻金證明書ヲ權利者ニ交付スヘシ

權利者ハ拂戻金證明書裏面ニ式ノ如ク記名捺印シ之ヲ預金本局又ハ當初其官應ヨリ拂込タル金庫ニ差出シテ其拂戻ヲ受クヘシ

第十九條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ權利者ヨリ前條ノ請求ヲ受ルトキハ取扱官應及主任官吏ノ印影ニ照合シ相違ナキモノハ領收證書ヲ引換ニ其金員ヲ權利者ニ交付スヘシ

第二十條 保管金ノ利子ハ毎年六月十二月ノ二期ニ分チ之ヲ計算スヘシ

第二十一條 保管金ノ利子ハ毎年七月一月預金局ニ於テ各權利者毎ニ第七號書式ノ保管金利子證券ヲ製シ取扱官應へ送付スヘシ

取扱官應ニ於テ前項ノ證券ヲ受取タルトキハ取扱主任官吏ニ於テ式ノ如ク檢印シ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

現行日本法令大全

權利者ニ於テ保管金利息證券ヲ受取タルトキハ之ヲ以テ利子仕拂テ保管金利息證券ニ記載アル預金本局又ハ本支金庫ニ請求スヘシ(二十三年大藏省令第十號ヲ以テ本項中改正)

第二十二條 預金本局又ハ本支金庫ハ前條ノ保管金利息證券ト引換ニ現金ヲ仕拂フヘシ(二十三年大藏省令第十號ヲ以テ本項中改正)

第二十三條 保管證書ヲ亡失シタルトキ第十一條ノ裏書ヲナサハルモノハ再渡シ其裏書ヲナシタルモノハ再渡セス取扱官廳ヨリ裏書同様ノ證明ヲ得尙保證人ヲ立ラシメ保管金ヲ拂戻スヘシ

保管證書ヲ汚染毀傷シ證書ノ要點ヲ見認メ難キニ至リタルモノハ前項ニ準シテ證書ノ交換又ハ保管金ノ拂戻ヲナスヘシ

(書式略之)

○政府保管ノ義務アル公私私有金
寄託方 明治二十三年一月勅令第二號

朕政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ニ關スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

預金規則ニ定メタルモノ、外法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ハ總テ大藏省預金局ニ寄託スヘシ

法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依ルノ外政府ハ公有私有金ヲ保管セス

○保管金受渡事務順序 明治二十三年三月大藏省勅令第四十四號

保管金受渡事務順序左ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

保管金受渡事務順序

第一條 明治二十三年勅令第二號ニ依リ預金局ニ寄託スル保管金ハ各地本支金庫ニ於テ此順序ニ據リ取扱フヘシ

第二條 取扱官廳ノ寄託通知書(第一號)山納管庫元保ヲ以テ權理者ヨリ直チニ保管金ヲ寄託スルトキハ其現金ヲ領收シ保管證書(第二號)ニ金員番記號等式ノ如ク記載調印シ之ヲ交附スヘシ

第三條 各官廳ヨリ保管金送附書(第三號)ヲ以テ保管金ヲ寄託スルトキハ其現金ヲ領收シ保管金領收證書(第四號)ニ金員番記號等式ノ如ク記載調印シ之ヲ交附スヘシ

第四條 各官廳ヨリ保管金ヲ寄託スルニ由リ其官廳及取扱主任官吏ノ印鑑ヲ差出シタルトキハ爾後受渡ノ照合ニ供置スヘシ

第五條 寄託通知書及送附書ニハ受入濟年月日金庫各保管證書又ハ領收證書ノ番記號ヲ記入シ且數人ノ權理者ニ屬スル保管金ヲ取纏メテ寄託シタル分ニ係ル別紙アルトキハ之ヲ添ヘ中央金庫ヲ經テ預金局ヘ送致スヘシ

第六條 權理者ヨリ取扱官廳ノ裏書(第五號)ヲナシタル保管證書ヲ以テ拂戻ヲ要セハ其裏書ノ印章ヲ印鑑帳ニ照合シ相違ナキヲ認メ之ノ引替ニ現金ヲ拂渡スヘシ但其證書及證書扣ニ拂渡濟年月日ヲ記入スヘシ

第七條 各官廳ヨリ寄託シタル保管金ニシテ其官廳ノ拂戻金證明書(第六號)ニ權利者ノ裏書ヲナシタルモノヲ以テ拂戻ヲ要セハ其證明書ノ印章ヲ印鑑帳ニ照合シ相違ナキヲ認メ之

現行日本法令大全

引替ニ現金ヲ拂渡スヘシ但證明書ニハ渡濟年月日ヲ記入シ置クヘシ

第八條 各官廳ノ收入官吏ヨリ取扱官廳ノ裏書ヲナシタル保管證書ヲ以テ一般歳入トシテ納入シタルトキハ預金ノ拂戻ニテテ歳入ノ手續ヲナスヘシ

第九條 取扱官廳ヨリ保管證書ニ事由書ヲ添ヘ該證書ノ分割ヲ要セハ新ニ保管證書ニ通テ複製シ舊證書ト引替フヘシ但舊證書及證書扣ニ引替濟年月日ヲ記入シ其事由書ニハ引替濟年月日金庫名保管證書ノ新番番記號ヲ記入シ之ヲ中央金庫ヲ經テ預金局ヘ送附スヘシ

第十條 取扱官廳ノ裏書ヲナサハル保管證書ヲ亡失シタルニヨリ更ニ證書ノ下渡シヲ請フトキハ其事由ヲ詳記セル書面ヲ差出サセ事實相違ナキヲ認メ新ニ保管證書ヲ製シ之ニ再渡ノ印章ヲ捺シ交附スヘシ但舊證書扣ニハ亡失ノ旨記載シ且再渡ノ年月日ヲ記入シ其事由ニハ再渡濟ノ年月日金庫名保管證書ノ新番番記號ヲ記入シ之ヲ中央金庫ヲ經テ預金局ヘ送附スヘシ

第十一條 取扱官廳ノ裏書ヲナシタル保管證書ヲ亡失シタルニ由リ保證人ノ調印シタル本人ノ事由書ニ取扱官廳ノ證明書ヲ添ヘ指出セハ其證明書ノ印章ヲ印鑑帳ニ照合シ相違ナキヲ見認メ之ノ引替ニ現金ヲ拂渡スヘシ但證書扣ニ亡失ノ旨記載シ且渡濟年月日ヲ記入シ其事由書ニハ渡濟年月日金庫名保管證書ノ番記號ヲ記入シ之ヲ中央金庫ヲ經テ預金局ヘ送附スヘシ

第十二條 保管證書ヲ汚染毀傷シ其要點ヲ見認メ難キニ至リタルモノハ第十條第十一條ニ準シテ引替フヘシ

用紙ニ同條ニ據ルハシ
「第一書式(寄託通知書)」

「ノ内及印章ハ孰モ某

寄託通知書

府縣郡市町村番地
何 某

一金何程也
保管金ノ事由(何々工事受負身元保證金等)

利率
期限

右保管ノ爲メ納附セシメ候也

年月日

何 應 印

取扱主任

官氏名 印

何地何金庫

「第二書式(保管證書)」

第何號

保管證書何年月何日(分割ノトキノ例)
第何號金何圓ノ内分割
何年月何日第何號金何圓ノ(亡失又ハ汚染毀傷
保管證書亡失(取替)ニ付再渡(ノトキ再渡ノ例)
府縣郡市町村番地
何 某

一金何程也

取扱官廳

保管金ノ事由

利率

期限

寄託年月日

拂戻年月日

印 割

第何號

保管證書

此證書ハ實質額與又ハ
書入實入スルヲ得ス

保管證書何年月何日(分割ノトキノ例)
第何號金何圓ノ内分割

何年月何日第何號金何圓ノ(亡失又ハ汚染毀傷
保管證書亡失(取替)ニ付再渡(ノトキ再渡ノ例)

一金何程也

取扱官廳

保管金ノ事由

利率

期限

右保管候也

年月日

何 某 殿

何地何金庫 印

「第三書式(保管金送附書)」

保管金送附書

一金何程也

保管金ノ事由

「第四書式(保管金領收證書)」

第何號

一金何程也

保管金ノ事由

權利者ノ住所氏名(別紙ニ數人ノ氏名ヲ記ス
ルモノハ其旨認ムヘシ)

期滿失効ノ年月日

領收ノ年月日

印 割

第何號

保管金領收證

一金何程也

保管金ノ事由

期滿失効ノ年月日

右領收候也

年月日

何 應

官氏名 殿

何地何金庫 印

「第五書式(保管證書取替)」

表書金額何々ニ付府縣郡市町村番地某ニ於テ拂戻シテ
受クヘキ事ヲ證ス

年月日

何 應 印

取扱主任
官氏名 印

「第六書式(拂戻金證明書)」

拂戻金證明書

何地何金庫

保管金領收證書

第何號

一金何程也

保管金ノ事由

保管金領收證書ノ年月日

利率

前書ノ金額何々ニ付府縣郡市町村番地某ニ於テ拂戻シ
テ受クヘキ事ヲ證ス

年月日

何 應 印

取扱主任
官氏名印

書類
明治二十三年五月
大藏省訓令第八十九號

○保管金取扱規程中改正ニ由リ保管金
金利子ノ仕拂請求ノトキ取扱方

明治二十三年六月
大藏省訓令第百號

本年大藏省令第十五號ヲ以テ保管金取扱規程中改正ニ由リ權
利者ヨリ保管金利息證券ヲ以テ其仕拂ヲ請求シタルトキハ該
證券ト引替ニ現金ヲ仕拂ヒ保管金受渡事務順序第十六條ニ據
リ帖配ヲナシ仕拂濟利子證券ハ本年大藏省訓令第八十九號ニ
據リ取扱官廳ノ證明ヲ受ケタル後チ月計對照表ニ添ヘ中央金
庫ヲ經テ預金局長ヘ差出スヘシ

○各地金庫ノ拂戻保管金及即時拂戻
ノ預金ノ元利金差出書式並ニ添付

- 一 各地金庫ニ於テ保管金受渡事務順序ニ據リ拂戻シタル保管金
及預金受渡事務順序ニ據リ即時拂戻シタル預金ノ元利金ハ每
月左ノ書式ノ對照表ヲ調製シ翌月三日迄ニ其取扱官廳ヘ差出
シ證明ヲ受ケ置キ左ノ書類ハ月計對照表ニ添ヘ中央金庫ヲ經
テ預金局長ヘ差出スヘシ但預金受渡事務順序第八條第二十條
及第二十二條ノ拂戻報知書ハ預金局長ヘ送致スルニ及ハス
- 一 拂戻濟預金證書
- 一 拂戻濟定期預金證書
- 一 定期預金利息受取證書
- 一 通常預金即時拂戻受取證書
- 一 通常預金利息即時拂戻受取證書
- 一 拂戻濟保管證書
- 一 拂戻濟預金證明書
- 一 拂戻書

中拂戻金對照表

拂戻人氏名	金額
何 某	0
何 某	0
何應何某	0
合計	0

明有之度候也
日
金庫圖
何日
圖
取扱主任
官氏名圖

〔丙及印章ハ朱〕

明治何年何月

種 類	番記號
保管證書	何第何號
拂戻金證明書	何第何號
即時拂戻受取證書	何第何號

書面ノ通拂戻候條證
明治何年何月何
何地本
又ハ
何地支
何應取扱主任官氏名

何日
圖
取扱主任
官氏名圖

〔丙及印章ハ朱〕

○預金規則
明治十八年五月
第十三號布告

預金規則左ノ通制定ス

第一條 大藏省中ニ預金局ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ
保管利殖セシム

第一 「縣遞局」貯金

第二 各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金

第三 社寺教會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニシテ其
請願ニ據ルモノ

第二條 預リ金取扱手續ハ「大藏卿」之ヲ定ム

第三條 預リ金ノ利息割合ハ「大藏卿」之ヲ定ム

第四條 預リ金ニ關スル損益ハ國庫ノ負擔トス

第五條 預リ金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ得ス

第六條 預リ金ノ運用ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノト
ス

第七條 「大藏卿」ハ便宜ノ地ヲ撰ミ預金局出張所ヲ設置シ又

○預金取扱規程
明治二十三年十一月
大藏省令第三十三號

ハ國庫金取扱所ヲシテ預リ金受渡ヲ取扱ハシムルコトアル
ヘシ

第八條 預リ金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及
ハス

第一條 預金ノ受渡ハ東京市內ハ大藏省預金局其他各地ハ本
支金庫ニ於テ取扱フモノトス

第二條 預リ金ヲサントスルトキハ現金ニ第一號書式ノ拂
込書及第二號書式ノ印鑑各地ハ二
局其他各地ハ本支金庫
庫ヲ云フ以下做之

ハ差出スヘシ但第一回以後ノ預リ金ヲナサ

第三條 預金取扱所ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第三號書式ノ預金通帳ニ記入證印シ之ヲ預ク人ヘ交付スヘシ

第四條 各地金庫ニ於テ取扱ヒタル預金ハ其報告ニ依リ大藏省預金局ノ帳簿ニ登記シ其旨同局ヨリ預ク人ヘ通知スヘシ

第五條 各地金庫ヘ預ク金ヲナシタル後左ノ期限内ニ前條ノ通知ヲ受ケサルトキ又受ケタルモ金員年月日ニ相違アルトキハ書面ヲ以テ直ニ大藏省預金局ヘ申出スヘシ

東京ヨリ
 百里未満 二十日
 二百里未満 三十日
 二百里以外 四十日

第六條 預ク金ヲ以テ公債證書ニ交換ヲ請ハントスルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ其預ク金ヲナシタル預金取扱所ヘ差出スヘシ

第七條 大藏省預金局ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケ其請求ニ應ジタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ五日^{休日ヲ除ク}以內ニ時價ヲ以テ公債證書ヲ購入シ其額面金高記號番號購入代價及購入月日ヲ預ク人ニ通知スヘシ

第八條 預金制限超過額ヲ以テ大藏省預金局長公債證書ヲ購入スル場合ニ於テラハ時價ヲ以テ之ヲ購入シ其額面金高記號番號購入代價及購入月日ヲ預ク人ヘ通知スヘシ

第九條 預ク人大藏省預金局ニ於テ直ニ取扱ヒタル預金ヲ以テ第七條又ハ第八條ニ依リ公債證書ヲ購入シタル通知ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヲ差出シ購入代價ニ對スル預ク金仕拂ノ記入證印ヲ受ケタル上第五號書式ノ領收證書ヲ差出シ該公債證書ヲ受取ルヘシ

第十條 預ク人前條公債證書ノ保管ヲ請ハントスルトキハ第六號書式ノ請求書ヲ大藏省預金局ヘ差出スヘシ

第十一條 各地金庫ニ於テ取扱ヒタル預金ヲ以テ第七條又ハ第八條ニ依リ公債證書ヲ購入シタルトキハ大藏省預金局ニ於テ購入済預ク人ヘ通知スルト同時ニ第七號書式ノ假保管證書ヲ調製シ其金庫ヘ送付スヘシ

第十二條 預ク人前條購入済ノ通知ヲ受ケタルトキハ其金庫ヘ預金通帳ヲ差出シ購入代價ニ對スル預ク金仕拂ノ記入證印ヲ受ケタル上假保管證書ヲ受取ルヘシ

第十三條 預ク人第十一條ニ於ケル公債證書ノ交付ヲ請ハントスルトキハ第八號書式ノ請求書及假保管證書ニ式ノ如ク裏書ヲナシ之ヲ直ニ大藏省預金局ニ差出スヘシ

第十四條 預ク人第十一條ニ於ケル公債證書ノ保管ヲ請ハントスルトキハ第六號書式ノ請求書ニ假保管證書ヲ添ヘ直ニ大藏省預金局ヘ差出スヘシ

第十五條 大藏省預金局ニ於テ第十條又ハ第十四條ノ請求書ヲ受取リタルトキハ第九號書式ノ保管證書ヲ調製シ之ヲ預ク人ヘ受付スヘシ

第十六條 預ク金ノ拂戻ヲ要スルトキハ第十號書式ノ請求書ヲ其預ク金ヲナシタル預金取扱所ヘ差出スヘシ

第十七條 預ク人直ニ大藏省預金局ヘ前條請求書ヲ差出ス場合ニ於テハ預金通帳ニ金員ノ記載證印ヲ受ケ第十一號書式ノ領收證書ヲ差出シ現金ヲ受取ルヘシ

第十八條 各地金庫ニ於テ第十六條ノ請求書ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ大藏省預金局ヘ送付シ同局ニ於テ第十二號書式ノ拂戻證書ヲ調製シ之ヲ預ク人ニ送付スヘシ

第十九條 預ク人前條ノ拂戻證書ヲ受ケタルトキハ該證書ニ式ノ如ク記名調印ヲナシ預金通帳ヲ添ヘ其金庫ヘ差出シ通帳ニ金員ノ記載證印ヲ受ケ現金ヲ受取ルヘシ

第二十條 預ク人大藏省預金局保管ニ係ル公債證書全部ノ受戻ヲ請ハントスルトキハ第十三號書式ノ請求書及保管證書ニ式ノ如ク裏書ヲナシ之ヲ大藏省預金局ヘ差出スヘシ

第二十一條 預ク人大藏省預金局保管ニ係ル公債證書ノ內常籤其他ノ都合ニ依リ其幾部分ノ受戻ヲ請ハントスルトキハ第十三號書式ノ請求書及第十四號書式ノ領收證書ニ保管證書ヲ添ヘ大藏省預金局ヘ差出スヘシ大藏省預金局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ保管證書ニ式ノ如ク裏書ヲナシ該公債證書ト共ニ返付スヘシ

第二十二條 大藏省預金局ニ於テ第十三條第二十條及第二十一條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ五日^{休日ヲ除ク}以內ニ交附スヘシ但書留郵便其他通運會社便等ヲ以テ送送シ望ムモノアルトキハ預ク人ノ危險ニテ之ヲ送送スヘシ

第二十三條 前條ノ送送費ハ送送請求人ノ負擔トシ書留郵便ヲ以テ送送スルモノハ相當ノ郵便切手ヲ前以テ大藏省預金局ヘ送付シ其他ノ便ニヨルモノハ送送賃金先拂ヲ以テ送送スヘシ

第二十四條 預金ノ利子ハ毎年三月末日ヲ期トシテ之ヲ計算シ其元金ニ組入ルヘシ

第二十五條 預ク人ハ毎年六月預金通帳ヲ其預金取扱所ヘ差出シ前條利子ノ記入ヲ受ケヘシ

第二十六條 元金ニ加ヘサル預ク金ノ利子ハ預金ノ全額ヲ拂

戻ストキニアラサレハ受取ルコトヲ得ス

第二十七條 預金ハ預ク人入タル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ附セス但各地ニ於ケル拂戻ハ拂戻證書發附ノ月ヲ以テ拂戻ノ月トス

預金拾錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ附セス

第二十八條 保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ預金局長之ヲ受取リ其所有主ノ預金ニ組入レ其旨通知スヘシ

第二十九條 預ク人前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金通帳ニ該通知書ヲ添ヘ其預金取扱所ヘ差出シ該金預ク人ノ記入ヲ受ケタルトキハ

第三十條 預ク金全額ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヲ返付スヘシ

第三十一條 甲ノ預金取扱所ヨリ交附シタル通帳ヲ以テ乙ノ取扱所ニ於テ受渡ヲナサントスルトキハ第十五號書式ノ申込書及印鑑^{各地ハニ}預金通帳ヲ添ヘ乙取扱所ヘ差出シ番號ノ書替ヲ受ケヘシ

第三十二條 預ク金受渡ニ關シ調印ヲ要スル總テノ書類ニハ社寺教會會社ニアリテハ其名稱ヲ記シ且押印ヲナシ其擔當者一名記名調印シ又共同ニ係ルモノハ其總代人二名記名調印スヘシ

第三十三條 前條受渡擔當者及總代人氏名變換又ハ轉住セシトキハ其旨預金取扱所ヘ届出ヘシ

第三十四條 預金受渡擔當者及總代人變更シタルトキハ前任者連署ノ届書ニ後任者ノ印鑑^{各地ハニ}ヲ添ヘ預金取扱所ヘ差出スヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立ツヘシ

附則

第三十五條 明治二十三年十二月三十一日ニ於ケル通常預ク
金ノ預ク主ハ二十四年三月ニ於テ通帳ヲ其預リ所ヘ差出シ
本年十二月迄ニ係ル利子ノ記入ヲ受クヘシ
第三十六條 明治二十三年十二月三十一日迄ニ預ク入レタル
定期預ク金ハ其満期ニ至リ受取ルヘシ其期限内之ヲ引出ス
コトヲ得ス
第三十七條 明治二十三年十二月三十一日ニ於ケル現在ノ加
印者ハ二十四年一月以降總代人ト見做スヘシ
第三十八條 明治二十三年十二月三十一日迄ニ交付シアル通
帳ハ餘白ノ盡ルヲ俟ツテ引換フヘシ
(書式略之)

○預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ
交換方

明治二十三年八月
法律第七十五號

朕預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム

第一條 預金規則第一條第二第三ニ依リ預金局ニ預リタル金
額三百圓以上ニ達スルトキハ預ク人ノ請求ニ依リ整理公債
證書ヲ購入シテ之ヲ預ク人ニ交付スルコトヲ得
第二條 前條預金ノ額貳千圓ヲ超過スルトキハ預金局長ハ其
超過額ヲ以テ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ク人ニ交付ス
ルコトヲ得
第三條 前二條ニ依リ購入シタル整理公債證書ハ預金ノ全額
ヲ仕拂又ハ拂戻シタル場合ヲ除クノ外所有者ノ望ニ依リ之
ヲ預金局ニ保管スルコトヲ得

第四條 本法ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

○預金局寄託金ニツキ心得方

明治二十三年五月
大藏省訓令第五十九號

本年一月勅令第二號ヲ以テ公有金私有金寄託ノ儀ヲ定メラン
候處各應ニ於テ一時ノ取扱ニ係ル金銀ハ包含セサル儀ナルニ
往々警察官拾得金未決囚所持金ノ類ニシテ直チニ交付又ハ仕
拂ヲナス場合ニ於テモ預金局ニ寄託シ却テ事務取扱ノ不便ヲ
醸スモノ有之候ニ付今後ハ數日內ニ其交付又ハ仕拂フヘキ見
込ナキモノヲ預金局ニ寄託スル儀ト心得ヘシ

○科料罰金徵收及民事一時預金
取扱方

明治十九年四月
司法省令第一號

十九年度以降科料罰金徵收及民事刑事其他一時預リ金取扱方
左ノ通相定ム
一 科料罰金ハ檢事ノ命令ニ據リ各納入直ニ國庫金取扱所若
クハ現金仕拂所ヘ預ク入レ其預リ書ヲ以テ書記局ヘ上納
セシメ書記局取扱主任ハ閣令第三號廢入歳出入納規則第
二十七條ニ據リ納付書(大藏省令第三
號第五號書式)ニ右預リ書ヲ添更ニ國
庫金取扱所若クハ現金仕拂所ヘ納付シ其領收ヲ證シタル
納付書ヲ以テ會計主務官ヘ送付報告ス會計主務官ハ大藏
省令第四號歳入取扱順序第二十三條ニ據リ整理スルモノ
トス
一 民事刑事其他一時預リ金ハ納入ヨリ國庫金取扱所若クハ
現金仕拂所ヘ預ク入レ其預リ書ヲ以テ上納セシメ即日又
ハ翌日マテニ國庫金取扱所若クハ現金仕拂所ヘ納付シ管

守證書ヲ徵シ置ヘシ而シテ之ヲ拂戻ス時ハ會計主務官ヨ
リ振出ス支拂切符ヲ以テ支拂フ可シ
一 前條ノ内所持金銀等納人ヲシテ國庫金取扱所若クハ現
金仕拂所ヘ預ク入レ能ハサルモノハ合議所又ハ現金仕拂所
ノ役ノ上其表而ニ金額種類ヲ明記シ國庫金取扱所若クハ現
金仕拂所ヘ之ヲ物品トシテ預ク入レ金額種類ヲ明記シタ
ル預リ證書ヲ徵シ置可シ而シテ之ヲ請戻ス時ハ適宜ノ案
内書ヲ發シ合議者立會開封シ最前ノ預リ證書ト引換ニ授
受スヘシ
但本條ノ封金大審院裁判所ニ於テハ之ヲ受寄金トシ帳
簿ニ記載スヘシ
一 前數條ニ於テ書記局元帳登記方及會計課ト授受ノ手續ハ
從前ノ通

○供託規則

明治二十三年七月
勅令第四百十五號

朕供託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

供託規則
第一條 法律ノ規定ニ依リ供託スル所ノ金銀有價證券ハ總テ
大藏省預金局ニ於テ之ヲ保管スヘシ
第二條 供託シタル金銀ハ拂込ノ日ヨリ六十日ヲ過ルトキハ
拂込ノ翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ通常預金ノ利子ヲ付ス
ヘシ
第三條 供託ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣定ムル所ノ式ニ
依リ供託書ヲ製シテ供託物ニ添ヘ其申込ヲ爲スヘシ
第四條 供託者ハ民法財産編第四百七十七條債權擔保編第二

百六十八條及商法第七百四十條ノ場合ニ於テハ其供託シタ
ル旨ヲ債權者ニ通知スヘシ

第五條 供託物ハ供託者ノ指定シタル者ニ拂渡シ又ハ裁判所
ノ通知ニ依リ拂渡スヘキモノトス但供託者ニ於テモ其受領
スヘキ理由アルコトヲ證明シ返戻ヲ請求スルコトヲ得
第六條 有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ヲ受取ントスルト
キハ有權者ヨリ大藏省預金局ニ請求スヘシ此請求ナキトキ
ハ政府ハ損害ノ責ニ任セサルヘシ
第七條 前條ノ請求ニ依リ大藏省預金局ニ於テ受取リタル償
還金利子又ハ配當金ハ代供託物又ハ附屬供託物トシテ之ヲ
保管スヘシ

○供託物取扱規程

明治二十三年十二月
大藏省令第三十九號

本年勅令第四百十五號供託規則ニ依リ寄託スル金銀有價證券
取扱規程左ノ通相定ム

供託物取扱規程

第一條 供託物ノ受渡及保管ハ東京府内ハ大藏省預金局其他
ノ各地ハ本支金庫ニ於テ之ヲ取扱フヘシ
第二條 供託物ヲ寄託セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタ
ル第一號書式ノ供託書二通ヲ調製捺印ノ上其寄託ヲ供託取
扱所(東京府内ハ大藏省預金局其他
ノ各地ハ本支金庫以下同)ニ請求スヘシ
第一 供託者ノ住所氏名代人ヲ用ニルトキハ尙代人ノ住所
氏名
官吏ノ公務上取扱ニ係ルモノハ官廳名官氏名
第二 金銀ハ其金額

有價證券ハ其種類記號番號券面金額枚數
但種類其他多數ニテ一紙ニ認メ難キトキハ別冊ニ調製
添附スヘシ

第三 供託ノ事由
但裁判中ノ事件ニ係リ供託ヲナサントスルトキハ尙其
件名及其裁判所名ヲ記スヘシ

第四 年月日

第三條 供託取扱所ニ於テ供託書ヲ受ケタルトキハ其式ニ違
ハサルヲ認メ其物件ヲ受領シ供託書ニ受領ノ旨記捺捺印シ
其一通ヲ供託者ニ交付スヘシ

第四條 供託物ハ郵便ヲ以テ寄託スル事ヲ得
前項ノ場合ニ於テ金錢ハ寄託スヘキ供託取扱所所在ノ銀行
又ハ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ送金手形若クハ爲替券等ヲ以
テ寄託スルコトヲ得

第五條 送金手形若クハ爲替券ヲ以テ金錢ヲ寄託シタルトキ
ハ供託取扱所ハ其現金ヲ領收シタル後チニアラサシハ第三
條ニ於ケル受領ノ手續ヲナサシムルヘシ

第六條 供託物ノ分割ヲ要スルトキハ更ニ分割シタル供託書
各二通ヲ調製シ第二號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受
領證ヲ添ヘ供託取扱所ヘ差出スヘシ

第七條 供託取扱所ニ於テ前條ノ分割請求ヲ受ケタルトキハ
更ニ差出シタル供託書ニ第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲナシ
其一通ヲ受領證ト引替ニ交付スヘシ

第八條 寄託シタル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ノ受取
方ヲ要スルトキハ有權者ヨリ第三號書式ノ請求書二通ニ委
任狀ヲ添ヘ之ヲ供託取扱所ヘ差出スヘシ

第九條 供託取扱所ニ於テ前條ノ請求ニ依リ償還金利息又ハ
配當金ヲ受取リタルトキハ代供託物トシテ之ヲ預リ請求書
ニ受領ノ旨記捺捺印シ其一通ヲ請求者ニ交付スヘシ

第十條 供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡又ハ返戻ヲ受ケントス
ルトキハ其事由ヲ記載シタル第四號書式ノ請求書ニ第三條
及第九條ノ受領證ヲ添ヘ供託取扱所ヘ請求スヘシ但全部拂
戻ノトキハ受領證ニ式ノ如ク與書ヲナシ幾分拂戻ノトキハ
第五號書式ノ受領證ヲ差出スヘシ

第十一條 裁判ノ結果等ニ依リ供託物ノ分割拂戻ヲ要スルト
キハ裁判所ハ第六號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領
證ヲ添ヘ之ヲ供託取扱所ヘ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂戻
證ヲ調製シ之ヲ受取人ヘ交付スヘシ

第十二條 前條ノ拂戻證ヲ受ケタル者ハ其末尾ニ式ノ如ク記
載捺印シ之ヲ供託取扱所ヘ差出シ其拂戻ヲ受ケルヘシ

第十三條 供託取扱所ニ於テ供託物ノ拂戻請求ヲ受ケタルト
キハ三日(休日ヲ除ク)以内ニ拂戻スヘシ

第十四條 供託物幾分ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ受領證ノ末尾ニ内
渡ノ旨記捺捺印シ其供託物ト共ニ之ヲ返付スヘシ

第十五條 供託規則ニ依リ仕拂フヘキ利息ハ元金仕拂請求ノ
際第八號書式ノ利息請求書ヲ供託取扱所ヘ差出スヘシ

第十六條 前條ノ利息請求書ヲ受ケタル者ハ其證券ニ記載アル
大藏省預金局又ハ本支金庫ヘ差出シ之レト引替ニ現金ヲ受
取ルヘシ
(書式略之)

各地金庫取扱ニ係ル供託有價證券現在高表

種類	枚數	金額	
		金	額
書券			
債券			
公債			
諸債			
諸債			

○各地金庫取扱ニ係ル供託有價證券
現在高表差出方

明治二十五年三月
大藏省訓令第十七號

各地金庫取扱ニ係ル供託有價證券年度末現在高ニ對シ左ノ離
形ノ如ク現在高表調製各支金庫分ハ本金庫ニ取纏メ毎年四月
二十日限發送中央金庫ヲ經テ預金局ヘ差出スヘシ

○金庫規則
明治二十二年十二月
勅令第百二十六號

朕金庫規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治何年三月三十一日現在高書面之通相違無之候也
年 月 日 何地何(本又ハ支)金庫印

(備考) 其ノ種別ノ券種ノ別ニ依リテハ
スル券種ノ別ニ依リテハ
サシムル券種ノ別ニ依リテハ
チモ他種ノ券種ノ別ニ依リテハ
ノ區分ノ別ニ依リテハ
ノ爲メニ依リテハ
額ノ別ニ依リテハ
券種ノ別ニ依リテハ
種類ノ別ニ依リテハ
ハ亦モ他種ノ券種ノ別ニ依リテハ
諸債ノ別ニ依リテハ
公債ノ別ニ依リテハ
債券ノ別ニ依リテハ
諸債ノ別ニ依リテハ
諸債ノ別ニ依リテハ

金庫規則

第一條 金庫ハ國庫ニ於テ保管出納スル現金ヲ取扱フ所トス

第二條 金庫ヲ分テ左ノ三種トス

第一 中央金庫

第二 本金庫

第三 支金庫

第三條 東京ニ中央金庫ヲ置キ各府縣廳下 東京府 及北海道札
幌函館根室ニ本金庫ヲ置ク

第四條 大藏大臣ハ右ノ外必要ト認ル場所ニ支金庫ヲ設置スヘシ

第五條 金庫ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第五條 中央金庫ハ各地ノ本金庫ヲ統轄シ本金庫ハ所屬ノ支
金庫ヲ總轄ス

但東京府下ノ支金庫ハ直ニ中央金庫ニ於テ總轄ス

第六條 中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ハ日本銀行
ヲシテ取扱ハシム

第七條 日本銀行ハ本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ヲ取扱フ
爲メ各地ニ其支店又ハ代理店ヲ設置スヘシ

第八條 日本銀行ノ支店長又ハ日本銀行ノ代理店長ハ金庫出
納役ノ代理人トシテ其事務ヲ分擔スヘシ

但代理店ノ支店ニ於テ金庫ノ事務ヲ取扱フトキハ代理店
長其支店長ニ代理ノ事務ヲ委嘱スヘシ

第九條 日本銀行ハ第七條ニ據リ各地ノ代理店ヲ定メントス
ルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス

第十條 大藏大臣ハ検査官吏ヲ派出シ何時ニテモ金庫ノ金櫃
帳簿ヲ検査スルコトヲ得

此場合ニ於テハ日本銀行本支店代理店タル銀行全部ノ金櫃帳簿ヲ併セテ検査スルコトアルヘシ

第十一條 日本銀行ハ中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ニ付政府ニ對シ一切ノ責任ヲ有ス

第十二條 金庫ニ於テ備フヘキ帳簿ノ種類其規程出納ノ順序及金庫ノ検査規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○金庫検査規程 明治二十二年十二月 大藏省令第十七號

金庫検査規程左ノ通り相定ム

金庫検査規程

第一條 金庫ノ検査ハ定時及臨時ニ之ヲ施行ス

第二條 定時検査ハ毎年三月三十一日(當日ノ出納ヲ終了セ)臨時検査ハ金庫出納役及其代理人交替スルトキ若シハ大藏大臣必要ト認ムルトキニ於テ之ヲ施行ス

第三條 検査官吏中央金庫若クハ本金庫へ臨檢ノ節ハ出納役若クハ其代理人ヨリ其金庫現金出納原簿ノ計算表及現金殘高書ヲ徴シ之ヲ該原簿ノ各科目及各補助簿ノ員額ニ對照シ又現金科目ノ員額ト現金種類別簿ト其金櫃ニ保管スル所ノ現在金ト對照スヘシ

支金庫へ臨檢ノ節ハ其出納役代理人ヨリ各帳簿ノ出納金額及現金殘高書ヲ徴シ之ヲ各帳簿ニ對照シ殘高書ノ金額ト現金受拂簿ノ殘金額ト金櫃ニ保管スル所ノ現在金ト對照スヘシ

検査官吏前各項ノ對照ヲ了シタルトキハ檢定書二通ヲ製シ

金庫出納役若シハ其代理人ヲシテ之レニ署名捺印セシメ其一通(號)ハ金庫出納役若シハ其代理人へ交付スヘシ

第四條 検査官吏ハ金庫ノ検査ヲ了シタルトキハ検査報告書ヲ作リ之レニ第三條第一項ノ現金出納原簿ノ計算表及現金殘高書同條第二項ノ支金庫各帳簿ノ出納金額及現金殘高書同條第三項ノ檢定書(號)ヲ添付シ定時検査ニ係ルモノハ其年四月三日迄ニ臨時検査ニ係ルモノハ直ニ其地ヲ發シ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五條 検査官吏金庫へ臨檢ノトキハ大藏大臣ノ命令書ヲ携帶シ之ヲ金庫出納役若クハ其代理人ニ示スヘシ

○出納官吏身元保證金納付方 明治二十三年一月 勅令第四號

出納官吏身元保證金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 左ノ出納官吏ニシテ其取扱金額一箇年五百圓以上又ハ常時保管スル物品ノ價格千圓以上ニ達スルモノハ身元保證金ヲ納ムヘシ

但兵備品ノ出納ヲ取扱フ武官ハ本條ノ限ニアラス(二十四 第五十一號ヲ以テ但書追加)

第一 現金ノ領收ヲ常職トスル官吏

第二 常時現金前渡ヲ受クル官吏

第三 物品會計官吏

第二條 身元保證金ハ就職ノ時納付スヘキモノトス但現ニ明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニ限り明治二十三年四月以後明治二十八年三月マテ五箇年間ヲ期シ其身元保

證金額ヲ平分シ毎年四期又ハ毎月ニ之ヲ納付セシムヘシ

前項明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニシテ土地若クハ公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用セントスル者ハ明治二十三年九月マテニ一時ニ納付セシムヘシ

第三條 身元保證金ニ代用セントスル公債證書ハ有利益ノモノヲ以テシ其價格ハ明治二十三年三月中東京取引所平均ノ相場ニ依リ爾後五箇年毎ニ其年三月中ノ同所平均相場ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ但明治二十三年三月以後新ニ發行シタル公債證書ノ價格ハ身元保證金納付前月ノ東京取引所ノ平均相場ニ依リ爾後本條ノ期限ト同時ニ其價格ヲ改定スヘシ

第四條 身元保證金ニ代用セントスル土地ノ價格ハ總テ土地ノ帳簿ニ登記ノ價格ニ依ルヘシ

第五條 會計規則第百五條第二項ニ依リ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ノ公賣スルトキ其公賣公告入費ハ損失金ノ辨償ヲ命セラシムル出納官吏ヲシテ辨償セシムヘシ

第六條 出納官吏ノ身元保證金納入拋戻等ニ關スル取扱規則ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

證金ヲ納付セントスルトキハ其現金ヲ預金局預金ノ取扱所ニ預ケ入レ其保管證書ヲ得之ニ納付書ヲ添ヘ各省大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ納付スヘシ

第一條 出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ各省大臣定ムル所ノ規定ニ依リ認可ヲ得タル後土地ノ所在地價格及登記ヲ受ケントスル日限ヲ記シタル請求書二通ヲ製シ各省大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三條 大藏大臣ハ前條ノ申出ニ依リ登記日限ヲ定メ土地所在地ノ北海道廳長官府縣知事ニ命シ登記法第二十一條ノ手續ヲ代理セシムヘシ

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ土地ノ登記ヲ了シタルトキハ其書入證書ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五條 出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ現金ニ代用スル公債證書ハ記名トシ利札付ノマ、之ヲ金庫ニ預ケ入レ其保管證書ヲ得之ニ書入證書ヲ添ヘ各省大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ納付スヘシ

第六條 大藏大臣ハ前四條ニ依リ身元保證金ノ納付濟トナリタルトキ其納付濟證書ヲ製シ各省大臣ヲ經由シテ出納官吏ニ交付スヘシ但明治二十三年勅令第四號第二條但書ノ場合ニ於テ大藏大臣ハ納付ノ都度其假納付證書ヲ交付シ完納ニ至テ納付濟證書ト交換スヘシ

第七條 明治二十三年勅令第四號第二條但書ニ據リ身元保證金ヲ納付スルモノハ本年二月末日マテニ四期納付又ハ毎月納付ノ一ヲ撰ミ各省大臣へ願出ツヘシ

各省大臣ハ前項ノ請願ヲ認可シタルモノヲ取纏メ本年三月

十五日マラニ之ヲ大藏大臣ニ通知スルモノトス

第八條 明治二十三年勅令第四號第二條但書ニ據リ身元保證金ヲ納付スルモノハ左ノ期限ニ依ル

四期納付ノ分

第一期 六月末日マテ

第二期 九月末日マテ

第三期 十二月末日マテ

第四期 三月末日マテ

毎月納付ノ分

毎月末日マテ

第九條 出納官吏土地若クハ公債證書ヲ以テ現金ニ代用シタル場合ニ於テ明治二十三年勅令第四號第三條及ヒ第四條ノ計算ニ依リ身元保證金額ニ對シ過剩ヲ生スルコトアルモ其繼續納付スルハ妨ケナシ

第十條 出納官吏公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用シタル場合ニ於テハ其利子渡期ニ至リ前ニ公債證書ヲ預入タル金庫ニ於テ其利子受取ルヘシ

第十一條 會計規則第百十條ニ依リ身元保證金ノ拂戻ヲ要スルトキハ出納官吏ハ各省大臣ヲ經由シテ責任解除ヲ得ルコトヲ大藏大臣ニ證明シ身元保證金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第十二條 身元保證金ヲ拂戻ストキ現金及公債證書ハ大藏大臣ヨリ各省大臣ヲ經由シテ保管證書又ハ書入證書ヲ出納官吏ニ返付スヘシ又土地ハ大藏大臣其書入證書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ送付シ書入ノ解除ヲナス爲メ登記法第二十三條ノ手續ヲ代理セシメ書入證書ヲ出納官吏ニ返付セシムヘシ前項保管證書又ハ書入證書ハ身元保證金ノ納付済證ト引換

ニ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ
第十三條 前條ニ依リ北海道廳長官府縣知事ニ於テ土地書入解除ノ手續ヲ了シタルトキハ其旨大藏大臣ニ届出テ大藏大臣ハ其旨ヲ各省大臣ニ通知スヘシ
第十四條 會計規則第百五條ニ依リ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テントスルトキハ各省大臣ヨリ會計検査院判決書ノ寫ヲ添ヘテ其旨ヲ大藏大臣ニ照會スルモノトス
前項ノ場合ニ於テ大藏大臣ハ直ニ各省大臣ノ照會ニ應シ出納官吏ノ身元保證金(土地公債證書)ヨリ損失金ノ辨償ニ充ツヘキ金額ヲ差引シ其旨各省大臣及ヒ出納官吏ニ通知スヘシ
第十五條 大藏大臣ハ會計規則第百五條第二項ノ場合ニ於テ土地公債證書ヲ公賣シタルトキハ同時ニ出納官吏ニ向テ公賣公費入費ノ辨償ヲ命スヘシ
第十六條 會計規則第百五條第三項及ヒ第百六條ノ場合ニ於テ各省大臣ハ直ニ其辨償追徴ノ手續ヲ履行シ其始末ヲ大藏大臣ニ通知スルモノトス
第十七條 會計規則第百八條ニ依リ各省大臣身元保證金ノ退納期限ヲ指定シタルトキ及ヒ會計規則第百九條第一項ニ依リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ各省大臣ヨリ其退納期限及ヒ増納期限起算日ヲ大藏大臣ニ通知スルモノトス
○出納官吏現金取扱規則 明治二十二年十月大藏省令第十三號
出納官吏現金取扱規則左ノ通り相定ム

出納官吏現金取扱規則

第一章 義務委託

第一條 金庫所在地ノ出納官吏ハ其取扱フ所ノ現金ヲ保管ノ爲メ其地ノ金庫ニ委託スヘシ

第二條 前條ニ據リ委託ヲ爲シタルトキハ出納官吏ハ其資格氏名ヲ記シタル印鑑ヲ金庫ニ送付スヘシ(二十三年大藏省令第四十一號ヲ以テ改正)

第三條 出納官吏ヨリ保管金ノ拂込ヲナストキハ金庫ハ其保管證書ヲ製シ保管金引出切符ヲ添ヘ現金ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ(二十三年大藏省令第四十一號ヲ以テ改正)

第四條 出納官吏ノ職務ヲ任命シタル當該官ハ其義務委託ヲナスヘキ出納官吏ノ資格氏名ヲ金庫ニ通知スヘシ(二十三年大藏省令第四十一號ヲ以テ改正)

但陸軍省海軍省ノ出納官吏ノ資格氏名ハ其所屬長官ヨリ通知スヘシ

第五條 金庫ハ前條出納官吏資格氏名ノ通知ヲ受クルニ非サレバ現金ノ仕拂ヲナスヘカラス(二十三年大藏省令第四十一號ヲ以テ改正)

第六條 出納官吏ハ保管金ノ支拂ヲ金庫ニ請求セントスルトキハ總テ引切符ヲ以テナスヘシ

第七條 出納官吏ハ其委託シタル保管金ト同種ノ貨幣ヲ以テ仕拂ヲ請ハントスルトキハ拂込ノ際特ニ之ヲ金庫ニ求ムヘシ拂込ノ際特別ノ請求ヲキモノハ總テ有合ノ通貨ヲ以テ仕拂フヘシ

第八條 出納官吏ハ其委託シタル保管金ヲ以テ收入又ハ返納ノ爲メ金庫ニ拂込ヲナシトスルトキハ引切符ヲ以テ拂込ヲナスヘシ

第九條 金庫ハ毎年三月三十一日ニ於テ其年度中ニ委託セザレタル保管金額ヨリ仕拂ヒタル金額ヲ扣除シ其殘金額ニ對

シ更ニ保管證書ヲ製シ同年度中ニ出納官吏ニ交付シタル保管證書ト引換フヘシ

第十條 陸軍海軍隊費ニシテ現金仕拂ヲ要スル場合及廳中雜費工事費ニシテ小口ノ現金仕拂ヲ要スル場合ニ於テハ金庫所在地ニアリテモ所要ノ金額ヲ限リ本規則第二章ニ據リ現金ヲ保管スルコトヲ得

前項所要ノ金額ハ仕拂命令官之ヲ定ム

第二章 隨意保管

第十一條 金庫ノ設キ場所ニ於テ現金ヲ保管スル所ノ出納官吏ハ堅牢ナル函ヲ備ヘ之ニ其保管ニ係ル現金及ヒ出納ノ帳簿ヲ藏置スヘシ

二人以上共同責任ヲ以テ現金ヲ保管スル場合ニ於テハ二箇以上ノ鎖鑰ヲ有スル堅牢ノ函ヲ備ヘ出納官吏其鎖鑰ヲ分管スヘシ

出納官吏現金ヲ携帶シテ旅行スル場合ニ於テハ前二項ニ據ラス相當ノ保護法ヲ設クルコトヲ得

第十二條 出納官吏ノ保管ニ係ル現金ハ私有金ト混スルヲ得ス

第十三條 出納官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ其現金ヲ官金ト同一ノ函中ニ藏置スルコトヲ得

第十四條 出納官吏ハ第十一條ニ據リ現金保管ヲナシ難キ場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ確實ナル銀行又ハ身代ノ確實ナル一人ニ其保管スヘキ現金ノ保管ヲ托スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ私金ト區別シ其計算ヲ混スヘカラス

第三章 拂込

第十五條 金庫所在地ノ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入

ヲ收納スルトキハ毎日之ヲ取纏メ拂込書ヲ添ヘテ翌日マテニ金庫ニ拂込ムヘシ但收入金額五拾圓未満ナルトキハ每一

第十六條 金庫ノ設置ヲキ地方ノ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納スルトキハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ取纏メ拂込書ヲ添テ大藏大臣ノ指定シタル金庫ニ拂込ムヘシ但次條ニ定メタル場合ハ此限ニアラス

第一 收入金滿五拾圓未満ハ 每一箇月

(二十三年大藏省令第十三號ヲ以テ本項ヲ追加シ從前ノ第一以下順次標下)

第二 同 百 圓未満ハ 每十日

第三 同 三百圓未満ハ 每五日

第四 同 三百圓以上ハ 翌日限

第十七條 外國及運輸通信ノ不便ナル地方ニシテ金庫ノ設置

ナキ場合ニ於テ收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ收納

スルトキハ其金額ノ監守證ヲ製シ最近便ヲ以テ大藏大臣ノ

指定シタル金庫ニ送付スヘシ(二十三年大藏省令第十四號ヲ以テ改正)

第十八條 金庫ハ前條ノ場合ニ於テ收入官吏ト同場所又ハ其

場所ト爲替送金ノ便アル地方ニ於テ仕拂フヘキ仕命令ヲ

受ルトキハ收入官吏ノ監守證ニ別符付ノ領收證ヲ添ヘテ之

ヲ受取人ニ送付スヘシ

第十九條 收入官吏ハ前條ノ受取人ヨリ監守證ヲ以テ現金ノ

拂渡ヲ請求セラルトキハ其監守證ト引換ニ現金ヲ交付シ

テ金庫ノ領收證ヲ受クヘシ

第二十條 本規則ハ收入官吏現金前渡ヲ受タル官吏特別會計

ニ係ル官金由納官吏ニ適用ス

第二十一條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス

○出納官吏身元保證金額指定標準

明治二十五年五月大藏省令第九號

當省所管出納官吏身元保證金額指定標準左ノ通改定ス

現金ノ領收ヲ常職トスル官吏(國稅及稅外收入官吏)

取 扱 額 保證金額

五百圓以上貳千圓未満

四拾圓

貳千圓以上四千圓未満

五拾圓

四千圓以上六千圓未満

六拾圓

六千圓以上八千圓未満

七拾圓

八千圓以上壹萬圓未満

八拾圓

壹萬圓以上拾萬圓未満ハ壹萬圓毎ニ拾萬圓以上ハ貳萬圓毎

ニ拾五圓ヲ加ヘ最高額千圓ニ止ム

物品會計官吏(內國稅徵收費所屬物品及保管物會計官吏)

保 管 額 保證金額

千圓以上四千圓未満

貳拾圓

四千圓以上六千圓未満

三拾圓

六千圓以上八千圓未満

四拾圓

八千圓以上壹萬圓未満

五拾圓

壹萬圓以上拾萬圓未満ハ五千圓毎ニ拾萬圓以上ハ壹萬圓毎

ニ五圓ヲ加ヘ最高額千圓ニ止ム

印紙類會計官吏 保證金額

保 管 額

千圓以上四千圓未満 貳拾五圓
四千圓以上六千圓未満 三拾五圓
六千圓以上八千圓未満 四拾五圓
八千圓以上壹萬圓未満 六拾圓
壹萬圓以上拾萬圓未満ハ壹萬圓毎ニ拾萬圓以上ハ貳萬圓毎ニ拾五圓ヲ加ヘ最高額千圓ニ止ム

第七類 通信及運送

第一章 郵便規則及附屬法

○郵便條例

明治十五年十二月 布告第五十九號

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス

郵便條例 (別冊)

第一章 郵便物

第一條 凡郵便物別テ四種ト爲ス
一 書狀
二 郵便葉書及往復葉書(十七年第三十三號布告ヲ以テ(及)以下五字ヲ追加ス)

三 毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附録
四 書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、畫、繪圖、野紙、營業品ノ見本及雛形、農産物種子(二十二年八月七日法律第二)

第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ
第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ

第五條 第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ
一 截斷又ハ破却シタルモノ
一 税額印面ニ文字ヲ書シタルモノ
一 税額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ

一 超過スヘカラス
第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス
一 毒藥劇藥、爆發燃燒シ易キ物品(十九年二月十二日第四號布告ヲ以テ(及)以下五字ヲ追加ス)

一流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、錄及器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便電信局郵便局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便ニ差出スモノハ此限ニアラス

一 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫眞及物品
一 金銀、寶玉
一 貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便稅
第十七條 郵便稅ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム
第一種郵便物 重量ニ依テ 二錢
二錢未滿 二錢
二錢以上 二錢

第二種郵便物 葉書 一葉 一錢
十七年第三十三號布告ヲ以テ(及)以下五字ヲ追加ス
往復葉書 一葉 二錢
葉書一葉 一錢
往復葉書一葉 二錢
三錢未滿 三錢
三錢以上 三錢

第三種郵便物 一號一箇重量十六匁毎ニ 五厘
二號又ハ二箇以上一東重量十六匁毎ニ 一錢
三號又ハ三箇以上一東重量十六匁毎ニ 二錢

第四種郵便物 重量三十匁毎ニ 二錢
三錢未滿 三錢
三錢以上 三錢

第十八條 郵便稅ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書往復葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但内信局長ト約定アルモノハ此限ニアラス(十七年第三十三號布告ヲ以テ(及)以下五字ヲ追加ス)

第十九條 納稅ニ用ヒタル郵便切手並封皮葉書往復葉書帶紙

一 紙 配送又ハ戻戻ノ爲 其他ノ品ヲ貼付シタルモノ
一 葉ヲ折リ之ヲ全ク糊若シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊若シタルモノ
一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シテ遞信省ノ認可ヲ受ケ遞信省認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ其附録ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ

第七條 第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス
第八條 第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

第九條 營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ
第十條 營業者ニアラサルモノ、間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ

第十一條 異種ノ郵便物ヲ合裝スルトキハ總テ其種類中高額稅ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス
第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條 第三種第四種郵便物 營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量三百目ニ超過スヘカラス
第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量百匁ニ超過スヘカラス(二十二年八月七日法律第二) (十一號ヲ以テ本條中追加)

第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸

ノ税額印面ハ郵便電信局郵便局ニ於テ消印スヘシ(上同)
第二十條 郵便稅ニ過納アルモノ已ニ其税額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セズ

第二十一條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ
受取人其郵便物ヲ受取タルトキハ其納稅ヲ拒ムヘカラス
受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十二條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ差立前ニ係ル未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ
第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背反スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納稅又ハ不足稅ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ未納稅又ハ不足稅ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ
第二十五條 未納稅又ハ不足稅ヲ徵收スルトキハ郵便電信局郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙
第二十六條 郵便切手封皮郵便葉書往復葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ(上同)
第二十七條 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ハ郵便稅納ノ證トナシ又郵便切手ハ書留手數料並別配達料納濟ノ證トナスモノトス(上同)

第七類 第一章 郵便規則及附屬法

九百四十四

第二十八條 郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ税額ニ不足シ生ズルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ税額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ遞信大臣之ヲ定ムヘシ

第三十條 郵便帶紙ハ三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條 郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ遞信管理局ニテ賣下クヘシ

第三十二條 郵便切手封皮葉書往復葉書ヲ賣ルモノハ一等郵便電信局長一等郵便局長ノ免許ヲ受テ郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ

第三十三條 郵便切手封皮葉書往復葉書ハ郵便電信局郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第三十四條 郵便電信局郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書往復葉書ノ印面税額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第三十五條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ノ税額印面ヲ切取リ郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セス

第三十六條 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ノ汚損毀損捺印アルモノ及税額印面不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レトモ其未ダ使用セザルモノニ限リ二人以上ノ證人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシムルトキハ一等郵便電信局一等郵便局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

第三十七條 遞信管理局及一等郵便電信局郵便局ニ於テハ四枚以上聯綴シタル郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章 免稅郵便

第三十八條 郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス

第三十九條 免稅郵便物ハ遞信省遞信管理局郵便電信局郵便局府縣廳府縣所屬郡區役所並以上各廳派出官吏相互ノ間又ハ之ヲ往復スルモノニ限ルヘシ

第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條 免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモノハ相當種類ノ郵便稅ヲ徵收スヘシ

第五節 書留郵便

第四十四條 書留郵便物ハ郵便電信局郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ證スルモノトス

第四十五條 書留手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラズ六錢トス

第四十六條 書留郵便物ハ郵便稅手數料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條 書留手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第四十八條 書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便電信局郵便局若クハ郵便受取所ニ於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便電信局郵便局若クハ郵便受取

第七類 第一章 郵便規則及附屬法

九百四十五

所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル受取證書ヲ受領スヘシ

第四十九條 書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタル受取證書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條 免稅郵便物ハ書留手數料ヲ納ムルニ及ハス

第六節 郵便物遞送配達

第五十一條 郵便物遞送配達ハ郵便電信局郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第五十二條 郵便物ノ廢置ハ遞信大臣新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條 郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛テタルモノハ其内ノ一名ニ配達スヘシ肩書寄附ノ類以アルモノハ其肩書ノ家ニ配達スヘシ

第五十四條 完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免稅郵便物亦同シ但市外別配達料船料貨幣遞送配達費ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物受取人ニ於テ其稅ヲ納メザルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス

第五十六條 郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信文ヲ讀過スルトキハ之ヲ受取リタルモノトナスヘシ但第百十五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條 郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ差出スヘシ但受取人ニ違スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ニ過クヘカラス

第五十八條 其家ニ屬セザル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ

其由ヲ附箋シ連ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ連ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五十九條 配達シ能ハス或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メタル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之ヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第六十一條 差立前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第六十二條 第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人ヲリトモ受授スヘカラス

第六十四條 郵便電信局郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委託スヘカラス又集配人ハ其委託ヲ受クヘカラス

第六十五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便電信局郵便局ニ於テ之ヲ秤量ヲナサス

第六十六條 郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ遲達ヨリ生シタル損失ハ遞信省之ヲ償フノ責ニ任セス

第六十七條 書狀ハ郵便電信局郵便局ヲ經由セザルハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

一 送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

現行日本法令大全

一郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第六十八條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ遞信省遞信管理局又ハ郵便電信局郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送貨額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ定約アルモノハ此限ニテラス

一第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セザル額

一第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セザル額

第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便電信局郵便局ニ届出ツヘシ

第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス

第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラザンハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便電信局郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮帶紙又ハ葉書往復葉書ノ交付ヲ求メザルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章 別配達郵便

第七十四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラズ別ニ急送ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條 別配達別テ二種ト爲ス

一市内郵便電信局所在地別配達

一市外郵便電信局所在地別配達

第七十六條 市内別配達料ハ東京京都及大阪ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條 市外別配達料ハ配達ノ郵便電信局郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス八十町未滿亦同シ

第七十八條 別配達ハ郵便税並別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七十九條 別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第八十條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徵收スヘシ

第八十一條 市外別配達料不足額ヲ徵收スルトキハ郵便電信局郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第八十二條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ解船料ヲ受取人ヨリ徵收スヘシ

第八十三條 市外別配達料不足額又ハ解船料ヲ受取人ニ於テ納メザルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

第八十四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ解船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

現行日本法令大全

第八十五條 別配達ハ各郵便電信局郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條 甲郵便電信局郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便電信局郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ

第八十七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便電信局郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其郵便電信局郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條 別配達トノミ記載セルモノハ各郵便電信局郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其他ノ郵便電信局郵便局ヨリ配達スヘシ

第九十條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條 免稅郵便物ハ別配達料解船料ヲ納ムルニ及ハズ

第八章 郵便私書函

第九十二條 郵便私書函ハ郵便電信局郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セズ私書函ニ入附クヘシ

第九十四條 私書函貸與料ハ一月金三圓以下ヲ以テ遞信大臣之ヲ定ムヘシ

第九十五條 私書函貸與期限ハ一月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足額ノ郵便物ハ私書函ニ入レシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一箇ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條 私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便電信局郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セザルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便電信局郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便電信局郵便局留置ト記載スヘシ

第一百一條 留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ

第一百二條 留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ

第一百三條 未納稅又ハ不足額ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第一百四條 留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ

留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラザルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章 貨幣封入郵便

第一百五條 貨幣封入郵便物ハ内信局長ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ運送配達セシムルモノトス

第一百六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額運送ノ路程ニ從ヒ貨幣運送貨及配達貨ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣運送貨ハ差出人ニ於テ前納シ配達貨ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第一百七條 貨幣運送貨及配達貨額ハ遞信大臣各郵便電信局郵

現行日本法令大全

便局ニ揭示スヘシ
 第八條 封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘカラス
 第九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ
 第十條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ
 第十一條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ
 第十二條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ證トシテ受授スヘシ
 第十三條 貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便電信局郵便局ニ設ケアル員數證書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送貨ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便電信局郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取證書ヲ受領スヘシ
 第十四條 本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上捺添スヘシ
 第十五條 貨幣封入郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アル郵便電信局郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便電信局郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送貨及ヒ配達貨ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ
 第十六條 貨幣遞送貨又ハ配達貨ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取テ得ス
 其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額並還付ノ貨幣遞送貨及配達

貨ヲ徴收スヘシ
 第十七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送貨及前後ノ配達貨ヲ徴收スヘシ
 第十八條 貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス
 第十九條 貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送貨又ハ配達貨ノ納付ヲ拒ムヘカラス
 第二十條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ遞信省ハ之ヲ償フノ責ニ任セス
 第二十一條 郵便電信局郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ
 第二十二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實證アルモノ、外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ
 第二十三條 郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ遞信省ニ没入スルモノトス
 第二十四條 遞信大臣ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
 第二十五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一少年間遞信省ニ保存スヘシ
 沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルトキハ遞信省ノ帳簿ニ登記シ三少年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物

現行日本法令大全

品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ
 第二十六條 沒書ヲ一少年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三少年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ没入スヘシ
 第二十七條 沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三少年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸證書ハ手数料ヲ徴收セスト雖トモ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手数料トシテ徴收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス
 第二十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書而或ハ口頭ヲ以テ證トスヘシ但遞信省ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス
 第十二章 郵便爲替
 第二十九條 郵便爲替ハ遞信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ取扱フモノトス
 第三十條 爲替ヲ取扱フ郵便電信局郵便局ハ遞信大臣新聞紙ヲ以テ公告スヘシ
 第三十一條 爲替證書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス
 第三十二條 爲替料ハ遞信大臣之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便電信局郵便局ニ揭示スヘシ
 第三十三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便電信局郵便局ニ於テ掛渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス
 第三十四條 爲替差出人ハ郵便電信局郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先

ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ
 第三十五條 爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ
 第三十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ヲ返付セズ
 第三十七條 爲替受取人其爲替證書ニ記載シタル掛渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ爲替貯金局ニ其證書ヲ納付シテ書換テ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得
 第三十八條 爲替金ノ掛渡及返戻ハ其爲替證書ト引替ニ限ルヘシ但郵便電信局郵便局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス
 第三十九條 爲替受取人ハ其爲替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受ルトキ亦同シ
 第四十條 爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ルヲ得ス
 第四十一條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第三百三十九條ノ手續ヲナスヘシ
 第四十二條 官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルトキハ其爲替證書ノ裏面ニ官衙社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第三百三十九條ノ手續ヲナスヘシ
 第四十三條 官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第四百一十一條ニ依ル能ハサルトキハ第四百一十二條ニ依ルヲ得

現行日本法令大全

第四百四十四條 官衙社會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻ヲ受クルトキモ第四百四十二條第四百四十三條ノ手續ニ依ルヘシ

第四百四十五條 爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限リトス

第四百四十六條 効用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ爲替貯金局ニ納付シ其書換ヲ請求スヘシ

第四百四十七條 爲替證書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ク年以内ニ其書換ヲ請求セザルトキハ爲替貯金局長新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ク年以内ニ爲替證書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一ヲ手数料トシテ徵收スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ク年ヲ過ルモ尙ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求セザルトキハ其爲替金ヲ没入スヘシ

第四百四十八條 爲替證書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚損毀損シ判明ナラザルトキハ差出人ニ於テ證人ヲ立テ爲替貯金局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ

第四百四十九條 爲替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ成ハ再度ノ證書ヲ交付スルハ其原證書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第四百五十條 爲替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

爲替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモ兩様ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

第四百五十一條 再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル

爲替證書ヲ見出シタルトキハ之ヲ爲替貯金局ニ納付スヘシ

第四百五十二條 爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコトアルヘシ

第四百五十三條 爲替證書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達ノトキハ爲替金ノ拂渡ヲ延引スヘシ

第四百五十四條 爲替金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第四百五十五條 郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ遞信省ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第四百五十六條 此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ遞信省ハ其責ニ任セス

第十三章 (第四百五十七條ヨリ第四百六十二條迄) (二十三年八月十二日法律第六十三號郵便貯金條例公布ニ依リ廢止ス)

第十四章 外國郵便

第二百三條 凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

- 一 書狀
- 二 郵便葉書及往復葉書
- 三 書籍、各種ノ印刷物、寫眞、畫圖
- 四 詞訟上及商用上ノ書類
- 五 商品ノ見本

第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ牴觸セザルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セザルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合

現行日本法令大全

裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニ「キログラム」凡五百三十一「グラム」ニ超過スヘカラス

第二百九條 第五項郵便物ノ大サハ長「センチメートル」凡四六「センチメートル」幅「センチメートル」凡三三「センチメートル」厚「センチメートル」凡六「センチメートル」又其重量ハ「グラム」凡六六「グラム」ニ超過スヘカラス

第二百十條 第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

第二百十一條 第二項郵便物ハ萬國郵便聯合葉書往復葉書ヲ用ユヘシ

第二百十二條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付セザルモノニ限ルヘシ

第二百十四條 左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス

- 一 貨幣又ハ高價ノ物品
- 一 關稅ヲ拂フヘキ物品
- 一 流動物、流動腐敗シ易キ物、醇化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品 (十九年四月布告ヲ以テ第三項ヲ改メテ本項及次ノ一項ト爲ス)

第十六條 第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

第二百十五條 郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便稅ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條 郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラズ

第二百十七條 第二百八條第二百九條第二百十條第二百十三條第二百十五條第二百十六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納稅又ハ不足稅ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條 書留郵便物ハ郵便稅書留手数料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取證書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手数料ノ外増手数料ヲ前納スヘシ

第二百二十條 郵便稅書留手数料及増手数料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條 郵便稅書留手数料増手数料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ遞信大臣公告スヘシ

第二百二十二條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ內國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノ、外之ヲ紛失シタル國ノ主管應ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五「フランシ」凡金銀二十「フランシ」若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ內國ニ到達スル書留郵便物ヲ內國遞送中紛失シタルトキ亦同シ

第二百二十三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡內國ヲ發シ

外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ遞信省遞信管理
 局又ハ郵便電信局郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ
 以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段
 ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額
 一第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

第二百二十四條 第二十六條第三十二條第三十三條第三十四
 條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便業
 書往復葉書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條 第十二條第十九條第二十條第二十一條第一
 項第三項第二十二條第二十五條第四十四條第四十八條第五
 十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十
 六條ノ罰金ヲ除ク 第六十九條第七十條第七十一條第七十二
 條第七十三條第七百條及第十一章ノ規則ハ内國ヨリ外國ニ差
 立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百二十六條 第二十一條第一項第二項第二十五條第四十
 四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五
 條第五十六條第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條
 第七十三條 第七十三條第九十九條第百條第百一條第百四
 條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物
 ニ亦適用スヘシ

第十五章 罰則

第二百二十七條 第十六條第三十三條第三十四條第六十九條
 第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以
 下ノ罰金ニ處ス(刑法第百六十三條參照)

第二百二十八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタ
 ルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

ルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二
 圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以
 下ノ罰金ニ處ス

遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁
 錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條 第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノ
 ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ
 犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ヲ偽造變造シ又
 ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重
 禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 己ノニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚
 穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラ
 サルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ク又ハ寄藏故買シ若
 クハ牙保ヲナシタルモノハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處
 シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人
 ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲
 メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ
 第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五
 錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條 有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐僞ヲ以テ郵便稅
 ヲ免ンタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以
 上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞
 送配達シ或ハ自己ノ受クタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ
 免ンタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條 不良ノ事ヲ行ハソカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモ
 ノハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以
 下ノ罰金ヲ附加ス

行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條 遞信省ノ認可ヲ得シテ郵便物ニ遞信省認
 可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處
 ス

郵便物運送ニ使用セサル船舶ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字
 ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條 未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料解船料貨幣
 遞送配達賃私書函賃與料ヲ五日以内ニ納メサルモノハ二圓以
 上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徴收スヘキ郵便稅別配達料解船料貨
 幣遞送配達賃私書函賃與料ヲ徴收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵
 便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三
 圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未ダ消印ヲナサ、ル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條
 ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲
 替料ヲ領收セスシテ爲替證書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取
 ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁
 錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(本條第二項ハ二
 百六十三號郵便貯金
 條例公布ニ付廢止ス)

第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ僞ルト
 キハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下
 ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ
 二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタル
 トキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十六條 郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢
 シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二
 十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキ
 ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十八條 第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタ
 ル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照
 シテ處斷ス

第二百四十九條 第二百三十條第二百三十三條第二百三十七
 條第二百四十一條第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シ
 タル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ
 監視ニ付ス

第二百五十條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據
 テ處斷ス

○官制改正ニ依リ郵便條例中局名局長名唱換

明治二十二年七月
逓信省告示第四十六號

今般地方遞信官々制ヲ廢シ郵便及電信局官制制定相成候ニ付
テハ郵便條例第三十六條ノ遞信管理局ハ一等郵便電信局一等
郵便局第三十二條第百六十條ノ遞信管理局長ハ一等郵便電信
局長一等郵便局長ト心得ヘシ

○郵便條例中驛遞總官ヲ遞信大臣驛遞局長ヲ遞信管理局長ト心得

明治十九年七月
逓信省告示第六十六號

郵便條例第二十九條第百二十四條第百二十九條第百三十二條
第百五十七條第百六十一條ニ驛遞總官トアルハ遞信大臣第六
條第十八條第五十二條第九十四條第百五條第百七條第百三十
條第百四十七條第百五十八條第百七十四條第百九十七條第二
百二十一條第百二十九條ハ驛遞局長第三十二條第百六十
六條ハ遞信管理局長ト心得ヘシ

○地方郵便局電信局便宜合併ヲ得セシム

明治十九年十一月
閣令第三十號

第一條 地方郵便局及電信分局ハ土地ノ情況ニ依リ便否ヲ斟酌シテ之ヲ合併シ其事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
第二條 郵便局及電信分局ヲ合併シタルトキハ郵便電信局ト稱シ局長ハ郵便電信局長、書記ハ郵便電信書記ト稱ス
第三條 郵便局及電信分局ヲ合併シタルトキハ其局ノ等級ハ

郵便局及電信分局ノ高キモノニ依ル

○郵便受取所驛遞貯金預所及郵便支局ヲ置キ事務取扱方ヲ示ス

明治十九年四月
逓信省告示第六號

地方ニ便宜郵便受取所ヲ置キ貨幣封入郵便ノ外郵便物ノ受附及郵便切手賣下ノ事務ヲ取扱ハシメ又驛遞貯金預所ヲ置キ貯金受拂ノ事務ヲ取扱ハシム
一等二等郵便局區内須要ノ場所ニ郵便支局ヲ置キ本局ノ事務ヲ分掌セシム

○官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ附スルトキ取扱方

明治十六年十一月
第三十六號布達

官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ差出ストキハ第三種郵便物ト爲シテ取扱ヒ其冊子ト爲シ又ハ本紙ノ重量ニ超過シタル附録ハ第四種郵便物ト爲シテ取扱フヘシ

○官制改正ニ依リ郵便條例中心得方

明治二十年三月
逓信省告示第三十五號

郵便條例第六條驛遞局長及驛遞局第六十六條第百二十條第百二十三條第百二十五條第百二十八條第百五十五條第百五十六條第百一一條第百二一條第百七十五條金額年月日ト符合セサルモノ下驛遞局第百三十九條ノ驛遞局長及驛遞局ハ遞信省第十八條第百五條ノ驛遞局長ハ內信局長第三十一條第三十六

○郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ノトキ取調方

明治二十年五月
逓信省訓令第四號

郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ナル時ハ郵便電信局郵便局ヨリ其地戶長役場ノ取調ヲ乞フ義モ可有之ニ付其際ハ故障ヲシ其求メニ應セシム可シ

○郵便物表書記載方ノ注意

明治二十三年二月
逓信省告示第二十二號

町村制實施ノ爲メ新ニ分合シタル町村ノ區域ハ郵便局配達受持區域ト同シカラサルモノ數多有之就テハ郵便物ノ表書宛名入ノ住所ニ新町村名ト番地ノミ記載スルトキハ其地ニ就クニアラサルハ甲乙郵便局中孰レノ受持區ニ屬スヘキカヲ豫知スル能ハス取扱上手數ヲ重テ自然到達遲延ヲ生スルモノアリ依テ郵便物差出人ニ於テハ一層注意ヲ加ヘ當分ノ中新町村名ト番地ノ外必ス其大字ナル舊町村名ヲモ記載スヘシ

○郵便物ヲ積載セル船舶難破等ニ罹リ航送シ能ハサル場合ニ於テ

明治二十一年六月
逓信省訓令第七號

郵便物ヲ積載セル船舶ノ難破等ニ罹リ其積載ノ郵便物ヲ航送シ能ハサル場合ニ在テ其船長又ハ代理人ニ於テ遭難最寄地ノ戶長役場若クハ浦役場ニ送致シタルトキハ其送致ヲ受ケタル戶長役場浦役場ハ送致者ヘ受領書ヲ交付シ其郵便物ニ相當保護ヲナシ速ニ最寄郵便局ニ送達セシムヘシ

條第三十七條ノ驛遞局ハ遞信管理局第三十九條第六十八條第百二十三條ノ驛遞局ハ遞信省遞信管理局第五十二條第九十四條第百七條第百三十條第百五十八條第百二十一條ノ驛遞局長ハ遞信大臣第百三十七條第百四十六條第百四十八條第百五十一條第百六十二條第百六十三條第百七十一條第百七十二條第百七十三條第百七十五條第百七十七條第百七十八條第百七十九條第百八十二條第百八十八條第百八十九條第百九十四條第百九十一條第百九十二條第百九十三條第百九十四條第百九十六條第百九十七條第百九十九條ノ驛遞局長ハ爲替貯金局第百四十七條第百七十四條第百九十七條ノ驛遞局長ハ爲替貯金局長第十三章第百五十七條第百四十二條ノ驛遞局長ハ郵便第百二十二條ノ驛遞局長ハ主管廳其他郵便條例中ノ郵便局長ハ郵便電信局郵便局長ト心得ヘシ

○郵便電信局郵便局電信局郵便又ハ電報受付時限

明治二十二年十一月
逓信省告示第二十四號

但別配達郵便物受付ハ此限ニアラス
一 毎年三月一日ヨリ十月三十一日マテ午前六時ヨリ午後十時マテ
一 毎年十一月一日ヨリ翌年二月末日マテ午前七時ヨリ午後十時マテ

但局長役場又ハ浦役場ニ於テ要シタル費用ハ所轄地方廳ヲ經由其地所管ノ遞信管理局ニ請求セシムヘシ

○第四種郵便物トシテ差出ヘキ營業品見本及雛形ノ帶紙包紙ニ記載方

明治二十年九月 遞信省令第十四號

第四種郵便物トシテ差出スヘキ營業品見本及雛形ハ其帶紙包紙等ノ表面ニ營業品見本若シハ營業品雛形ト記載シ且ツ差出人受取人雙方氏名ノ上又ハ傍ニ業名ヲ附記スヘシ若シ差出人又ハ受取人ノ一方營業者ナルトキハ其一方ニノ業名ヲ附記スヘシ此記載ナクシテ差出ストキハ前記ノ郵便物ニアラサルモノト見做シ取扱ヒテ爲スヘシ

○第三種認可ヲ經タル定時印刷物ノ號外課稅方

明治二十五年一月 遞信省令第二號

第三種郵便物ノ認可ヲ經タル定時印刷物ノ號外ハ次號ノ發行期ヲ待ツ能ハサル緊急ノ時事ヲ報道スルモノニ限リ第三種郵便物トシ其他ハ總テ第四種郵便物トス

○定時刊行物休廢刊改題届出方

明治二十年九月 遞信省令第五十五號

定稅遞送ヲ認可シタル定時刊行物ノ休廢刊又ハ改題ノ義届出ノ際ハ當初其認可シタル年月日ヲ之レニ附記ス可シ

○定時刊行印刷物ノ第三種郵便取扱

ノ認可出願方

明治二十年十一月十二號 遞信省令第九十二號

自今定時刊行印刷物ノ第三種郵便取扱ノ認可ヲ出願スル者ハ願書ニ其印刷物ノ標題並發行ノ回数及定日ヲ記載シ且見本ヲ添付シ差出スヘシ

○第三種郵便物遞送認可願書ノ件

明治二十二年四月 遞信省令第九十七號

第三種郵便物遞送認可願書ハ副本ヲ要セス

○第三種郵便物認可規則

明治二十五年二月 遞信省令第四號

- 第一條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケントスル定時印刷物ノ發行人ハ全部印刷シタル見本一部ヲ添へ願書ニ左記ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 題號
 - 二 記載事項ノ性質種類
 - 三 發行ノ定日
 - 四 發行所
 - 五 發行人(官廳會社學校協會等ハ其代表人)ノ居所氏名
- 第二條 前條ノ發行人ハ其印刷物ニ付文書ヲ以テ左記ノ諸件ヲ證明スヘシ
 - 一 毎月一回以上逐號定期發行スルコト
 - 二 記載事項ノ性質終期ヲ豫定ス可ラサルコト
 - 三 書籍ノ性質ヲ有セサルコト
 - 四 發行ノ目的政事時事學術商事工藝其他公共ノ性質アル

事項ヲ報道論議スルニ在ルコト及廣ク之ヲ公衆ニ發賣スルコト

本條ノ證明ヲ爲サ、ル印刷物ハ第三種郵便物トシテ之ヲ認可セス

第三條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニハ其題號、番號、認可及發行ノ年月日、遞信省認可ノ文字ヲ見易キ場所ニ印刷スヘシ

第四條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニ左記ノ異動ヲ生スルトキハ發行人(代表人)ヨリ七日以内ニ届出ツヘシ

一 題號、紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類、發行所又ハ發行定日ヲ變更シタルトキ

但紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ見本一部ヲ差出ス可シ又發行所ヲ變更シタルトキハ舊發行所ヲ記載スヘシ

二 發行人轉居又ハ變更ノトキ

但變更ノトキハ舊發行人ノ氏名ヲモ記載スヘシ

三 廢刊休刊又ハ發行禁止若クハ停止ノトキ (二十五年十一月 遞信省令第十五號)

第五條 認可ヲ受ケタル印刷物ニシテ前條届出ノ有無ニ拘ハラス第二條ニ記載シタル條件ノ一ヲ闕クニ至リタルト認ムルトキハ其認可ヲ取消スヘシ認可ノ取消ハ其違書ヲ發行人ノ住所ニ送達シタル翌日ヨリ効力ヲ生スルモノトス

認可ノ取消ヲ受ケタル印刷物ハ認可ヲ得サルモノト見做ス

第六條 第四條ノ届出ヲ期限内ニ爲サ、ル者ハ二回以上二十回以下ノ罰金ニ處ス

附則

第七條 本令發布ノ日以前ニ第三種郵便物トシテ認可ヲ受ケタル定時印刷物發行人(代表人)ハ本令第一條及第二條ニ依リ明治二十五年三月三十一日迄ニ更ニ出願シテ認可ヲ受ケヘシ從前ノ認可ハ該日限ヲ以テ其効ヲ失フ

○小包郵便法

明治二十五年六月 法律第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル小包郵便法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小包郵便法

- 第一條 何等ノ物品ヲ問ハス左ニ記載スルモノヲ除ク外ハ小包郵便物トシテ之ヲ郵便ニ差出スコトヲ得
- 第一 郵便條例第十六條第一項乃至第三項ノ物品但第二項ノ物品ハ郵便局ノ承認ヲ受ケテ郵便ニ差出スコトヲ得
- 第二 信書又ハ信書ノ性質ヲ有スルモノ若クハ音信文記入ノ物品
- 第二條 小包郵便物ハ郵便料ノ外ニ保險料ヲ納付シテ之ヲ價額登記ノ小包郵便物ト爲スコトヲ得但シ其ノ價額ハ實價ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第三條 小包郵便物ヲ其ノ受取人ニ交付セス又ハ差出人ニ還付セサル前ニ生シタル損害ニ付テハ政府其ノ賠償ノ責ニ任ス
- 第四條 小包郵便料、保險料、賠償金額並ニ小包郵便物ノ容積重量及價額登記ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 左ノ場合ニ係ル損害ハ政府其ノ賠償ノ責ニ任セス
 - 第一 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因ルトキ

現行日本法令大全

第二 物品自己ノ性質ニ因ルトキ
 第三 差出人ノ過誤怠慢ニ因ルトキ
 第四 本法郵便條例及其ノ施行ニ關スル命令ヲ遵守セズシ
 ヲ郵便ニ差出シタルトキ
 第六條 小包郵便物配達ノ際其ノ外部ニ破損ノ痕迹ナク且重
 量ニ變異ナキトキハ政府損害賠償ノ責ニ任セス受取人若ク
 ハ差出人ニ於テ異議ナク該郵便物ヲ受領シタルトキ亦同シ
 第七條 小包郵便物損害ニ對スル賠償ノ請求ハ其ノ郵便物ノ
 差出人ヨリ遞信大臣ノ指定スル郵便局ニ之ヲ爲スヘシ此ノ
 場合ニ於テハ郵便料ノ返付ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ請
 求期限ハ郵便物差出ノ日ヨリ三箇月トス此期限ヲ經過スル
 トキハ政府其ノ責ヲ免ル
 第八條 賠償又ハ郵便料ノ返付ニ關シ郵便局ノ通知ヲ受ケ之
 ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ裁
 判所ニ出訴スルコトヲ得
 第九條 政府賠償ヲ爲シタルトキハ其ノ郵便物若クハ損害ニ
 付賠償受領者ノ有スル所有權若クハ第三者ニ對スル請求權
 ナ當然承継ス但シ亡失シタル郵便物ヲ發見シタル場合ニ於
 テ差出人ハ受領シタル賠償金及郵便料ヲ返納シテ其ノ物品
 ノ還付ヲ請求スルコトヲ得其ノ請求期限ハ亡失郵便物發見
 ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月トス
 第十條 郵便事務ニ關シ郵便官署ノ間相互遞送スル小包郵便
 物ハ郵便料ヲ免除ス
 第十一條 小包郵便物ノ轉送又ハ還付ニ對スル郵便料ヲ納メ
 サル者及之ヲ徵收セサル者ハ郵便條例第二百四十四條ノ例ニ
 據リ之ヲ處斷シ小包送票ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ル者ハ

同條例第二百四十一條ノ例ニ據リ之ヲ處斷ス
 第十二條 第一條第二ニ掲クルモノヲ小包郵便物トシテ差出
 シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十三條 本法ノ施行細則ハ遞信大臣之ヲ定ム
 第十四條 本法及其ノ施行ニ關スル命令ニ明文ナキ事項ハ郵
 便條例ヲ準用ス
 附則
 第十五條 此ノ法律ハ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス
 ○小包郵便法施行細則 明治二十五年九月
 遞信省令第十三號
 小包郵便法施行細則左ノ通相定メ明治二十五年十月一日ヨリ
 施行ス
 小包郵便法施行細則目次
 第一章 總則
 第二章 差出
 第三章 料金
 第四章 留置
 第五章 送達
 第六章 賠償
 小包郵便法施行細則
 第一章 總則
 第一條 小包郵便物ノ取扱ハ特ニ指定シタル郵便局郵便受取
 所ニ限ルヘシ
 第二條 小包郵便物ハ差出人ノ望ニ依リ配達證明又ハ別配達
 又ハ留置トナスコトヲ得

現行日本法令大全

但小包郵便ヲ取扱ハサル郵便局ノ區内ニ向テ別配達ヲ請
 求スルコトヲ得ス
 配達證明又ハ別配達ハ一般ノ規則ニ依リ別ニ相當ノ手数料
 ヲ徵收ス
 第三條 小包郵便物ヲ取扱ハサル郵便局ノ區内ニ向テ小包郵
 便物ヲ送ラントスルトキハ最寄取扱局特別留置トナシテ之
 ヲ差立ルコトヲ得
 第二章 差出
 第四條 小包郵便物ハ表面ニ小包ト記載シ小包郵便取扱局所
 ニ差出シ其ノ受取證書ヲ受ケヘシ
 郵便函ニ投入シタルモノハ小包ノ文字ヲ記シタルモノト雖
 モ之ヲ小包郵便物ト爲サズ總テ通常郵便物トシテ取扱フヘ
 シ
 第五條 小包郵便物ハ送票(甲號)ニ式ノ如ク記入シ其ノ郵便
 料並ニ手数料ニ對スル相當郵便切手ヲ貼付シ之ヲ添フヘシ
 其ノ送票ニハ定式外ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス
 但送票紙ハ郵便局所ヨリ之ヲ交付ス
 第六條 小包郵便物ハ其ノ品質形狀ニ應シ適當ニ包裝封緘シ
 外包ヲ破却スルニアラサレハ内品ニ損傷ヲ被ラシムルコト
 無キ様充分ノ手當ヲ爲スヘシ
 價額登記ノ小包郵便物ハ其ノ外部ヨリ容易ニ内品ヲ察知シ
 能ハサル様堅固ニ包裝シ之ニ三箇所以上封印ヲ施スヘシ
 第七條 貨幣、舊貨幣、古錢、金銀地金、金銀細工物及寶玉、寶
 玉細工物ノ類ハ蓋付ノ罐又ハ堅固ナル蓋付ノ箱類ニ納メ内
 品ノ動搖セサル様詰込ミ其ノ蓋ノ合セ目ニ錫蠟等ヲ注キ若
 ハ蓋ヲ釘著トナシ蠟細若ハ絲等ニテ嚴重ニ之ヲ縛リ更ニ之

ヲ封緘スヘシ
 郵便切手、葉書、封皮、帶紙其ノ他諸印紙類及有價證券、手形
 類モ亦前項同様ニ包裝封緘スヘシ
 郵便局ノ承認ヲ經テ差出スヘキモノ又ハ惡臭ヲ發スヘキモ
 ノハ其ノ品質ニ應シ罐又ハ箱其ノ他適當ノ包裝ニ依リ充分
 ニ自他ノ損害ヲ防キ得ヘキ様手當ヲナシ其ノ品名ヲ表面ニ
 明記スヘシ
 第八條 小包郵便物ノ包裝不充分ナリト認ムルモノハ差出人
 ヲシテ更ニ之ヲ改裝セシムヘシ
 第九條 小包郵便物ノ表書ハ明瞭正確ニ記載スヘシ
 但包裝ノ都合ニ依リ直ニ其ノ郵便物ニ記載シ難キモノハ
 厚紙若ハ木札等ヲ附著シテ之ニ記載スヘシ
 第十條 小包郵便物ノ表書ハ差出人受取人ノ住所氏名、職業家
 號、符號、商標及年月日ニ限ルヘシ
 但特ニ表書スヘキ規定アルモノハ此限ニアラス
 第十一條 郵便局所ニ於テ小包郵便物ニ郵送禁止ノ物件ヲ包
 入シタルト思料スルトキハ何時ニテモ其ノ差出人又ハ受取人ヲ立
 リト思料スルトキハ何時ニテモ其ノ差出人又ハ受取人ヲ立
 會ハシメ之ヲ開封検査スルコトヲ得
 第十二條 小包郵便物差出人其ノ差出ノ際ニ於テ受取人ノ宿
 所ニ關シ或ハ異動アルヘシト掛念スルトキハ豫メ之ヲ還付
 ヲ差立局所ニ請求シ置クコトヲ得
 第三章 料金
 第十三條 小包郵便料及保險料ハ之ヲ前納スヘシ
 但差出人ニ還付ノ場合ハ此限ニアラス
 第十四條 小包郵便料ニ關スル里程ハ遞信省ニ於テ定メタル

第二 物品自己ノ性質ニ因ルトキ
 第三 差出人ノ過誤怠慢ニ因ルトキ
 第四 本法郵便條例及其ノ施行ニ關スル命令ヲ遵守セスシ
 ラ郵便ニ差出シタルトキ
 第六條 小包郵便物配達ノ際其ノ外部ニ破損ノ痕迹ナク且重
 量ニ變異ナキトキハ政府損害賠償ノ責ニ任セス受取人若ク
 ハ差出人ニ於テ異議ナク該郵便物ヲ受領シタルトキ亦同シ
 第七條 小包郵便物損害ニ對スル賠償ノ請求ハ其ノ郵便物ノ
 差出人ヨリ逡信大臣ノ指定スル郵便局ニ之ヲ爲スヘシ此ノ
 場合ニ於テハ郵便料ノ返付ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ請
 求期限ハ郵便物差出ノ日ヨリ三箇月トス此期限ヲ經過スル
 トキハ政府其ノ責ヲ免ル
 第八條 賠償又ハ郵便料ノ返付ニ關シ郵便局ノ通知ヲ受ケ之
 ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ裁
 判所ニ出訴スルコトヲ得
 第九條 政府賠償ヲ爲シタルトキハ其ノ郵便物若クハ損害ニ
 付賠償受領者ノ有スル所有權若クハ第三者ニ對スル請求權
 ヲ當然承継ス但シ亡失シタル郵便物ヲ發見シタル場合ニ於
 テ差出人ハ受領シタル賠償金及郵便料ヲ返納シテ其ノ物品
 ノ還付ヲ請求スルコトヲ得其ノ請求期限ハ亡失郵便物發見
 ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月トス
 第十條 郵便事務ニ關シ郵便官署ノ間相互逡送スル小包郵便
 物ハ郵便料ヲ免除ス
 第十一條 小包郵便物ノ轉送又ハ還付ニ對スル郵便料ヲ納メ
 ヲル者及之ヲ徵收セサル者ハ郵便條例第二百四十條ノ例ニ
 據リ之ヲ處斷シ小包送票ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ル者ハ

同條例第二百四十一條ノ例ニ據リ之ヲ處斷ス
 第十二條 第一條第二ニ掲ケルモノヲ小包郵便物トシテ差出
 シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十三條 本法ノ施行細則ハ逡信大臣之ヲ定ム
 第十四條 本法及其ノ施行ニ關スル命令ニ明文ナキ事項ハ郵
 便條例ヲ準用ス
 附則
 第十五條 此ノ法律ハ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス
 ○小包郵便法施行細則 明治二十五年九月
 逡信省令第十三號
 小包郵便法施行細則左ノ通相定メ明治二十五年十月一日ヨリ
 施行ス
 小包郵便法施行細則目次
 第一章 總則
 第二章 差出
 第三章 料金
 第四章 留置
 第五章 送達
 第六章 賠償
 小包郵便法施行細則
 第一章 總則
 第一條 小包郵便物ノ取扱ハ特ニ指定シタル郵便局郵便受取
 所ニ限ルヘシ
 第二條 小包郵便物ハ差出人ノ望ニ依リ配達證明又ハ別配達
 又ハ留置トナスコトヲ得

但小包郵便ヲ取扱ハサル郵便局ノ區内ニ向テ別配達ヲ請
 求スルコトヲ得ス
 配達證明又ハ別配達ハ一般ノ規則ニ依リ別ニ相當ノ手数料
 ヲ徵收ス
 第三條 小包郵便物ヲ取扱ハサル郵便局ノ區内ニ向テ小包郵
 便物ヲ送ラントスルトキハ最寄取扱局特別留置トナシテ之
 ヲ差立ルコトヲ得
 第二章 差出
 第四條 小包郵便物ハ表面ニ小包ト記載シ小包郵便取扱局所
 ニ差出シ其ノ受取證書ヲ受クヘシ
 郵便局ニ投入シタルモノハ小包ノ文字ヲ記シタルモノト確
 モ之ヲ小包郵便物ト爲サス總テ通常郵便物トシテ取扱フヘ
 シ
 第五條 小包郵便物ハ送票(甲號)ニ式ノ如ク記入シ其ノ郵便
 料並ニ手数料ニ對スル相當郵便切手ヲ貼付シ之ヲ添フヘシ
 其ノ送票ニハ定式外ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス
 但送票紙ハ郵便局所ヨリ之ヲ交付ス
 第六條 小包郵便物ハ其ノ品質形狀ニ應シ適當ニ包裝封緘シ
 外包ヲ被却スルニアラサレハ内品ニ損傷ヲ被ラシムルコト
 無キ様充分ノ手當ヲ爲スヘシ
 價額登記ノ小包郵便物ハ其ノ外部ヨリ容易ニ内品ヲ察知シ
 能ハサル様堅固ニ包裝シ之ニ三箇所以上封印ヲ施スヘシ
 第七條 貨幣、舊貨幣、古錢、金銀地金、金銀細工物及寶玉、寶
 玉細工物ノ類ハ蓋付ノ罐又ハ堅固ナル蓋付ノ箱類ニ納メ内
 品ノ動搖セサル様詰込ミ其ノ蓋ノ合セ目ニ錫蠟等ヲ注キ若
 ハ蓋ヲ釘著トナシ細細若ハ絲等ニテ嚴重ニ之ヲ縛リ更ニ之

ヲ封緘スヘシ
 郵便切手、葉書、封皮、帶紙其ノ他諸印紙類及有價證券、手形
 類モ亦前項同様ニ包裝封緘スヘシ
 郵便局ノ承認ヲ經テ差出スヘキモノ又ハ惡臭ヲ發スヘキモ
 ノハ其ノ品質ニ應シ罐又ハ箱其ノ他適當ノ包裝ニ依リ充分
 ニ自他ノ損害ヲ防キ得ヘキ様手當ヲナシ其ノ品名ヲ表面ニ
 明記スヘシ
 第八條 小包郵便物ノ包裝不充分ナリト認ムルモノハ差出人
 ヲシテ更ニ之ヲ改裝セシムヘシ
 第九條 小包郵便物ノ表書ハ明瞭正確ニ記載スヘシ
 但包裝ノ都合ニ依リ直ニ其ノ郵便物ニ記載シ難キモノハ
 厚紙若ハ木札等ヲ附著シテ之ニ記載スヘシ
 第十條 小包郵便物ノ表書ハ差出人受取人ノ宿所氏名、職業家
 號、符號、商標及年月日ニ限ルヘシ
 但特ニ表書スヘキ規定アルモノハ此限ニアラス
 第十一條 郵便局所ニ於テ小包郵便物ニ郵送禁止ノ物件ヲ包
 入シタルト思料スルトキ又ハ表記品名ト包中物品ト相違セ
 リト思料スルトキハ何時ニテモ其ノ差出人又ハ受取人ヲ立
 會ハシメ之ヲ開封検査スルコトヲ得
 第十二條 小包郵便物差出人其ノ差出ノ際ニ於テ受取人ノ宿
 所ニ關シ或ハ異動アルヘシト掛念スルトキハ豫メ之ヲ還付
 ヲ差立局所ニ請求シ置クコトヲ得
 第三章 料金
 第十三條 小包郵便料及保險料ハ之ヲ前納スヘシ
 但差出人ニ還付ノ場合ハ此限ニアラス
 第十四條 小包郵便料ニ關スル里程ハ逡信省ニ於テ定メタル

現行日本法令大全

里程表ニ依ル
 差立配達トモ郵便局ヲ同シクスルモノハ最近里程ノ率ニ依ル
 第十五條 小包郵便物ノ重量ハ總テ郵便局所ノ秤量ニ依ルヘシ
 第十六條 小包郵便物ヲ轉送又ハ還付スルトキハ其ノ轉送又ハ還付ノ里程ニ從ヒ更ニ郵便料ヲ徵收ス
 但其ノ轉送若ハ還付ニシテ同一郵便區内ニ止リ其ノ料金ニ異動ヲ生セサルモノハ此限ニアラス
 第十七條 轉送又ハ還付ノ郵便料ハ之ヲ差出人ヨリ徵收ス
 第二十七條ニ依リ受取人ヨリ配達又ハ轉送ヲ請求シタルモノハ之ヲ受取人ヨリ徵收ス
 第十八條 小包郵便物ノ受取人別配達料若ハ解船料ノ納付ヲ拒ムトキハ該小包郵便物ハ差出人ニ還付シ本條ノ料金ヲ併徵スヘシ
 但留置小包郵便物ノ受取人自ラ其ノ轉送又ハ配達ヲ請求シタル場合ニ於テハ本條ノ納付ヲ拒ムコトヲ得ス若シ其ノ郵便物ノ受取ヲ拒ムトキハ更ニ原留置局マテ回送スル郵便料及本條ノ料金ヲ併納スヘシ
 第十九條 未納料金又ハ不足料金ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ送票ニ加貼シ未納又ハ不足ノ印ヲ捺スヘシ
 第二十條 價額登記小包郵便物ノ轉送還付ニ對シテハ別ニ其ノ保險料ヲ徵收セス
 第四章 留置
 第二十一條 小包郵便物ヲ留置トナサントスルトキハ差出人之ヲ差立局ニ請求シ其ノ留置證ヲ申受クヘシ
 小包留置證ハ差出人ヨリ之ヲ受取人ニ送付スヘシ
 第二十二條 留置小包郵便物到著シタルトキハ其ノ留置局ヨ

リ直ニ其ノ通知書ヲ受取人ニ發スヘシ
 但受取人ノ宿所ヲ記載セサルモノハ此限ニアラス
 第二十三條 小包郵便物ノ留置期限ハ其ノ到達ノ日ヨリ起算シテ十五日以内トス
 其ノ期限ヲ經過シタルトキハ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス
 第二十四條 留置小包郵便物ヲ受取ラントスルトキハ小包留置證ニ記名調印シテ之ヲ差出シ受取人タルコトヲ證スヘシ
 第二十五條 留置小包郵便物ノ受取人其ノ留置證ヲ失ヒタルトキ又ハ通知書到達ノ後尙留置證ノ送達ヲ受ケサルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ報スヘシ
 差出人前項ノ報知ヲ受ケタルトキ又ハ自ラ留置證ヲ失ヒタルトキハ最初小包郵便物ヲ差出シタル局所ニ就キ其ノ受取證書ヲ證トシテ留置證ノ謄本ヲ申受ケ之ヲ受取人ニ送付スヘシ
 本條ノ場合ニ於テハ留置期限ノ相當猶豫ヲ留置局ニ請フコトヲ得
 第二十六條 留置小包郵便物ノ受取人其ノ代人ヲ以テ該小包ヲ受取ラントスルトキハ其ノ留置證ノ裏面ニ代人ノ氏名及之ニ委任スル旨ヲ記シテ署名捺印スヘシ其ノ代人該小包ヲ受取ル手續ハ第二十四條ニ依ル
 第二十七條 留置小包郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ小包郵便物ノ配達還付若ハ轉送ヲ其ノ留置局ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ轉送ノ上更ニ留置ヲ請求スルモノハ外其ノ留置證ハ總テ無効トス
 第二十八條 此ノ章ノ規程ハ總テ特別留置ノ小包郵便物ニ適用ス
 第五章 送達

現行日本法令大全

第二十九條 郵便局ニ於テ小包郵便物取扱中包裝損傷シタルトキハ相當ノ手當ヲ施シ其ノ旨ヲ記シ取扱者ノ檢印ヲ捺スヘシ
 第三十條 小包郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受ケルモノハ其ノ配達證書ニ調印シ之ヲ受取ルヘシ
 同居ノ家族雇人ノ受取ルトキハ其ノ旨ヲ記載シ本人ニ代リテ記名調印スヘシ
 肩書ノ家ニ於テ之ヲ受取ルトキハ其ノ家主記名調印スヘシ
 官衙、公署、社寺、學校、病院、會社、協會、船舶等ニ於テ之ヲ受取ルトキハ相當ノ資格アルモノ其ノ配達證書ニ記名調印スヘシ
 第二項第三項及第四項ノ場合ハ之ヲ正當受取人ニ交付シタルモノトス
 第三十一條 小包郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受ケルモノハ未タ配達證書ニ調印セサル前ニ於テ其ノ小包郵便物ヲ開封スルコトヲ得ス
 若シ之ヲ開封シタルトキハ異議ナク其ノ郵便物ヲ受取リタルモノトスヘシ
 第三十二條 小包郵便物受取人不在等ノ事故ニ依リ初度配達ノ際之ヲ配達ヲ遂クル能ハサルトキハ一週間内便宜配達ヲ試ミ尙之ヲ配達シ能ハサルトキハ差出人ニ還付スヘシ
 但別配達ノモノト確モ爾後ノ試配達ハ總テ通常配達便ニ依ル
 第三十三條 小包郵便物ノ受取人移轉シタルトキハ郵便局ハ速ニ差出人ニ向テ送票(乙號)ヲ發シ之ヲ轉送スヘキ又ハ之ヲ還付スヘキカヲ問合スヘシ差出人此問合ヲ受ケタルトキハ送票(乙號)中希望ノ欄ヲ存シ不用ノ欄ハ總テ之ヲ塗抹

シ相當郵便切手ヲ貼付シ速ニ之ヲ該郵便局ニ回送スヘシ
 但第十二條ニ依リ豫メ還付ヲ請求シタルモノハ直ニ之ヲ還付ス
 其ノ轉送スヘキ地同一郵便區内ニシテ轉送料ヲ増徴スルコトヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ配達スヘシ
 第三十四條 前條ニ依リ差出人ニ問合セタル後普通郵便往復日限ヲ經過スルコト五日ニ至ルモ尙何等ノ申出ヲナササルトキハ轉送ヲ希望セサルモノト看做シテ還付ノ取扱ヲナスヘシ
 第三十五條 小包郵便物配達ノ際其ノ外部ニ破損ノ痕迹ナク且重量ニ變異ナキトキハ受取人ノ受取方ヲ拒ムコトヲ得ス
 但破損ノ痕迹トハ之ニ依リテ其ノ内容ヲ損傷シタルヘシト認ムル程ノ著大ナルモノニ限リ又遞送中ニ於ケル普通ノ磨擦若ハ濡濕乾燥等ノ故ニ依リテ増減シタル重量ノ異動ハ本條ノ限ニアラス
 前項ニ依リ小包郵便物ノ受取ヲ拒ムトキハ其事由書ヲ認メ之ヲ配達人ニ交付スヘシ
 第三十六條 受取人前條ニ依リ小包郵便物ノ受取方ヲ拒ミタルトキハ郵便局ニ於テ之ヲ調査シ相當理由アリト認ムルモノハ直ニ之ヲ差出人ニ還付スヘシ
 若シ郵便局ニ於テ相當理由ナキモノト認ムルトキハ受取人ヲ召喚シ立會ノ上之ヲ調査スヘシ
 受取人召喚ニ應セサルトキ又ハ立會調査ノ上之ヲ拒ムヘキ理由ヲキコトヲ示シタルトキハ再ヒ之ヲ受取方ヲ拒ムコトヲ得ス
 第三十七條 小包郵便物ヲ差出人ニ還付スヘキ場合ニ於テ其

現行日本法令大全

紫色額登記小包用

小包		送		票		(甲)	
里	差	出	受	取	承	認	印
里差	引受	出	入	取	承	認	印
番	號	番	地	番	地	番	地
第	號	市	郡	市	郡	市	郡
號	號	村	町	村	町	村	町
第	號	國	番	國	番	國	番
號	號	市	郡	市	郡	市	郡
號	號	村	町	村	町	村	町
號	號	局	局	局	局	局	局
號	號	局	局	局	局	局	局
號	號	局	局	局	局	局	局

青色及紫色額登記小包用

小包		送		票		(乙)	
送	取	取	受	取	承	認	印
送	取	取	受	取	承	認	印
番	號	番	地	番	地	番	地
第	號	市	郡	市	郡	市	郡
號	號	村	町	村	町	村	町
號	號	國	番	國	番	國	番
號	號	市	郡	市	郡	市	郡
號	號	村	町	村	町	村	町
號	號	局	局	局	局	局	局
號	號	局	局	局	局	局	局
號	號	局	局	局	局	局	局

第七類 第一章 郵便規則及附屬法

九百六十四

現行日本法令大全

○小包郵便物ノ郵便料保險料賠償金額容積重量及價額登記制限
 明治二十五年六月
 勅令第五十七號

第一條 小包郵便物ハ小包郵便物ノ重量及其差立郵便局ヨリ配達郵便局マテノ里程ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ徵收ス
 第二條 郵便局市外ニ送達スル小包郵便物ハ其重量ニ從ヒ別ニ左ノ郵便料ヲ加徴ス
 小包郵便物一箇重量六百匁マテ 貳錢
 一貫匁マテ 四錢
 一貫五百匁マテ 六錢
 第三條 小包郵便物ノ容積及重量ハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

小包郵便料	
二百匁マテ	四匁マテ
四百匁マテ	六匁マテ
六百匁マテ	八匁マテ
八百匁マテ	一貫匁マテ
一貫匁マテ	一貫二百五匁マテ
一貫二百五匁マテ	一貫五百匁マテ
貳錢	貳錢
四錢	四錢
六錢	六錢
八錢	八錢
拾錢	拾錢
拾貳錢	拾貳錢
拾肆錢	拾肆錢
拾陸錢	拾陸錢
拾捌錢	拾捌錢
貳拾錢	貳拾錢
貳拾貳錢	貳拾貳錢
貳拾肆錢	貳拾肆錢
貳拾陸錢	貳拾陸錢
貳拾捌錢	貳拾捌錢
參拾錢	參拾錢
參拾貳錢	參拾貳錢
參拾肆錢	參拾肆錢
參拾陸錢	參拾陸錢
參拾捌錢	參拾捌錢
四拾錢	四拾錢

(別表)

容積
 長 曲尺二尺
 幅 曲尺二尺
 厚 曲尺二尺
 一貫五百匁

第四條 小包郵便物ノ登記價額ハ金百五拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス
 第五條 價額登記小包郵便物ノ保險料ハ登記金額壹圓マテ金七錢トシ壹圓以上ハ壹圓マテ毎ニ金壹錢ヲ加フ
 第六條 通常小包郵便物ノ損害ニ對シテハ重量百匁ニ付金拾錢ノ割合ヲ以テ之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ此制限内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ之ヲ賠償ス
 第七條 價額登記小包郵便物ノ損害ニ對シテハ其登記金額マテ之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ登記金額内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ之ヲ賠償ス
 第八條 小包郵便物ヲ取扱フ郵便局ハ逓信大臣隨時之ヲ告示ス

第七類 第一章 郵便規則及附屬法

九百六十五

百里 マテ	拾 錢	拾六 錢	貳拾貳 錢	貳拾八 錢	參拾四 錢	四拾貳 錢	五拾 錢
百五十里 マテ	拾貳 錢	拾九 錢	貳拾六 錢	參拾參 錢	四拾 錢	四拾九 錢	五拾八 錢
二百里 マテ	拾四 錢	貳拾貳 錢	參拾 錢	參拾八 錢	四拾六 錢	五拾六 錢	六拾六 錢
二百五十里 マテ	拾六 錢	貳拾五 錢	參拾四 錢	四拾參 錢	五拾貳 錢	六拾四 錢	七拾六 錢
三百里 マテ	拾八 錢	貳拾八 錢	參拾八 錢	四拾八 錢	五拾八 錢	七拾壹 錢	八拾四 錢
三百里 以外	貳拾壹 錢	參拾貳 錢	四拾參 錢	五拾四 錢	六拾五 錢	七拾九 錢	九拾參 錢

○配達證明郵便規則

明治二十五年三月 逓信省令第百八號

配達證明郵便規則左ノ通相定メ明治二十五年五月十六日ヨリ施行ス

配達證明郵便規則

- 第一條 配達證明郵便ハ配達局ノ證明書ヲ以テ其郵便物ノ正ニ配達シタルコトヲ證明スルモノトス
- 第二條 郵便差出人其郵便物配達ノ證明ヲ得ノトスルトキハ之ヲ差出局所ニ請求スルコトヲ得
- 第三條 配達證明書ハ配達局ヨリ之ヲ差出人ニ送付ス可シ
- 第四條 配達證明郵便ハ書留郵便物ニ限ルモノトス
- 第五條 配達證明手数料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラズ參錢トス其手数料ハ前納ニ限ルヘシ
- 第六條 配達證明手数料ハ郵便物切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス
- 第七條 配達證明郵便物ハ其表面ニ配達證明ト記載スヘシ

第八條 此規則ハ外國郵便ニ適用セス

○郵便小爲替規定ヲ改定ス

明治二十年六月 逓信省告示第百十七號

郵便小爲替規定左ノ通改定シ本年七月十五日ヨリ施行ス

郵便小爲替規定

- 第一條 郵便小爲替證書壹枚ノ金額ハ參圓以下トシ端數ハ釐位ヲ限リトス
- 第二條 爲替料ハ小爲替證書壹枚ニ付參錢トス
- 第三條 小爲替ハ差出人ノ指定シタル爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ辨渡スモノトス
- 第四條 爲替差出人ハ郵便局吏員ニ爲替金及爲替料ヲ差出シ小爲替證書及受領證書ヲ受取ヘシ
- 第五條 爲替差出人ハ小爲替證書ニ設ケアル相當ノ區畫ニ受取人ノ宿所氏名ヲ記入シテ送ルヘシ其宿所氏名ヲ記入シ能ハサルモノハ郵便局吏員ニ之ヲ請求スルヲ得

- 第六條 小爲替證書ニ記載ノ辨渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ノ訂正ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ爲替ヲ取扱フ郵便局ノ許可ヲ受クヘシ
- 但郵便局ノ許可ヲ請フトキハ受領證書ヲ以テ其差出人ヲルコトヲ證明スヘシ
- 第七條 爲替受取人爲替金ヲ受取ルトキハ其證書裏面ニ記名漏印スヘシ又郵便局ニ於テ證書ヲ送シタル信書ノ封皮又ハ其受取人タルコトヲ證明スヘシ他ノ物件ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ
- 第八條 爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受クルトキハ其證書裏面ニ記名漏印シ且受領證書ヲ郵便局ニ納メ差出人タルコトヲ證明スヘシ
- 第九條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ルモノハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名漏印シ且代人ハ爲替金受取方相當ノ手續ヲナスヘシ
- 第十條 小爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ六十日ヲ限リトス
- 第十一條 郵便局ノ許可ヲ受ケス辨渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ヲ訂正シタルトキハ爲替金ヲ辨渡サルモノトス
- 但第六條ニ依リ更ニ許可ヲ經タルモノハ此限ニアラス
- 第十二條 左ニ掲ケル場合ニアリテハ差出人ニ於テ受領證書ヲ納メ爲替ヲ取扱フ郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ再度小爲替證書ヲ請求スヘシ
- 但第一項ノ場合ハ受取人ヨリ之ヲ請求スルヲ得
- 一 小爲替證書有効期限ヲ經過シタルトキ

- 二 小爲替證書ヲ失ヒタルトキ
- 三 小爲替證書毀損汚斑シ點檢上支障アルトキ
- 第十三條 再度小爲替證書ヲ請求スルトキハ更ニ爲替料ヲ納ムヘシ
- 第十四條 小爲替證書ヲ失ヒ再度證書ヲ請求シタルトキハ當初振出ノ日ヨリ百二十日經過スルニ非ザンハ之ヲ交付セス

○郵便爲替細則

明治十八年九月 農商務省告示第百二十號

郵便爲替細則左ノ通相定メ明治十八年十月一日ヨリ施行候條此旨告示候事

郵便爲替細則

- 第一章 總則
- 第一條 郵便爲替ハ爲替差出人ヨリ辨渡ミタル金員ニ對シ甲郵便局ニ於テ爲替證書ヲ交付シ乙郵便局ニ於テ其證書ニ對シ爲替金ヲ辨渡スモノトス
- 第二條 爲替證書ニハ差出人受取人ノ氏名ヲ記載セス其氏名宿所等ハ差出人ノ指示スル處ニ從ヒ甲振出局ヨリ乙振渡局ニ報知スルモノトス
- 第三條 爲替金額圓位以上ノモノハ驛遞總官特ニ指定スル郵便局ニ於テ差出人ノ望ニ依リ電信ヲ以テ報知スルコトヲ得
- 第四條 爲替證書ハ驛遞局ニ於テ發行シタル式紙ニ限ルヘシ其證書ノ離形左ノ如シ
- 爲替證書離形

郵便爲替證書

振出 日附 何國 何郵便局	金高再記 圓錢厘 何何何	爲替 金取 受人 調記 印名	何號何	番 日附 印
------------------------	--------------------	----------------------------	-----	--------------

一金何圓錢厘

右者左ノ上部ニ記ス氏名ノ者ヨリ下部ニ記ス氏名ノ者ヘ可差送金高ニテ其金高ハ當局ヘ受取候ニ付即其局ヘ宛テ爲替證書相渡候條受取方申出候ハ、如規則手數ノ上御渡可有之此段及報知候也

何國何那何郵便局 氏 名 印

局 遞 驛

郵便爲替證書

何國 何郵便局	何國何那何郵便局 氏 名 印
------------	-------------------

電信ニ依テ發シタル爲替ノ證書ニハ前ニ示ス表中各區畫ノ外ニ「番號」「振出局名」「電報着日」ノ三區畫又再渡爲替證書ニハ「振出局名」ノ一畫ヲ備フルモノトス

第五條 爲替差出人又ハ爲替證書再渡ヲ請求スルモノハ爲替料又ハ爲替料及手數料ヲ前納スヘシ但電信ヲ以テ爲替ヲ報告スルコトヲ望ムトキハ別ニ電報料ヲ納ムヘシ

爲替證書再渡ヲ請求スル場合ニ在リテハ其爲替料及手數料ハ便宜原爲替證書金額ノ内ヨリ引去リ納ムルコトヲ得

第六條 爲替差出人自ラ爲替金ヲ差出シ能ハサルトキ或ハ差出人又ハ受取人自ラ證書再渡ヲ請求シ能ハサルトキハ代人ヲ立テ爲替願書又ハ請求書ニ本人記名調印シ代人亦代人ノ肩書ヲナシテ記名調印スヘシ但別紙ニ委任文ヲ記シ記名調印シテ差出ストキハ此限ニアラス

爲替受取人自ラ爲替金ヲ受取ル能ハサルトキハ代人ヲ立テ本人ニ於テ爲替證書ノ裏面又ハ別紙ニ委任文ヲ記シ記名調印シ代人ハ爲替證書相當ノ位置ニ代人ノ肩書ヲナシテ記名調印スヘシ

第七條 爲替ニ屬スル金錢ヲ受授スルトキハ相互目前ニ於テ

差出人 宿所 氏 名	受取人 宿所 氏 名
------------------	------------------

何國
何郵便局

局 遞 驛

之ヲ計算スヘシ

第八條 差出人ニハ振出局ニ於テ其排込金ニ對スル受領證書ヲ交付スヘシ

差出人ハ其受領證書ノ相當ノ位置ニ差出人受取人ノ宿所氏名ヲ記載シテ之ヲ保存シ後日爲替金ノ返戻又ハ證書再渡ヲ請求スルトキノ證據トナスヘシ

第九條 爲替受取人又ハ差出人死亡等ノ場合ニ於テハ其相續人等ヨリ事實ヲ證明シ證人ヲ立テ爲替金ノ排渡ヲ請求スルコトヲ得

第十條 爲替差出人又ハ受取人印形紛失等ノ爲メ爲替金ノ受授ニ關スル願書證書等ニ調印シ能ハサルトキハ其旨ヲ附記シ證人ヲ立ヘシ

第十一條 爲替金ノ受授ニ關シ證人トナリ事實ヲ證明シタルモノハ其受授ニ關スル願書證書等ニ記名調印シ其事由ヲ附記スヘシ

第十二條 爲替金ノ排渡ヲ請求スルモノハ郵便局吏員ノ詢問ニ對シ差出人受取人ノ宿所氏名等ヲ陳述スヘシ

又必要ノ場合ニ於テハ郵便局吏員ニ對シ該吏員ノ満足スヘキ證人ヲ立テ又ハ正當受取人タルコトヲ證明スヘキ證據物ヲ該吏員ニ展示シ若クハ之ヲ差出スヘシ

第十三條 爲替金ノ排渡ヲ請求スルモノアルトキ左ニ掲クル事故アル場合ニ在リテハ郵便局ニ於テ排渡停延書ヲ其請求人ニ付與シ爲替金ノ交付ヲ停延スルコトアルヘシ

一 爲替證書調製上違式ノトキ若クハ其證書ニ對スル報知書未達又ハ不符合ノトキ

一 爲替資金ノ補充金未達ノトキ

第十四條 規則上爲替金ノ交付ヲ停延シタル間ハ爲替證書有効期限ノ經過ヲ中止スルモノトス

第十五條 爲替取扱時間ハ爲替ヲ取扱フ郵便局前ニ揭示スヘシ

爲替取扱休日ハ左ノ如シ

一月一日 二日 三日 新年宴會

孝明天皇祭 紀元節

春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭 神宮神嘗祭

天皇節 新嘗祭

日曜日

第十六條 驛遞局上版ノ料紙ヲ用フヘキ願書請求書等ノ式紙ハ爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ申受クヘシ

第二章 爲替振出

第十七條 爲替ヲ願出ルモノハ上版ノ願書式紙ニ式ノ如ク記職調印シ爲替金及爲替料ヲ添ヘ之ヲ郵便局吏員ニ差出シ爲替證書及受領證書ニ其爲替金ニ依リテ受取スヘシ

其爲替願書ニハ受取人入違テ生セサル豫防トシテ家號又ハ商標ノ略符等ヲ附記スルモ妨クナシ但其爲替電信ニ依ルトキハ此限ニアラス

願書ノ書體ハ最明瞭ヲ要シ後日取調上差支ヲ生セサルヲ主トシ差出人受取人ノ宿所ハ其詳略ヲ斟酌シ又其氏名ハ固有ノ文字ヲ用フヘシ且名宛ノ郵便局ハ受取人爲替金ヲ受クルニ便宜ナル郵便局ヲ指定スヘシ但其爲替電信ニ依ル場合ニ在リテハ願書ニ本字ヲ以テ記載シタル差出人受取人ノ宿所氏名ノ傍ニ片假名文字ヲ附記スヘシ

第十八條 爲替ヲ願出ルモノアルトキハ振出局吏員ハ爲替願書ニ依リ差出人ノ指定シタル郵便局ヲ宛テ爲替證書ヲ調製シ排込金ニ對スル受領證書ト共ニ之ヲ差出人ニ交付シ且爲替願書ノ諸件ヲ其宛宛ノ郵便局ニ報知スヘシ但電信ニ依ルトキハ其特別ニ據ルヘシ

第十九條 爲替願書ニハ差出人又ハ受取人二名以上連帶ノ場合ト雖モ各一名ヲ記載スヘシ

第二十條 差出人旅行先又ハ一時寄留ノ場所ニ於テ爲替ヲ願出ルトキハ爲替願書ニ本籍住所ヲ記載シ尙其宿所ヲ附記スヘシ

第二十一條 差出人ハ受取人ニ於テ排渡局吏員ノ尋問ニ對シ爲替報知書ニ記載アル諸件ヲ陳述シ得ル爲メ爲替願書ニ書入レタル諸件ヲ受取人ニ通知スヘシ 其爲替電信ニ依ルトキハ但詐偽ヲ避クル豫防ノ爲メ此通知ハ爲替證書ヲ遞送スル信書トナルヘク同時ニナスヘカラス

第二十二條 代人ヲ以テ爲替ヲ願出ルトモ爲替報知書ニ其氏名ヲ記入セサルヲ以テ一般ノ例トス但氏名ヲ報知スルコトヲ望ムモノ爲替願書ニ其旨ヲ附記シタル場合ハ此限ニアラス

第二十三條 差出人爲替證書ヲ受取リタル後差出人受取人氏名宿所等ノ認メ方相違シタル事アルトキハ其振出局ニ訂正願書ヲ差出スヘシ但電信ニ依リ爲替ヲ報知シタル場合ニ在リテハ相當ノ電報料ヲ納ムヘシ

第二十四條 差出人爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ前ニ受取シタル排込金受領書ヲ振出局ニ返納シ爲替金ヲ受取ルヘシ但受領證書紛失ノ場合ニ於テハ其爲替金高番號及振出月日等

ヲ記載シタル爲替金返戻願書ヲ差出スヘシ

第三章 爲替排渡

第二十五條 爲替證書ノ金額ハ差出人ノ指定セル排渡局ニ於テ其振出局ノ爲替報知書ニ照ラシ受取人ヲ尋問シタル後排渡スモノトス

第二十六條 爲替證書ノ金高番號又ハ受取人ノ答辯等爲替報知書ニ符合セサルカ又ハ報知書未達等ノ事故アルトキハ排渡局ニ於テ受取人ニ排渡停延書ヲ交付シ其事故ヲ振出局ニ問合スヘシ

受取人ハ停延書ノ滿期ニ至リテ更ニ爲替金ノ排渡ヲ申出テ尙ホ規則ノ通手數ノ上爲替金ヲ受取ルヘシ

第二十七條 若シ前條ノ場合ニ於テ振出局ヨリ回付セル更訂報知書ノ金額證書ノ金額ニ過不及アリテ證書金額ノ誤ナルコト判明シタルトキハ其受取人ハ證書ノ裏面ニ現實受取ルヘキ金額及其事故ヲ記載記名調印シ其金ヲ受取ルコトヲ得

第四章 爲替證書再渡

第二十八條 爲替證書再渡ヲ要スルトキハ次キニ掲クル第二十九條乃至第三十一條ニ從ヒ爲替差出人若クハ受取人ハ上版ノ請求書式紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替ヲ取扱フ郵便局ヲ經由シテ排渡局ニ請求スヘシ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ爲替差出人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ但排込金受領證書ヲ返納スヘシ

一 爲替證書紛失シタルトキ又ハ汚損毀損シテ金高番號印章等必要ノ部分不判明ニナリタルトキ

一 爲替證書ニ示ス振出局ニテ爲替金ノ返戻ヲ受クルニ不便ノ爲メ他局ニ於テ返戻ヲ受クルコトヲ要スルトキ

第三十條 左ノ場合ニ於テハ爲替受取人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ

一 爲替證書ニ示ス排渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ノ爲メ排渡局ノ變更ヲ要スルトキ

第三十一條 左ノ場合ニ於テハ爲替差出人又ハ受取人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ但差出人ヨリ請求スルトキハ排込金受領證書ヲ返納スヘシ

一 爲替證書有効期限ヲ失ヒタルトキ

第五章 電信ニ依ル爲替ノ特別

第三十二條 電信ニ依リ爲替ヲ發スルトキハ振出局ニ於テ差出人ノ排込金ニ對シ受領證書ヲ交付シ爲替願書ニ差出人ノ指定シタル郵便局ニ願書ノ諸件ヲ電報スヘシ

第三十三條 排渡局ハ電信報知ニ由リ爲替證書ヲ調製シ爲替ノ諸件ヲ其受取人ニ通報スヘシ

受取人ハ排渡局ノ通報ニ依リ其通知書ヲ排渡局吏員ニ差出シ爲替證書ヲ受取ルヘシ

第三十四條 前條ノ通知ヲ發シタル日ヨリ七日以内ニ爲替證書ノ渡方ヲ請求セサルトキハ排渡局ヨリ更ニ受取人ニ通報スヘシ

其通報ノ日ヨリ尙七日以内ニ證書渡方ヲ請求セサルトキハ振出局ヲ經テ之ヲ其差出人ニ交付スヘシ

第三十五條 排渡局ヨリ前條ノ證書到達シタルトキハ振出局ニ於テ其旨ヲ差出人ニ通報スヘシ

差出人ハ振出局吏員ニ前ニ受取シタル受領證書ヲ示シ振出局ノ通知書ヲ引換ヘ爲替證書ヲ受取ルヘシ

第三十六條 前二條ノ順序ヲ經タル後ハ再度電報ニ依リテ其

爲替金ヲ受取スルコトヲ得ス故ニ差出人證書ヲ受取リタル後尙其爲替金ヲ受取人ノ受取ルコトヲ望ムトキハ其證書ヲ受取人ニ廻送スヘシ若シ其爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ第二章第二十四條ノ手續ヲナスヘシ

第六章 爲替金渡濟通知

第三十七條 爲替差出人其爲替金ノ渡濟通知ヲ要スルトキハ豫メ振出局ニ之ヲ請求スヘシ

第三十八條 爲替金渡濟ノ通知ハ排渡局ニ於テ爲替金ヲ排渡ストキ通知書ニ受取人ノ證印ヲ取り即日之ヲ差出人ニ送付スルモノトス

第三十九條 爲替金渡濟ノ通知料ハ爲替證書壹枚ニ付金貳錢トス

第四十條 通知料ハ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ其切手ハ爲替願書又ハ小爲替原符ニ貼付スヘシ

但通知料ニ用ヒタル郵便切手ハ振出局ニ於テ消印シ納濟ノ證トス

第四十一條 爲替金返戻ノ場合ニ於テモ既納ノ通知料ハ還付セズ

第四十二條 通知料納濟ノ爲替ハ振出局ニ於テ其爲替證書領收證書ハニ通知料納濟ノ印ヲ捺捺シ交付スヘシ

第四十三條 受取人ハ通知料納濟ノ爲替ヲ受取トキ排渡局ノ求メニ隨ヒ通知書ニ記名調印スヘシ又小爲替ニアリテハ其差出人ノ宿所氏名ヲ陳述スヘシ

第四十四條 爲替金渡濟ノ通知ヲ脱漏シタルトキハ其通知料ヲ還付スヘシ

第四十五條 通知郵便付ハ爲替振出ノ日ヨリ六箇月内ニ差出人ヨリ郵便局長ニ請求スヘシ此期限ヲ過クルトキハ之ヲ還付セズ

第七類 第一章 郵便規則及附屬法

九百七十二

別表

東京ヨリ各府縣ヘノ實測里程一覽表

Table with columns: 府縣名, 元標地名, 里, 府縣名, 元標地名, 里. Lists distances from Tokyo to various prefectures like 京都, 大阪, 神奈川, etc.

○郵便線路里程表 明治十四年九月 大政官達第七十九號 東京ヨリ各府縣ヘノ郵便線路里程表明治九年三月二十四號ヲ以テ相違置候處爾後道路變換里程伸縮相生シ候ニ付別表ノ通改正候條此旨相違候事

○郵便貯金條例 明治二十三年八月 法律第六十三號 朕郵便貯金條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

Table with columns: 府縣名, 元標地名, 里, 府縣名, 元標地名, 里. Lists distances to various prefectures like 群馬, 山梨, 静岡, etc.

郵便貯金條例

第一條 郵便貯金ノ事務ハ遞信大臣之ヲ管理ス 第二條 郵便貯金ハ遞信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ其預入拂渡ヲ取扱フモノトス 遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場所ニハ特ニ郵便貯金預所ヲ設置シ郵便貯金ノ預入ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ 第三條 郵便貯金ノ預入ハ貯金通帳ヲ以テ證トシ其拂戻ハ拂

戻證書ヲ以テ證トス 第四條 郵便貯金一人一度ノ預金ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ニ限ル一人一日ノ預金ハ五拾圓以下トス 郵便貯金一人ノ預金總額ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ズ 第五條 郵便貯金利子ノ割合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム 郵便貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシ之ヲ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ付スヘシ 郵便貯金ハ之ヲ預リタル月及拾錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セズ 郵便貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ拂戻證書發付ノ月ヨリ利子ヲ付セズ

第七類 第一章 郵便規則及附屬法

九百七十三

現行日本法令大全

郵便貯金ノ利子計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘシ

第六條 郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ郵便貯金ノ全額又ハ其幾分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但幾分拂戻ノ場合ニハ其未タ元金ニ加ヘサル利子ハ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條 郵便貯金預ケ人ハ其貯金ノ幾分ヲ以テ公債證書ノ購入保管ヲ請求スルコトヲ得但公債證書ハ額面五拾圓又ハ五拾圓ヲ過加シタルモノニ限ル

郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ前項保管ニ係ル公債證書ノ下波ヲ請求スルコトヲ得

郵便貯金預ケ人貯金全額ノ拂戻ヲ請求スルトキハ保管ニ係ル公債證書モ同時ニ其下波ヲ請求スヘシ

第八條 郵便貯金ノ預ケ金額第四條ノ制限ニ超過シタルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ通知シ預ケ金額ヲ制限以內ニ引直サシムヘシ

前項ノ通知ヲ發シタル後六十日以内ニ引直ヲ爲ササルトキハ貯金預ケ人ノ爲メ其貯金ヲ以テ公債證書ヲ購入スルモノトス但此場合ニ於テ購入スル公債證書ハ額面五拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條 郵便貯金通帳ハ一人一冊ヲ限リトス若シ二冊以上ノ通帳ヲ受領シテ貯金預入ヲ爲シタル者アリタルトキハ最初受領セシ通帳ニ記載セル貯金ノ外利子ヲ付セシテ拂戻ヲ爲シシム若シ二冊以上通帳ノ日附同一ナルトキハ其貯金最多額ノモノニ利子ヲ付シ其他ノモノニハ總テ利子ヲ付セシムシテ拂戻ヲ爲シシム

第十條 郵便貯金預ケ人ハ最初貯金ノ預入ヲ爲シタル月ヨリ滿一年毎ニ其通帳ヲ遞信省ニ差出シ前期間利子ノ記入ヲ受クヘシ但一年ノ終期四月又ハ五月ニ當ルモノハ之ヲ六月ニ差出スヘシ

第十一條 郵便貯金ハ其預ケ人最後ニ貯金預入ヲ爲シタル日又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シ其書換又ハ利子ノ記入ヲ受ケタル日又ハ拂戻ヲ請求シタル日ヨリ起算シ十年間預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ滿期ノ翌月ヨリ利子ヲ付セス但保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ此限ニアラス

尙二十年間貯金ノ預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ其貯金ハ政府ノ所得トス

前項貯金ヲ政府ノ所得トスル場合ニ於テ保管ニ係ル公債證書アルトキハ其公債證書モ併テ政府ノ所得トス

若シ第二項ノ期限内ニ貯金ノ預入ヲ爲シ又ハ拂戻ヲ請求シ又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シタルトキハ其翌月ヨリ利子ヲ付ス

第十二條 郵便貯金ノ拂戻金又ハ下波ヲ請求シタル公債證書ハ拂戻證書又ハ下波證書ノ日附ヨリ一箇年以内ニ受取ルヘシ若シ此期限内ニ受取ラサルトキハ之ヲ供託所ニ寄託スヘシ

第十三條 郵便貯金預ケ人ハ郵便貯金ヲ家督相続人ニ讓與スル場合ヲ除ク外其名前書換ヲ請求スルコトヲ得ス

第十四條 郵便貯金預ケ人ニ損害ヲ蒙ラシメ政府其辨償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テハ郵便貯金預ケ人ハ其事故ノアリタルコトヲ知リタル日又之ヲ知リ能ハサルトキハ次期ノ利子記入期限ヨリ一箇年以内ニ其辨償ノ請求ヲ爲スヘシ若シ其

現行日本法令大全

期限内ニ請求ヲ爲ササルトキハ政府其責ヲ免カルモノトス

第十五條 郵便貯金事務ニ關スル郵便物ハ郵便稅ヲ免除ス

第十六條 郵便貯金ノ受渡ニ關スル書類ハ證券印稅ヲ免除ス

第十七條 本條例施行ノ細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第五百七條乃至第二百二條及第二百四十二條第二項ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

○郵便貯金條例施行細則

明治二十三年十一月
遞信省令第二十三號

郵便貯金條例施行細則左ノ通相定メ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス

第一款 貯金預入

第一條 郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金ヲ取扱フ郵便電信局郵便局又ハ郵便貯金預所ニ到リ貯金預入申込書用紙ヲ申受ク式ノ如ク記入シ記名調印ノ上之ヲ其局所ニ差出シ通帳ヲ受領スヘシ

第二條 貯金預ケ人通帳ヲ受領シタルトキハ其通帳ニ氏名、住所、居所、身分、職業ヲ記入シ且其印鑑ノ部ニ捺印ノ上預ケ金ヲ添ヘテ局所ノ主務者ニ差出シ預ケ金ノ記入ヲ受ク之ヲ所持スヘシ

第三條 貯金預ケ人再度以後ノ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ既ニ所持セル通帳ニ預ケ金ヲ添ヘテ貯金取扱局所ニ差出シ其記入ヲ受クヘシ

第四條 貯金取扱局所ノ主務者預ケ金及通帳ヲ受領シタルトキハ通帳ニ其金額及預年月日ヲ記載シ記名調印ノ上日附印ヲ捺捺シテ預ケ金ノ領收ヲ證シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第五條 貯金預ケ人利子記入等ノ爲メ通帳ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ差出中預ケ金ヲサントスルトキハ貯金取扱局所ニ通帳受取證書ヲ示シ自己ノ氏名ヲ陳述シ預ケ金ヲ差出シ其假領收證書ヲ領置スヘシ

前項ノ預ケ人通帳ノ返戻ヲ受ケタルトキハ之ニ假領收證書ヲ添ヘテ其預ケ金ヲ爲シタル局所ニ差出シ其預ケ金ノ轉記ヲ受クヘシ

貯金取扱局所ノ主務者前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ假領收證書ヲ引揚ケ第四條ノ手續ニ準シ其預ケ金ヲ通帳ニ轉記シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第六條 貯金預ケ人預ケ金記入済ノ通帳ヲ受領シタルトキハ其場ニ於テ通帳記入ノ金額其他ニ相違遺漏等ナキヤヲ點檢シ若シ之アルトキハ直ニ訂正ヲ求ムヘシ

第七條 貯金ノ預入アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其原簿ニ登記シ貯金登記通知書ヲ預ケ人ニ送達スルモノトス

貯金預ケ人預ケ金ヲ爲シタル日ヨリ三十日(島嶼又ハ交通不便ノ地ハ相當ノ時日ヲ加フ)以内ニ貯金登記通知書到達セサルトキハ其期日ヨリ又通知書到達セルモ其記載ノ金額年月日等相違アルトキハ到達ノ翌日ヨリ十日以内ニ其事故ヲ郵便爲替貯金局長ニ申告スヘシ但郵便爲替貯金分局

現行日本法令大全

受持區内ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲シタル貯金預ケ人本條ノ申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第八條 貯金預ケ人ハ一ノ貯金取扱局所ニ於テ受領シタル通帳ヲ以テ他ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

第九條 印形ヲ所持セザル者預ケ金ヲ爲サントスルトキハ引受人一名ヲ定ムヘシ

町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ニ於テ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ擔當人一名ヲ定ムヘシ

二人以上共同シテ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ總代人一名ヲ定ムヘシ但共同者中ノ一名ヲ加印者ト爲スコトヲ得

第十條 町村、學校、病院、社寺、會社、組合及共同ノ貯金ハ其町村、學校、病院、社寺、會社、組合若クハ總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト見做スヘシ

第十一條 印形ヲ所持セザル者ノ貯金ニ關シ調印ヲ要スル書類ニハ本人記名シ尙引受人記名調印スヘシ

町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ノ貯金ニハ町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ尙擔當人記名調印スヘシ

共同者ノ貯金ニハ總代人記名調印シ加印者アルトキハ尙加印者連署スヘシ

第十二條 郵便爲替貯金局受持區内ノ貯金取扱局所ニ於テ通帳ヲ受領シタル貯金預ケ人郵便爲替貯金局受持區内ニ移轉シ又ハ同分局受持區内ノ貯金取扱局所ニ於テ通帳ヲ受領シタル預ケ人郵便爲替貯金局若クハ他ノ分局受持區内ニ移轉シタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ所持ノ通帳ヲ差出シ其引換ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ場合ニ於テ通帳

ノ引換及交付ノ手續ハ第五款ノ各條ニ準據スルモノトス

第二款 貯金拂戻

第十三條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金取扱局所ニ於テモ貯金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但郵便貯金預所ニ於テハ拂戻金ノ拂渡ヲ取扱ハス

第十四條 貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ要スルトキハ貯金取扱局所ニ設ケアル拂戻請求書用紙ヲ申受ケ之ニ金額及拂戻金ヲ受取ラント欲スル局名其他式ノ如ク記入シ記名調印ノ上通帳ヲ添ヘ之ヲ其局所ニ差出シ通帳受取證書ヲ受領スヘシ

第十五條 貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其請求書到達ノ日ヨリ五日以内ニ拂戻證書ヲ調製シ之ヲ請求人ノ居所ニ發送スヘシ

若シ相當ノ期限内ニ拂戻證書到達セザルカ又ハ到達セルモ金額其他ニ相違アルトキハ拂戻請求人ニ於テ郵便爲替貯金局長ニ宛テ其事故ヲ申告スヘシ但郵便爲替貯金局受持區内ノ貯金取扱局所ヨリ通帳ヲ受領シタル貯金預ケ人本條ノ申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第十六條 貯金拂戻請求人拂戻證書ヲ受領シタルトキハ其證書ニ記名調印シ通帳受取證書ト共ニ之ヲ拂渡局ニ差出シ拂戻金ヲ受領シ且通帳ノ返戻ヲ受クヘシ但貯金金額拂ノ通帳ハ返付セザルモノトス

第十七條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ラントスル者ハ拂戻證書ノ裏面ニ委任ノ證明ヲ爲スカ又ハ拂戻證書ニ代人屆書ヲ添ヘテ之ヲ拂渡局ニ差出サシメ其代人ハ其拂戻證書ニ代人ノ肩書ヲ爲シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 貯金預ケ人預ケ金ヲ爲シタル局所ニ貯金拂戻ヲ請

現行日本法令大全

求スル場合ニ於テハ其局所ニ預入ヲ爲シタル預ケ金商ノ内金十圓迄又再度通帳ヲ所持スル者其再度通帳ヲ受領シタル局所ニ貯金拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ其繰越金商ノ内金十圓迄ヲ限り即時拂ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ請求ヲ爲ストキハ一圓以上ノ預ケ金ヲ殘シ置クヘキモノトス

前項即時拂ノ請求ハ一箇月一回ヲ超ルコトヲ得ス

第十九條 貯金即時拂ノ請求ヲ受ケタル局所ニ於テ其請求人ノ正當預ケ人タルコトヲ調査シ能ハサル場合ニ於テハ其請求ヲ拒ムコトアルヘシ

第二十條 即時拂ヲ要スル貯金ノ拂戻證書ハ其拂渡局ニ於テ之ヲ調製シ其請求人ノ居所ニ送達スルモノトス

但拂戻證書ハ其拂戻局ニ於テ便宜請求人ニ直ニ交付スルコトアルヘシ(第二十五條一月後令)

第二十一條 郵便爲替貯金局及同分局所在地ノ貯金取扱局所ニ於テハ貯金即時拂ノ取扱ヲ爲サザルモノトス

第三款 貯金預ケ人異動

第二十二條 貯金預ケ人氏名、住所、居所、印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ届出ヘシ但改印ニ係ル届書ニハ其印鑑ヲ添フヘシ

引受人、擔當人、加印者アル預ケ人前項ノ變更ヲ生シ又ハ其引受人、擔當人、加印者ニ異動ヲ生シ若クハ此等ノ氏名、住所、居所、印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其引受人、擔當人、加印者連署ヲ以テ前項同様届出ヘシ但引受人、擔當人、加印者ノ變更ノ場合ニ於テハ前任者モ亦届書ニ連署スヘシ若シ連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明スヘシ

第二十三條 共同者ニ於テ總代人ノ變更ヲ要スルトキハ前任

後任ノ總代人及加印者連署ヲ以テ後任總代人ノ印鑑ヲ添ヘ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ届出ヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明スヘシ

第二十四條 貯金預ケ人第二十二條及第二十三條ノ届書ヲ差出シタルトキハ同時ニ通帳ノ氏名、住所、居所、印鑑等ノ諸項ニ就キテ其變更ノ廉ヲ訂正スヘシ

第四款 貯金通帳利子記入

第二十五條 貯金預ケ人利子記入ノ爲メ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ通帳ヲ差出ストキハ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ通帳利子記入ノ手續ヲ了リタルトキハ通帳差出人ニ其通達書ヲ送達シ通帳ハ其經由局所ニ返付スヘシ

通帳差出人前項ノ通達書ヲ受ケタルトキハ彙ニ領置セル通帳受取證書ヲ經由局所ニ返納シ利子記入済通帳ヲ受領スヘシ

第二十六條 貯金通帳差出人利子記入済通帳ヲ前條ノ經由局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ通帳ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ

第五款 貯金再度通帳

第二十七條 貯金預ケ人所持ノ通帳餘白ナキニ至リタルトキ又ハ毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ其通帳ヲ差出シ再度通帳ノ交付ヲ請求スヘシ但請求書及通帳ハ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

通帳亡失ノ爲メ再度通帳ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ證

現行日本法令大全

人ヲ立テ其事實ヲ證明シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但再度通帳ノ交付ヲ請求シタル後前ノ通帳ヲ發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第二十八條 郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ再度通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ再度通帳發行通知書ヲ請求書經由ノ局所ニ廻送シ其告知書ヲ請求人ニ送達スルモノトス

第二十九條 貯金再度通帳ヲ請求シタル者前條ノ告知ヲ受ケタルトキハ該告知書及通帳受取證書ヲ請求書經由ノ局所ニ差出シ新規通帳ノ交付ヲ受ケヘシ但請求人新規通帳ヲ請求書經由ノ局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ請求書ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ

第三十條 貯金再度通帳發行通知書ヲ受ケタル局所ハ請求人ノ求メニ從ヒ該通知書ニ依リ再度通帳ヲ調製シ前條ノ告知書及通帳受取證書ト引換ヘ之ヲ其請求人ニ交付スルモノトス

第三十一條 貯金通帳毀損汚斑又ハ亡失ノ爲メ再度通帳ヲ交付スル場合ニ於テハ通帳一冊ニ付手数料金十錢ヲ徵收スヘシ

第六款 貯金相續

第三十二條 貯金預ケ人其家督相續人ニ貯金ヲ讓與セントスルトキハ預ケ人相續人連署ノ書面ヲ以テ通帳並相續人ノ印鑑ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ名前書換ヲ請求スヘシ

第三十三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其家督相續人ニ於テ相續人タルコトヲ證明セル書面ヲ以テ通帳ヲ添ヘ貯金取

扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ貯金ノ拂戻ヲ請求スルカ又ハ名前書換ヲ請求スヘシ但名前書換ヲ請求スルトキハ同時ニ相續人ノ印鑑ヲ差出スヘシ

第三十四條 第三十二條及第三十三條ノ名前書換ヲ要スル場合ニ於テ相續人既ニ自己ノ貯金通帳ヲ所持セルトキハ其通帳ヲ差出シ其相續シタル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ

第三十五條 前三條ノ場合ニ於テ通帳ヲ貯金取扱局所ニ差出シタルトキハ通帳受取證書ヲ領置スヘシ

第三十六條 家督相續人ナキ貯金預ケ人死亡シタルトキハ其貯金ヲ相續シタル者ニ於テ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ第三十三條ノ手續ニ由リ貯金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第三十七條 郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ貯金ノ讓與又ハ相續ニ關スル請求書ヲ受ケタルトキハ正當相續人タルコトヲ認ムル爲メ其請求人ヲシテ市町村長又ハ區長ノ與書證明ヲ要メシメ若クハ其他ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第七款 貯金拂戻證書ノ亡失、毀損汚斑

第三十八條 貯金拂戻證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキハ拂戻請求人ニ於テ貯金拂渡局ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ證書ヲ差出シ貯金拂渡認可證書ノ交付ヲ請求スヘシ

第三十九條 貯金拂戻證書亡失ノ爲メ貯金拂渡認可證書ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ拂戻請求人ニ於テ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ但拂渡認可證書ヲ請求シタル後前ノ證書ヲ發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第八款 公債證書ノ購入、保管、下渡

第四十條 貯金ヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ整理公債證書

現行日本法令大全

トシ總テ無記名トス

第四十一條 公債證書ハ時價ニ依リ購入スルモノトス時價トハ東京ニ於ケル購入當日ノ賣買價格ニ購入口錢ヲ加ヘタルモノトス

第四十二條 公債證書ノ購入ヲ爲ストキハ左ノ手数料ヲ徵收スヘシ

公債證書金額五拾圓マテ 金貳拾錢

同 百圓マテ 金三拾錢

以上五拾圓ヲ加フル毎ニ金拾錢ヲ加フ

第四十三條 公債證書ノ購入ヲ請求スル者ハ其請求書ニ通帳ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ通帳受取證書ヲ領置スヘシ

第四十四條 郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書購入請求書ヲ領收シタルトキハ其到達ノ日ヨリ七日以内ニ公債證書ヲ購入スルモノトス

第四十五條 公債證書購入ノ代金及手数料ハ郵便爲替貯金局ニ於テ請求人ノ貯金ヨリ拂出シ且其金額ヲ通帳ニ記入スヘシ

第四十六條 郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書ヲ購入シタルトキハ之ヲ公債證書保管原簿ニ登記シ其保管證書及通帳ヲ請求書經由ノ局所ヲ經テ請求人ニ交付スヘシ

保管證書ニハ公債證書ノ記號番號金額購入代價及購入年月日ヲ記載スルモノトス

第四十七條 保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ郵便爲替貯金局ニ於テ之ヲ受取リ其預ケ人ノ貯金ニ受入ルヘシ

第四十八條 保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スル者ハ其請求書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書

ヲ領置スヘシ

下渡請求書ニハ其請求人ニ於テ公債證書ヲ受取ラント欲スル貯金取扱局ヲ指定スヘシ但郵便貯金預所ニ於テハ公債證書ノ渡方ヲ取扱ハス

第四十九條 郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書下渡請求書ヲ領收シタルトキハ請求人ノ指定シタル貯金取扱局ニ公債證書ヲ廻付シ且請求人ニ下渡證書ヲ送達スヘシ

請求人前項ノ下渡證書ヲ受ケタルトキハ其證書受領ノ部ニ記名調印シ前ニ受領シタル受取證書ト共ニ下渡局ニ差出シ之ヲ引換ヘ公債證書ヲ受領スヘシ

第九款 雜則

第五十條 貯金預ケ人貯金事務ニ關シ郵便爲替貯金局又ハ同分局又ハ貯金取扱局所ニ差出ス書面ニハ所持ノ通帳ノ記號番號ヲ記載シ又之ヲ郵送スルトキハ其封皮ノ表面ニ貯金事務ト明記スヘシ

○郵便貯金利子割合 明治二十三年十一月 勅令第二百七十八號

除郵便貯金利子割合ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便貯金ノ利子ハ來明治二十四年一月ヨリ一箇年元金百分ノ四分二厘ト定ム

但本年十二月三十一日以前ノ貯金ニシテ一人ノ預ケ金額千圓ヲ超過シタルモノハ一箇年元金百分ノ三分トス

○郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ 明治二十三年六月 勅令第五百五號

出納官吏ニ關スル件

朕郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル事件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ハ明治二十三年勅令第四號第一條ノ制限ニ依ラス身元保證金ヲ納ムヘシ
- 第二條 三等郵便電信局及三等郵便局ノ前條出納官吏ニハ明治二十三年勅令第四號第二條ノ但書ヲ適用セス
- 第三條 會計規則第四百條第五條及明治二十三年勅令第四號第六條ニ依リ大藏大臣ノ爲スヘキ職務ハ逓信大臣之ヲ行フヘシ

○郵便爲替金及郵便貯金出納官吏身元保證金取扱規則

明治二十三年八月 逓信省令第十八號

本年勅令第五百五號ニヨリ郵便爲替金及郵便貯金出納官吏身元保證金取扱規則左ノ通相定ム

郵便爲替金及郵便貯金出納官吏身元保證金取扱規則

- 第一條 郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第三百三條ニ依リ現金ヲ以テ身元保證金ヲ納付セントスルトキハ其現金ヲ大藏省預金局預金取扱所ニ預ク入其保管證書ヲ得之ニ納付書ヲ添ヘ逓信大臣ニ納付スヘシ
- 第二條 郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第三百三條但書ニ依リ土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ認可ヲ得タル後土地ノ所在地、價格及登記

ヲ受クントスル日限ヲ記シタル請求書二通ヲ製シ逓信大臣ニ差出スヘシ

- 第三條 逓信大臣ハ前條ノ申請ニヨリ登記日限ヲ定メ土地所在地ノ郵便爲替貯金管理所長同支所長一等郵便電信局長一等郵便局長二等郵便電信局長二等郵便局長ニ命シ登記法第二十一條ノ手續ヲ爲サシムヘシ(二十四年九月逓信省令第十三號ヲ以テ改正)
- 第四條 郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第三百三條但書ニ依リ現金ニ代用スル公債證書ハ記名トシ利札附ノ儘之ヲ金庫ニ預ク入レ其保管證書ヲ得之ニ書入證書ヲ添ヘ逓信大臣ニ納付スヘシ
- 第五條 逓信大臣ハ前條ニ依リ身元保證金ノ納付済トナリタルトキハ其納付済證書ヲ製シ出納官吏ニ交付スヘシ但明治二十三年勅令第四號第二條但書ノ場合ニ於テ逓信大臣ハ納付ノ都度其假納付證書ヲ交付シ完納ニ至テ納付済證書ト交換スヘシ
- 第六條 明治二十三年勅令第四號第二條但書ニ依リ身元保證金ヲ納付スルモノハ左ノ期限ニヨル
 - 四期納付ノ分
 - 第一期 六月末日マテ
 - 第二期 九月末日マテ
 - 第三期 十二月末日マテ
 - 第四期 三月末日マテ
 - 毎月納付ノ分
 - 毎月末日マテ

- 第七條 郵便爲替金及郵便貯金出納官吏土地若クハ公債證書ヲ以テ現金ニ代用シタル場合ニ於テ明治二十三年勅令第四號第三條及第四條ノ計算ニ依リ身元保證金額ニ對シ過剩ヲ生スルトアルモ其儘納付スルハ妨ケナシ

○歳入歳出外現金出納取扱官吏ノ準則

明治二十三年三月 勅令第三十五號

朕政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル事件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

書ハ其書入ヲ變更スルノ必要ヲ生スル迄其儘三等郵便電信局及三等郵便局出納官吏ノ身元保證金トシテ取扱フヘシ

○郵便貯金預所取扱人採用規程

明治二十一年八月 逓信省令第八號

郵便貯金預所取扱人採用規程左ノ通相定候條該採用方ハ右ニ依リ執行スヘシ

- 第一條 郵便貯金預所取扱人ノ採用ヲ要スルトキ一等郵便電信局郵便局長ハ左ノ各款ヲ具備スル者ニ就キ適當ト認メタル者ヲ採用スヘシ
- 第一款 其郵便貯金預所所在地ニ在住スル者
- 第二款 實價貳百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ有スル者
- 第三款 日常ノ算筆ニ通スル者
- 第四款 別ニ定ムル郵便貯金預所取扱人服務規約ヲ遵奉スル者

第八條 郵便爲替金及郵便貯金出納官吏公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用シタル場合ニ於テハ其利子渡期ニ至リ前ニ公債證書ヲ預ク入レタル金庫ニ於テ其利札ヲ受取ルヘシ

第九條 郵便爲替金及郵便貯金出納官吏ノ身元保證金ハ逓信大臣會計規則第一百條ノ責任解除ヲ認メテ之ヲ其出納官吏ニ返付スヘシ

第十條 前條ノ身元保證金ヲ拂戻ストキ現金及公債證書ハ保管證書又ハ書入證書ヲ出納官吏ニ返付スヘシ又土地ハ逓信大臣其書入證書ヲ第三條ノ各局長ニ送付シ書入ノ解除ヲ爲スルノ登記法第二十三條ノ手續ヲ爲シシテ書入證書ヲ出納官吏ニ返付セシムヘシ

前項ノ保管證書又ハ書入證書ハ身元保證金ノ納付済證書ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ交付スルモノトス

第十一條 會計規則第一百五條ニ依リ郵便爲替金及郵便貯金出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テントスルトキハ逓信大臣其身元保證金(土地又ハ公債證書)ヨリ損失金ノ辨償ニ充ツヘキ金額ヲ差引シ其旨出納官吏ニ通知スヘシ

第十二條 逓信大臣會計規則第一百五條第二項ニ依リ土地又ハ公債證書ヲ公賣シタルトキハ同時ニ郵便爲替金及郵便貯金出納官吏ニ向テ公賣公告入費ノ辨償ヲ命スヘシ

第十三條 郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第二百二條第二項ニ依リ保證人ヲ立テ身元保證金ノ免除ヲ請求セントスルトキハ其情願書ヲ製シ逓信大臣ヘ差出スヘシ

第十四條 從前三等郵便電信局長及三等郵便局長ヨリ郵便爲替金及郵便貯金取扱ノ身元保證トシテ逓信管理局長及一等郵便電信局長一等郵便局長ニ書入シタル土地又ハ公債證書

第五款 年滿二十年以上ノ男子

第二條 誠實ニ職務ヲ奉シタル郵便貯金預所取扱人老年又ハ疾病其他ノ事故ニ依リ其職ヲ辭スルカ或ハ在職中死亡セシトキ其嗣子又ハ相續人タル男子年滿十六年以上ニ及フモノハ第一條第五款ノ制限ニ拘ハラズ特ニ採用スルコトヲ得

第三條 非戶主ニシテ其戶主實價貳百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スル者保證スルニ於テハ其本人ノ資産第一條第二款ニ適合セザルモ特ニ之ヲ採用スルコトヲ得

第四條 一等郵便電信局郵便局長ハ時宜ニ依リ郵便貯金預所取扱人ノ選出ヲ郡區長ニ囑託スルコトヲ得

第五條 一等郵便電信局郵便局長ニ於テ郵便貯金預所取扱人ヲ任命スルトキハ辭令書ヲ交付シ受書及身元引受證書^{書式}本人非戶主ナルトキハ戶主ノ保證書^{書式}ヲ差出サシメ之ヲ遞信大臣ニ報告シ且採用ノ旨ヲ其地方長官及郡區長ニ通知スヘシ其免職ノトキ亦同シ

第六條 一等郵便電信局郵便局長ニ於テ郵便貯金預所取扱人ヲ採用スルトキハ別ニ定ムル規程ノ保證品ヲ徵收スヘシ

(一號書式)

何國何郡區何町村何某郵便貯金預所取扱人ニ御採用ニ付身元引受人ニ相立候ニ付テハ郵便貯金預所取扱人身元引受人規則ニ從ヒ誠實ニ其責任ヲ盡シ可申候仍テ證書差上候也

道廳府縣何國何郡區何町村何番地住

印紙

身元引受證書

出張所ヲ設ケ之ヲ賣捌キ又ハ行商ヲ爲スヲ得ス

第四條 郵便切手賣下所ハ衆人ノ見認メ易キ場所ニ一等又ハ二等郵便電信局郵便局ヨリ下渡シタル切手賣下所ノ掛札ヲ掲出スヘシ

第五條 郵便切手賣捌方ハ簡便ニシテ可成速ニ需用者ノ請求ニ應スヘシ其賣捌時刻ハ少クトモ三月乃至十月ハ午前五時ヨリ午後十時迄十一月乃至翌年三月ハ午前六時ヨリ午後十時マテハ之ヲ謝絶スルヲ得ス

第六條 郵便切手ハ豫メ日々ノ賣捌高ヲ見積リ缺乏ヲ來サザサル様當ニ相當ノ員數及種類ヲ備置クヘシ

第七條 郵便切手ハ其額而シテ金高ヨリ高價又ハ低價ヲ以テ賣捌クヘカラス又些少ヲリトモ毀損汚斑アルカ又ハ護謨糊稀薄其他切手ノ効用ヲ缺クヘキ患アルモノハ賣捌クヘカラス

第八條 買受ケタル郵便切手汚損毀損アルカ又ハ護謨糊稀薄其他切手ノ効用ヲ缺クヘキ患アルモノハ引換ヲ請求スヘシ

第九條 賣捌テナス郵便切手ハ所轄郵便電信局郵便局ヨリ買受クヘシ

第十條 一二等郵便電信局郵便局區内郵便切手賣下所ハ同區内郵便受取所ト共ニ中合セ切手類買受組合ヲ設ケ總代ヲ立テ各所需用ノ切手類ハ其總代ヲシテ買受テナサシムヘシ

前項組合ハ東京ハ百箇所以上大阪ハ五十箇所以上其他ハ二十五箇所以上ヲ以テ一組合トシ五十箇所ニ滿タサルモノハ總テ一組合トスヘシ

但郵便區市内郵便切手賣下所及郵便受取所三箇所ニ滿タサルモノ及郵便區市外ニアル郵便切手賣下所及郵便受取所ハ便宜組合ヲ設ケサルモ妨クナシ

年月日

何郵便電信局郵便局長殿

族籍 姓名

(二號書式)

印紙 保證書

今般私長次男何某郵便貯金預所取扱人拜命候ニ付テハ本人奉務中御局ニ對シ萬一上納金其他官物等ニ付辨償可仕庶相生シ候節ハ本人ハ勿論私ノ資産ヲモ盡シ辨償可仕候仍テ證書差上候也

道廳府縣何國何郡區市町村何番地住

戶主

族籍職業 姓名

年月日

○郵便切手賣下人心得

(明治二十三年三月遞信省令第五十號ヲ以テ改正)

第一條 郵便切手賣下人ハ其免許ヲ受ケ免許證札賣下所掛札及此心得書ヲ受取リタルトキハ請書^{書式}第一號ヲ一等又ハ二等郵便電信局郵便局區内同局ヲ總テニ差出スヘシ

第二條 郵便切手賣下人ハ郵便切手賣下所^{書式}以下條之ヲ需用者ニ賣捌クモノトス

第三條 郵便切手賣下所ハ其免許ヲ受ケタル場所ニ限ルヘシ

三等郵便電信局郵便局區内郵便切手賣下所及郵便受取所多數アリテ三等郵便電信局郵便局ノ事務上其組合ヲ必要ト認ムルトキハ遞信大臣ハ特ニ命シテ組合ヲ設ケ一二等郵便電信局郵便局區内ノ例ニ依ラシムルコトアルヘシ

第十一條 郵便切手賣下所及郵便受取所ニ於テ組合ヲ設ケ總代ヲ立テタルトキ及之ヲ變更シタルトキハ連署シ其旨所轄郵便電信局郵便局ニ届出ヘシ

第十二條 郵便切手類買受度數ハ一二等郵便電信局區内ニアリテ組合ヲ設ケ總代ヲ立タルモノハ毎日一回組合ヲ設ケザルモノハ一箇月一回若クハ二回ヲ超ユルヲ得ス

第十三條 切手類買受ノ手續ハ郵便切手賣下所及郵便受取所ニ於テ組合ヲ設ケ總代ヲ立タルモノハ各自切手類ノ需用アル毎ニ其種類員數ヲ書シ記名捺印シタル需用證ヲ其總代ニ交付シ買受ヲ求ムヘシ總代者ハ其需用高ヲ取續メ第二號書式ノ切手類買受請求書及第三號書式ノ切手類賣下手数料請求書ヲ作り代金ト共ニ所轄郵便電信局郵便局ニ差出シ切手類及賣下手数料ヲ受取ルヘシ

但總代タル郵便切手賣下所又ハ郵便受取所ニ於テ其賣下見積高ノ外豫メ餘分ノ切手類ヲ買受ケ組合各所臨時至急ノ需用者ニ立替交付スルモ妨クナシ

組合ヲ設ケサルモノハ免許證札ヲ持參シ第二號書式切手類買受請求書及第三號書式ノ切手類賣下手数料請求書ヲ代金ト共ニ差出シ切手類及賣下手数料ヲ受取ルヘシ

三等郵便電信局郵便局ニ於テ切手類買受ニ差支フルトキハ買受請求書ニ其局ノ與印ヲ受ケ他ノ三等郵便電信局郵便局ヨリ買受クヘシ此場合ニ於テハ前項免許證札持參ニ及ハス

第十四條 郵便切手賣下手数料ハ其賣下切手高百分ノ五トス
 郵便切手賣下手数料ハ郵便局ヨリ郵便切手賣下ノ都度現金
 ヲ以テ下渡スヘシ
 但三等郵便電信局郵便局ニ於テハ其局ノ便宜ニヨリ郵便
 切手ヲ以テ下渡スコトアルヘシ
 第十五條 郵便切手賣下所及郵便受取所ト其總代トノ間ニ係
 ル切手類代金並賣下手数料金及切手類ノ受授手續費ニ組合
 ニ關シ要スル費用ノ支辨方等ハ各自ノ協議ヲ以テ之ヲ定ム
 ルモノトス
 第十六條 切手賣下免許鑑札切手賣下所掛札及切手賣下人心
 得書ハ常ニ保存スヘシ若シ水火盜難等ニ罹リ紛失又ハ毀損
 シタルトキハ一等又ハ二等郵便電信局郵便局三等郵便
 電信局ニ届出更ニ其代品ノ下渡ヲ受クヘシ
 但毀損ノモノハ所轄郵便電信局郵便局ニ返納スヘシ其代
 品ノ下渡ヲ受クタルトキハ請書第四號ヲ同局ニ差出スヘシ
 第十七條 賣下人轉住改姓名ヲナシタルトキ又ハ賣下所ヲ移
 轉セントスルトキハ一等又ハ二等郵便電信局郵便局三等郵便
 電信局内ハニ届出免許鑑札ノ書換ヲ受クヘシ其書換鑑札ノ下
 渡ヲ受クタルトキハ請書第五號ヲ一等又ハ二等郵便電信局郵
 便局三等郵便電信局郵便局ニ差出スヘシ
 但賣下所ヲ移轉セントスルトキ其移轉地他ノ一等郵便電
 信局郵便局監督區ニ屬スルトキハ一旦廢業ノ上其移轉地
 ニ於テ更ニ免許ヲ受クヘシ
 第十八條 賣下人自ラ廢業スルカ一等又ハ二等郵便電信局郵
 便局ヨリ廢業ヲ命ゼラントキハ免許鑑札及心得書ヲ所
 轄郵便電信局郵便局ニ返納スヘシ

但賣下人自ラ廢業ノトキハ届書ヲ一等又ハ二等郵便電信
 局郵便局(三等郵便電信局郵便局)ニ差出スヘシ
 第十九條 賣下人死亡又ハ逃亡スルカ或ハ廢業スルモ自ラ届
 出ヲナスコト能ハサルトキハ其家族又ハ親族ニ於テ前條ノ
 手續ヲナスヘシ
 第二十條 賣下人廢業ノ時賣殘ノ切手買戻ヲ請求スルトキハ
 其原價ノ内ヨリ賣下手数料ヲ扣除シタル金額ヲ以テ買戻ス
 ヘシ
 第二十一條 賣下人ハ其賣下所最近ノ郵便函ヲ保護スヘシ若
 シ避クヘカラサル事故ニヨリ水火盜難ニ罹リタル時及其災
 ニ罹ラントスル場合ニ於テハ之ノヲ救護シ其旨速ニ所轄郵
 便電信局郵便局ニ届出ツヘシ(明治二十五年五月通信省
 告示第六號ヲ以テ追加)
 第二十二條 賣下人ハ郵便函ニ塵垢泥土ノ附着シタルトキハ
 掃淨シ常ニ不潔ナラサル様注意スヘシ又積雪ノトキハ郵便
 函及ヒ近傍ノ雪ヲ掃除シ郵便物差出人ノ來往ニ便ナラシム
 ヘシ(上)
 第二十三條 賣下人ハ郵便函又ハ郵便物集配時刻表ノ毀損若
 クハ汚穢アルヲ認マルトキハ速ニ所轄郵便電信局郵便局ニ
 届出ツヘシ(上)
 第二十四條 賣下人ハ郵便函ノ位置ヲ變更スルノ必要アリト
 認ムルトキハ所轄郵便電信局郵便局ヘ申出指揮ヲ受クヘシ
 (上)
 第二十五條 第二十一條第二十三條ニ依リ差出スヘキ届書ハ
 免稅郵便トス(上)
 (第一號書式)
 御請書

一郵便切手賣下免許鑑札
 一郵便切手賣下所掛札
 一郵便切手賣下人心得
 右ハ今般郵便切手賣下御免許ノ上御下渡相成正ニ奉受取候
 也
 道府縣國郡區市町村番地
 郵便切手賣下人
 何 誰印
 年月日
 何郵便電信局(郵便局)
 御中
 (第二號書式)
 郵便切手買受請求書
 一郵便切手何錢形何枚
 此代金何圓
 一郵便切手何錢形何枚
 此代金何圓
 一郵便往復葉書何枚
 此代金何圓
 一長形郵便封皮何錢何枚
 此代金何圓
 一角形郵便封皮何錢何枚
 此代金何圓
 合計金何圓
 右買受仕度此段請求候也

道府縣國郡區市町村番地
 郵便切手賣下人
 郵便受取所取扱人
 何 誰印
 年月日
 何郵便電信局(郵便局)
 御中
 (第三號書式)
 切手類賣下手数料請求書
 一金何圓
 但何年月買下切手類代金何圓ニ對スル百分ノ五
 右請求候也
 道府縣國郡區市町村番地
 郵便切手賣下人
 郵便受取所取扱人
 何 誰印
 年月日
 何郵便電信局(郵便局)
 御中
 (第四號書式)
 御請書
 一郵便切手賣下免許鑑札
 一郵便切手賣下所掛札
 一郵便切手賣下人心得
 但流失(又ハ燒失紛失毀損若クハ盜難)ニ付更ニ御下渡
 ノ分
 右正ニ奉受取候也
 道府縣國郡區市町村番地
 郵便切手賣下人
 何 誰印